上野国府等範囲内容確認調査報告書Ⅹ

推定 上野国府

～令和2年度調査報告～

2022.3

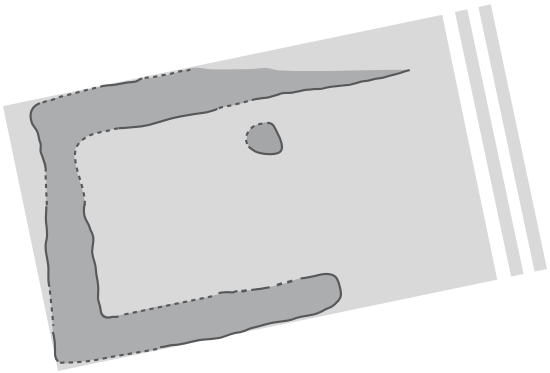
前橋市教育委員会

上野国府等範囲内容確認調査報告書Ⅹ
推定 上野国府
～令和2年度調査報告～
前橋市教育委員会

上野国府等範囲内容確認調査報告書Ⅹ

推定上野国府

～令和２年度調査報告～



上野国府73トレンチ１号礎石建物跡

２０２２.３

前橋市教育委員会

1　73トレンチから榛名山を望む（南東から）

2　73トレンチから総社神社方面を望む（西から）

巻頭図版2

３　73トレンチ全景（上が北）

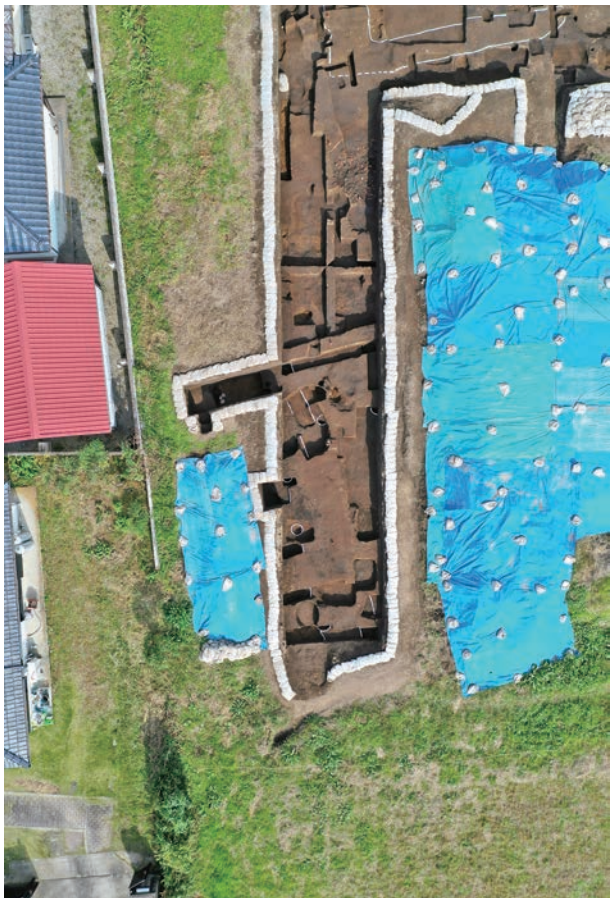
４　73トレンチ　１号礎石建物跡（東から）

５　１号礎石建物跡　西辺掘込地業断面

６　１号礎石建物跡　南辺掘込地業断面

７　１号礎石建物跡　壺地業

８　６号溝跡断面と覆土中の礎石



９　１号道路跡と４号・５号溝跡（上が北）

10　１号道路跡（南東から）

11　拡張トレンチの土層堆積状態

12　２号溝跡土層堆積状態

13　２号溝跡下層の１号遺物集中（東から）

はじめに

前橋市の総社・元総社地区周辺は、宝塔山古墳や蛇穴山古墳をはじめ山王廃寺、国分僧寺、国分尼寺などの諸施設が立ち並ぶ古墳時代から律令期にかけての上野国の中枢地域と考えられ、上野国府もその一角にあったと推定されています。

国府とは、律令制の下に各国ごとに置かれた国司の役所で、特に上野国府は平安時代の中頃に起きた平将門の乱の舞台となるなど、記録にも度々その名前が登場します。しかしながら、その中心施設の国庁の位置や、国府域の範囲など、その内容については、詳しいことが分かっていません。

この問題を解決し、後世にわたり保存・活用するための基礎的な資料を得るために文化庁、群馬県教育委員会の指導を受けつつ、「上野国府等調査委員会」において毎回検討を繰り返しながら、平成23年度から継続的な確認調査を行っております。平成27年度で第１期の５ヵ年計画が終了となりましたが、さらなる調査が必要なことから、５ヵ年計画を延長し、確認調査を続ける運びとなりました。

今回、上梓する報告書は、その第２期の５ヵ年目の調査内容をまとめたものです。令和２年度の調査では、古代の役所に付属する倉と考えられる礎石建物をさらに１棟発見することができました。また、このような建物跡が多く発見されているのは、かつて総社神社が鎮座していたという伝承をもつ宮鍋神社の周辺であることから、こうした古代の建物群と宮鍋神社との関係についても、今後さらに調査・検討を進めることによって明らかにすることができると確信しております。

最後に、本事業の推進にあたり、国・県・市の関係各位のご理解とご協力に対して深く感謝する次第です。また、地元の元総社地区各自治会をはじめ土地所有者の皆さんからも惜しみない協力をいただくことができましたことを、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

令和４年３月

前橋市教育委員会

教育長　吉　川　真由美

例　　言

1　本報告書は、上野国府等範囲内容確認調査計画に基づき、第２次５ヵ年の調査計画（平成28～令和２年度）の５年次調査として、令和２年度に実施した発掘調査の報告書である。

2　遺跡は群馬県前橋市元総社町2029-2ほかに所在する。

3　発掘調査は、上野国府等調査委員会の指導のもと前橋市教育委員会が実施した。調査の要項は以下のとおりである。

①発　掘　調　査　期　間　　令和２年６月１日～令和２年12月４日

②整理・報告書作成期間　　令和２年12月５日～令和３年３月31日

③調査組織（令和２年度）

上野国府等調査委員会

⑴　委員会

委　員　長　梅澤重昭（元前橋市文化財調査委員）

副 委 員 長　須田　勉（元国士舘大学文学部教授）

委　　員　林部　均（国立歴史民俗博物館副館長）、前澤和之（館林市史編さん専門委員・跡見学園女子大学兼任講師）、右島和夫（群馬県文化財保護審議会委員・群馬県立歴史博物館館長）、松田　猛（一般財団法人群馬県地域文化振興会常務理事）

幹　　事　小原俊行（群馬県地域創生部文化財保護課文化財活用係主任）、今城未知（同主事）、多賀谷蓮（同埋蔵文化財係主事）、高橋宏幸（前橋市教育委員会事務局教育次長）、田中隆夫（前橋市教育委員会参事兼文化財保護課長）

顧　　問　吉川真由美（前橋市教育委員会教育長）

指　　導　文化庁文化財部記念物課文化財調査官、植松啓祐（群馬県教育委員会文化課保護課長）

⑵　調査部会

幹　　事　田中広明（公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団調査部副部長）、出浦　崇（伊勢崎市教育部文化財保護課係長）

⑶　事務局（担当課　前橋市教育委員会文化財保護課）

課長（幹事）　田中隆夫　　文化財保護課専門員　梅澤克典

係　　長　神宮　聡

係　　員　小峰　篤、阿久澤智和、寺内勝彦、齋藤　颯

④発掘・整理担当者　　阿久澤智和・齋藤　颯

4　本書の編集は阿久澤・齋藤が行った。

5　発掘調査・整理作業にかかわった方々は次のとおりである。

阿久澤陽子、市村政夫、碓井俊夫、桑原和衛、小池　賢、小林千恵美、奈良啓子、羽田郁子、町田妙子、松岡利雄

6　発掘調査にあたり、宗教法人総社神社の土地を借用した。

7　調査および報告書作成にあたっては下記の諸機関・諸氏の御教示・御指導・御協力があった。

宗教法人総社神社、群馬県地域創生部文化財保護課、前橋市都市計画部区画整理課

出浦　崇、梅澤重昭、大橋泰夫、小宮俊久、眞保昌弘、須田　勉、田中広明、永井智教、根岸義貴、林部均、日沖剛史、前澤和之、松田　猛、右島和夫

8　発掘調査で出土した遺物は、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。

凡　　例

1　挿図中に使用した北は、座標北である。

2　挿図に国土交通省国土地理院発行の１：200,000地形図（宇都宮、長野）、１：50,000地形図（前橋）を使用した。

3　本遺跡の略称は、２Ａ147である。略称の後に枝番を付し、トレンチ番号を示した。

4　遺構及び遺構施設の略称は、次のとおりである。

Ｈ…古墳～平安時代の竪穴建物跡　　Ｂ…建物跡（掘立柱建物・礎石建物等）　　Ｗ…溝跡

Ｔ…竪穴状遺構　　Ａ…道路跡（遺構）　　Ｉ…井戸跡　　Ｄ…土坑　　Ｐ…ピット・柱穴・貯蔵穴

Ｏ…落ち込み

5　遺構・遺物の実測図の基本的な縮尺は次のとおりである。ただし、図の配置上、他の縮尺を使用したほうが妥当な場合は、その他の縮尺を適宜使用した。

遺構　　全体図・遺構配置図…１：100、150　遺構断面図…１：60　竪穴建物跡等…１：60（竈…１：30）

溝…１：60、80、120　　礎石建物及びピット等…１：60、100

遺物　　１/３

6　計測値については、（　　）は現存値、［　　］は復元値を表す。

7　遺物観察表については、以下のとおり記述した。

①層位は遺構出土の場合、「床直」・「底面」：遺構底面より10cm未満の層位からの検出、「覆土」：床面より10cm以上の層位からの検出の２段階に分けた。

②口径、器高の単位はcmである。現存値を（　）、復元値を［　］で示した。

③胎土は、細粒（0.9mm以下）、中粒（1.0～1.9mm）、粗粒（2.0mm以上）とし、特徴的な鉱物が入る場合に鉱物名等を記載した。

④焼成は、基本的に極良・良好・不良の三段階とした。ただし、須恵器について酸化焔焼成によるものは「酸化焔」と記載した。

⑤色調は土器外面で観察し、色名は『新版標準土色帳』（小山・竹原1967）によった。

8　遺構平面図の－－－－は推定線を表し、－‐－‐－は竪緻面の範囲を表す。

9　スクリーントーンの使用は、次のとおりである。特別な場合は図版ごとに凡例を設けた。

遺構平面図　　粘土分布…　　炭化物分布…　　焼土分布…　　灰分布…

遺構断面図　　構築面…　　灰分布…

遺物実測図　　須恵器断面…　　陶器・磁器断面…　　煤付着面…

陶器・磁器表面…　　黒色処理…

10　主な火山降下物等の略称と年代は次のとおりである。

As-B　（浅間Ｂ軽石：供給火山・浅間山、1108年）

Hr-FP（榛名二ッ岳伊香保テフラ：供給火山・榛名山、６世紀中葉）

Hr-FA（榛名二ッ岳渋川テフラ：供給火山・榛名山、６世紀初頭）

As-C　（浅間Ｃ軽石：供給火山・浅間山、４世紀前半）

目　　次

第１部　令和２年度範囲内容確認調査報告

１　遺跡の立地と環境……1
　⑴　遺跡の立地……1
　⑵　歴史的環境……1

２　調査に至る経緯……5
　⑴　調査のあらまし……5
　⑵　これまでの調査成果……5
　⑶　令和２年度調査……6

３　調査方法と経過……7
　⑴　調査方法……7
　⑵　調査経過……8

４　基本層序……9

５　遺構と遺物……9
　⑴　各トレンチの概要……9
　⑵　各トレンチの検出遺構……10

６　令和２年度調査まとめ……71

第２部　上野国府等範囲内容確認調査　第２期調査について

１　上野国府調査委員会第２期５年間のまとめ……75
２　これまでの調査成果について……78

挿図目次

Fig.1　推定上野国府位置図 …… 2
Fig.2　周辺遺跡 …… 4
Fig.3　２m小グリッドの呼称 …… 7
Fig.4　各トレンチ土層柱状図 …… 9
Fig.5　グリッド設定図とトレンチ位置図 ……11
Fig.6　各トレンチ詳細位置図 ……12
Fig.7　各トレンチ全体図(1) ……13
Fig.8　各トレンチ全体図(2) ……14
Fig.9　各トレンチ全体図(3) ……15
Fig.10　各トレンチ全体図(4) ……16
Fig.11　各トレンチ全体図(5) ……17
Fig.12　69トレンチ各遺構(1) ……28
Fig.13　69トレンチ各遺構(2) ……29
Fig.14　69トレンチ各遺構(3)・
　70トレンチ各遺構(1) ……30
Fig.15　70トレンチ各遺構(2)・
　71テストピット ……31
Fig.16　72トレンチ各遺構(1) ……32
Fig.17　72トレンチ各遺構(2) ……33
Fig.18　72トレンチ各遺構(3) ……34
Fig.19　73トレンチ各遺構(1) ……35
Fig.20　73トレンチ各遺構(2) ……36
Fig.21　73トレンチ各遺構(3) ……37
Fig.22　73トレンチ各遺構(4) ……38
Fig.23　73トレンチ各遺構(5) ……39
Fig.24　73トレンチ各遺構(6) ……40
Fig.25　73トレンチ各遺構(7) ……41
Fig.26　73トレンチ各遺構(8) ……42
Fig.27　73トレンチ各遺構(9) ……43
Fig.28　73トレンチ各遺構(10) ……44
Fig.29　73トレンチ各遺構(11) ……45
Fig.30　73トレンチ各遺構(12) ……46
Fig.31　73トレンチ各遺構(13) ……47
Fig.32　73トレンチ各遺構(14)・
　74トレンチ各遺構(1) ……48
Fig.33　74トレンチ各遺構(2) ……49
Fig.34　74トレンチ各遺構(3) ……50
Fig.35　遺物実測図（69・70トレンチ・
　73トレンチ①） ……51
Fig.36　遺物実測図（73トレンチ②） ……52
Fig.37　遺物実測図（73トレンチ③） ……53
Fig.38　遺物実測図（73トレンチ④） ……54
Fig.39　遺物実測図（73トレンチ⑤） ……55
Fig.40　遺物実測図（73トレンチ⑥・
　74トレンチ①） ……56
Fig.41　遺物実測図（74トレンチ②） ……57
Fig.42　73トレンチ１号礎石建物跡 ……73
Fig.43　宮鍋神社周辺の礎石建物跡（布地業） ……74
Fig.44　宮鍋神社周辺の様相 ……80
Fig.45　宮鍋神社西方の様相 ……82・83
Fig.46　元総社小学校の様相 ……85
Fig.47　総社神社・元総社小学校西方
　（通称「本村」地域）の様相 ……87
Fig.48　60・44トレンチ検出の掘立柱建物跡 ……88
Fig.49　45トレンチにおける道路面の推移 ……88

表　目　次

Tab.1　年度別の調査目的 …… 5
Tab.2　調査目的別の主な成果 …… 6
Tab.3　各調査トレンチの面積と調査目的 …… 7
Tab.4　調査経過図 …… 8
Tab.5　遺構計測表 ……58
Tab.6　遺物観察表 ……65
Tab.7　宮鍋神社周辺の掘立柱建物跡・礎石建物跡
　（令和２年度調査まで） ……71
Tab.8　元総社小学校西方検出の官衙関連遺構の方位 ……86

図版目次

【巻頭図版】
1　73トレンチから榛名山を望む（南東から）
2　73トレンチから総社神社方面を望む（西から）
3　73トレンチ全景（上が北）
4　73トレンチ　１号礎石建物跡（東から）
5　１号礎石建物跡　西辺掘込地業断面
6　１号礎石建物跡　南辺掘込地業断面
7　１号礎石建物跡　壺地業
8　６号溝跡断面と覆土中の礎石
9　１号道路跡と４号・５号溝跡（上が北）
10　１号道路跡（南東から）
11　拡張トレンチの土層堆積状態

12　２号溝跡土層堆積状態
13　２号溝跡下層の１号遺物集中（東から）

【遺構写真】
PL.１－１　69トレンチ全景（南東から）
２　69トレンチ１号溝跡全景（東から）
３　69トレンチ１号溝跡東トレンチ（南から）
４　69トレンチ１号溝跡断面（南から）
５　69トレンチ１号掘立柱建物跡全景（東から）
６　69トレンチ１号竪穴状遺構全景（北から）
７　69トレンチピット集中（東から）
８　70トレンチ全景（南から）

PL.２－１　70トレンチ１号竪穴建物跡全景（南西から）
２　70トレンチ１号道路跡土層断面（南から）
３　70トレンチ北辺遺構検出状態（西から）
４　70トレンチ１号道路跡検出状態（南から）
５　70トレンチ１号道路跡掘り下げ状態（西から）

PL.３－１　71ａトレンチ全景（南から）
２　71ｂトレンチ全景（南から）
３　宮鍋神社境内の石
４　宮鍋神社境内の碑の台石
５　72トレンチ全景（東から）
６　72トレンチ１号溝跡全景（北から）

PL.４－１　72トレンチ２号溝跡全景（北から）
２　72トレンチ１号竪状遺構全景（北から）
３　72トレピット検出状態（２号溝跡西）（北から）
４　72トレンチ１号・２号土坑全景（西から）
５　72トレピット検出状態（トレンチ東端）（北から）
６　72トレピット検出状態（２号溝跡東）（北から）
７　72トレンチ４号土坑全景（西から）
８　72トレンチ95号ピット全景（南から）

PL.５－１　73トレンチ１号竪穴建物跡全景（西から）
２　73トレンチ２号竪穴建物跡全景（西から）
３　73トレンチ３号竪穴建物跡全景（西から）
４　73トレンチ４号竪穴建物跡全景（南から）
５　73トレンチ５号竪穴建物跡全景（西から）
６　73トレンチ６号竪穴建物跡全景（東から）
７　73トレンチ７号竪穴建物跡全景（北から）

PL.６－１　73トレンチ７号竪穴建物跡Ｐ$_1$全景（北から）
２　73トレンチ８号竪穴建物跡全景（東から）
３　73トレンチ９号竪穴建物跡全景（北から）
４　73トレンチ10号竪穴建物跡全景（南から）
５　73トレンチ１号溝跡全景（南から）
６　73トレンチ２号溝跡検出状態（北から）

PL.７－１　73トレンチ３号溝跡検出状態（南から）
２　73トレンチ４号溝跡検出状態（南から）
３　73トレンチ３号・５号溝跡断面①（南から）
４　73トレンチ３号・５号溝跡断面②（南から）
５　73トレンチ６号溝跡検出状態（西から）

PL.８－１　73トレンチ７号溝全景（北から）
２　73トレンチ８号溝検出状態（南から）
３　73トレンチ10号土坑全景（東から）
４　73トレンチ２号道路跡断面（東から）
５　73トレンチ１号竪穴状遺構全景（北から）

PL.９－１　73トレンチ１号遺物集中（西から）
２　74トレンチ全景（北から）
３　74トレンチ１号竪穴建物跡全景（西から）
４　74トレンチ２号竪穴建物跡全景（南から）

PL.10－１　74トレンチ３号竪穴建物跡全景（西から）
２　74トレンチ４号竪穴建物跡全景（西から）
３　74トレンチ５号竪穴建物跡全景（西から）
４　74トレンチ６号竪穴建物跡全景（西から）
５　74トレンチ７号・９号竪穴建物跡全景（西から）
６　74トレンチ８号竪穴建物跡全景（東から）
７　調査風景（72トレンチ２号溝跡）

【遺物写真】
PL.11　69・70・73トレンチの出土遺物
PL.12　73トレンチの出土遺物
PL.13　73・74トレンチの出土遺物

第１部　令和２年度範囲内容確認調査報告

1　遺跡の立地と環境

(1)　遺跡の立地

前橋市は、関東平野の北西部、利根川が赤城・榛名の両火山の裾合の間を抜けて関東平野へと至るところに位置する。市域は、その地形や地質の特徴から、西端部・北東部の火山斜面、南西部の前橋台地利根川右岸、南部から南東部にかけての前橋台地の利根川左岸、東部の広瀬川低地帯という４つの地域に分けられる。

上野国府推定地のある元総社地区は、前橋台地から榛名山の山麓地形へと変化する場所に位置している。前橋台地は、約24,000年前の浅間山噴火によって引き起こされた火山泥流堆積物とそれを被覆するローム層（水成）から成り立ち、台地の東部は、旧利根川により形成された広瀬川低地帯と直線的な崖で画されている。台地の中央部は現在利根川が貫流しているが、利根川の流路は中世以降に現在の広瀬川低地帯から変流したものと推定されている。台地の西部には榛名山麓の相馬ヶ原扇状地が広がり、榛名山を源とする中小河川が利根川に向かって流下し、台地面を刻んで細長い微高地を作り上げている。総社・元総社付近の染谷川や牛池川は、微高地との比高３ｍ～５ｍを測り、段丘崖上は高燥な台地で、かつては桑畑を主とした畑地として利用されてきた。

元総社地区は、前橋市街地から利根川を隔てた対岸に位置し、主要地方道前橋・群馬・高崎線が東西に、市道大友・石倉線が南北にそれぞれ走り、これらの幹線道路を中心にオフィスビルや大規模小売店が進出している。上野国府推定地はこれらの幹線道路から奥に入った付近に位置しているが、かつては周囲に田畑も多く存在し養蚕農家が往年のたたずまいを残す静かで落ち着いた環境であったが、近年の区画整理事業の進捗にともない急速な住宅地化・市街地化が進む地域である。

(2)　歴史的環境

本遺跡地周辺には、総社古墳群、山王廃寺、上野国分僧寺・尼寺のほか蒼海城跡など多くの遺跡が存在し、歴史的環境に優れている。また継続して実施されている埋蔵文化財発掘調査によって新しい知見が集積されている。

縄文時代　縄文時代の遺跡としては、上野国分僧寺・尼寺中間地域遺跡や元総社蒼海遺跡群で前期・中期の集落跡が検出されているほか、元総社蒼海遺跡群（9）で晩期の住居が検出されている。

弥生時代　弥生時代の遺跡は、水田・集落跡等が検出された日高遺跡のほか、新保遺跡や新保田中村前遺跡など、染谷川沿いで拠点的な集落が営まれるが、現在前橋市域となっている範囲では、後期住居跡が検出された上野国分僧寺・尼寺中間地域や桜ヶ丘遺跡、下東西遺跡等に散見するだけで少ない。

古墳時代から奈良・平安時代　古墳時代の集落については４世紀代と６世紀代を中心に展開しており、大屋敷遺跡や元総社蒼海遺跡群で集落が確認されている。元総社蒼海遺跡群では、牛池川沿いの低地で古墳時代の水田も確認されているほか、墓域や祭祀跡も確認されており、同時代の集落・生産域・墓域がそれぞれ展開していたことがうかがえる。

これらの集落を支配した豪族のものと考えられる古墳として、総社古墳群が挙げられる。総社古墳群を構成する主な古墳としては、推定される築造年代の古い順から、大型の前方後円墳である遠見山古墳、上野国地域でも導入期の横穴式石室をもつ王山古墳、前方部と後円部にそれぞれ横穴式石室が築造されている前方後円墳の総社二子山古墳、横穴式石室と家形石棺をもつ方墳の愛宕山古墳、上野国地域における古墳の終末期に位置づけられている方墳の宝塔山古墳と蛇穴山古墳が存在する。

また、宝塔山古墳の南西約500ｍには山王廃寺が存在する。山王廃寺については、平成18年度からの５ヵ年計

Fig. 1　推定上野国府位置図

画で実施した範囲内容確認調査の結果、約80m四方を回廊で囲み、講堂・金堂・塔が法起寺様式の伽藍配置であることが判明した。山王廃寺の特徴である石製の塔心礎や石製鴟尾、根巻石等は、宝塔山古墳の石棺や、蛇穴山古墳の石室と同系統の石造技術を駆使して加工されており、このことから、この寺院を建立した氏族と宝塔山古墳・蛇穴山古墳の被葬者は同一の氏族と考えられている。

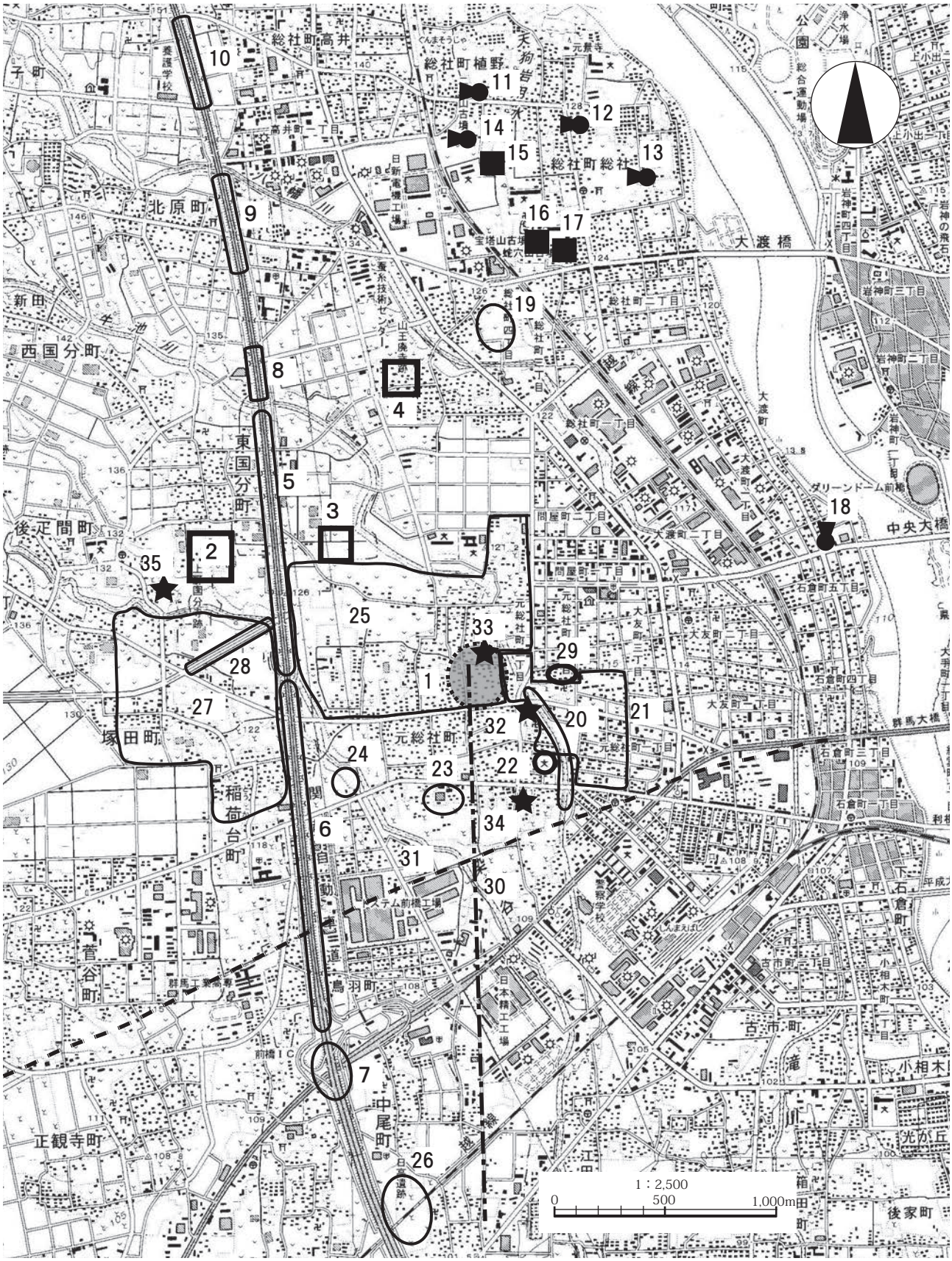
また、山王廃寺の下層には北西に主軸をもつ基壇建物や掘立柱建物跡が検出されているが、これらの建物群についての評価は「車（群馬）評家」等諸説あるが、寺院の変遷を考える上で重要なものとなっている。

奈良・平安時代になると、上野国分僧寺、上野国分尼寺が建立されるなど、本地域は古代の政治・経済・文化の中心地としての様相を呈する。大正15年に国指定史跡となった上野国分僧寺は昭和55年から本格的な調査を実施し、主要伽藍の礎石、築垣、塀等が確認された。また上野国分尼寺は、昭和44・45年の調査で伽藍配置が推定できるようになり、さらに平成12年に実施された寺域確認調査によって東南隅と南西隅の築垣とそれに平行する溝跡や道路状遺構が確認された。上野国分僧寺、上野国分尼寺周辺では、関越自動車道建設に伴い発掘調査が行われ、８世紀を中心とした大規模な集落跡や掘立柱建物群が検出されている。

なお、元総社地域には総社神社が鎮座するほか、上野国府が存在したことが推定されているが、掘立柱建物跡や掘込地業（礎石建物跡）が元総社蒼海遺跡群、元総社小校庭とその西方で確認されている。これらの建物の性格は明確ではないが、元総社周辺でも分布がスポット的であることから、国府等の官衙関連施設の存在が推定できる。また、これらの各施設の区画溝と推定される古代の溝跡が検出されている。この遺構は閑泉樋遺跡・元総社明神遺跡・元総社蒼海遺跡群等で確認されており、上野国府等範囲内容確認調査の平成23年度調査（１次）でも確認されている。この区画溝は覆土上位に浅間Ｂ軽石が堆積するという時期的な特徴をもち、規模も近似することや、確認された地点が連続的なことから、一連のものと考えられる区画溝も存在する。その他に、国府推定域でも西に位置する鳥羽遺跡では、神社遺構とされる周囲に方形の溝をもつ掘立柱建物が存在するほか、大規模な工房跡も確認されている。国府関連の遺物としては、牛池川沿いの元総社明神遺跡Ⅷと元総社寺田遺跡では人形、元総社寺田遺跡では「国厨」や「曹司」などの国府関連施設名が墨書された須恵器が出土している。その他に元総社蒼海遺跡群（26）では「大館」、元総社小学校では「大家」の墨書土器が出土している。その他に、緑釉陶器が染谷川左岸の天神遺跡・弥勒遺跡・元総社蒼海遺跡群の西寄りの調査区で出土するほか、宮鍋神社から元総社小学校にかけての牛池川右岸でも多く出土する。特に、この宮鍋神社から元総社小学校にかけての地域は、高級陶器である白磁のほか、土師質の高坏・「ての字状口縁」の皿の破片、碁石を連想させる白・黒の小礫、須恵器甕破片転用の小円盤等の10世紀から11世紀代の特殊な遺物が出土している。

高崎市内の調査や平成28年度上野国府等範囲内容確認調査により、元総社地区の南部にＮ―64°―Ｅの方向で東山道駅路国府ルートが存在したことが推定されている。その他に日高遺跡で検出された幅約4.5mの道路状遺構を北方へ延長した通称「日高道」も存在する。

中世以後　中世、元総社には蒼海城が築城され、総社長尾氏の居城となっていた。また総社を中心としたこの付近一帯は奈良・平安時代から引き続いて上野国の府中として栄える。蒼海城の築城年代については、伝承では鎌倉時代に千葉上総介常胤により築かれたとされているが詳しいことは分かっていない。ただし、何らかの城郭的なものは存在していたと考えられており、室町時代の永享元年（1429）に長尾景行が城の修築を行っている。蒼海城の特徴は、館のような方形の曲輪が碁盤の目のように配置されている点である、これらの曲輪は「○○屋敷」という名称で呼ばれている。なお、蒼海城は、江戸時代に秋元氏が現在の総社の地に総社城を築城して城下町等を移転させたことにより、完全に廃城となったと考えられる。蒼海城は、元総社町蒼海地区の区画整理事業に伴う発掘調査で、堀跡や掘立柱建物跡・井戸が検出されているほか、青白磁梅瓶や青磁・白磁片、穀物臼や茶臼などの石製品などが出土している。その他に、上野国分僧寺・尼寺地域では、寺院跡や土壙墓が検出されている。元総社蒼海遺跡群（5）でも土壙墓がまとまって検出されており、蒼海城の周囲に寺院や墓地が営まれてい



1．国府調査重点調査区域　2．上野国分僧寺　3．上野国分尼寺　4．山王廃寺　5．上野国分僧寺・尼寺中間　6．鳥羽遺跡　7．中尾遺跡
8．国分境遺跡　9．北原遺跡　10．下東西遺跡　11．稲荷山古墳　12．大小道山古墳　13．遠見山古墳　14．総社二子山古墳　15．愛宕山古墳
16．宝塔山古墳　17．蛇穴山古墳　18．王山古墳　19大屋敷遺跡　20．元総社寺田遺跡　21．元総社明神遺跡　22．元総社小学校校庭
23．天神Ⅱ遺跡　24．弥勒Ⅱ遺跡　25．元総社蒼海遺跡群　26．日高遺跡　27．国府南部遺跡群　28．元総社西川・塚田中原遺跡
29．上野国府調査地点（昭和42年）　30．通称「日高道」　31．推定東山道駅路国府ルート　32．総社神社　33．宮鍋神社　34．釈迦尊寺　35．妙見寺

Fig. 2　周辺遺跡

たと推定される。

2　調査に至る経緯

(1)　調査のあらまし

前橋市の元総社・総社地区は総社古墳群、山王廃寺、国分僧寺・尼寺などの古代の遺跡が多く存在し、上野国の中心地として栄えた地域である。上野国府についても、これまでの研究から元総社町付近に設置されたと考えられている。こうした歴史的な環境をふまえて、前橋市教育委員会では元総社・総社地区の歴史遺産を有機的に関連付けた保存・活用を目指し、平成18年度から22年度までの５年間山王廃寺の範囲内容確認調査を実施し、伽藍配置の解明等の成果を収めることができた。その一方で元総社町では元総社蒼海土地区画整理事業の進行にともない発掘調査を継続してきたが、存在が推定される上野国府に関連する遺構の確認は至っていなかった。区画整理事業が進行する中で上野国府の実態について早急な解明が急務となったことから、平成23年度から５ヵ年計画で上野国府等範囲内容確認調査が実施されるに至った。この平成27年度までの５ヵ年の発掘調査で、元総社小校庭遺跡の１号掘立柱建物跡の再検出のほか、枠形の掘込地業をもつ建物跡や、国府域の区画溝と考えられてきた古代の大溝のさらなる検出など、相応の成果を得ることはできたが目標である国庁の検出には至らなかった。そうしたことから、翌平成28年度から第２期５ヵ年計画を策定し、引き続いて上野国府の解明に向けて調査を継続することとなった。令和２年度調査は第２期５ヵ年計画の５年次調査となる。

(2)　これまでの調査成果

第１期１年次の平成23年度から第２次４年次の令和元年度までの調査目的およびその成果の概要を Tab.１、Tab.２にまとめた。

Tab.１　年度別の調査目的

	第１期５ヵ年				
	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
殿小路周辺（A案）	1a～７				
推定蒼海城本丸周辺（B案）					
宮鍋神社周辺（C案）		８～11，13，14		27，28，33，34	35～39
阿弥陀寺周辺（D案）					
総社神社・元総社小学校			17～22	30	40，41
元総社小学校西方		15，16		31a～32	43，44
天神地区			(26)		
区画溝	(6)	12	23，26	29	42
東山道駅路国府ルート関連			24a・24b・25		
上野国分尼寺跡範囲確認					

	第２期５ヵ年			
	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
殿小路周辺（A案）				
推定蒼海城本丸周辺（B案）		50		66
宮鍋神社周辺（C案）				63，64，65a，65b
阿弥陀寺周辺（D案）				
総社神社・元総社小学校	48	51	56，57，58	
元総社小学校西方	49	54	55，59，60	62
天神地区	46			
区画溝	47			67，68
東山道駅路国府ルート関連	45a，45b	52，53		
上野国分尼寺跡範囲確認			61a，61b	

※カッコ書きのトレンチ№は、副次的な目的

Tab. 2　調査目的別の主な成果

調査地点	該当トレンチ	主な調査成果
殿小路周辺（A案）	1a,1b,2,3,4,5,6	官衙関連施設の遺構の検出なし。
蒼海城本丸周辺（B案）	50，(29)，66	特殊な遺物は出土したが官衙関連遺構の検出なし。
宮鍋神社周辺（C案）	7,8,9,10,11,13,14,27,28,33,34,35,36,37,38,39,63,64,65a,65b	礎石建物跡推定５棟、掘立柱建物跡２棟検出。
阿弥陀寺周辺（D案）	なし。	官衙関連施設の遺構の検出なし。
総社神社・元総社小学校	17,18,19,20,21a,21b,22,30,41,42,48,51,56,57,58	元小校庭で掘立柱建物跡６棟、南北の区画溝跡２条検出。
元総社小学校西方	15,16,31a ～ d,32,43,44,49,54,55,59,60,62	東西の区画溝１条、掘立柱建物跡11棟検出。
天神地区	(26)，(46)	官衙関連遺構の検出なし。
区画溝	南北溝（北から西へ10度の溝）：12,(6),26,29,40	12・26トレンチ以外で区画溝を検出。
	東西溝（国庁推定地Ｃ案南）：47,67,68	別途検出されている区画溝の延伸を検出。
	東西溝（推定国衙域区画溝の南限東西溝）：23	区画溝の検出なし。
東山道駅路国府ルート	24a,24b,25,45a,45b,46,52,53	鳥羽町で２時期の重複する古代の道路跡を検出。
上野国分尼寺跡範囲確認	61a,61b	寺域南区画溝跡を検出。

これまでに実施した調査に、同時進行で行われている区画整理事業で実施した発掘調査の成果を総合すると、礎石建物跡と考えられる掘込地業や掘立柱建物跡が検出されているのは、宮鍋神社周辺（国庁推定地Ｃ案）、元総社小学校校庭とその西方である。特に、掘込地業は宮鍋神社周辺のみで検出され、国府推定地内でのスポット的な特色と言える。なお、そうした官衙に関連する建物跡の分布する周辺を中心に、研究史的に「古代の大溝」と呼ばれてきた区画溝跡も点々とであるが連続的に検出されている。ただし、その連続性や建物群との有機的な関連性に関しては、まだ具体的には解明されていない。なお、研究史的にも推定国府域の南端を通過すると考えられている東山道駅路国府ルートについても、鳥羽町でそれに該当すると考えられる古代の道路跡が検出されたが、染谷川以東での道路跡の検出事例はなく、推定国府域付近での位置は不明と言わざるを得ない。

(3)　令和２年度調査

令和２年度は、これまでに実施された範囲内容確認調査や区画整理事業にともなう発掘調査により宮鍋神社周辺で礎石建物跡・掘立柱建物跡・区画溝の検出が相次いだことから、宮鍋神社周辺におけるに範囲内容確認を行うこととし、下記の目的で発掘調査を実施した。

①宮鍋神社周辺における建物跡の検出（71ａ・71ｂ・72・73・74トレンチ）

宮鍋神社周辺では、礎石建物跡と考えられる遺構（掘込地業）が５ヶ所、掘立柱建物跡が５ヶ所検出されている。このほかにも同様の遺構の検出が見込まれることから、調査可能な地点において、さらなる検出を目的として71ａから74までのトレンチを設定し確認調査を実施した。

②宮鍋神社周辺における区画溝の確認（69、70トレンチ）

宮鍋神社付近（国庁推定地Ｃ案）周辺では、上記の礎石建物や掘立柱建物が属する施設の区画溝に比定できる遺構として、元総社蒼海遺跡群（95）２号溝跡の一連の溝（南区画溝）、元総社蒼海遺跡群（14）５トレンチ32号溝跡の一連の溝（西区画溝）がそれぞれ検出されている。しかし、現時点で北区画溝および東区画溝に比定できる遺構が検出されていないことから、北区画溝に比定でき得る古代の溝跡の検出を目的として69・70トレンチを設定し発掘調査を実施した。

3　調査方法と経過

(1)　調査方法

上野国府等範囲内容確認調査のこれまでの調査成果と令和２年度調査の調査目的については第２章で述べたとおりであるが、その目的を達成するために７つのトレンチを設定し調査を行った。各トレンチの面積および調査目的はTab.３のとおりで、調査面積の合計は588㎡である。なお、各トレンチの位置についてはFig.５・６のとおりである。

発掘調査は「上野国府等範囲内容確認調査基準」に基づいて行った。以下に調査方法について要点を記す。

Tab.３　各調査トレンチの面積と調査目的

トレンチ	調査面積(㎡)	主な調査目的
69	166	区画溝の確認
70	61	区画溝の確認
71 a	1	国府関連施設の確認
71 b	1	国府関連施設の確認
72	72	国府関連施設の確認
73	254	国府関連施設の確認
74	33	国府関連施設の確認
計	588	

グリッド設定（Fig.３）　調査区のグリッド設定は以下のとおりである。①単位は４m四方とする。②国家座標第Ⅸ系（日本測地系）を用い、X＝＋44000、Y＝－72200を基点（X０、Y０）とする。③西から東へ４mごとにXの数値が増大し（X１、X２、X３……）、北から南へ４mごとにYの数値が増大する（Y１、Y２、Y３……）。④各グリッドの呼称基点は北西杭とする。なお、このグリッド設定は、区画整理に伴い継続的に調査が行われている元総社蒼海遺跡群のグリッド設定と共通するものである。

トレンチ設定　各トレンチの設定幅については、掘立柱建物の柱穴間隔を考慮して原則３mとしていたが、平成24年度の調査から４m幅へと拡大した。トレンチ名は、原則として調査順に数字で呼称することとし、平成23年度調査からの通し番号とした。

遺構の確認　遺構確認については、基本層序Ⅰ層およびⅡ層直下で行い、その後、上野国府の遺構面が存在するⅢ層（Hr-FP・As-C混土層）を細分しながら確認することとした。遺構の確認にあたって、必要な場合はサブトレンチを設定することにし、サブトレンチの規模は遺構保護のため必要最小限とした。

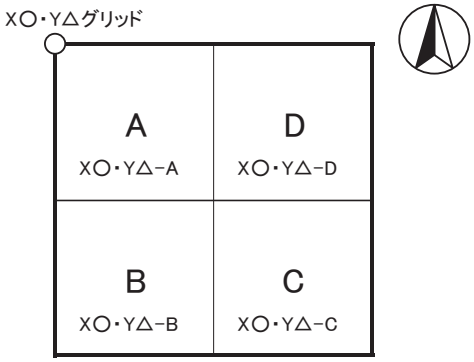


Fig.３　２m小グリッドの呼称

測量　遺構平面図については縮尺１/20を原則とし、必要に応じて１/10～１/50の縮尺を適宜使用することとした。また、土層図についても縮尺１/20とし、遺構毎の図面とは別に、グリッド杭のあるトレンチ壁面で必要性に応じて作成することにした。

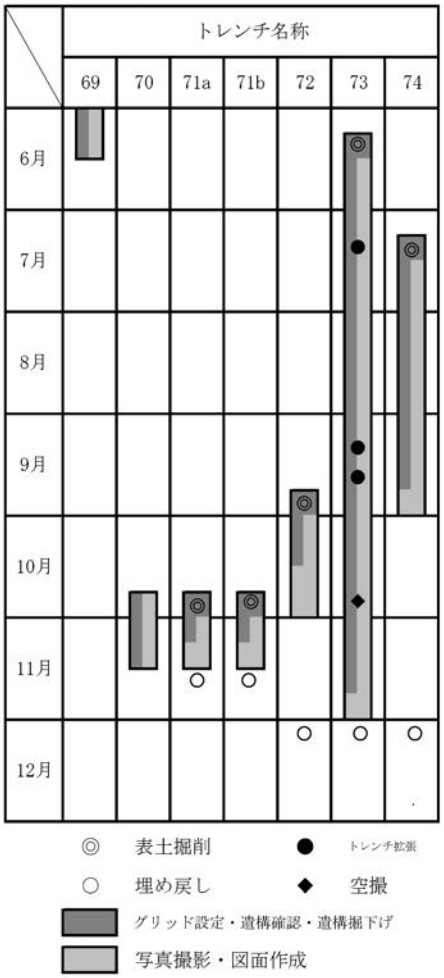
出土遺物の取り上げ　遺構毎を原則とし、遺構に属さない遺物は４mグリッド単位で記録を作成し取り上げることとした。なお、状況に応じて４mグリッドをFig.３のように４分割し、２mの小グリッド一括で取り上げた遺物もある。小グリッドの呼称は、北西から反時計回りでA～Dとした。なお現位置を保つ礎石等、施設を構成する遺物については、原則として現状保存することとした。

写真撮影　遺構の写真撮影については、35㎜フィルム（モノクロ、カラーリバーサル）およびデジタルデータを常時使用した。また、必要に応じて６×９サイズフィルムを使用した。空中写真撮影には６×６サイズフィルムを使用した。

埋め戻し　調査終了後は、今後の調査と区別できるように石灰を散布してから埋め戻しをおこなった。重要と思われる遺構の保護のためにゴンベ砂もしくは川砂を入れて遺構を保護した上で埋め戻しを行った。

(2)　調査経過

Tab. 4　調査経過図



本年度の発掘調査は令和２年６月１日から開始し、令和２年12月４日に終了した。調査経過の概略についてはTab.４のとおりである。

最初に調査を行ったのは69トレンチであるが、69トレンチは区画整理事業にともない表土が掘削され総社砂層が露出した状態であったため、そのまま遺構確認および掘り下げを行った。調査目的である古代の区画溝は検出できず、また、検出した遺構も少なかったことから10日間程度で調査は終了し、73トレンチの設定及び調査へと移行した。

73トレンチは６月９日に掘削を行った。掘削は基本層序Ⅲ層状面に達したところで止め遺構確認およびサブトレンチによる掘り下げを行ったところ、トレンチの北端付近で掘込地業が検出されたことから、トレンチの北半を東へ拡張し、検出された掘込地業の全容解明に努めた。また、73トレンチの東に位置する74トレンチの掘削についても、73トレンチの拡張と同日である７月９日に掘削した。また、73トレンチでは、検出された掘込地業（布地業）の重要性を鑑み、７月29日に第10回上野国府等調査委員会調査部会を開催した。９月８日、73トレンチでは、調査部会で意見として出た溝跡と道路跡の新旧関係の確認を目的として、トレンチの一部を人力で拡張した。また、それでも溝跡と道路跡の関係について不明な点もあったことから９月18日に再度トレンチの一部を拡張した。一方、調査を続けてきた74トレンチでは、掘込地業は検出されず竪穴建物跡を中心とした遺構の検出のみに止まった。

72トレンチは９月29日に掘削した。72トレンチで検出された遺構は中世の溝やピットが専らであり掘込地業は確認できなかった。72トレンチの調査は埋め戻しを残した状態で10月27日に終了した。

70・71ａ・71ｂトレンチの調査は、70トレンチは土取りにより表土から基本層序Ⅲ層程度まで取り去られていたことから、方眼杭を打ちその中で遺構確認を行い、必要に応じて方眼杭の外に確認の範囲を広げた。また、71ａ・71ｂトレンチは宮鍋神社境内に位置することから、石造物や樹木の根の間で遺構及び土層確認のための掘り下げを行った。70トレンチは10月19日から遺構確認および掘り下げを開始し、記録終了後の11月13日に掘り下げた遺構を埋め戻した。71ａ・71ｂトレンチは10月29日に掘削を開始し、記録終了後の11月16日に埋め戻した。70トレンチで古代の区画溝は検出できなかったが、予期せず古代の道路跡が検出された。71ａ・71ｂトレンチの調査は樹木の根が障害となり、効率良く掘り下げることができなかった。

なお73トレンチについては、10月28日に空撮を行った。それから２日後の10月30日に、第29回上野国府等調査委員会を開催し、73トレンチで検出された掘込地業や溝跡、道路跡の検討を行ったほか、現地視察が可能な70・71ａ・71ｂ・72トレンチもあわせて見学した。73トレンチはその後も少々の掘り下げと記録作業を続け、11月30日に埋め戻しを残した状態で作業は終了した。

72・73・74トレンチの埋め戻し及び整地作業については、12月１に開始し12月４日に終了した。

4　基本層序

各トレンチの基本層序は以下のとおり。

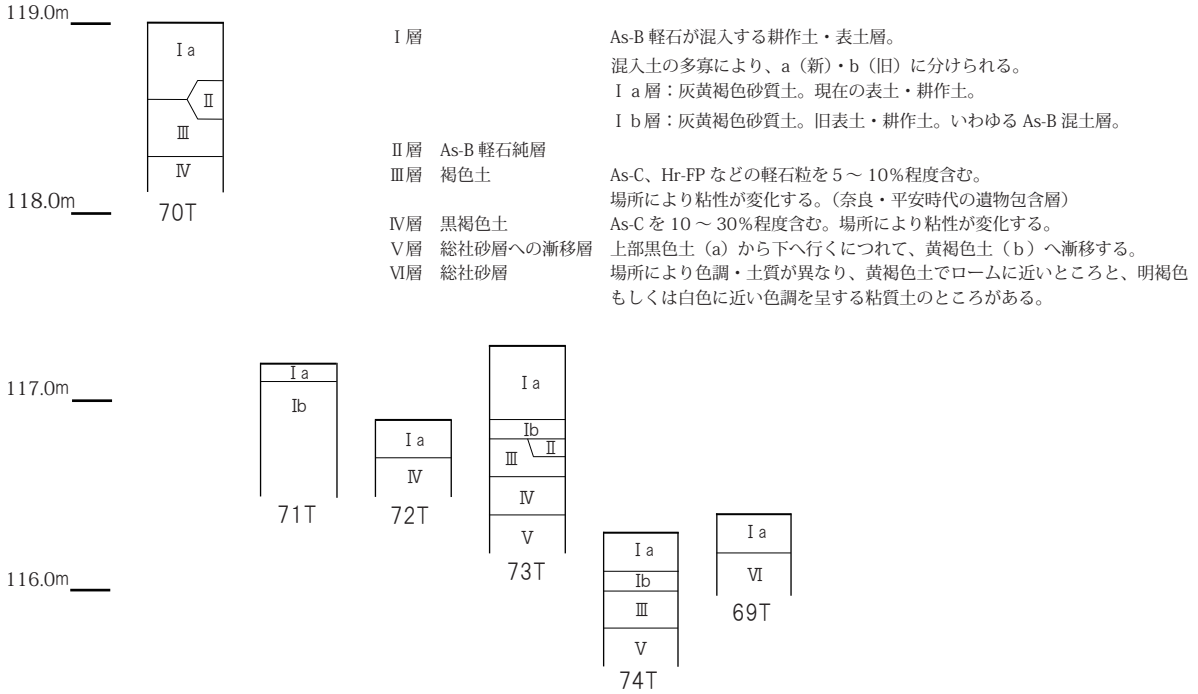


Fig. 4　各トレンチ土層柱状図

5　遺構と遺物

(1)　各トレンチの概要

以下に調査目的毎にトレンチの概要について述べたい。

①宮鍋神社周辺における区画溝の範囲確認調査

69トレンチ（Fig. 7、PL. 1）

69トレンチは宮鍋神社の北西約60mの地点に位置し、当初、南北方向のトレンチを計画していたが、区画整理事業により調査予定地付近の表土を削り取ることから、表土を削り取った166㎡の範囲で調査を行った。

検出された遺構は竪穴状遺構１基、溝跡１条、掘立柱建物跡１棟、井戸跡１基、土坑５基、ピット25基等が検出された。検出された遺構はすべて中世もしくはそれ以降に属し、古代に遡る遺構は検出されなかった。

70トレンチ（Fig. 8、PL. 1）

70トレンチは宮鍋神社の北西約110mの地点に位置し、すぐ北には平成23年度に調査した２ａトレンチが位置する。この地点も区画整理事業にともない表土が削り取られており、その範囲内で南北方向に長さ12m、幅４ｍの範囲で遺構確認を行い、一番北側のみ拡張するように遺構確認の範囲を広げ、最終的には70㎡の範囲で調査を行った。

検出された遺構は、６世紀代と推定される竪穴建物跡１軒、９世紀から10世紀代と推定される竪穴建物跡２軒のほか、古代の道路跡１条、土坑２基、ピット１基が検出された。この範囲で古代の区画溝は検出されなかった。

②宮鍋神社周辺における国府関連遺構の確認調査

71ａ・71ｂトレンチ（Fig. 8、PL. 3）

71ａ・71ｂトレンチは試掘坑で、宮鍋神社境内に位置している。

宮鍋神社の南側周辺で礎石建物跡が多数検出されているが、元総社蒼海遺跡群（136）の総地業の礎石建物と元総社蒼海遺跡群（99）の総地業の礎石建物が直線的に並ぶと仮定したとき、その軸線上で両礎石建物間と同じ距離分北へ延伸した地点が宮鍋神社付近となることから、掘込地業の検出を目的として宮鍋神社境内に設定したものである。両トレンチとも現況にあわせて、縦横ともに１m、面積は１㎡の規模で試掘を行った。宮鍋神社の境内のうち、北の鳥居が立ち石段が設けられ高くなっている北側に71ａトレンチ、南側の道路と同レベルの石段南側に71ｂトレンチを設定した。調査の結果、掘込地業は検出できなかった。

72トレンチ（Fig.９、PL.３）

72トレンチは推定上野国府８トレンチの北、同じく36トレンチの西に位置している。礎石建物跡もしくは掘立柱建物跡の検出を目的として東西方向に長さ18m、幅４mの規模で設定した。

調査の結果、溝跡３条、竪穴状遺構１基、井戸跡２基、土坑７基、ピット129基を検出した。遺構はすべて中世もしくはそれ以降に属する。

73トレンチ（Fig.10・11、巻頭図版２）

73トレンチは推定上野国府38トレンチの北に位置し、元総社蒼海遺跡群（127/133）の１号礎石建物跡と元総社蒼海遺跡群（136）１号建物跡（布地業建物跡）の中間地点での礎石建物跡の検出を目的として調査した。調査当初は南北方向に長さ28m、幅４mでトレンチを設定し調査を進めたが、トレンチ北端で掘込地業（１号建物跡）が検出されたことから、その全容を確認するためにさらに北へ約４m、東へ約14m拡張した。さらに、１号道路跡と３号・４号・５号溝跡の関係確認のため、トレンチの西側を南西方向に傾けて長さ４m、幅１mの規模で１ヶ所、さらに長さ・幅ともに１mの規模でもう１ヶ所拡張した。

調査の結果、礎石建物跡（布地業）１棟、６世紀後半から11世紀代までの竪穴建物跡11軒、古代の溝６条、中世の溝２条、古代の道路跡２条、中世以降の井戸跡４基、古代の土坑10基、中世の土坑11基、古代のピット35基、中世のピット14基、時期不明のピット４基が検出された。

74トレンチ（Fig.８、PL.９）

74トレンチ元総社蒼海遺跡群（136）のうち基壇状建物跡が検出された地点の北側に位置し、基壇状建物跡の北における礎石建物跡・掘立柱建物跡の検出を目的として南北方向に長さ８m、幅４mで設定し調査を行った。

調査の結果、６世紀後半から11世紀代の竪穴建物跡９軒、中世の井戸跡１基、古代のピット５基、中世以降のピット10基が検出されたが、礎石建物跡や掘立柱建物跡は検出されなかった。

⑵　各トレンチの検出遺構

以下に各トレンチにおいて検出された遺構に関して、トレンチの番号順に述べていきたい。

69トレンチ

⑴　竪穴状遺構

１号竪穴状遺構（Fig.12、PL.１）

位置　X227・228、Y178・179グリッド。　**主軸方向**　N―80°―E。　**形状等**　調査区内では一部が検出されたのみ。形状は東西方向の長方形と推定されるが、東壁は調査区内で検出できなかった。検出された遺構の規模は、東西(4.55)m、南北(1.70)m、残存する壁高は最大59㎝。西壁に段が設けられていた。　**床面**　総社砂層（基本層序Ⅵ層）に掘り込まれた地山床。　**出土遺物**　須恵器（大甕）破片、須恵器転用硯、酸化焔焼成須恵器（坏・椀）破片、土師質土器（坏）破片、黒色土器（椀）破片、灰釉陶器（瓶）破片、瓦（平瓦）破片、石製硯破片、鉄滓が出土。　**時期**　中世と推定される。

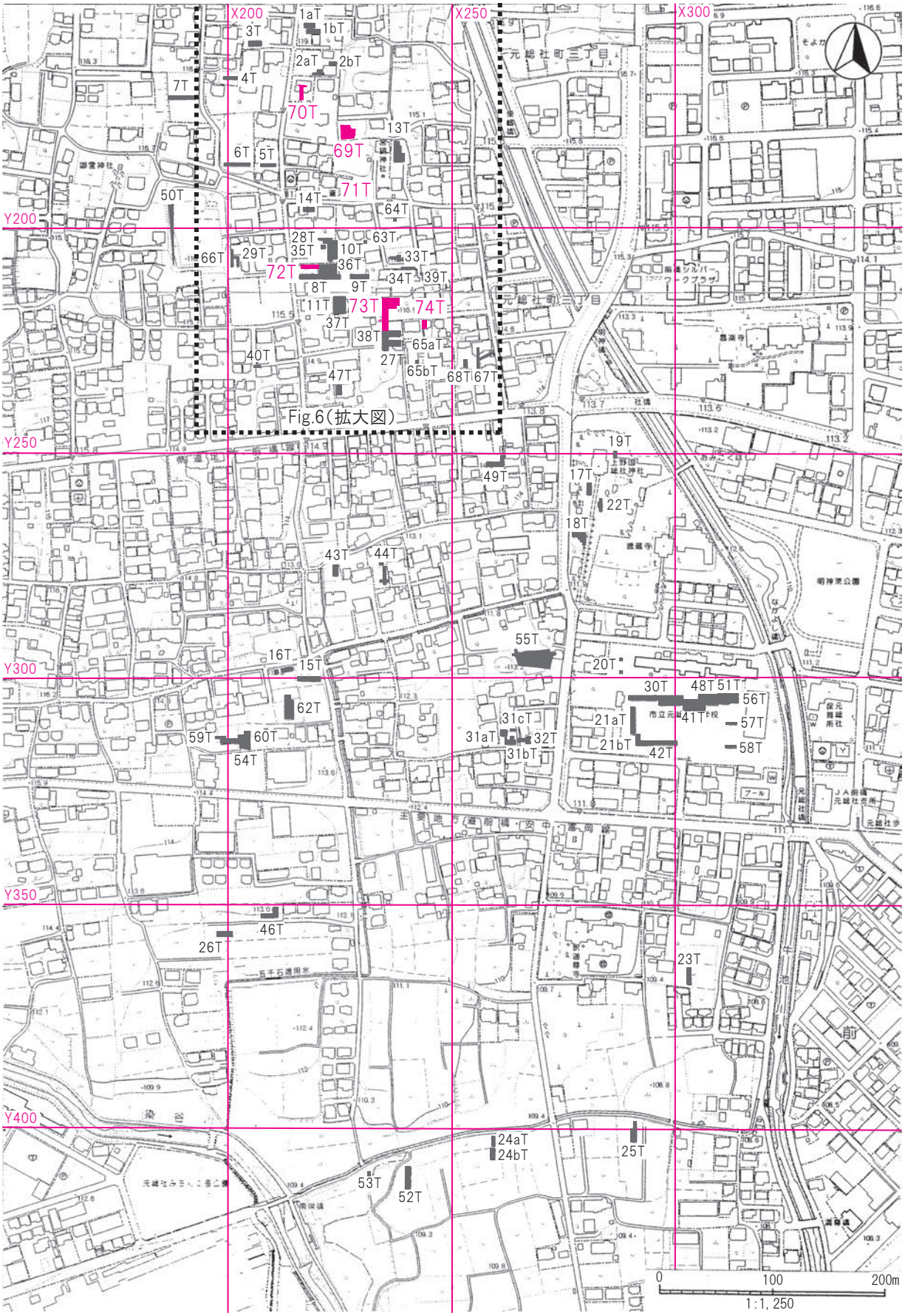


Fig. 5　グリッド設定図とトレンチ位置図

Fig. 6　各トレンチ詳細位置図

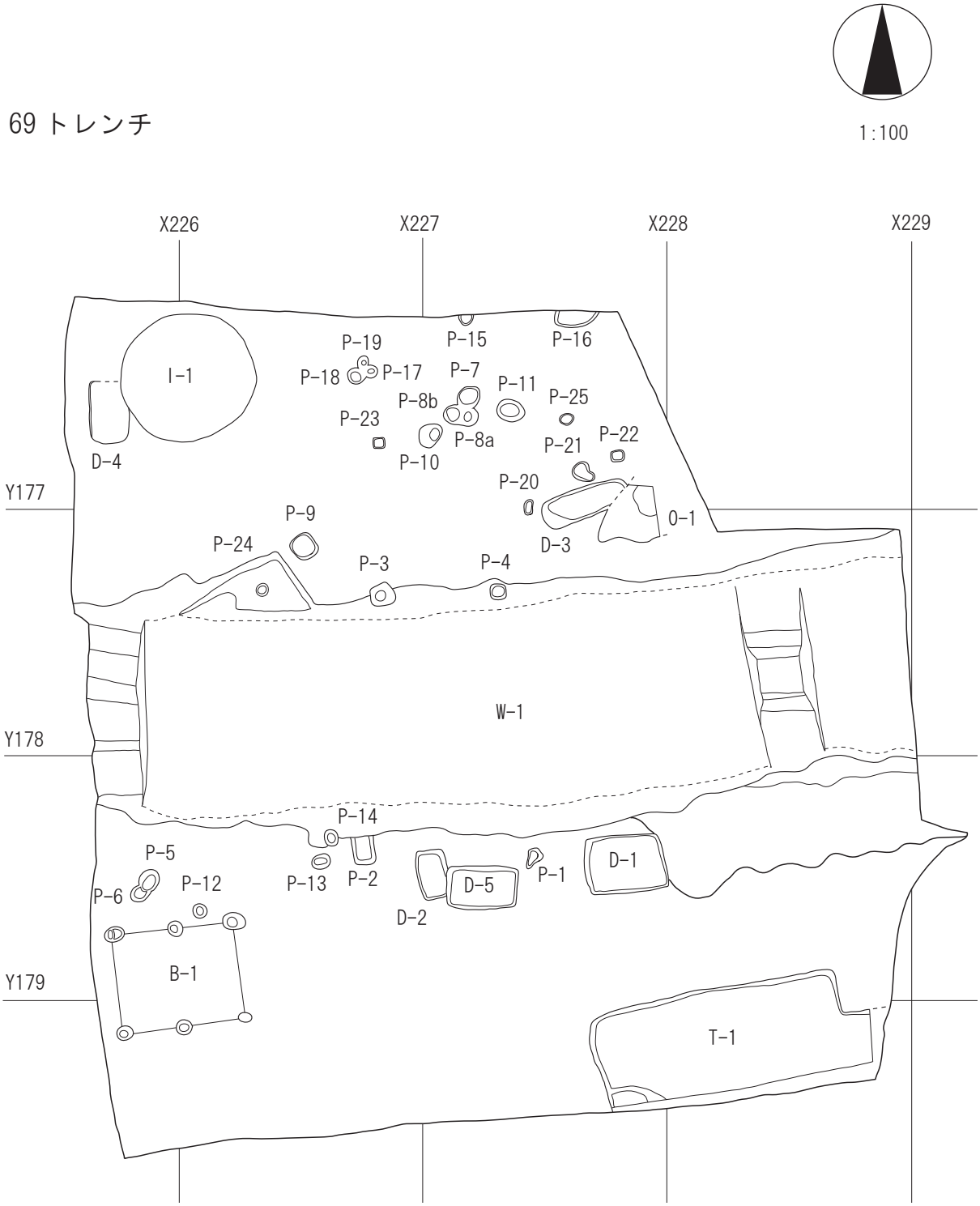


Fig. 7　各トレンチ全体図(1)

抄　録

フリガナ	スイテイコウズケコクフ
書名	推定上野国府
副書名	令和２年度発掘調査報告書
シリーズ名	上野国府等範囲内容確認調査報告書
シリーズ番号	10
編著者名	阿久澤智和・齋藤　颯
編集機関	前橋市教育委員会
編集機関所在地	〒371-0853　群馬県前橋市総社町三丁目11-4
発行年月日	20220318

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
スイテイコウズケコク フ 推定上野国府	マエバシ シ モトソウジャ 前橋市元総社 マチ 町2029-2ほか	10201	2A147	36°39′10″ ～ 36°38′89″	139°03′48″ ～ 139°03′60″	20210601 ～ 20211204	588㎡	範囲内容確認調査

所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
推定上野国府	集落	古墳、平安時代	住居跡22、土坑、ピット	土師器、須恵器、黒色土器、灰釉陶器、緑釉陶器、瓦、銅製品、鉄製品	
	官衙	奈良、平安時代	礎石建物跡１、道路跡２、溝跡６	土師器、須恵器等	宮鍋神社南側周辺に分布する礎石建物跡（布地業）を新たに確認したほか、道路跡、溝を確認。
	集落	中世	掘立柱建物跡１、竪穴状遺構２、溝跡６、井戸跡、土坑、ピット	陶磁器、石製品等	蒼海城の堀跡

上野国府等範囲内容確認調査報告書Ⅹ

推定上野国府　令和２年度調査報告

2022年３月15日　印刷
2022年３月18日　発行

編集・発行／前橋市教育委員会文化財保護課
印刷／朝日印刷工業株式会社

72 トレンチ

※土坑・ピットの遺構番号は、Fig.16 ～ 18 参照

Fig. 9　各トレンチ全体図(3)

73 トレンチ（古代面）

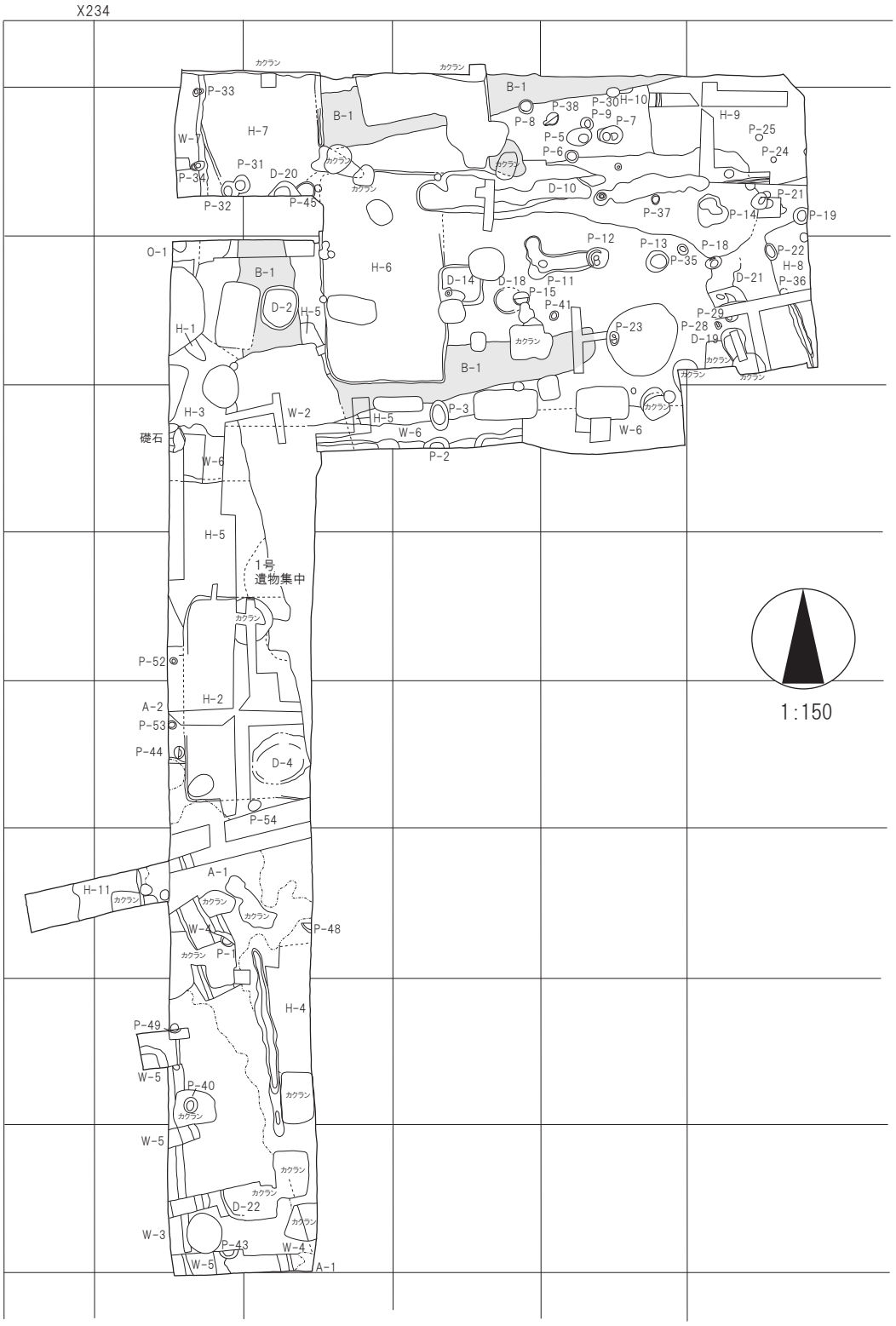


Fig. 10　各トレンチ全体図(4)

73 トレンチ（中世面）

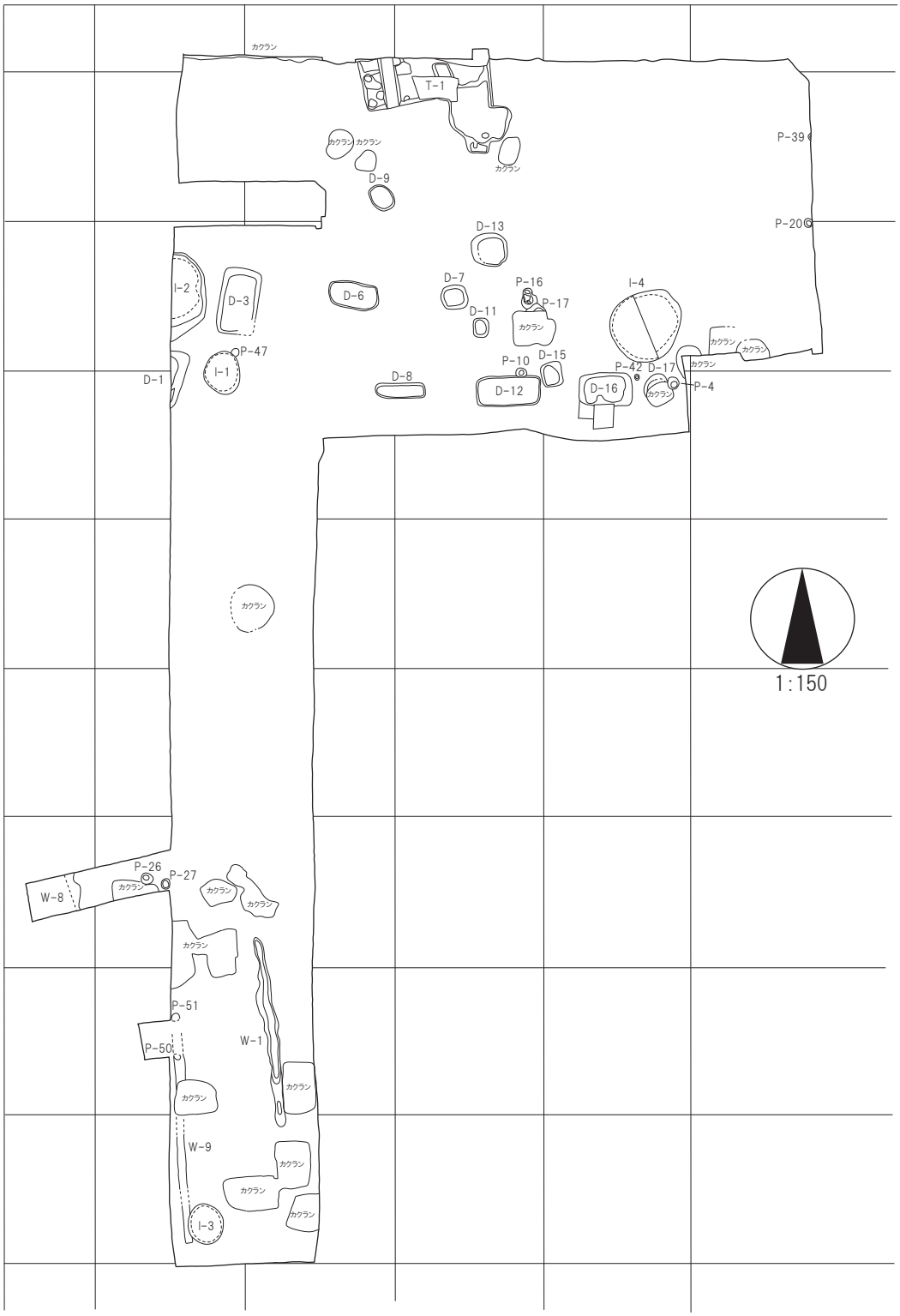


Fig. 11　各トレンチ全体図(5)

⑵　掘立柱建物跡

１号掘立柱建物跡（Fig.13、PL.１）

位置　X225･226、Y178･179グリッド。　**主軸方向**　N―83°―Eの東西棟。　**形状等**　桁行２m、梁行1.6m。桁行の柱間は、北側が西から1.05m・0.95m、南側が西から1.0m・1.0m。梁行は西側が1.6m、東側は1.55mを測る。　**柱穴**　円形で浅い。規模等については計測表（Tab.５）に記載した。　**出土遺物**　なし。　**時期**　中世以降。

⑶　溝跡

１号溝跡（Fig.12、PL.１）

位置　X225～228、Y177・178グリッド。　**主軸方向**　N―83°―E。　**形状等**　平面形状は調査区内で若干曲がっている。断面はV字形であるが平らな底面を持つ。調査区内での長さ(5.5)m、最大上幅(3.25)m、最大下幅0.8m、深さ1.45m。　**出土遺物**　土師器（坏・甕）破片、須恵器（蓋・大甕）破片、円筒埴輪破片、土師質土器（坏）破片、瓦（平瓦）破片、内耳鍋破片、石製品（凹石、石臼破片）、結晶片岩、石英が出土。　**時期**　中世。　**その他**　北側法面の一部に三角形のテラス状の部分を持つは、この１号溝跡により破壊された竪穴建物跡のようにも見えるが、床面などの明瞭な痕跡が認められなかったため、竪穴建物跡として認定しなかった。

⑷　井戸跡、土坑、ピット、落ち込み

井戸跡が１基、土坑が５基、ピットが25基、落ち込みが１ヶ所検出された（Fig.13・14、PL.１）。各遺構の規模等については計測表（Tab.５）に記載した。各遺構の時期については、中世以降と推定される。

70トレンチ

⑴　竪穴建物跡

１号竪穴建物跡（Fig.14、PL.２）

位置　X216、Y169・170グリッド。　**主軸方向**　N―63°―E。　**形状等**　方形。　**床面**　プラン確認のみのため未確認。　**カマド**　東壁中央付近で竈の煙道が検出された。煙道は平面で検出された形状で、主軸方向N―62°―E、全長90㎝、最大幅60㎝を測る。　**出土遺物**　プラン確認のみのため、なし。　**時期**　確認された遺構の形状から６世紀後半頃と推定される。

２号竪穴建物跡（Fig.14、PL.２）

位置　X217、Y167・168グリッド。　**主軸方向**　N―86°―E。　**形状等**　方形。北壁および東壁を検出。東西(1.35)m、南北(1.55)m、残存する壁高は最大20.5㎝。　**重複関係**　１号道路跡、２号土坑と重複する。本遺構は１号道路跡よりも古い。２号土坑との重複関係は不明瞭であるが、２号土坑が新しいか。　**床面**　地山床と考えられ、硬化は一部で認められた。構築された面は基本層序V層（総社砂層への漸位層）からⅥ層（総社砂層）にかけてと考えられる。　**カマド**　未検出。　**出土遺物**　土師器（甕）破片、須恵器（不明）破片、酸化焔焼成須恵器（坏）破片、縄文時代の遺物（土器（加曽利E式の深鉢）破片、石器（スクレイパー、剥片））が出土。　**時期**　判断が非常に難しいが９世紀代か。

３号竪穴建物跡（Fig.14、PL.２）

位置　X215・216、Y167グリッド。　**主軸方向**　N―88°―E。　**形状等**　方形。西壁および南壁を検出。北壁は調査区外、東壁は１号道路跡と重複し破壊されているため未検出。検出できた規模で東西(3.35)m、南北(1.05)m、残存する壁高は最大12㎝。　**重複関係**　１号道路跡と重複する。本遺構が古い。　**床面**　地山床。硬化面がサブトレンチ内で認められた。検出位置等から竈前面付近の床面と推定される。床面の構築された面は基本層序V層（総社砂層への漸位層）からⅥ層（総社砂層）にかけてと考えられる。　**カマド**　未検出（東壁か）。**出土遺物**　土師器（甕）、酸化焔焼成須恵器（坏）破片が少量出土。　**時期**　判断が非常に難しいが、10世紀代か。

⑵　**道路跡**

１号道路跡（Fig.15、PL.２）

位置　掘り込みが確認された範囲はX216・217、Y167～170グリッド。　**主軸方向**　N―６°―W。　**形状等**　浅いU字形の溝状に掘り窪めた部分の底面で硬化が認められたことから道路跡と認定した。遺構確認面のレベルにおける掘り窪められた部分の規模は幅4.0m、深さ10㎝で、その掘り窪められた範囲内での硬化面は最大幅3.5mを測る。なお、遺構確認の際に、掘り窪められた部分の西側でも地面が弱く硬化した状況が面的に認められた。この硬化面の西は段々と硬化がさらに弱くなり自然消滅するような状況だった。東は掘り窪められた部分へと続くようではあったが、掘り窪み内の硬化面との間には、硬化が認められない部分が存在した。　**重複関係**　２号・３号竪穴建物跡、１号土坑と重複する。２号・３号竪穴建物跡よりも新しく、１号土坑よりも古い。道路面の範囲によっては１号竪穴建物跡、１号ピットとも重複関係をもち、その場合、１号竪穴建物跡よりも本遺構が新しく、１号ピットよりも古い。　**出土遺物**　土師器（坏・甕）破片、須恵器（椀・大甕）破片、酸化焔焼成須恵器（坏・羽釜）破片、土師質土器（坏）破片、黒色土器（椀）破片、灰釉陶器（長頸瓶？）破片、縄文時代の遺物（土器（加曽利Ｅ式・深鉢））、砂岩の礫が出土。　**時期・その他**　出土遺物や遺構の重複関係、さらには覆土中に浅間Ｂ軽石の純層が認められたことから10世紀以降で11世紀には廃絶したものと推定される。

⑶　**土坑、ピット**

土坑が２基、ピットが１基検出された（Fig.14・15、PL.２）。各遺構の規模等については計測表（Tab.５）に記載した。すべてプラン確認のみで掘り下げを行っていない。

71ａトレンチ（Fig.15、PL.３）

位置　X233、Y190グリッド。　**概要**　宮鍋神社境内に設定した試掘坑のうち、境内上段（境内北側）に設定したもの。地表面から65㎝まで掘り下げたところ、表土もしくはそれに良く似た土の堆積が認められたのみで、掘込地業は確認できなかった。　**出土品**　なし。

71ｂトレンチ（Fig.15、PL.３）

位置　X233、Y190グリッド。　**概要**　宮鍋神社境内に設定した試掘坑のうち、境内下段（境内南側）に設定したもの。地表面から70㎝まで掘り下げたところ、表土もしくはそれに良く似た土の堆積が認められたのみで、掘込地業は確認できなかった。　**出土品**　なし。

72トレンチ

⑴　**竪穴状遺構**

１号竪穴状遺構（Fig.16、PL.４）

位置　X216、Y208グリッド。　**形状・主軸方向等**　出入口と考えられる階段状の遺構が検出されたことから、地下式の室のようなものを想定し竪穴状遺構としたもの。検出された遺構は東西(2.8)m、南北(0.55)m、現地表面から底面までの深さ139.5m。底面から階段状のテラスが３段設けられている。　**重複関係**　１号溝跡と重複する。本遺構が新しい。　**出土遺物**　かわらけ破片、須恵器破片。　**時期**　近世以降と推定される。

⑵　**溝跡**

１号溝跡（Fig.16、PL.４）

位置　X216、Y208グリッド。　**主軸方向**　N―10°―W。　**形状等**　プラン確認および面的な掘り下げを現地表面から約70㎝下まで行う。調査区内での長さ(4.0)m、最大上幅(1.15)m。　**重複関係**　１号竪穴状遺構、１号井戸跡と重複する。１号井戸跡よりも本遺構が新しい。１号竪穴状遺構よりも本遺構が古い。　**出土遺物**

石製品（石臼破片）、陶器破片、磁器（椀等）破片、鉄製品（不明）、銅製品（煙管）が出土。　**時期**　中世。　**その他**　平成24年度調査の上野国府８トレンチ３号溝跡の延伸と考えられる。

２号溝跡（Fig.17、PL.４）

位置　X217・218、Y208グリッド。　**主軸方向**　N―10°―W。　**形状等**　プラン確認および面的な掘り下げを現地表面から約70㎝下まで行う。調査区内での長さ(3.9)ｍ、最大上幅(5.2)ｍ。　**出土遺物**　須恵器（大甕）破片、酸化焔焼成須恵器（椀）破片、内耳鍋破片、かわらけ破片、青磁破片、石製品（石臼破片、五輪塔（空風輪のみ）、砥石）、鉄製品（不明）が出土。　**時期**　中世。　**その他**　平成24年度調査の上野国府８トレンチ４号溝跡の延伸と考えられる。

３号溝跡（Fig.18、PL.４）

位置　X218・219、Y208グリッド。　**主軸方向**　N―73°―E。　**形状等**　断面はU字形。調査区内での長さ(2.6)ｍ、最大上幅30㎝、最大下幅15㎝、深さ５㎝。底面には鋤痕が残る。　**重複関係**　１号・２号土坑と重複する。本遺構のほうが古い。　**出土遺物**　なし。　**時期**　不明。　**その他**　竪穴建物跡の周溝に構造が似ているが、床面や柱穴等は認められなかったことから溝跡とした。

⑶　井戸跡、土坑、ピット

井戸跡が２基、土坑が７基、ピットが131基検出された（Fig.16・17・18、PL.４）。各遺構の規模等については計測表（Tab.５）に記載した。

73トレンチ

⑴　礎石建物跡

１号礎石建物跡（Fig.23、巻頭図版３）

位置　X234～237、Y215～217グリッド。　**主軸方向**　N―10°―W。　**形状等**　宮鍋神社付近で検出例が増えつつある所謂「枠形」の布地業で、北辺・西辺、南辺が検出されたほか、北辺内側中央寄りに壺地業と考えられる覆土が締まった土坑状の遺構が検出されている。北辺は破壊されているので全体は不明。南辺は東へ向かって細くなり途中で止まる。このため、掘込地業の規模は不明だが、現時点で東西[13.2]ｍ、南北[8.8]を測る。掘込地業の各辺は、北辺が最大幅1.6m、残存する最大の深さ15㎝（サブトレンチ）。西辺が最大幅1.6m、深さ35㎝（サブトレンチ）で北辺・南辺よりも深く掘り込まれている。南辺が最大幅1.4m、残存する最大の深さ23㎝（サブトレンチ）。壺地業は一部が破壊されていたが直径約90㎝のほぼ円形をしており南東部分が少し張り出し、硬化が著しい。深さはプランのみの確認のため深さは不明。各辺の版築のはきれいな互層となってはいない。また掘込地業最下部は整地層とせずに版築を掘り形底面から開始している。なお、遺構確認面で礎石の据付痕は確認できなかった。　**重複関係**　３号・５号・６号・７号・９号・10号竪穴建物跡、１号竪穴状遺構、６号溝跡、２号・３号・８号・10号・11号・12号・15号・20号土坑、３号・８号・10号・30号・31号・32号ピットと重複する。５号・９号・10号竪穴建物跡よりも新しい。上記の他の遺構よりも古い。　**出土遺物**　プラン確認時および掘込地業内から土師器（坏・甕）破片、須恵器（盤）破片が出土した。　**時期**　古代に属するが詳しい時期は不明。８世紀から９世紀にかけて存在したと考えられる。

⑴　竪穴建物跡

１号竪穴建物跡（Fig.19、PL.５）

位置　X234、Y216グリッド。　**形状等**　重複する７号溝跡と２号井戸跡により破壊され、カマド付近のみが検出された。よって、その規模・主軸方向等は不明。　**カマド**　カマドは南東隅に構築されたものと推定される。主軸方向はN―155°―E、全長(95)㎝、最大幅(40)㎝を測る。　**出土遺物**　なし。　**重複関係**　３号竪穴建物跡、７号溝跡、２号井戸跡と重複する。３号竪穴建物跡よりも新しく、７号溝跡、２号井戸跡よりも古い。

時期　時期判断が難しいが、遺構の構造や重複関係から出土遺物から11世紀代と推定される。

２号竪穴建物跡（Fig.19、PL.５）

位置　X234・235、Y218・219グリッド。　**主軸方向**　真北。　**形状等**　南北方向の長方形。北壁・西壁・南壁を検出。東壁は調査区外。検出された遺構の規模は東西(3.45)m、南北5.52m、残存する壁高は最大20㎝。**床面**　基本層序Ⅵ層（総社砂層）に構築された地山床と貼床。硬化面は地山床部分を中心に認められた。　**ピット**　遺構南西隅で１基検出された。ピットの規模等は計測表（Tab.５）に記載。　**カマド等**　未検出。南東隅付近で焼土と粘土の分布が検出されたことから、南東隅付近に構築されていたと推定される。その他に床面に熱を受けた痕跡が１ヶ所で認められた。　**出土遺物**　土師器（坏・甕）破片、須恵器（坏・甕）破片、酸化焔焼成須恵器（坏・椀）破片、黒色土器（椀）破片、土師質土器（皿・坏）破片、灰釉陶器（瓶？）破片、瓦（平瓦）破片が出土。　**重複関係**　１号・２号道路跡、２号溝跡と重複する。本遺構が一番古い。　**時期**　出土遺物から11世紀前半と推定される。　**その他**　北側に隣接する５号土坑は、調査の結果、本遺構の一部と判明した。

３号竪穴建物跡（Fig.19、PL.５）

位置　X234・235、Y216・217グリッド。　**主軸方向**　N―34°―E。　**形状等**　方形。北壁および東壁の一部を検出。東西(2.60)m、南北(2.50)m、残存する壁高は最大36㎝。　**床面**　基本層序Ⅴ層（総社砂層漸移層）に構築された地山床。カマド前面付近が硬化していた。　**カマド**　本遺構のカマドにともなうものと考えられる焼土・灰の分布が認められた。遺構のプランにおけるその位置から、カマドは南東隅付近に構築されていたと推定される。　**出土遺物**　土師器（坏・甕）破片、須恵器（高坏・甕）破片、酸化焔焼成須恵器（蓋・坏・椀）破片、黒色土器小片、土師質土器（高坏）破片、灰釉陶器（椀）破片が出土。　**重複関係**　１号・５号竪穴建物跡、２号・６号溝跡、１号土坑、１号・２号井戸跡と重複する。５号竪穴建物跡よりも新しく、１号竪穴建物跡、２号・６号溝跡、１号土坑、１号・２号井戸跡よりも古い。　**時期**　10世紀後半と推定される。

４号竪穴建物跡（Fig.20、PL.５）

位置　X235、Y220・221グリッド。　**主軸方向**　壁を明瞭に検出できなかったが、N―５°―W。　**形状等**　床の硬化面を確認しながら調査を進めたが、たが、壁を明瞭に確認することができなかったが、北壁と西壁にあたると考えられる部分を認めた。南壁は撹乱により破壊されていた。検出した遺構の規模は、東西(1.3)m、南北(3.75)mを測る。なお、遺構の形状は方形と考えられる。　**床面**　基本層序Ⅴ層（総社砂層漸移層）に構築された地山床。弱い硬化が認められた。　**カマド**　未検出。調査区外に存在するものと推定される。　**出土遺物**　土師器（坏・甕）破片、酸化焔焼成須恵器（椀・羽釜）破片、土師質土器（坏）破片、黒色土器小片、鉄滓？、礫が出土。　**重複関係**　１号道路跡と重複する。本遺構が新しい。　**時期**　10世紀前半と推定される。

５号竪穴建物跡（Fig.20、PL.５）

位置　X234・235、Y216～218グリッド。　**主軸方向**　N―62°―E。　**形状等**　方形と推定される。部分的な調査であるが推定も含めて遺構の規模は東西(4.2)m、南北(6.0)m、残存する壁高は最大40㎝。　**床面**　貼床。硬化は弱い。基本層序Ⅵ層（総社砂層）に構築されていると考えられる。　**カマド**　未検出。調査区外に存在すると思われる。　**出土遺物**　上層からの混入も含めて土師器（坏・甕）破片、須恵器（甕）破片、酸化焔焼成須恵器（坏・羽釜）破片、鉄製品（刀子）、白磁破片が出土。　**重複関係**　１号礎石建物跡、２号・３号・６号竪穴建物跡、２号・６号溝跡、１号井戸跡と重複する。本遺構が一番古い。　**時期**　６世紀後半と推定される。**その他**　検出時の重複関係から、奈良・平安時代以前の遺構と判断したため、調査はプラン確認とサブトレンチによる掘り下げのみを行った。

６号竪穴建物跡（Fig.21、PL.５）

位置　X235・236、Y215・216グリッド。　**主軸方向**　真北。　**形状等**　南北方向の長方形。検出された遺構の規模は、東西(5.06)m、南北(2.75)m、残存する壁高は最大15㎝。　**床面**　基本層序Ⅴ層（総社砂層への漸移

層）に構築された地山床。床面の硬化は全体的に弱い。　**ピット**　壁沿いに小規模なピットが検出され、本遺構にともなうピットとした。各ピットの規模等は計測表（Tab.５）に記載。　**カマド**　認められなかった。　**出土遺物**　土師器（甕）破片、酸化焔焼成須恵器（坏）破片、土師質土器（坏）破片、礫が出土。　**重複関係**　１号礎石建物跡、５号・７号竪穴建物跡、７号・９号・10号・14号土坑と重複する。５号竪穴建物跡、14号土坑、１号礎石建物跡よりも本遺構が新しい。その他の遺構とでは本遺構が古い。　**時期**　出土遺物から10世紀後半と推定される。

７号竪穴建物跡（Fig.21、PL.５）

位置　X234・235、Y214・215グリッド。　**主軸方向**　N―３°―E。　**形状等**　方形で西壁は外へ拡がる。規模は、東西3.30m、南北(3.2)m、残存する壁高は最大９㎝。　**床面**　基本層序Ⅴ層（総社砂層への漸移層）に構築された地山床で硬化が一部で認められた。　**壁周溝**　東壁のカマドに近い位置で検出。最大上幅15㎝、最大下幅５㎝、深さ２㎝。　**カマド等**　遺構の東壁南東隅に構築されていた。撹乱を受けていることから全体の状態はよく把握できないが主軸方向はN―123°―E、全長(100)㎝、最大幅(70)㎝を測る。焚口前面で灰・焼土の分布が認められた。その他に住居中央部付近で炉跡が１基検出された。規模等については計測表（Tab.５）に記載。　**出土遺物**　土師器（坏）破片、須恵器（盤・甕）破片、酸化焔焼成須恵器（坏）破片、土師質土器（坏・土釜）破片、灰釉陶器（椀）破片、鉄滓が出土。　**重複関係**　１号礎石建物跡、６号竪穴建物跡、７号溝跡と重複する。本遺構が一番新しい。　**時期**　出土遺物から11世紀前半と推定される。

８号竪穴建物跡（Fig.22、PL.６）

位置　X238、Y215・216グリッド。　**主軸方向**　N―66°―E。　**形状等**　方形。北壁のラインおよび西壁を検出。検出された遺構の規模は、東西(1.30)m、南北(3.85)m、残存する壁高は最大42㎝。　**床面**　基本層序Ⅵ層（総社砂層）に構築された貼床。調査した位置では硬化は弱い。　**壁周溝**　掘り下げを行った西壁で検出された。最大上幅25㎝、同下幅10㎝、深さ６㎝。　**カマド**　調査区外。東壁に構築されていたと考えられるが、元総社蒼海遺跡群（65）調査時においても確認できなかった（撹乱によるものか）。　**出土遺物**　土師器（坏・甕）破片、須恵器（坏）破片が出土。　**時期**　７世紀後半と推定される。　**その他**　調査はプランの確認とサブトレンチによる掘り下げのみを行った。なお、本遺構は元総社蒼海遺跡群（65）の13号住居跡と同一。

９号竪穴建物跡（Fig.22、PL.６）

位置　X237・238、Y214・215グリッド。　**主軸方向**　N―77°―E。　**形状等**　方形。西壁および南壁のプラン・壁を検出。検出された遺構の規模は、東西(4.3)m、南北(3.35)m、残存する壁高は最大54㎝。　**床面**　基本層序Ⅵ層（総社砂層）に構築された貼床。床面は比較的硬化していた。　**壁周溝**　掘り下げを行った西壁および南壁で検出された。最大上幅15㎝、同下幅５㎝、深さ４㎝。　**ピット**　南壁付近で１基検出された。規模等については計測表（Tab.５）に記載。　**カマド**　調査区外。東壁に構築されていたと考えられるが、元総社蒼海遺跡群（65）調査時においても確認できなかった（撹乱によるものか）。　**出土遺物**　縄文土器（深鉢）破片、土師器（坏・甕）破片、須恵器（甕）破片、酸化焔焼成須恵器（坏）破片が出土。　**重複関係**　１号礎石建物跡、10号土坑と重複する。本遺構が一番古い。　**時期**　６世紀後半と推定される。　**その他**　調査はプランの確認とサブトレンチによる掘り下げのみを行った。なお、本遺構は元総社蒼海遺跡群（65）の22号住居跡と同一。

10号竪穴建物跡（Fig.10）

位置　X237、Y215グリッド。　**形状等**　遺構確認の段階でプランが検出されたことから奈良・平安時代以前の遺構と判断し、プランの確認とサブトレンチによる掘り下げのみを行った。　**重複関係**　１号礎石建物跡と重複する。本遺構が古い。　**時期**　６世紀代と推定される。　**その他**　本遺構は元総社蒼海遺跡群（65）の19号住居跡と同一。

11号竪穴建物跡（Fig.22、PL.６）

位置　X233・234、Y220グリッド。　**主軸方向**　N―８°―W。　**形状等**　拡張トレンチ内での検出なので全体は不明であるが方形と推定される。検出された遺構の範囲は、東西(2.00)m、南北(1.00)m、残存する壁高は最大48㎝。　**床面**　総社砂層の地山床。　**カマド**　調査区外と推定される。　**出土遺物**　須恵器（甕）破片、酸化焔焼成須恵器（坏・椀）破片、土師質土器（坏・土釜）破片が出土。　**重複関係**　８号溝跡と重複する。本遺構が古い。３号溝跡との重複関係は不明瞭。　**時期**　出土遺物から11世紀前半と推定される。

⑵　竪穴状遺構

１号竪穴状遺構（Fig.24、PL.８）

位置　X235・236、Y214・215グリッド。　**主軸方向**　N―77°―E。　**形状等**　長方形と推定される。地山（総社砂層）を掘り下げ構築されており西壁寄りが棚状に掘り残されている。隅や壁寄りにピットや石が認められた。柱が立てられていたと推定される。また、南東隅に入口と考えられる施設が存在する。遺構の規模は、本体のみの東西3.4m、南北(1.35)m、推定入口施設を含めると東西3.8m、南北(3.07)m、残存する壁高は最大75㎝。推定入口施設部分は最大43.5㎝。　**重複関係**　１号礎石建物跡と重複する。本遺構が新しい。　**床面**　地山床で推定入口施設は黒色土の硬化面が認められた。　**出土遺物**　土師器（坏・甕）破片、須恵器（甕）破片、酸化焔焼成須恵器（坏）破片、土師質土器（坏）破片、瓦破片、軟質土器破片、陶磁器破片が出土。　**時期**　中世以降と推定される。

⑶　溝跡

１号溝跡（Fig.24、PL.６）

位置　X235、Y220～222グリッド。　**主軸方向**　N―６°―W。　**形状等**　断面はU字形。調査区内での長さ5.1m、最大上幅0.42m、最大下幅0.2m、深さ12㎝。　**重複関係**　１号道路跡と重複する。本遺構が新しい。　**出土遺物**　土師器（坏）破片、須恵器（甕）破片、酸化焔焼成須恵器（坏・椀）破片、土師質土器（坏）破片が出土。　**時期**　覆土の状態から中世と推定される。

２号溝跡（Fig.24、巻頭図版４、PL.６）

位置　X234・235、Y216～219グリッド。　**主軸方向**　N―13°―W。　**形状等**　断面は逆台形を呈するが、東の立ち上がりは明瞭ではなく緩い傾斜で底面へと続く。調査区内での長さ(13.0)m、最大上幅2.8m、最大下幅2.55m、深さ20㎝。覆土は浅間Ｂ軽石を多量に包含する。　**重複関係**　１号礎石建物跡、２号・３号・５号竪穴建物跡、６号溝跡、１号井戸跡と重複する。本遺構が一番新しい。　**出土遺物**　土師質土器（皿・坏）破片主体。須恵器（甕）破片、灰釉陶器小片、白磁破片、鉄製品（不明）が若干出土。　**時期**　古代末と推定される。　**その他**　X235・Y218付近の底面下部で土師質土器の皿が破片・完形ともに多量に出土した。当初、本遺構の範囲内で捉えていたが、別の遺構（１号遺物集中）と考えられる。

３号溝跡（Fig.25、巻頭図版４、PL.７）

位置　X234、Y221・222グリッド。　**主軸方向**　N―７°―W。　**形状等**　明瞭な掘り方はともなわず西へ向かい傾斜するような形態。２号溝跡と同様に覆土に浅間Ｂ軽石を多く見られるが純層に近いと考えられる。調査区内で部分的に検出されているので全体の詳細な規模は不明であるが、長さ6.2m、深さ20㎝の規模で検出されている。　**重複関係**　５号溝跡と重複する。本遺構が新しい。　**出土遺物**　酸化焔焼成須恵器（坏）破片、土師質土器（坏）破片、瓦（平瓦）破片、鉄滓が出土。　**時期**　古代末と推定される。

４号溝跡（Fig.25、巻頭図版４、PL.７）

位置　X234・235、Y220～222グリッド。　**主軸方向**　N―15°―W。　**形状等**　断面は逆台形。調査区内での長さ[11.6]m、最大上幅0.95m、最大下幅0.52m、深さ40㎝。　**重複関係**　１号道路跡と重複する。本遺構が古い。　**出土遺物**　土師器（甕）破片、須恵器少片、酸化焔焼成須恵器（坏）破片、縄文土器（深鉢）破片が出

土。　**時期**　古代。　**その他**　推定上野国府27年度調査38トレンチ１号溝跡と同一の溝跡。

５号溝跡（Fig.25、巻頭図版４、PL.７）

位置　X234、Y221・222グリッド。　**主軸方向**　N―23°―W。　**形状等**　断面は逆台形。調査区内での長さ(6.5)m、最大上幅(1.1)m、最大下幅(0.7)m、深さ(40)㎝。　**重複関係**　３号溝跡、１号道路跡、３号溝跡、と重複する。本遺構が一番古い。　**出土遺物**　土師器（坏・甕）破片、須恵器（甕）破片、酸化焔焼成須恵器（坏）破片、土師質土器（皿）破片、剥片（黒色頁岩）が出土。　**時期**　古代。　**その他**　推定上野国府27年度調査38トレンチ２号溝跡と同一の溝跡。

６号溝跡（Fig.27、PL.７）

位置　X234～237、Y217グリッド。　**主軸方向**　N―90°―E。　**形状等**　断面はU字形。調査区内での長さ(11.0)m、最大上幅(2.3)m、最大下幅(1.4)m、深さ(70)㎝。ただし、調査区東端付近では撹乱や土取りにより検出状態不明瞭。　**重複関係**　３号・５号竪穴建物跡、１号礎石建物跡、２号溝跡、８号・12号・16号・17号土坑、２号・３号ピットと重複する。本遺構は２号溝跡、８号・12号・16号・17号土坑、２号ピットよりも古い。その他に遺構よりも新しい。　**出土遺物**　土師器（坏・甕）破片、須恵器（甕）破片、酸化焔焼成須恵器（坏・椀）破片、土師質土器（皿（ての字状口縁皿含む））破片が出土。なお、本溝中に礎石として使用されていたと推定される石が落としこまれていた。　**時期**　10世紀代に掘削され11世紀代に埋没したと推定される。

７号溝跡（Fig.27、PL.８）

位置　X234、Y314～316グリッド。　**主軸方向**　N―５°―E。　**形状等**　断面は逆台形。調査区内での長さ(5.5)m、最大上幅1.0m以上、最大下幅0.55m以上、深さ55㎝。　**重複関係**　７号竪穴建物跡、２号井戸跡と重複する。本遺構が一番古い。33・34号ピットは本遺構に伴う可能性がある。　**出土遺物**　土師器（坏）破片。須恵器（甕）破片、酸化焔焼成須恵器（坏・椀）破片、土師質土器（皿）破片が出土。　**時期**　10世紀代に掘削され古代（11世紀代？）と推定される。　**その他**　元総社蒼海遺跡群（65）の７号溝跡と同一。南端部は大きく広がる（O―１とした）。

８号溝跡（Fig.25、PL.８）

位置　X233、Y220グリッド。　**主軸方向**　N―２°―W。　**形状等**　拡張トレンチ中で溝跡東端のプランのみ確認したため詳細は不明。規模は大きいものと推定される。蒼海城の縄張図中での「出雲屋敷」の東の堀の一部と推定される。　**重複関係**　11号竪穴建物跡と重複する。本遺構が新しい。　**出土遺物**　なし。　**時期**　中世。

⑷　道路跡

１号道路跡（Fig.26、巻頭図版４）

位置　X234・235、Y219～222グリッド。　**主軸方向**　N―20°―W。　**形状等**　硬化面が帯状に認められたことから道路跡としたもの。側溝は認められない。硬化面の分布は長さ(14.5)m、最大幅4.0m。　**重複関係**　２号・４号竪穴建物跡、４号溝跡、１号・48号ピットと重複する。２号・４号竪穴建物跡よりも古く、４号溝跡、１号・48号ピットよりも新しい。　**出土遺物**　須恵器破片、酸化焔焼成須恵器（坏）破片、土師質土器（皿）が出土。　**時期**　８世紀以後には存在し、推定され10世紀代には廃絶していたと推定される。

２号道路跡（Fig.28、PL.８）

位置　X234・235、Y218・219グリッド。　**主軸方向・形状等**　トレンチ西壁および２号竪穴建物跡東西ベルトで硬化面が確認できたことから道路跡と認定したもの。この硬化面は断面が浅いU字形の溝状の遺構の層中に認められた。西壁での規模は上幅4.1m、深さ60㎝で、この溝状の掘り込みの底面と20～30㎝上部に硬化面が認められた。走行は東西方向（正方位）と推定される。道路跡とするならば「開削凹地型道路」（坂爪　2008）のような遺構か。　**重複関係**　８号竪穴建物跡、44・52・53号ピットと重複する。本遺構が一番新しい。　**出土遺**

物　酸化焔焼成須恵器（坏）破片、土師質土器皿転用品、瓦（平瓦）破片が出土。　**時期**　古代末と推定される。

⑸　遺物集中

１号遺物集中（Fig.24、巻頭図版４、PL.９）

位置　X235、Y217・218グリッド。　**形状等**　東半分が調査区外となっているため全体像は不明であるが、直径約４mの円形を呈して土師質土器の皿と坏が完形品、破片を問わず多量に出土した。令和２年度調査では遺物が分布する範囲を確認し写真を撮影した後にブルーシートをかけてから砂で埋め戻した。　**重複関係**　２号竪穴建物跡、２号溝跡と重複する。２号竪穴建物跡よりも新しく２号溝跡よりも古い。　**出土遺物**　土師質土器（皿・坏）完形及び破片、白色土器椀小片、白磁小片が出土。なお、２号溝跡調査時に検出されたことから、本遺構の遺物の一部は２号溝跡の遺物として扱われている。　**時期**　11世紀代と推定される。

⑹　井戸跡、土坑、ピット

井戸跡が４基、土坑が21基、ピットが53基検出された（Fig.19・25・27～32、PL.８）。各遺構の規模等については計測表（Tab.５）に記載した。

74トレンチ

⑴　竪穴建物跡

１号竪穴建物跡（Fig.32、PL.９）

位置　X243、Y221グリッド。　**主軸方向**　N―90°―E。　**形状等**　遺構の南西隅を検出したものと推定される。その状態から遺構の形状は方形と推定される。検出された遺構の規模は、東西(0.40)m、南北(0.80)m、残存する壁高は最大0.9㎝。　**床面**　弱く薄い貼床。基本層序Ⅴ層（総社砂層への漸移層）に構築されていた。**カマド**　未検出。調査区外に存在すると推定される。　**出土遺物**　土師器（甕）破片、酸化焔焼成須恵器（坏・羽釜）破片、土師質土器（坏・皿）破片、灰釉陶器（椀）破片、黒色土器（椀）破片、砥石、鉄滓が出土。　**時期**　出土遺物から11世紀前半と推定される。

２号竪穴建物跡（Fig.32、PL.９）

位置　X242・243、Y221・222グリッド。　**主軸方向**　N―97°―E。　**形状等**　遺構の西半分のみを検出したものと推定される。遺構の形状は方形。検出された遺構の規模は、東西(2.75)m、南北2.45m、残存する壁高は最大17㎝。　**床面**　基本層序Ⅴ層（総社砂層への漸移層）に構築された地山床。住居プランの南半で硬化面が認められた。また、床面の被熱したスポットが２ヶ所認められた。　**ピット**　８基検出された。各ピットの規模等については計測表（Tab.５）に記載した。　**カマド**　未検出。　**出土遺物**　土師器（甕）破片、須恵器（坏・円面硯）破片、酸化焔焼成須恵器（坏）破片、土師質土器（坏・羽釜）破片、黒色土器（椀）破片、羽口破片、鉄滓が出土。ピットから土師器（坏・甕）破片、酸化焔焼成須恵器（坏・羽釜）破片が出土。　**重複関係**　５号・８号竪穴建物跡と重複する。本遺構が一番新しい。　**時期**　出土遺物から11世紀前半と推定される。

３号竪穴建物跡（Fig.33、PL.10）

位置　X242、Y212グリッド。　**主軸方向**　N―79°―E。　**形状等**　方形。遺構の南東隅およびカマド南半分を検出。検出された遺構の規模は、東西(0.95)m、南北(1.90)m、残存する壁高は最大41.5㎝。　**床面**　基本層序Ⅴ層（総社砂層への漸移層）に構築された貼床。硬化は弱い。　**ピット**　１基検出された。その規模等については計測表（Tab.５）に記載した。　**カマド**　東壁中央付近と考えられる位置でカマドが検出された。カマドの主軸方向はN―75°―E。その規模は全長(80)㎝、最大幅(60)㎝を測る。焚口付近に構築材と考えられる凝灰質砂岩に似たブロックが認められた。　**出土遺物**　土師器（坏・甕）破片、須恵器（甕）破片、酸化焔焼成須恵器（坏・椀）破片、土師質土器（坏）破片が出土。ピットから土師器坏が出土。　**重複関係**　４号竪穴建物跡と重複する。丁度、その重複している間に14号ピットが存在するため明瞭な重複関係が把握できないが、本遺構

が新しいと推定される。　**時期**　遺構の構造や出土遺物から６世紀後半と推定される。

４号竪穴建物跡（Fig.33、PL.10）

位置　X242、Y221・222グリッド。　**主軸方向**　N―75°―E。　**形状等**　方形。遺構の南東隅を検出。検出された住居の規模は、東西(0.70)m、南北(1.90)m、残存する壁高は最大30cm。　**床面**　地山床。構築された面は基本層序Ⅴ層（総社砂層への漸移層）。床の硬化は弱い。　**カマド**　東壁中央付近の床面で焼土の集中が検出されたのみで、カマド本体は検出できなかった。　**出土遺物**　土師器（坏・甕）破片、酸化焔焼成須恵器（坏）破片、瓦（平瓦）破片が出土。　**重複関係**　３号・６号竪穴建物跡と重複する。３号竪穴建物跡との新旧関係は、丁度、その重複している間に14号ピットが存在するため明瞭な重複関係が把握できないが、本遺構が古いと推定される。６号竪穴建物跡との新旧関係についても本遺構が古いと考えられる。　**時期**　出土遺物から６世紀後半と推定される。

５号竪穴建物跡（Fig.33、PL.10）

位置　X242、Y222・223グリッド。　**主軸方向**　N―90°―E。　**形状等**　方形。検出された遺構の規模は、東西(2.30)m、南北(3.50)m、残存する壁高は最大３cm。　**床面**　基本層序Ⅴ層（総社砂層への漸移層）に構築された地山床。硬化は弱い。　**カマド**　東壁に構築されていた。カマドの主軸方向はN―90°―E。その規模は全長70cm、最大幅90cmを測る。焚口前面に灰の分布が認められた。　**出土遺物**　土師器（坏・甕）破片、須恵器（蓋）、酸化焔焼成須恵器（坏・椀・甕・羽釜）破片、土師質土器（坏）破片、鉄製品（刀子？）が出土。　**重複関係**　２号・６号・７号・９号竪穴建物跡、１号井戸跡と重複する。本遺構は７号・９号竪穴建物跡よりも新しく、２号・６号竪穴建物跡、１号井戸跡よりも古い。　**時期**　出土遺物から10世紀後半と推定される。

６号竪穴建物跡（Fig.33、PL.10）

位置　X242、Y222グリッド。　**主軸方向**　N―82°―E。　**形状等**　方形。カマド付近のみ比較的明瞭に確認できたが、４号竪穴建物跡と重複する範囲は明瞭に確認できず、範囲確認は土層確認で行った。検出された遺構の規模は、東西(0.55)m、南北[4.00]m、残存する壁高は最大７cm。　**床面**　基本層序Ⅴ層（総社砂層への漸移層）に構築された地山床。硬化は弱い。　**カマド**　東壁に構築されていた。カマドの主軸方向はN―87°―E。その規模は全長[110]cm、最大幅65cmを測る。　**出土遺物**　土師器（坏・甕）破片、須恵器（蓋・椀・甕）破片、酸化焔焼成須恵器（坏・椀・羽釜）破片、黒色土器（椀）破片、土師質土器（坏）破片、瓦（平瓦）破片が出土。　**重複関係**　４号・５号竪穴建物跡、１号井戸跡と重複する。４号・５号竪穴建物跡よりも本遺構が新しい。１号井戸跡よりも古い。　**時期**　出土遺物から11世紀前半と推定される。

７号竪穴建物跡（Fig.33、PL.10）

位置　X242・243、Y223グリッド。　**主軸方向**　N―90°―E。　**形状等**　方形。北壁を検出。検出された遺構の規模は、東西(4.00)m、南北(1.10)m、残存する壁高は最大25cm。　**ピット**　３基のピットを調査したが、形状が柱穴として検出されるピットと異なることから、床下土坑と考えられる。　**壁周溝**　北壁に沿って部分的に壁周溝状の遺構が認められた。最大上幅15cm、同下幅10cm、深さ４cmを測る。　**床面**　貼床。ただし硬化は弱い。基本層序Ⅵ層（総社砂層）に構築されている。　**カマド**　未検出。調査区外に存在すると推定される。　**出土遺物**　土師器（坏・甕）破片、須恵器（蓋・甕）破片、酸化焔焼成須恵器（坏）破片が出土。　**重複関係**　５号・８号・９号竪穴建物跡、１号井戸跡と重複する。９号竪穴建物跡よりも本遺構のほうが新しい。５号・８号竪穴建物跡、１号井戸跡よりも本遺構は古い。　**時期**　出土遺物から７世紀後半と推定される。

８号竪穴建物跡（Fig.32、PL.10）

位置　X243、Y222・223グリッド。　**主軸方向**　N―17°―E。　**形状等**　方形。西壁のみ検出。なお、南半分の７号竪穴建物跡と重複する範囲は明瞭に確認できず、範囲確認は土層観察で行った。検出された遺構の規模は、東西(0.90)m、南北(3.15)m、残存する壁高は最大18cm。　**床面**　基本層序Ⅴ層（総社砂層への漸移層）に

構築された浅い掘り形をもつ貼床。一部で硬化が認められた。　**カマド**　未検出。調査区外に存在と推定。　**出土遺物**　土師器（坏・甕）破片、酸化焔焼成須恵器（坏・椀）破片が出土。　**重複関係**　２号・７号竪穴建物跡と重複する。２号竪穴建物跡とは本遺構が古い。７号竪穴建物跡とは本遺構が新しい。　**時期**　出土遺物から11世紀前半と推定される。

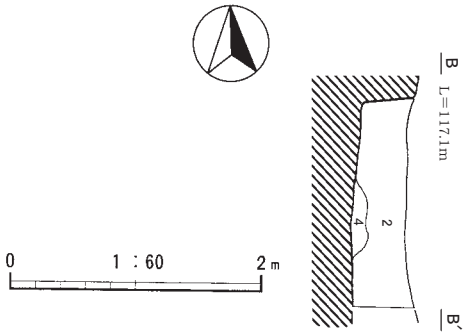
９号竪穴建物跡（Fig.33、PL.10）

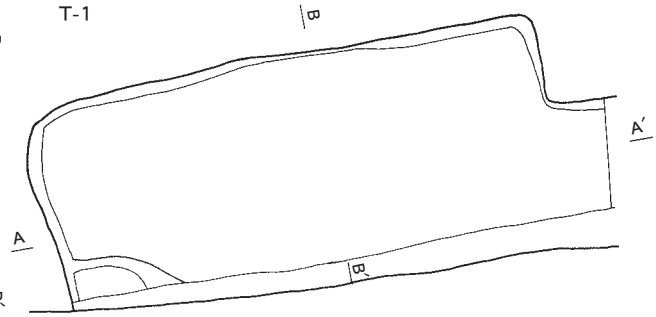
位置　X242、Y223グリッド。　**主軸方向**　N―109°―E。　**形状等**　方形。遺構の北西隅を検出した。検出された遺構の規模は、東西(1.40)m、南北(0.55)m、残存する壁高は最大21㎝。　**床面**　基本層序Ⅴ層（総社砂層への漸移層）に構築された地山床。硬化は認められなかった。　**カマド**　未検出。　**出土遺物**　土師器（坏・甕）破片、酸化焔焼成須恵器（坏）破片が出土。　**重複関係**　７号竪穴建物跡、１号井戸跡と重複する。本遺構が一番古い。　**時期**　６世紀代と推定される。

⑵　井戸跡、土坑、ピット

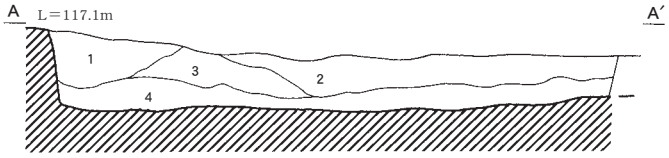
井戸跡が１基、ピットが15基検出された（Fig.33・34）。各遺構の規模等については計測表（Tab.５）に記載した。

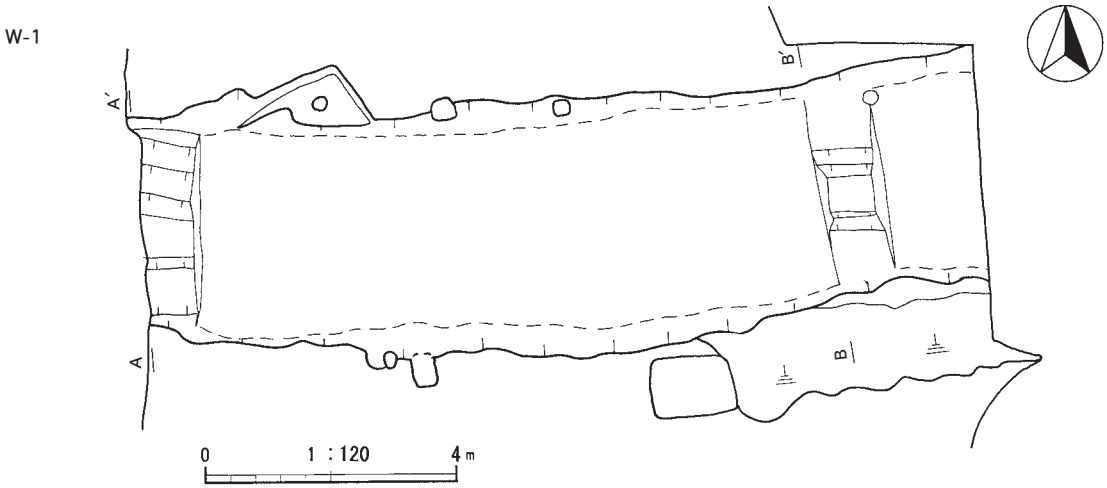
69トレンチ

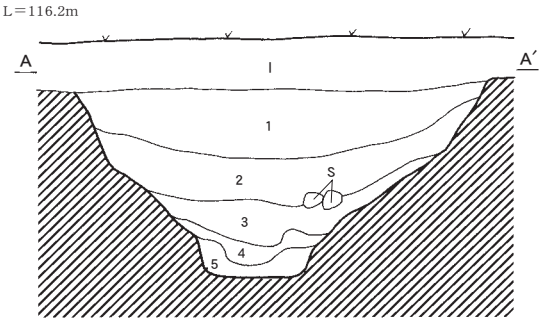


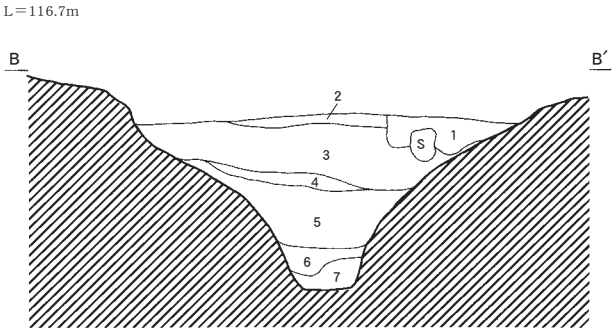


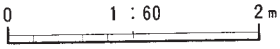
69トレンチ　１号竪穴状遺構層序説明
1　黒　　As-B 多量。
2　黒褐　As-B・As-C・砂層ブロック（φ10～20㎜）少量。
3　黒褐　As-B・As-C・砂層ブロック（φ10～30㎜）多量。
4　黒褐　As-B 少量。As-C・砂層ブロック（φ10㎜程度）極少量。







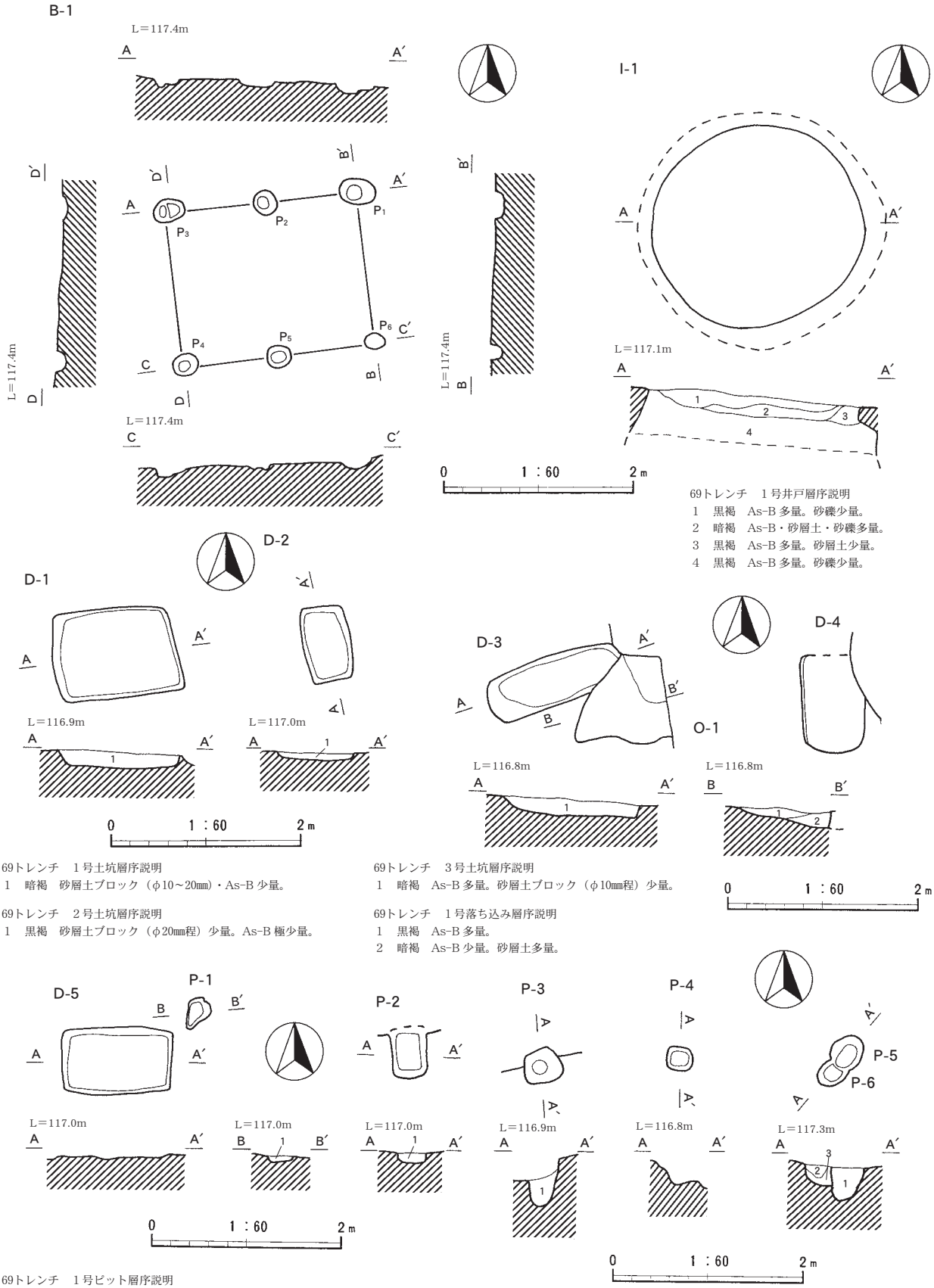




69トレンチ　１号溝跡西サブトレンチ層序説明
Ⅰ　　表土
1　にぶい黄褐　砂層土ブロック（φ10～100㎜）・礫多量。As-B 少量。
2　暗褐　　As-B 多量。砂層土ブロック（φ10～20㎜）・As-C 少量。
3　黒褐　　As-B 多量。砂層土ブロック（φ10㎜程）若干。砂質。
4　黒褐　　As-B・砂礫少量。砂質。
5　灰黄褐　　砂層土主体。As-B・砂礫少量。

69トレンチ　１号溝跡東サブトレンチ層序説明
1　暗褐　　As-B 多量。砂礫少量。
2　暗褐　　砂層土・砂層土ブロック（φ10～30㎜）多量。
3　黒褐　　As-B 多量。砂礫少量。
4　黒　　As-B・細かい砂層土多量。
5　黒褐　　As-B 多量。砂礫少量。下部はやや砂層。
6　砂礫層　砂礫層。握拳大の礫を含む。
7　黒褐　　砂礫多量。

Fig. 12　69トレンチ各遺構(1)



69トレンチ　1号井戸層序説明
1　黒褐　As-B 多量。砂礫少量。
2　暗褐　As-B・砂層土・砂礫多量。
3　黒褐　As-B 多量。砂層土少量。
4　黒褐　As-B 多量。砂礫少量。

69トレンチ　1号土坑層序説明
1　暗褐　砂層土ブロック（φ10～20㎜）・As-B 少量。

69トレンチ　2号土坑層序説明
1　黒褐　砂層土ブロック（φ20㎜程）少量。As-B 極少量。

69トレンチ　3号土坑層序説明
1　暗褐　As-B 多量。砂層土ブロック（φ10㎜程）少量。

69トレンチ　1号落ち込み層序説明
1　黒褐　As-B 多量。
2　暗褐　As-B 少量。砂層土多量。

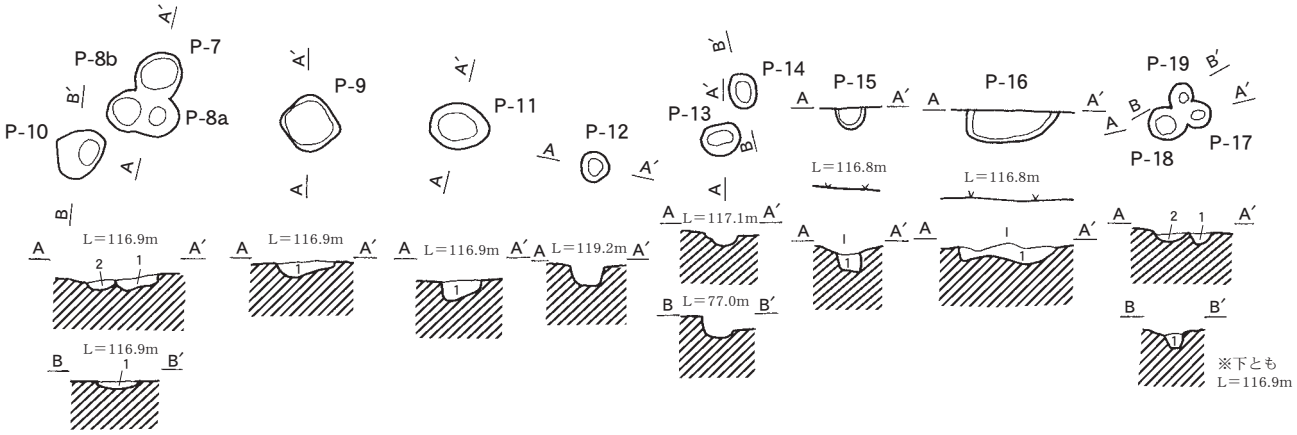
69トレンチ　1号ピット層序説明
1　暗褐　As-B 少量。砂層土ブロック（φ10㎜程）極少量。

69トレンチ　2号ピット層序説明
1　暗褐　As-B・砂層土ブロック（φ20㎜程）極少量。

69トレンチ　3号ピット層序説明
1　暗褐　砂質。As-B 極少量。砂層土ブロック（φ20㎜程）若干。

69トレンチ　5号・6号ピット層序説明
1　黒褐　砂層土多量。As-B 少量。（5号ピット覆土）
2　黒褐　砂層土多量。As-B 少量。（6号ピット覆土）
3　黄褐　砂層土主体。地山か？（6号ピット覆土）

Fig. 13　69トレンチ各遺構(2)



69トレンチ　７号・８ａ号ピット層序説明
1　暗褐　As-B 多量。砂層土ブロック（φ10㎜程度）極少量。砂層土若干。（７号ピット覆土）
2　暗褐　As-B 多量。砂層土ブロック（φ10㎜程度）極少量。砂層土若干。（８ａ号ピット覆土）

69トレンチ　10号ピット層序説明
1　暗褐　砂層土多量。砂層土ブロック（φ10㎜程）少量。As-B 極少量。

69トレンチ　９号ピット層序説明
1　暗褐　砂層土多量。As-B 少量。

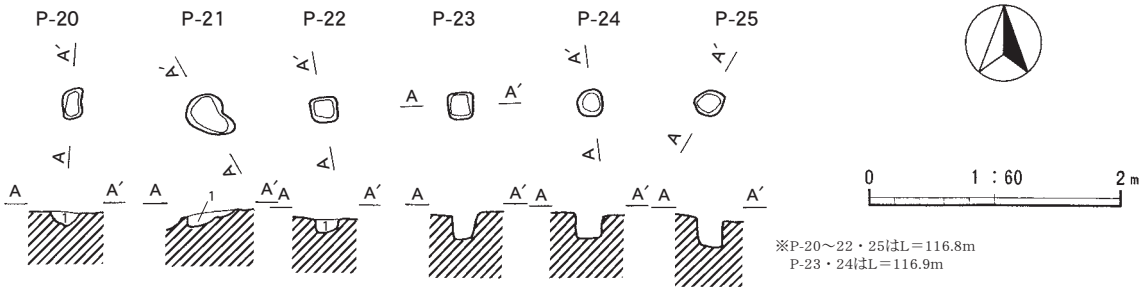
69トレンチ　11号ピット層序説明
1　暗褐　砂層土多量。As-B 少量。

69トレンチ　15号ピット層序説明
Ⅰ　表土
1　暗褐　砂層土多量。As-B 少量。

69トレンチ　16号ピット層序説明
Ⅰ　表土
1　土層注記漏れ

69トレンチ　17号・18号ピット層序説明
1　暗褐　As-B 多量。砂層土少量。（17号ピット覆土）
2　暗褐　As-B 多量。砂層土少量。（18号ピット覆土）

69トレンチ　19号ピット層序説明
1　暗褐　砂質。As-B 少量。



69トレンチ　20号ピット層序説明
1　暗褐　砂層土多量。As-B 少量。砂層土ブロック（φ10㎜程）極少量。

69トレンチ　21号ピット層序説明
1　黒褐　As-B 多量。砂層土ブロック（φ10㎜程）少量。砂層土若干。

69トレンチ　22号ピット層序説明
1　暗褐　砂層土多量。As-B 少量。

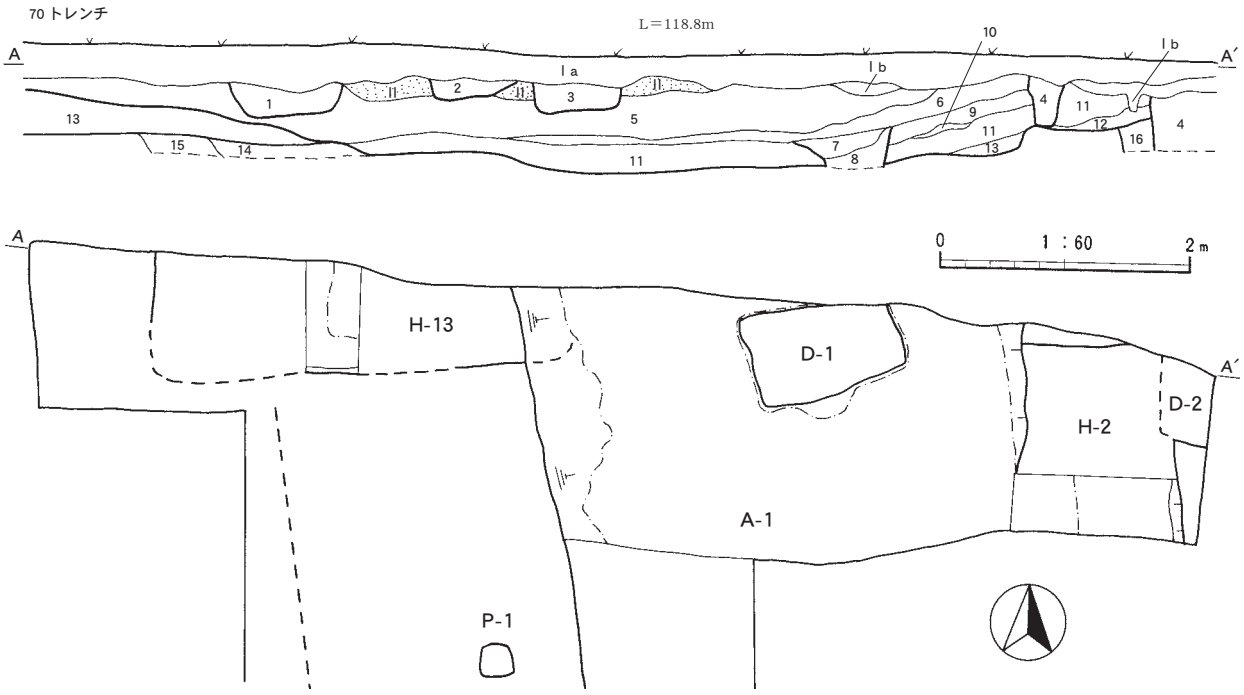
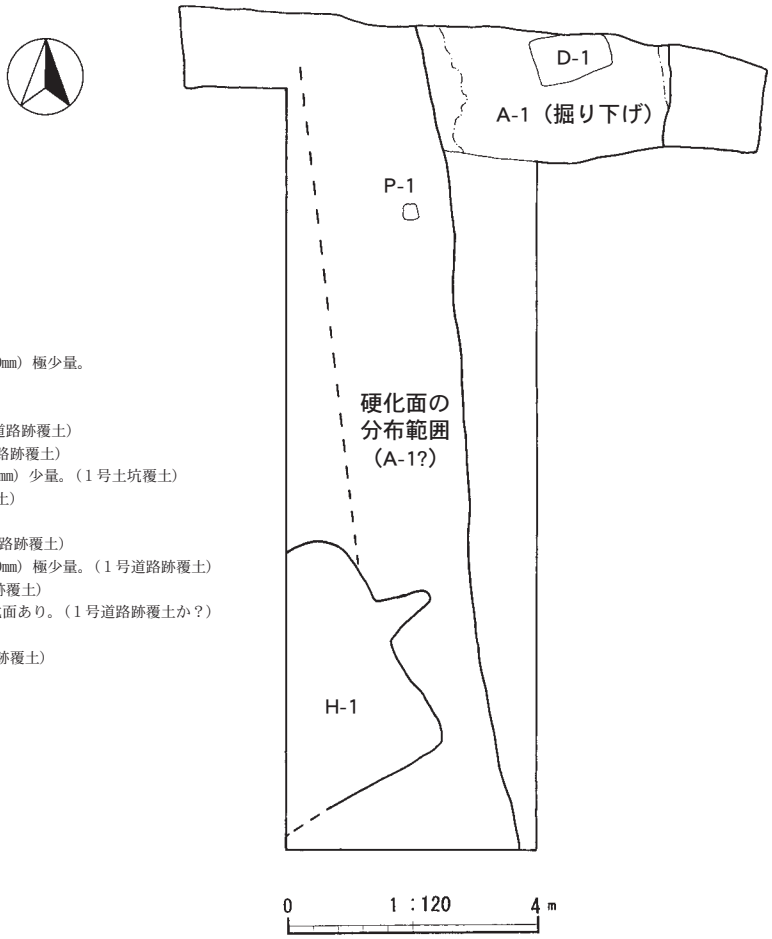


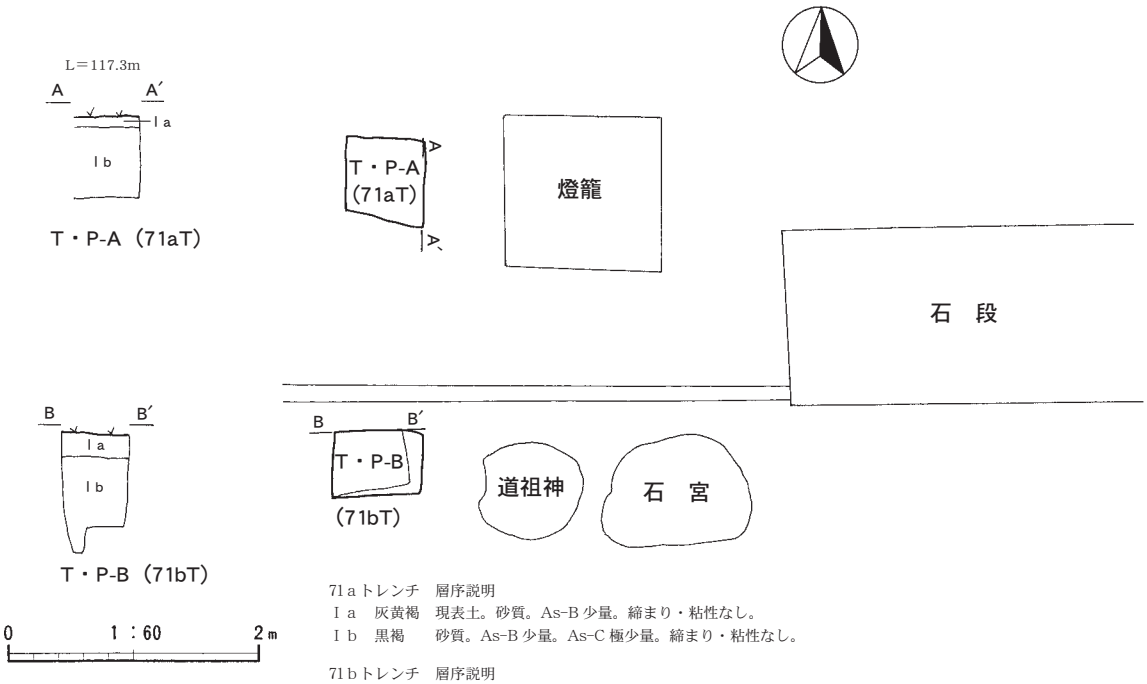
Fig. 14　69トレンチ各遺構(3)・70トレンチ各遺構(1)



70トレンチ　北壁層序説明

Ⅰa		現表土
Ⅰb		As-B 混入土層
Ⅱ		As-B 純層
1	黒褐	As-B 多量。
2	灰黄褐	As-B 多量。砂層土ブロック（φ10～20㎜）極少量。
3	黒褐	As-B 多量。
4	黒褐	As-B 多量。
5	黒	炭化物多量。As-C・砂礫少量。（1号道路跡覆土）
6	暗褐	As-C 少量。締まりややあり。（1号道路跡覆土）
7	黒褐	As-C・シルト質土ブロック（φ10～20㎜）少量。（1号土坑覆土）
8	黒褐	As-C 少量。炭化物若干。（1号土坑覆土）
9	黒褐	As-C 少量。（1号道路跡覆土）
10	にぶい黄褐	シルト質土主体。締まり強い。（1号道路跡覆土）
11	黒褐	As-C 多量。砂層土ブロック（φ10～30㎜）極少量。（1号道路跡覆土）
12	黒褐	As-C・細かい砂層土少量。（1号道路跡覆土）
13	黒褐	As-C 少量。炭化物極少量。下位に硬化面あり。（1号道路跡覆土か？）
14	黒褐	As-C 少量。（3号住居跡覆土）
15	黒褐	As-C 少量。炭化物極少量。（3号住居跡覆土）
16	黒褐	As-C 多量。（2号住居跡覆土）

71a・71bトレンチ（テストピット）



71aトレンチ　層序説明

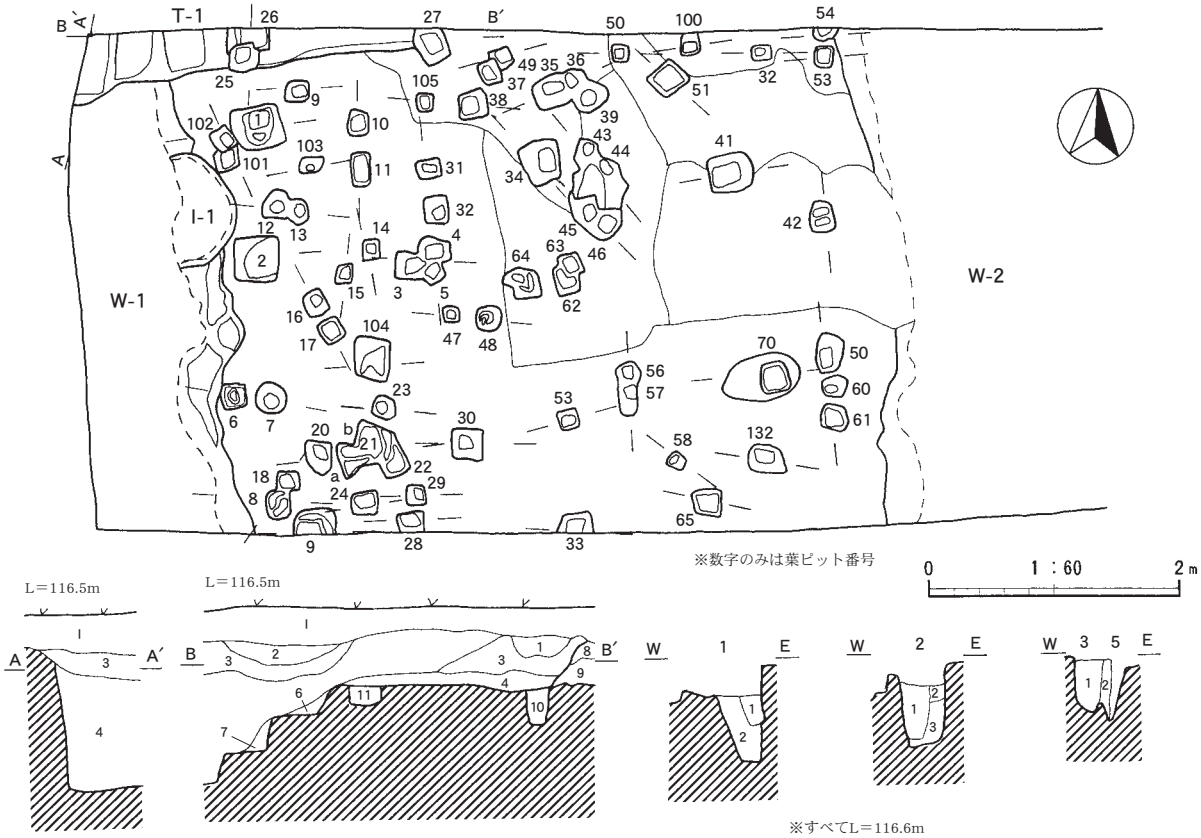
Ⅰa	灰黄褐	現表土。砂質。As-B 少量。締まり・粘性なし。
Ⅰb	黒褐	砂質。As-B 少量。As-C 極少量。締まり・粘性なし。

71bトレンチ　層序説明

Ⅰa	灰黄褐	現表土。玉石含む。締まり・粘性なし。
Ⅰb	黒褐	旧表土。砂質。As-B 少量。締まり・粘性なし。

Fig. 15　70トレンチ各遺構(2)・71テストピット

72トレンチ



72トレンチ　１号竪穴状遺構層序説明

Ⅰ		表土
1	褐灰	炭化物・砂層土ブロック（φ10～30㎜）極少量。
2	灰黄褐	シルト質土主体。灰若干。
3	褐灰	砂層土ブロック（φ10～50㎜）極少量。炭化物若干。
4	褐灰	砂層土ブロック（φ10～30㎜）多量。炭化物極少量。
5	褐灰	砂層土ブロック（φ10～50㎜）少量。炭化物極少量。
6	褐灰	砂層土ブロック（φ10㎜）少量。炭化物極少量。
7	褐灰	砂質。
8	褐灰	砂層土ブロック（φ10～30㎜）多量。
9	暗褐	砂層土ブロック（φ10～30㎜）少量。炭化物若干。
10	にぶい黄褐	細かい砂層土主体。
11	暗褐	砂質。砂礫少量。

72トレンチ　１号ピット層序説明

1	にぶい黄褐	砂層土ブロック（φ10～30㎜）多量。As-B 少量。締まり強い。
2	黒褐	細粒。砂質。As-B 少量。

72トレンチ　２号ピット層序説明

1	灰黄褐	細粒。砂質。砂層土ブロック（φ10～50㎜程）多量。As-B 極少量。
2	灰黄褐	細粒。砂質。砂層土ブロック（φ10㎜程）多量。As-B 極少量。
3	灰褐	細粒。砂質。As-B 極少量。

72トレンチ　３号・５号ピット層序説明

1	灰黄褐	細粒。砂質。砂層土ブロック（φ10㎜程）多量。As-B 少量。締まりややあり。（３号ピット覆土）
2	灰黄褐	細粒。砂質。砂層土ブロック（φ10～20㎜）多量。As-B 少量。締まりややあり。（５号ピット覆土）

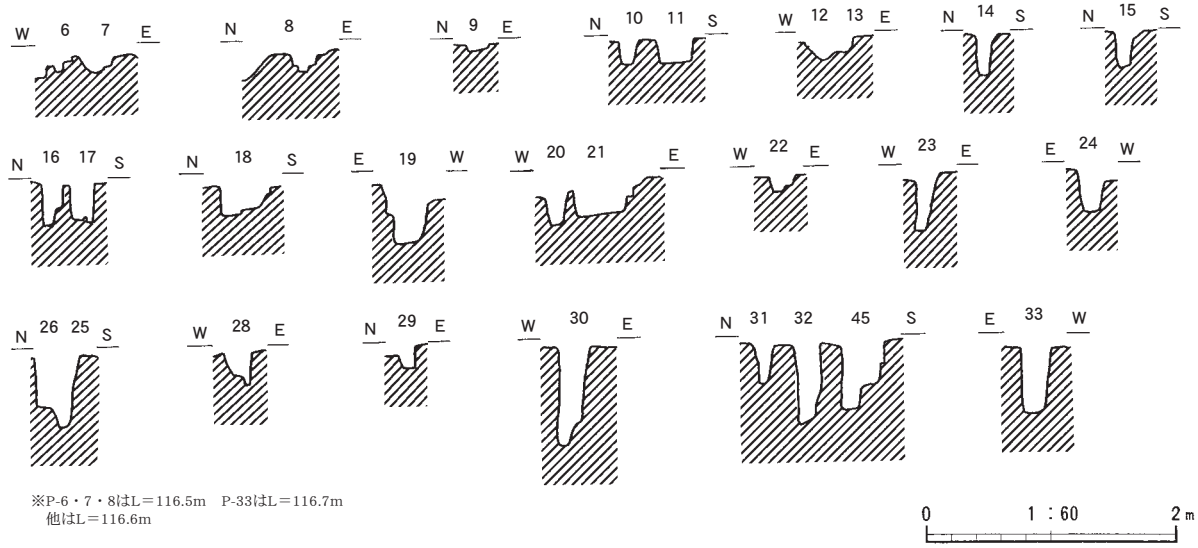
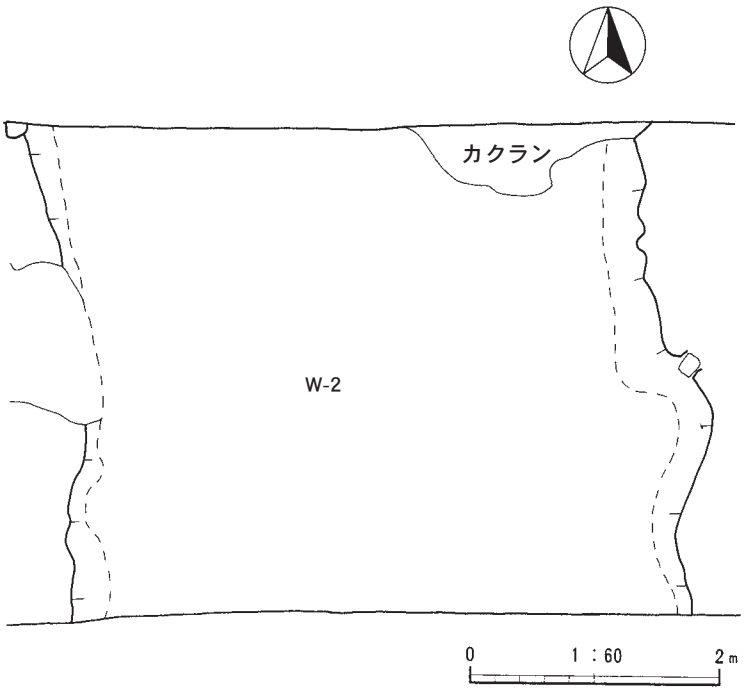
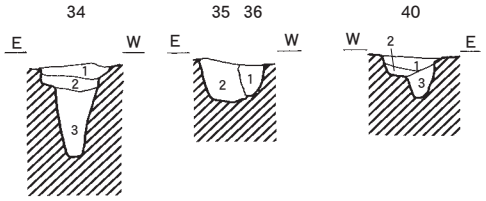


Fig. 16　72トレンチ各遺構(1)

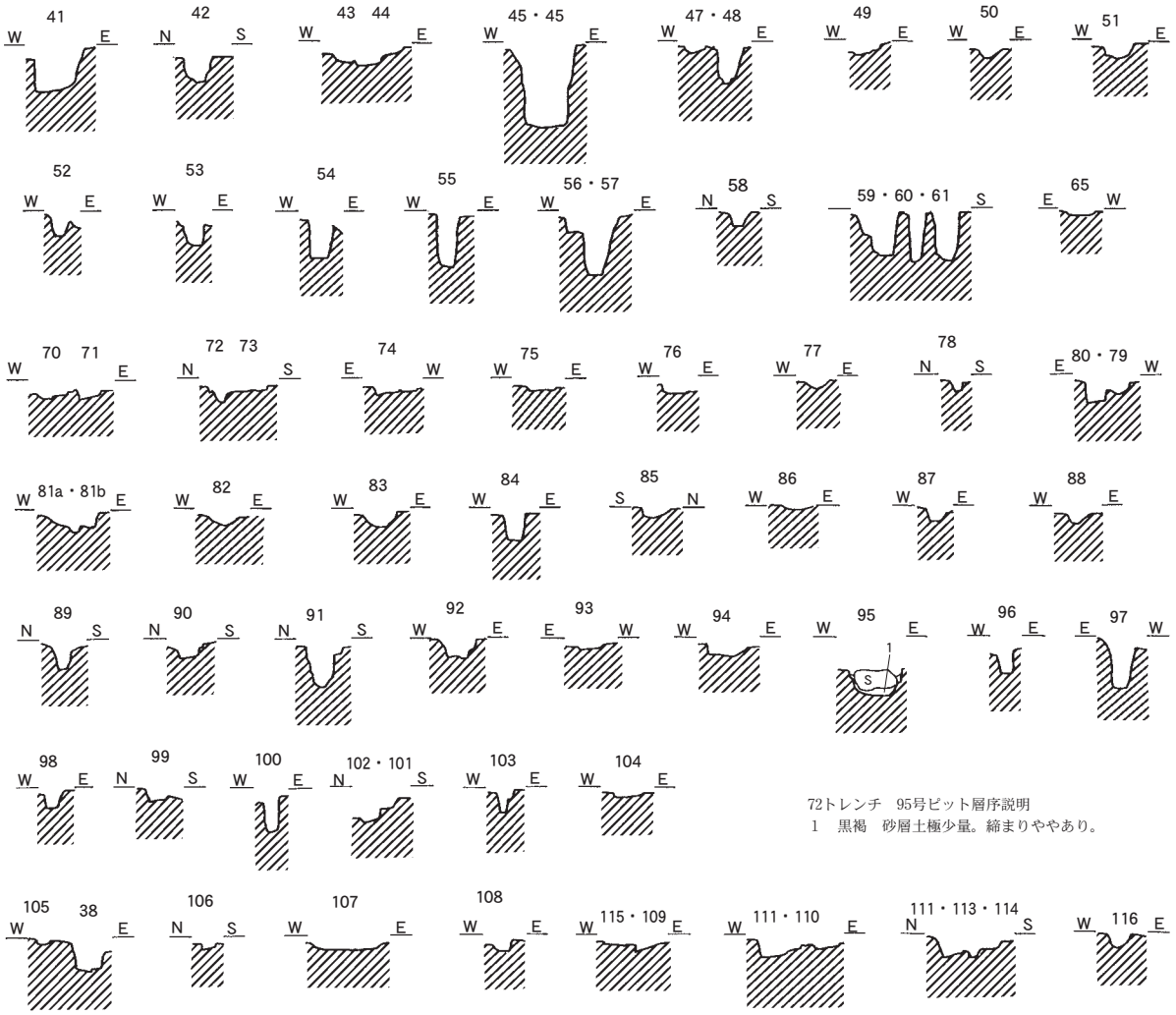




72トレンチ　34号ピット層序説明
1　黒褐　砂層土ブロック（φ30㎜程）・As-B・焼土少量。締まりややあり。
2　黒褐　砂層土・As-B 少量。
3　黒褐　砂層土ブロック（φ10～30㎜）・As-B 少量。

72トレンチ　35号・36号ピット層序説明
1　灰黄褐　砂質。砂層土ブロック（φ10～30㎜）多量。As-B 少量。（36号ピット覆土）
2　黒褐　砂質。砂層土ブロック（φ20～30㎜）少量。炭化物極少量。（35号ピット覆土）

72トレンチ　40号ピット層序説明
1　灰黄褐　砂質。砂層土ブロック（φ10㎜程）少量。締まり強い。
2　黒褐　砂質。締まり強い。
3　にぶい黄褐　砂層土ブロック（φ10㎜程）少量。締まりややあり。

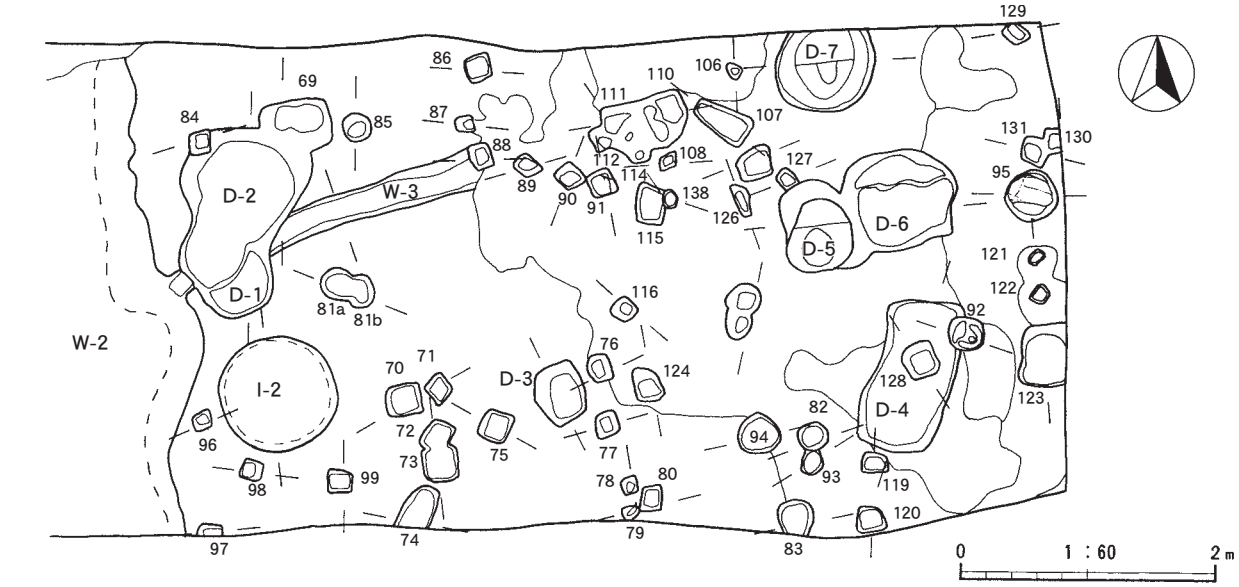


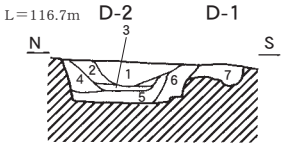
72トレンチ　95号ピット層序説明
1　黒褐　砂層土極少量。締まりややあり。

P-95はＬ＝116.0m。P-41・42はＬ＝116.3m。P-43～46・49～51はＬ＝116.4
P-52～54・105・38はＬ＝116.5m。P-55～61・65・96～98・100・101・103・104はＬ＝116.6m。
P-70・71・81ａ・81ｂ・84～92・99・106・108～111・113～116はＬ＝116.7m。
P-72～80・82・83・93・94はＬ＝116.8m。P-107はＬ＝116.9m。

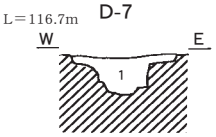
0　1：60　2m

Fig. 17　72トレンチ各遺構(2)

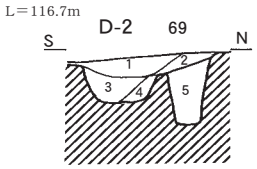




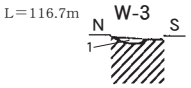
72トレンチ　１号・２号土坑層序説明
1　黒褐　　砂層土ブロック（φ10～30mm）少量。締まり強い。（２号土坑覆土）
2　黒褐　　As-B・炭化物極少量。砂層土若干。締まり強い。（２号土坑覆土）
3　灰黄褐　シルト質。（２号土坑覆土）
4　黒褐　　（２号土坑覆土）
5　黒　　砂質。（２号土坑覆土）
6　黒褐　　砂層土ブロック（φ10～20mm）少量。（２号土坑覆土）
7　黒褐　　砂層土ブロック（φ10mm程）・炭化物少量。（１号土坑覆土）



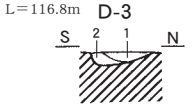
72トレンチ　７号土坑層序説明
1　黒褐　焼土ブロック少量。



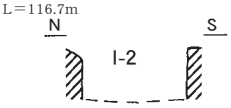
72トレンチ　２号土坑・69号ピット層序説明
1　黒褐　砂層土ブロック（φ10～30mm）少量。締まり強い。（２号土坑覆土）
2　暗褐　砂層土ブロック（φ10mm程）極少量。締まりややあり。（２号土坑覆土）
3　黒褐　砂質。砂層土ブロック（φ10～20mm程）少量。（２号土坑覆土）
4　暗褐　砂質。（２号土坑覆土）
5　黒褐　砂層土若干。締まりややあり。(69号ピット覆土)

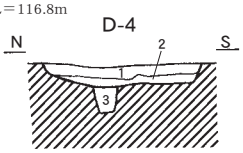


72トレンチ　３号溝跡層序説明
1　黒褐　砂層土極少量。

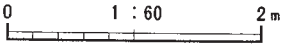


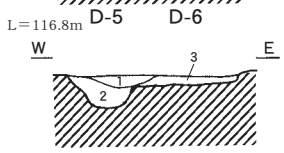
72トレンチ　３号土坑層序説明
1　灰黄褐　砂層土ブロック（φ10～20mm）多量。焼土ブロック若干。締まり強い。
2　褐　　砂層土ブロック（φ10～100mm）多量。締まり強い。



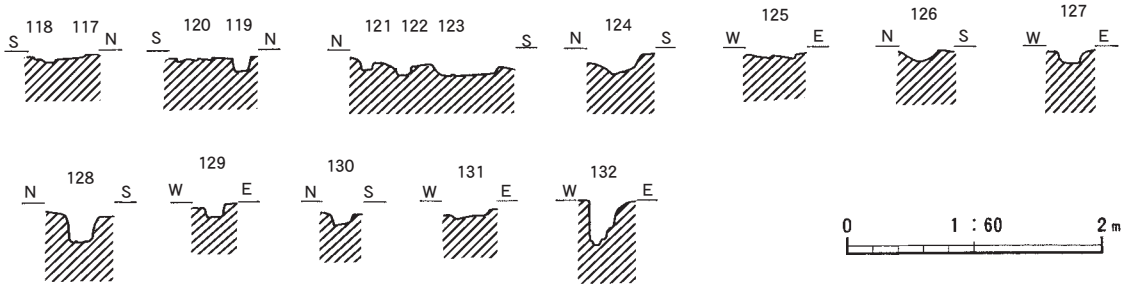


72トレンチ　４号土坑層序説明
1　黒褐　砂層土ブロック（φ20mm程）・炭化物少量。
2　黒褐　砂層土ブロック（φ10～40mm）多量。締まりややあり。
3　黒褐　砂質。砂層土ブロック（φ50mm程）





72トレンチ　５号・６号土坑層序説明
1　灰黄褐　砂層土ブロック（φ10～30mm）極少量。（５号土坑覆土）
2　黒褐　　砂層土ブロック（φ10～50mm）多量。締まりややあり。（５号土坑覆土）
3　暗褐　　砂層土ブロック（φ10mm程）極少量。砂層土若干。（６号土坑覆土）



※121・122・124・130・131はＬ＝116.8m　128・132はＬ＝116.6m
他はＬ＝116.7m

Fig. 18　72トレンチ各遺構(3)

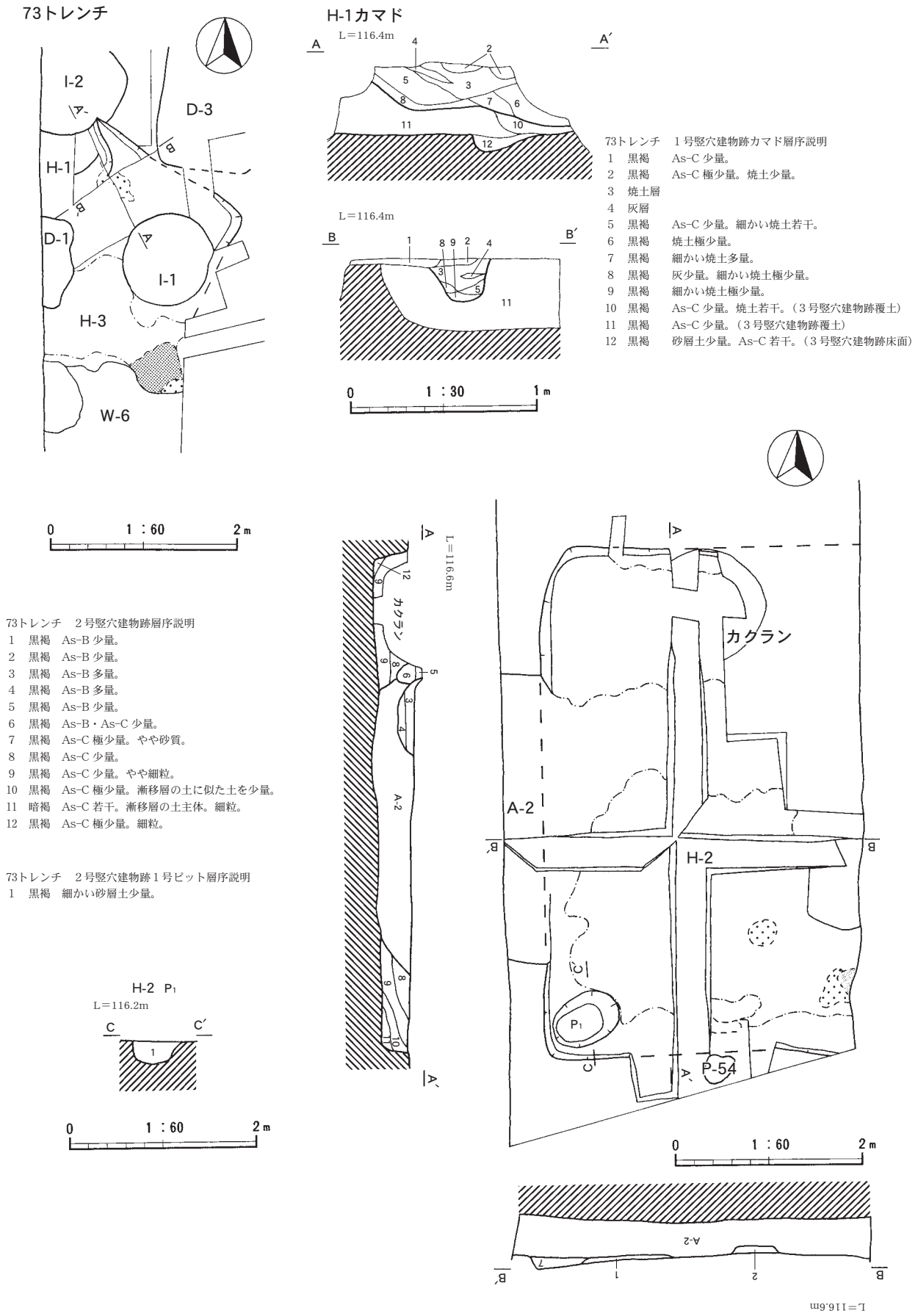
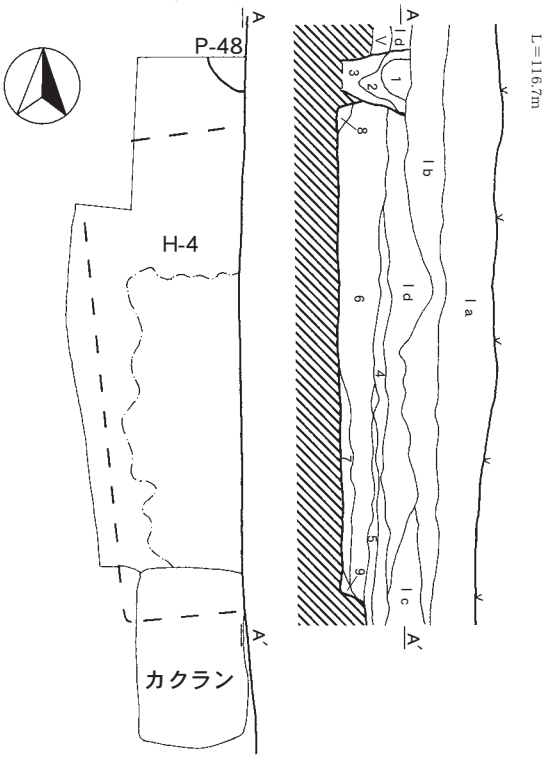


Fig. 19　73トレンチ各遺構(1)

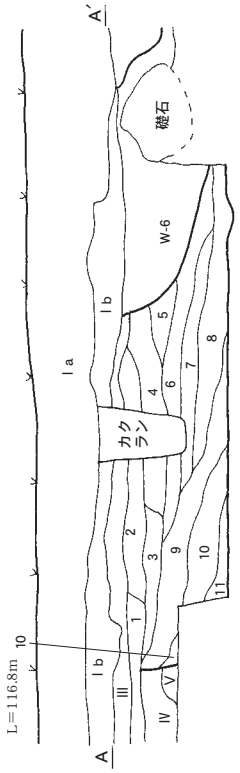


73トレンチ　４号竪穴建物跡層序説明

Ⅰａ		現表土
Ⅰｂ		旧表土。As-B 多量
Ⅰｃ		As-B 混入土層
Ⅰｄ		As-B 混入土層
Ⅴ		総社砂層への漸移層
1	灰黄褐	シルト質土主体。As-B 少量。（５号井戸跡覆土：Ｒ３年度調査）
2	黒褐	As-B 少量。（５号井戸跡覆土：Ｒ３年度調査）
3	黒褐	As-B・As-C 少量。締まり強い。（５号井戸跡覆土：Ｒ３年度調査）
4	黒褐	As-B・As-C 極少量。
5	黒褐	As-C 極少量。
6	黒褐	As-C 多量。砂層土ブロック若干。
7	黒褐	As-C 少量。
8	黒褐	As-C 少量。
9	黒褐	As-C 少量。

73トレンチ　５号竪穴建物跡層序説明

Ⅰａ		現表土
Ⅰｂ		As-B 混入土
Ⅲ	黒褐	As-C 少量。細かい砂層土極少量。
Ⅳ		As-C 混入黒色土層
Ⅴ		総社砂層への漸移層
1	暗褐	As-C 少量。
2	黒褐	As-C 少量。
3	黒褐	As-C 少量。砂層土ブロック（φ10㎜）極少量。
4	黒褐	As-C・砂層土ブロック（φ10～20㎜）少量。
5	黒褐	As-C 少量。砂層土ブロック（φ10～20㎜）極少量。
6	黒褐	砂層土ブロック（φ10～20㎜）多量。As-C 少量。
7	黒	砂層土ブロック（φ10～20㎜）多量。As-C 少量。
8	黒褐	砂層土ブロック（φ10～30㎜）多量。As-C 少量。
9	黒	砂層土ブロック（φ10～30㎜）多量。As-C 少量。
10	黒褐	砂層土ブロック（φ10～30㎜）多量。As-C 少量。
11	黒褐	As-C・砂層土ブロック（φ20㎜）極少量。



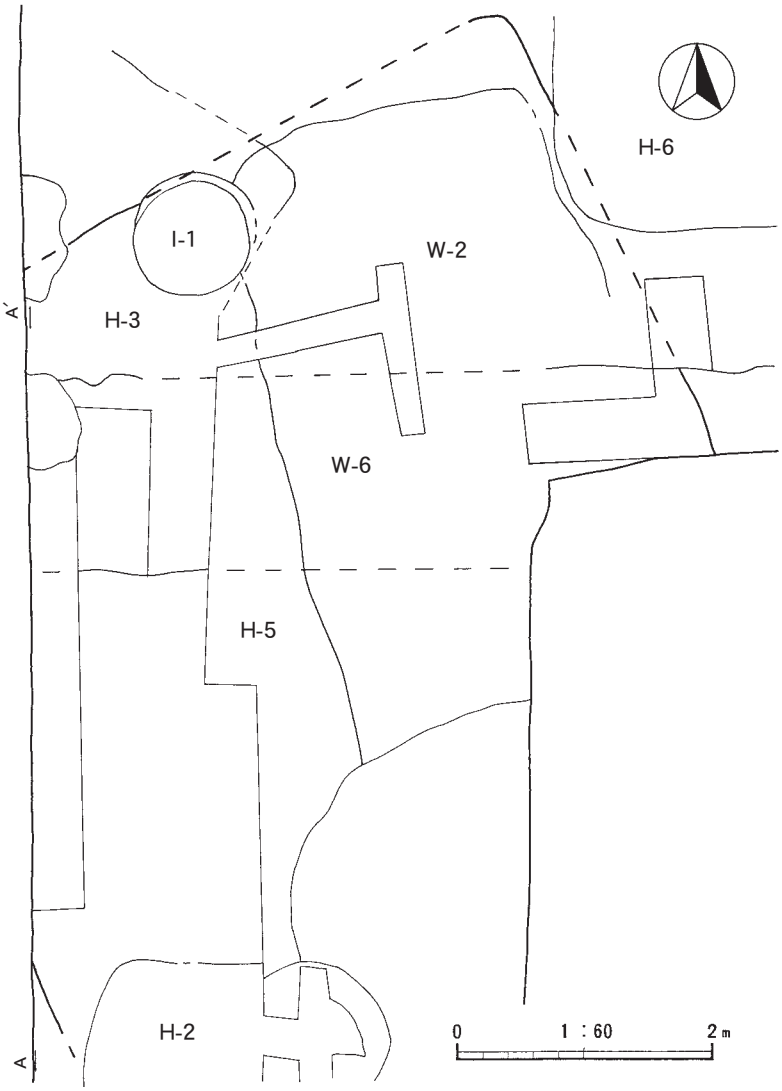
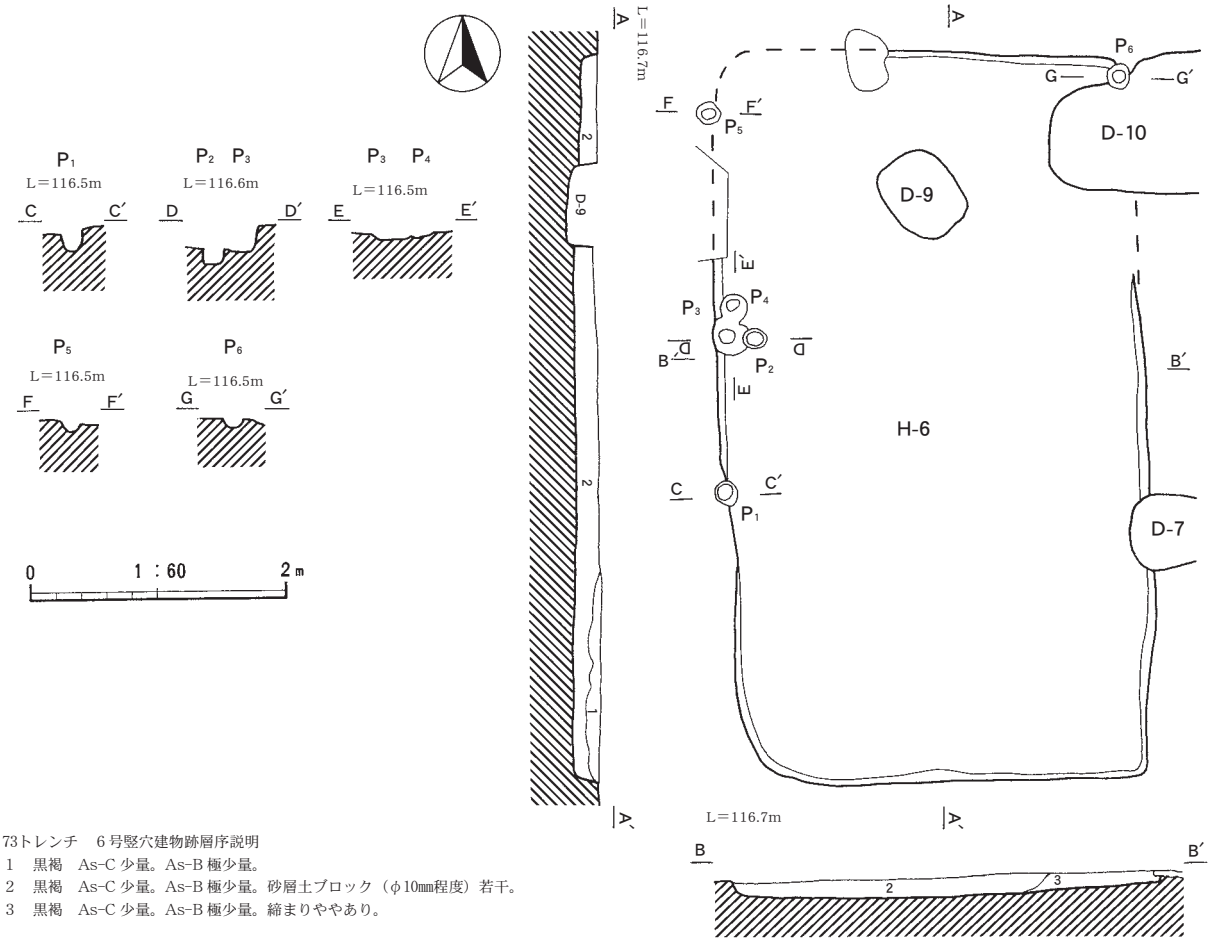
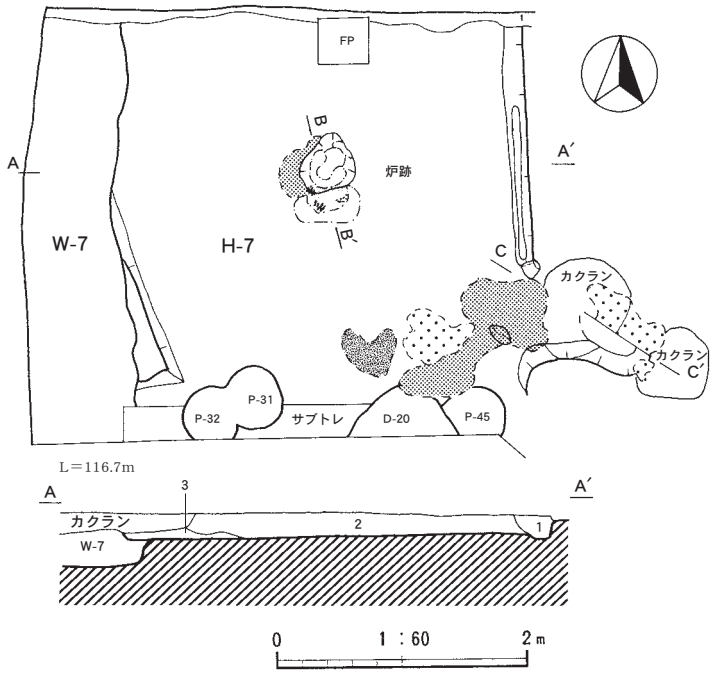


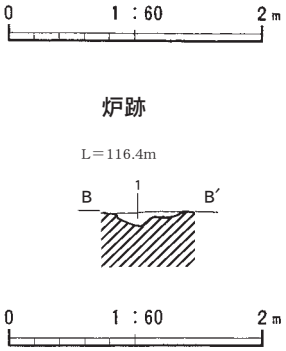
Fig. 20　73トレンチ各遺構(2)



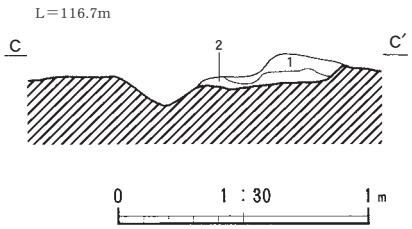
73トレンチ　6号竪穴建物跡層序説明
1　黒褐　As-C 少量。As-B 極少量。
2　黒褐　As-C 少量。As-B 極少量。砂層土ブロック（φ10㎜程度）若干。
3　黒褐　As-C 少量。As-B 極少量。締まりややあり。



73トレンチ　7号竪穴建物跡層序説明
1　黒褐　As-C 少量。砂質。
2　黒褐　As-C 多量。砂層土ブロック（φ10～20㎜）極少量。
3　黒　　As-C 少量。



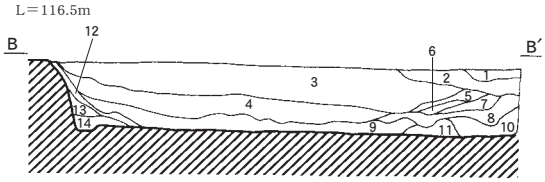
73トレンチ　7号竪穴建物跡炉跡層序説明
1　暗褐　As-C 極少量。砂質。

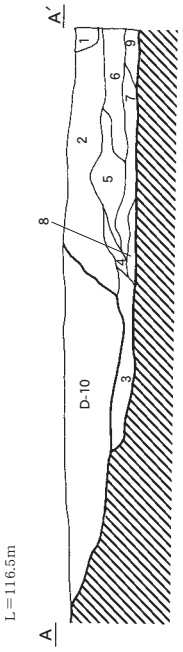


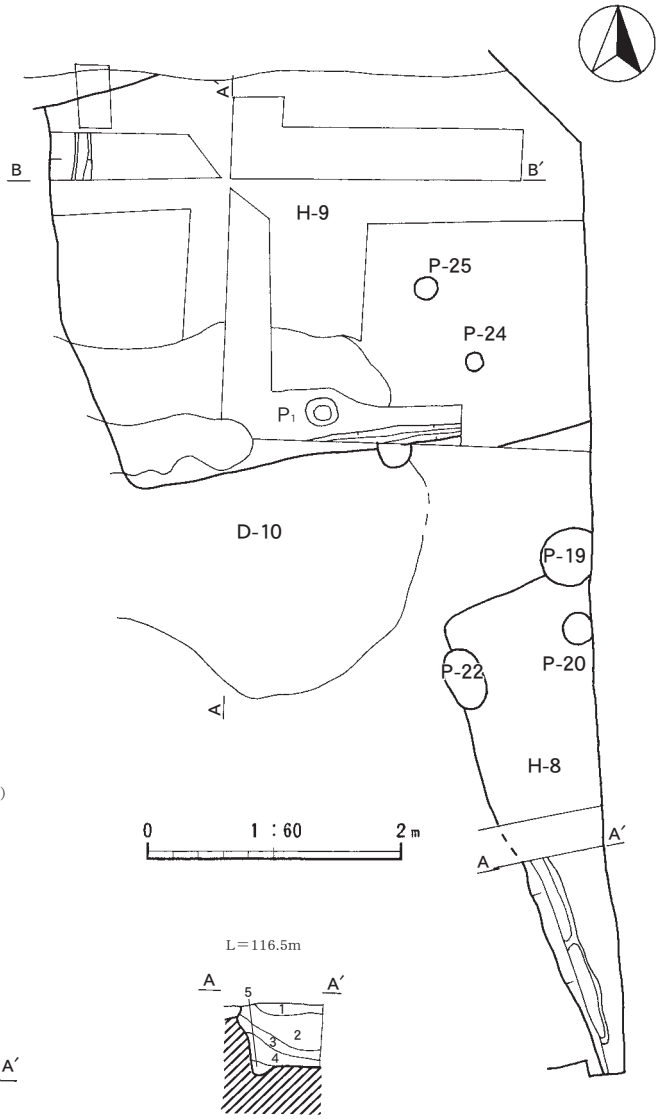
73トレンチ　7号竪穴建物跡カマド層序説明
1　淡橙　焼土層。
2　暗褐　細かな焼土含む。細粒。

Fig. 21　73トレンチ各遺構(3)

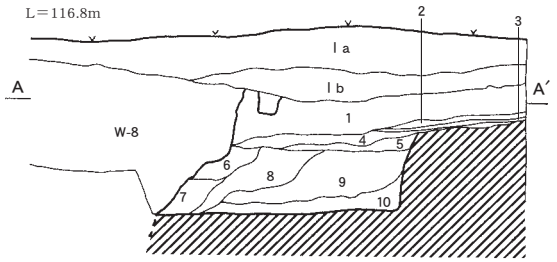
73トレンチ　９号竪穴建物跡東西サブトレンチ層序説明
1　灰黄褐　　砂層土ブロック（φ10㎜程）多量。締まりややあり。
2　暗褐　　砂層土少量。
3　にぶい黄褐　砂層土ブロック（φ10～20㎜）・As-C 少量。（南北サブトレ７層）
4　黒褐　　砂層土ブロック（φ10～30㎜）極少量。（南北サブトレ11層）
5　灰黄褐　　粘質土ブロック（φ10～30㎜）極少量。
6　黒褐　　灰？多量。
7　灰黄褐　　焼土ブロック（φ10㎜）・粘質土ブロック（φ10㎜）極少量。
8　黒褐　　粘質土ブロック（φ10㎜）極少量。砂層土若干。
9　黒褐　　砂層土ブロック（φ10～30㎜）極少量。（東西サブトレ９層）
10　暗褐　　粘質土ブロック（φ10㎜）・炭化物少量。
11　黒褐　　粘質土多量。
12　黒褐　　砂層土極少量。
13　にぶい黄褐　砂層土少量。
14　暗褐　　砂層土極少量。

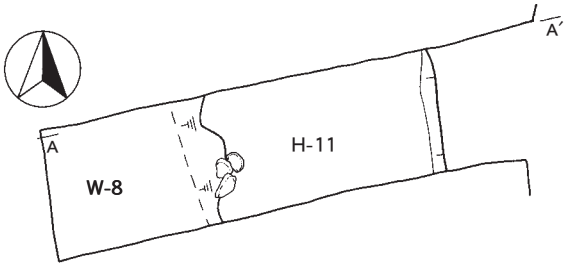


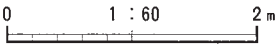




73トレンチ　９号竪穴建物跡南北サブトレンチ層序説明
1　黒褐　　As-C 少量。As-B 極少量。砂層土若干。別の遺構か。
2　にぶい黄褐　砂層土ブロック（φ10～20㎜）・As-C 少量。（東西サブトレ３層）
3　暗褐　　砂層土極少量。
4　黒褐　　砂礫少量。
5　にぶい黄褐　砂層土ブロック（φ10～20㎜）極少量。
6　黒褐　　砂層土ブロック（φ10～30㎜）極少量。（東西サブトレ４層）
7　黒褐　　砂層土ブロック（φ10～30㎜）極少量。（東西サブトレ９層）
8　暗褐　　砂層土ブロック（φ30㎜）少量。
9　暗褐　　砂層土ブロック（φ10～20㎜）極少量。



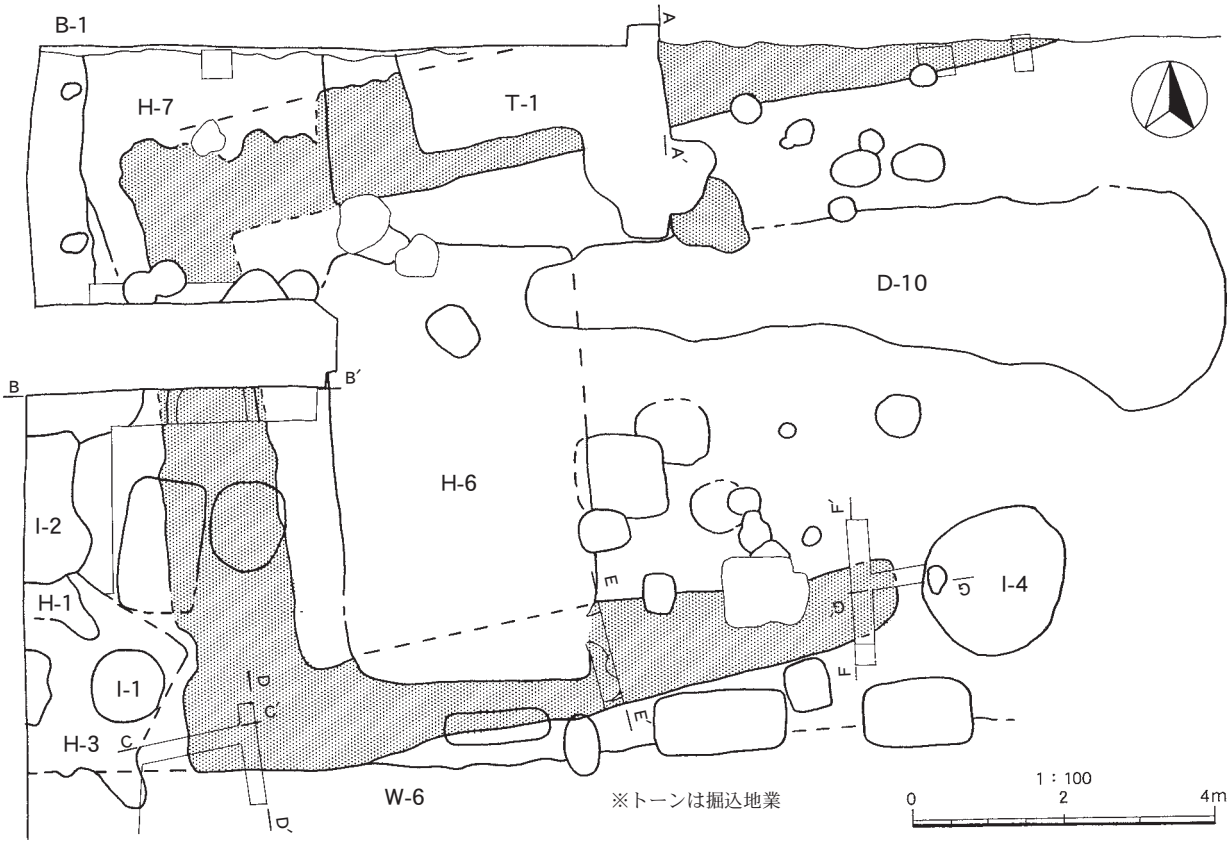


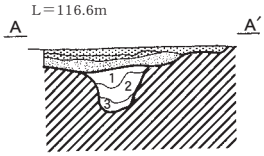


73トレンチ　８号竪穴建物跡層序説明
1　黒褐　As-C 少量。炭化物極少量。
2　暗褐　砂層土少量。
3　暗褐　砂層土極少量。
4　黒褐　砂層土ブロック（φ10～30㎜）少量。
5　暗褐　砂層土少量。

73トレンチ　11号竪穴建物跡層序説明
Ⅰa　　現表土・旧表土
Ⅰb　　As-B 混入土層
1　黒褐　As-B 多量。
2　灰褐　As-B 純層（火山灰層）
3　　As-B 純層（軽石層）
4　黒　　As-B 少量。
5　黒褐　砂質。
6　黒褐　砂質。
7　黒褐　砂質。
8　黒褐　砂質。
9　黒褐　砂質。砂礫・As-C 少量。
10　黒褐　砂礫・As-C 少量。砂層土ブロック（φ10㎜）若干。

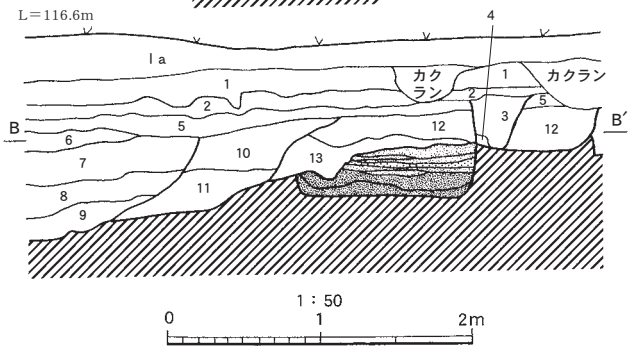
Fig. 22　73トレンチ各遺構(4)





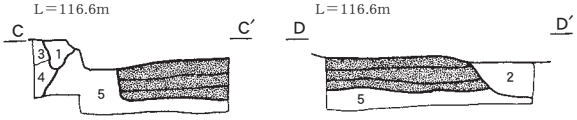
73トレンチ　1号礎石建物跡　布地業下層ピット層序説明

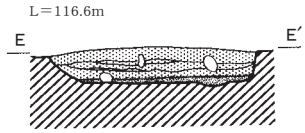
1　黒褐　　As-C 多量。
2　黒褐　　細かい砂層土多量。As-C 少量。砂層土ブロック（φ10㎜）極少量。
3　にぶい黄褐　砂層土多量。砂層土ブロック（φ10～20㎜）多量。締まりややあり。



73トレンチ　1号礎石建物跡　布地業西辺層序説明

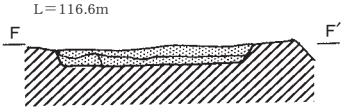
Ⅰa　　現表土
1　黒褐　As-B 多量。
2　黒褐　As-B・炭化物少量。締まり強い。
3　黒褐　炭化物極少量。細粒。
4　黒褐　細粒。締まり強い。
5　黒褐　As-C 少量。
6　黒褐　As-C 少量。炭化物若干。（7号溝跡覆土）
7　黒褐　As-C 少量。砂礫極少量。炭化物若干。（7号溝跡覆土）
8　黒褐　As-C 少量。炭化物若干。（7号溝跡覆土）
9　黒褐　砂層土ブロック（φ10㎜）・As-C 極少量。炭化物若干。（7号溝跡覆土）
10　黒褐　As-C 多量。炭化物若干。
11　黒褐　As-C 少量。
12　黒褐　As-C・炭化物少量。
13　黒褐　As-C 少量。

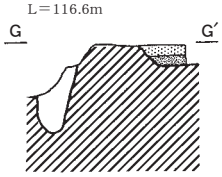


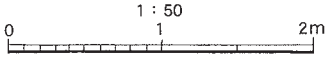


73トレンチ　1号礎石建物跡　布地業南西隅層序説明

1　黒褐　As-B 多量。
2　黒褐　As-C 少量。炭化物若干。（6号溝跡覆土）
3　黒褐　As-B 少量。
4　黒褐　As-B 極少量。
5　黒褐　As-C 多量。砂層土ブロック（φ10～30㎜）少量。（5号竪穴建物跡覆土）







掘込地業の層序説明

黒褐色で As-C・砂層土ブロック含む。締まり強い。

黒褐色で As-C・砂層土ブロック含む。締まり強い。

黒褐色で As-C 含む。締まり強い。

Fig. 23　73トレンチ各遺構(5)

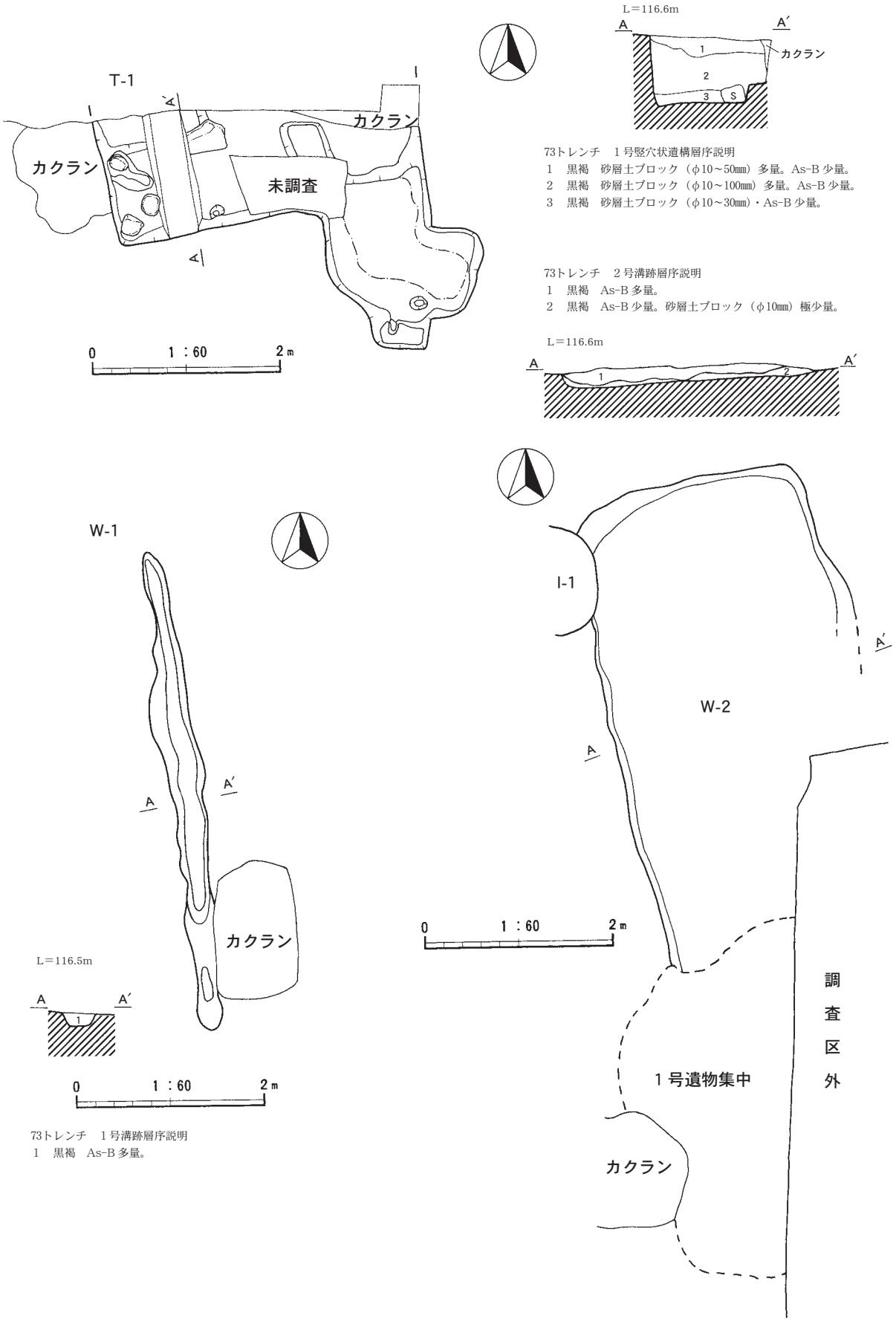
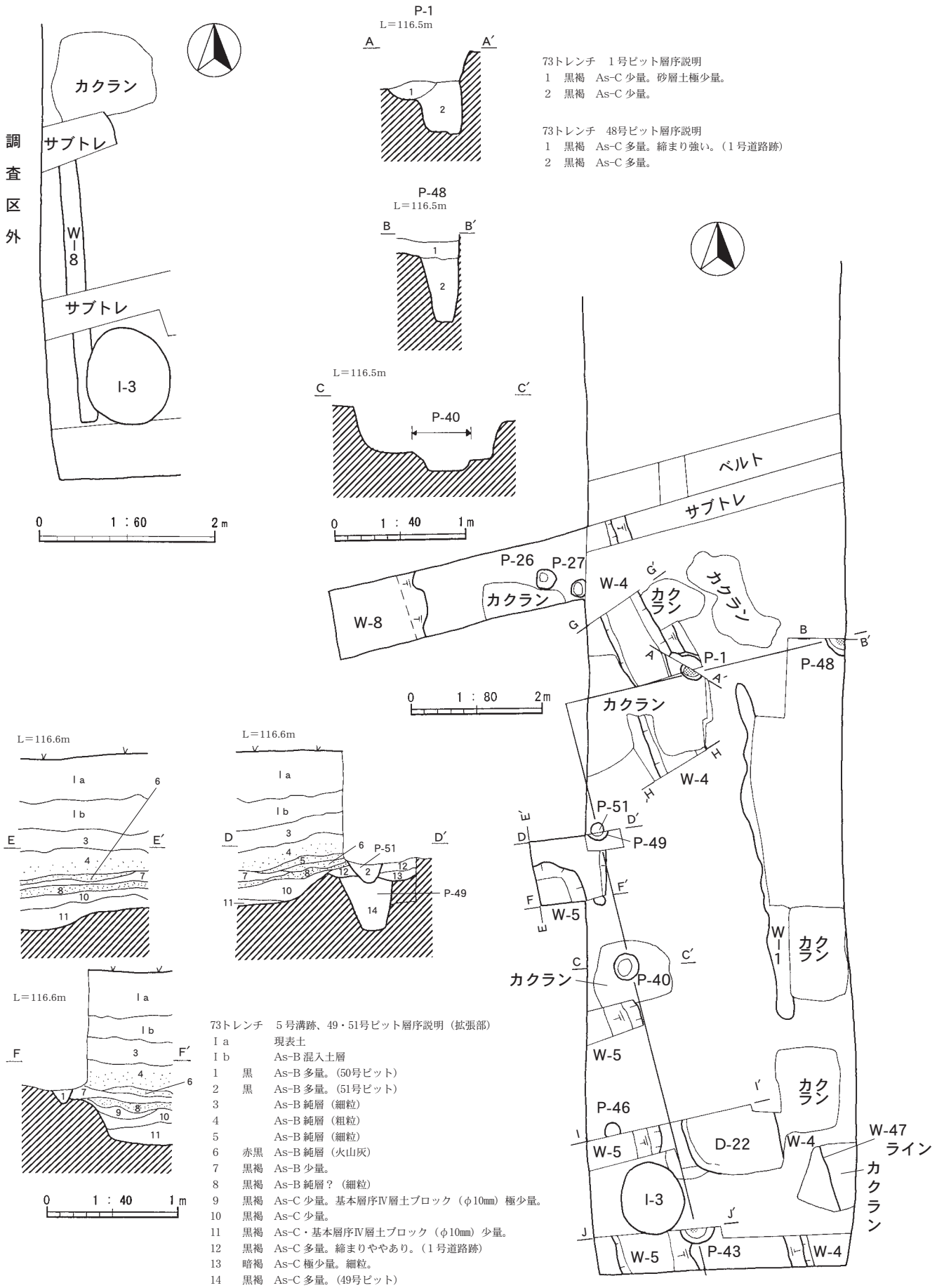


Fig. 24　73トレンチ各遺構(6)



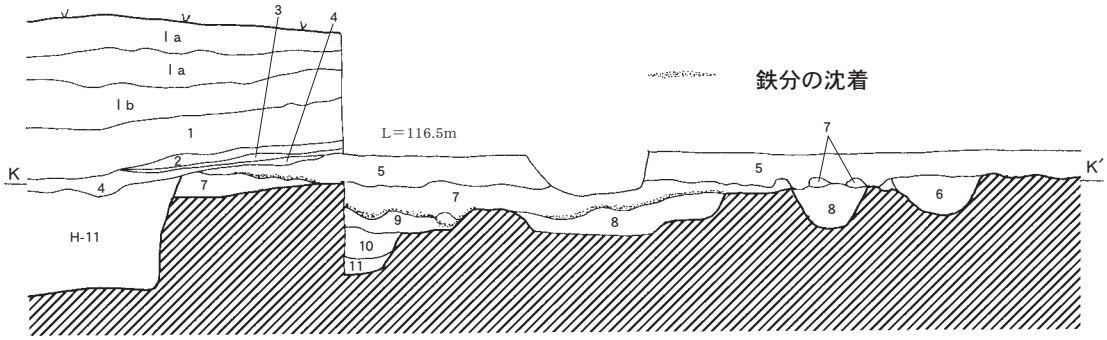
73トレンチ　1号ピット層序説明
1　黒褐　As-C 少量。砂層土極少量。
2　黒褐　As-C 少量。

73トレンチ　48号ピット層序説明
1　黒褐　As-C 多量。締まり強い。（1号道路跡）
2　黒褐　As-C 多量。

73トレンチ　5号溝跡、49・51号ピット層序説明（拡張部）

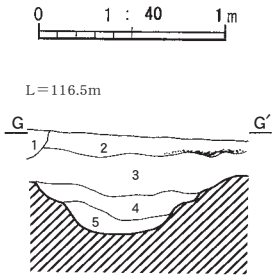
Ⅰa		現表土
Ⅰb		As-B 混入土層
1	黒	As-B 多量。（50号ピット）
2	黒	As-B 多量。（51号ピット）
3		As-B 純層（細粒）
4		As-B 純層（粗粒）
5		As-B 純層（細粒）
6	赤黒	As-B 純層（火山灰）
7	黒褐	As-B 少量。
8	黒褐	As-B 純層？（細粒）
9	黒褐	As-C 少量。基本層序Ⅳ層土ブロック（φ10㎜）極少量。
10	黒褐	As-C 少量。
11	黒褐	As-C・基本層序Ⅳ層土ブロック（φ10㎜）少量。
12	黒褐	As-C 多量。締まりややあり。（1号道路跡）
13	暗褐	As-C 極少量。細粒。
14	黒褐	As-C 多量。（49号ピット）

Fig. 25　73トレンチ各遺構(7)

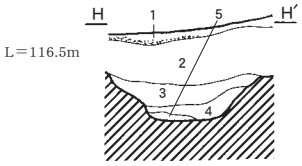


73トレンチ　１号道路跡層序説明

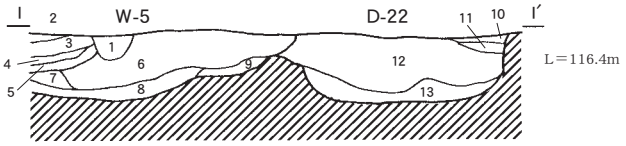
Ⅰａ		現表土・旧表土
Ⅰｂ		As-B 混入土層
1	黒褐	As-B 多量。
2	灰褐	As-B 純層（火山灰層）
3		As-B 純層（軽石層）
4	黒	As-B 少量。
5	黒褐	As-C 極少量。細粒。
6	黒褐	As-C 少量。
7	黒褐	As-C 少量。締まり強い。下位に鉄分の沈着が面的に見られる。
8	黒褐	As-C 少量。締まりややあり。
9	黒褐	As-C 多量。締まりややあり。（４号溝跡覆土）
10	黒褐	As-C 少量。（４号溝跡覆土）
11	黒褐	砂層土多量。締まり強い。（４号溝跡覆土）



73トレンチ　４号溝跡層序説明①
1　黒　　As-B 多量。
2　黒褐　As-C 少量。締まり強い。下位に鉄分の沈着が面的に見られる。（１号道路跡）
3　黒褐　As-C 多量。
4　黒褐　As-C・基本層序Ⅳ層土ブロック（φ10㎜）少量。締まりややあり。
5　黒褐　砂層土多量。As-C 少量。締まり強い。

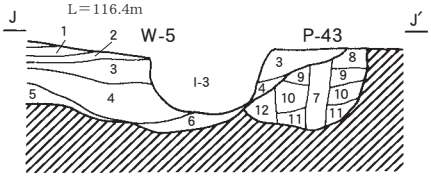


73トレンチ　４号溝跡層序説明②
1　黒褐　As-C 少量。締まり強い。下位に鉄分の沈着が面的に見られる。（１号道路跡）
2　黒褐　As-C 多量。
3　黒褐　As-C・基本層序Ⅳ層土ブロック（φ10㎜）少量。
4　黒褐　細かい砂層土少量。締まりややあり。
5　黒褐　砂層土多量。締まり強い。



73トレンチ　５号溝跡、22号土坑層序説明
1　　As-B の二次堆積
2　　As-B の二次堆積
3　黒褐　As-B 純層（火山灰層）
4　　As-B 純層（軽石層）
5　黒褐　As-B 少量。
6　黒褐　As-C 少量。
7　黒褐　As-C 少量。№６よりも砂質。
8　黒褐　As-C・砂層土少量。
9　黒褐　As-C 極少量。
10　黒褐　As-C 少量。締まり強い。
11　黒褐　As-C 少量。締まりややあり。
12　黒褐　As-C 少量。
13　黒褐　砂層土多量。As-C 若干。

73トレンチ　５号溝跡、43号ピット層序説明
1　黒褐　As-B 純層（火山灰層）
2　　As-B 純層（軽石層）
3　黒褐　As-B やや多量。
4　黒褐　As-C 少量。
5　黒褐　As-C 極少量。
6　黒褐　砂層土ブロック（φ10～30㎜）多量。As-C 少量。
7　黒褐　As-C 極少量。
8　黒褐　As-C 少量。
9　黒褐　砂層土少量。締まりややあり。
10　黒褐　As-C やや多量。
11　黒褐　As-C 少量。
12　黒褐　As-C・砂層土少量。



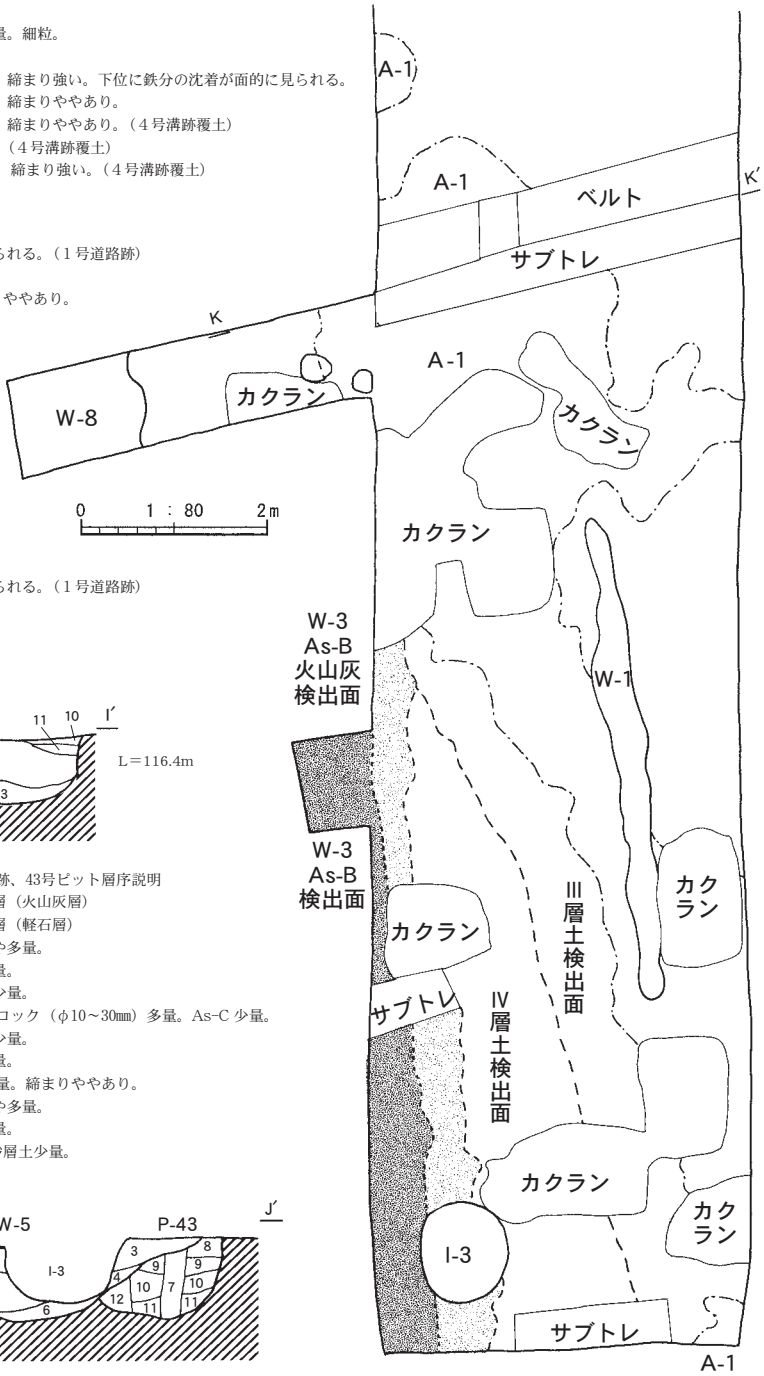
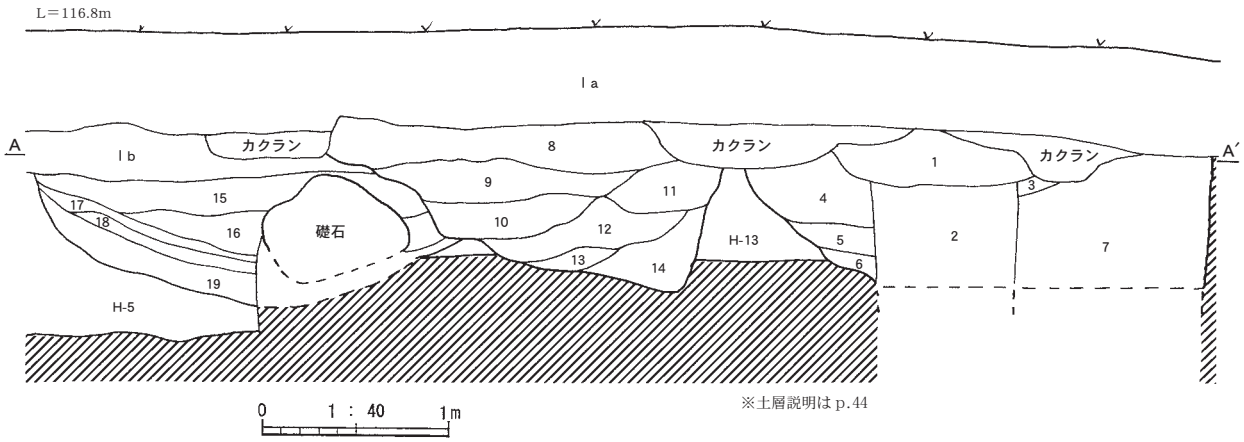
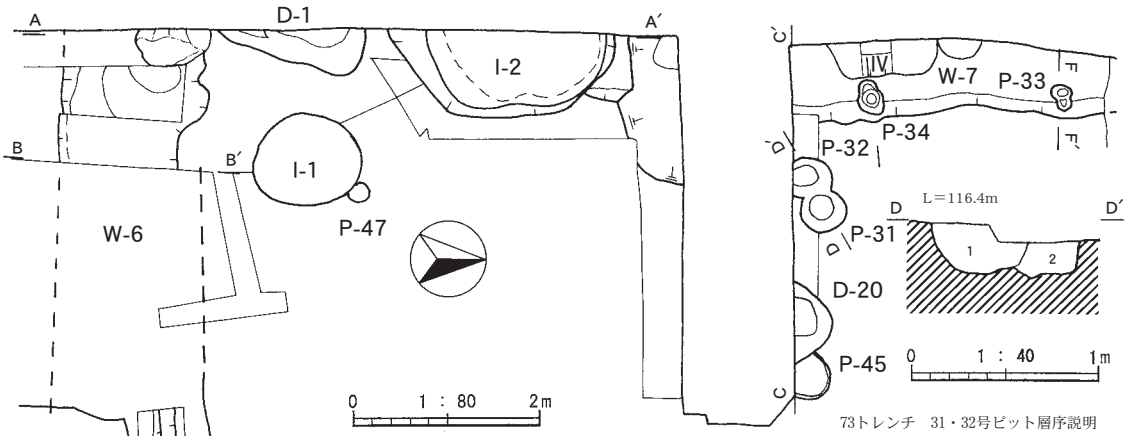


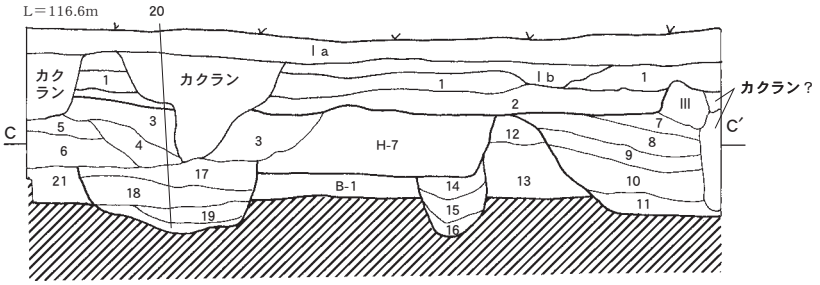
Fig. 26　73トレンチ各遺構(8)



※土層説明はp.44

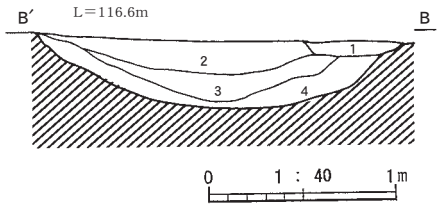


73トレンチ　31・32号ピット層序説明
1　黒褐　As-B・炭化物極少量。(31号ピット)
2　暗褐　砂層土少量。(32号ピット)



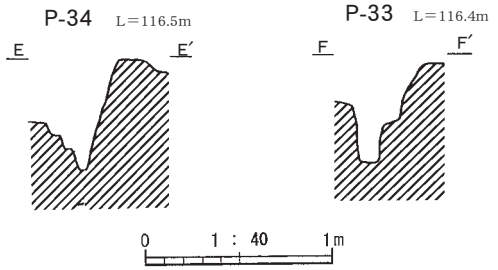
73トレンチ　7号溝跡、20号土坑、31・32・45号ピット層序説明
Ⅰa　現表土
Ⅰb　As-B 混入土層
Ⅲ
1　黒　As-B 純層？（2号溝跡）
2　黒　As-C・炭化物多量。焼土少量。As-B 極少量。締まりややあり。（2号溝跡）
3　黒褐　As-C 多量。砂層土ブロック（φ10㎜）若干。
4　黒褐　As-C 少量。
5　暗褐　As-C 多量。
6　黒褐　As-C 多量。
7　黒褐　As-C 少量。焼土若干。（7号溝跡）
8　暗褐　As-C 少量。炭化物若干。（7号溝跡）
9　黒褐　As-C 多量。砂層土ブロック（φ10㎜程）極少量。締まりややあり。（7号溝跡）
10　黒褐　As-C 少量。細かい砂層土極少量。炭化物若干。（7号溝跡）
11　黒褐　As-C 極少量。（7号溝跡）
12　黒褐　As-C・砂層ブロック（φ10㎜）・炭化物少量。
13　黒褐　As-C・細かい砂層土少量。
14　暗褐　As-C 極少量。(32号ピット)
15　黒褐　炭化物少量。As-C 極少量。(32号ピット)
16　暗褐　砂層土少量。(32号ピット)
17　黒褐　As-C 少量。(20号土坑)
18　暗褐　砂層土ブロック（φ10～20㎜）極少量。締まりややり。(20号土坑)
19　黒褐　砂層土ブロック（φ10㎜程）極少量。(20号土坑)
20　暗褐　砂層土少量。(20号土坑)
21　暗褐　砂層土ブロック（φ10～30㎜）極少量。(45号ピット)

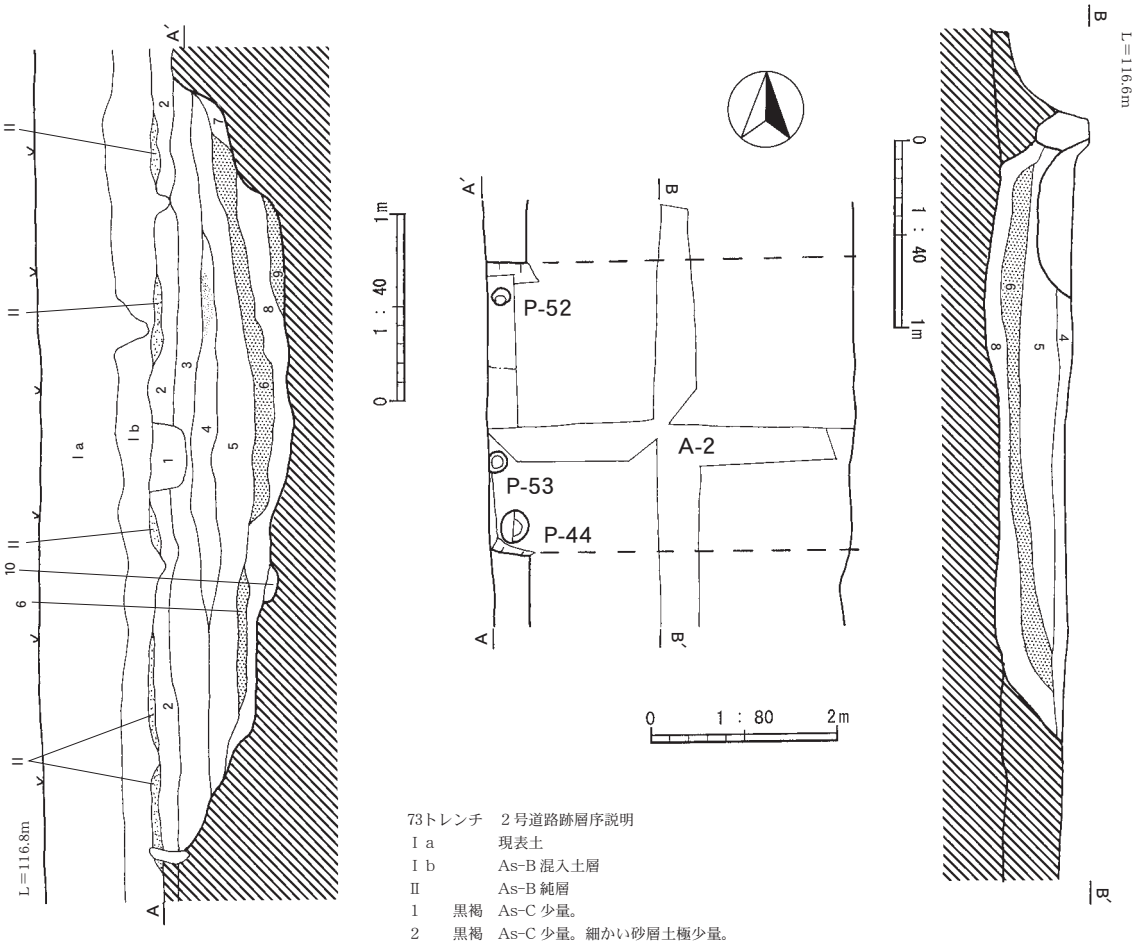
Fig. 27　73トレンチ各遺構(9)



73トレンチ　６号溝跡層序説明
1　黒褐　As-C 少量。
2　暗褐　As-C 少量。
3　黒褐　As-C・灰少量。
4　暗褐　As-C。

73トレンチ　６号溝跡、１号土坑、２号（ａ・ｂ）井戸跡層序説明
Ⅰａ　現表土
Ⅰｂ　As-B 混入土層
1　黒褐　As-B 多量。砂層土ブロック（φ10㎜）極少量。（２ａ号井戸跡）
2　黒褐　As-B 多量。（２ａ号井戸跡）
3　暗褐　As-B 少量。As-C 極少量。（２ａ号井戸跡）
4　黒褐　As-B 多量。（２ａ号井戸跡）
5　黒褐　As-B 多量。（２ａ号井戸跡）
6　黒褐　As-B 多量。（２ａ号井戸跡）
7　黒褐　As-B 多量。（２ｂ号井戸跡）
8　黒褐　As-B 多量。（１号土坑）
9　黒褐　As-B 多量。（１号土坑）
10　黒褐　As-B 多量。（１号土坑）
11　黒褐　As-B 多量。砂層土ブロック（φ10㎜）。締まりややあり。（１号土坑）
12　黒褐　As-B 多量。砂層土ブロック（φ10㎜）。締まりややあり。（１号土坑）
13　黒褐　As-B 多量。（１号土坑）
14　黒褐　As-B 多量。（１号土坑）
15　黒褐　砂礫少量。As-C 極少量。（６号溝跡）
16　黒褐　砂質。（６号溝跡）
17　褐灰　灰多量。（６号溝跡）
18　黒褐　炭化物多量。As-C 極少量。（６号溝跡）
19　黒褐　As-C 少量。炭化物若干。（６号溝跡）



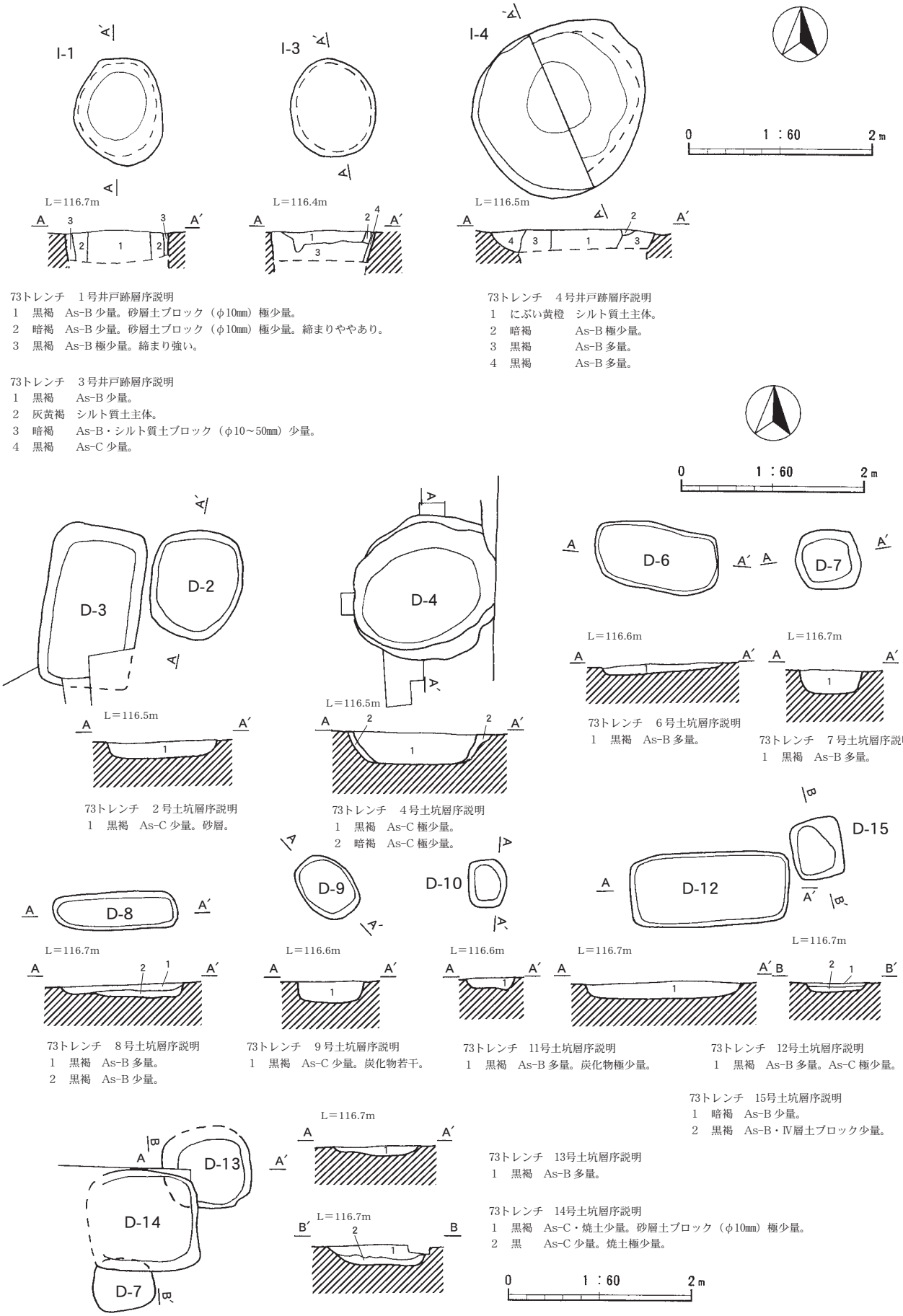


73トレンチ　２号道路跡層序説明
Ⅰａ　現表土
Ⅰｂ　As-B 混入土層
Ⅱ　As-B 純層
1　黒褐　As-C 少量。
2　黒褐　As-C 少量。細かい砂層土極少量。
3　黒褐　As-C 少量。
4　黒褐　As-C 少量。
5　黒褐　As-C 少量。炭化物若干。
6　黒褐　As-C・炭化物少量。部分的に灰多量。締まり強い。
7　黒褐　As-C 極少量。
8　黒褐　As-C 少量。炭化物極少量。
9　暗褐　砂層土・砂層ブロック（φ10㎜）少量。締まりややあり。
10　黒褐　細粒。

硬化面

砂礫多数含む

Fig. 28　73トレンチ各遺構⑩



73トレンチ　1号井戸跡層序説明
1　黒褐　As-B 少量。砂層土ブロック（φ10㎜）極少量。
2　暗褐　As-B 少量。砂層土ブロック（φ10㎜）極少量。締まりややあり。
3　黒褐　As-B 極少量。締まり強い。

73トレンチ　3号井戸跡層序説明
1　黒褐　　As-B 少量。
2　灰黄褐　シルト質土主体。
3　暗褐　　As-B・シルト質土ブロック（φ10～50㎜）少量。
4　黒褐　　As-C 少量。

73トレンチ　4号井戸跡層序説明
1　にぶい黄橙　シルト質土主体。
2　暗褐　　As-B 極少量。
3　黒褐　　As-B 多量。
4　黒褐　　As-B 多量。

73トレンチ　2号土坑層序説明
1　黒褐　As-C 少量。砂層。

73トレンチ　4号土坑層序説明
1　黒褐　As-C 極少量。
2　暗褐　As-C 極少量。

73トレンチ　6号土坑層序説明
1　黒褐　As-B 多量。

73トレンチ　7号土坑層序説明
1　黒褐　As-B 多量。

73トレンチ　8号土坑層序説明
1　黒褐　As-B 多量。
2　黒褐　As-B 少量。

73トレンチ　9号土坑層序説明
1　黒褐　As-C 少量。炭化物若干。

73トレンチ　11号土坑層序説明
1　黒褐　As-B 多量。炭化物極少量。

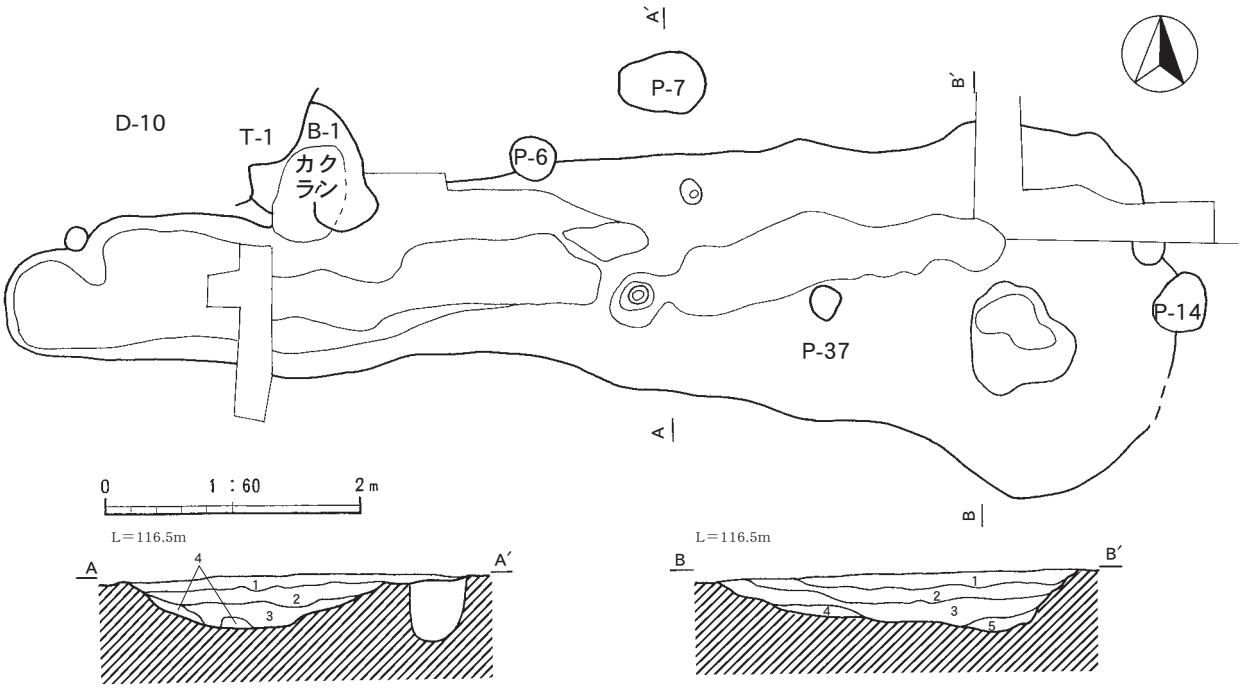
73トレンチ　12号土坑層序説明
1　黒褐　As-B 多量。As-C 極少量。

73トレンチ　15号土坑層序説明
1　暗褐　As-B 少量。
2　黒褐　As-B・Ⅳ層土ブロック少量。

73トレンチ　13号土坑層序説明
1　黒褐　As-B 多量。

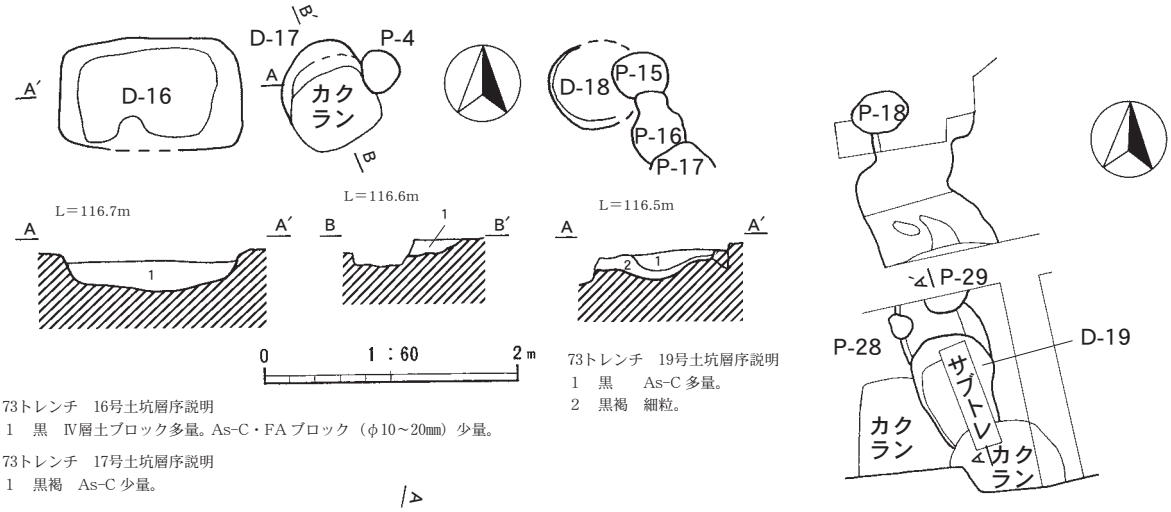
73トレンチ　14号土坑層序説明
1　黒褐　As-C・焼土少量。砂層土ブロック（φ10㎜）極少量。
2　黒　　As-C 少量。焼土極少量。

Fig. 29　73トレンチ各遺構(11)



73トレンチ　10号土坑層序説明①
1　黒褐　As-C 多量。
2　黒褐　As-C 少量。砂礫極少量。
3　黒褐　砂層土ブロック（φ10㎜）少量。As-C 極少量。
4　暗褐　砂層土多量。砂層土ブロック（φ10㎜）少量。As-C 若干。

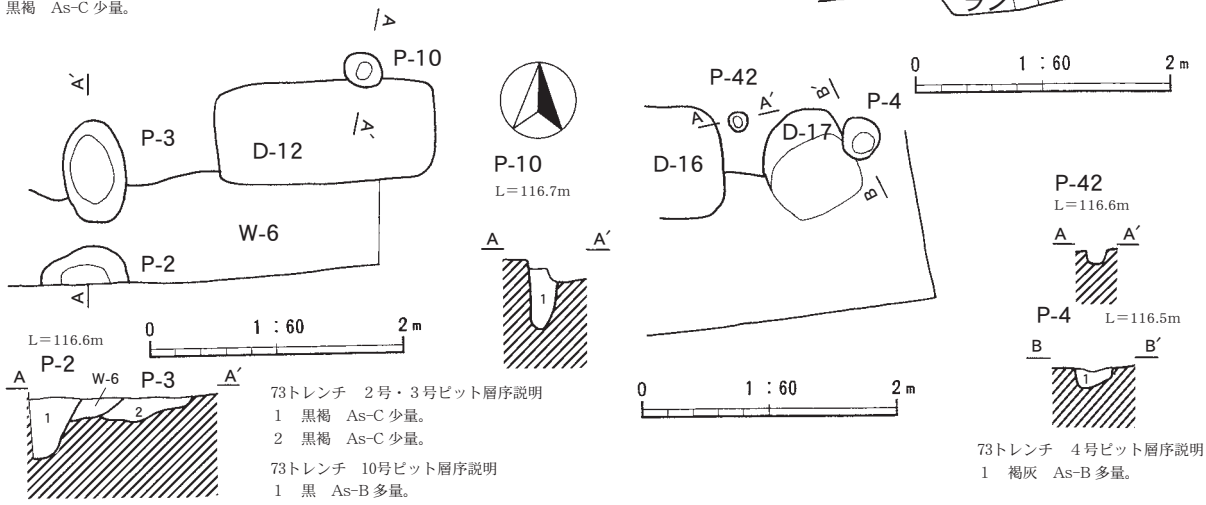
73トレンチ　10号土坑層序説明②
1　黒褐　As-B・As-C 少量。炭化物極少量。
2　黒褐　As-B・As-C 少量。炭化物極少量。
3　黒褐　As-B 少量。As-C 極少量。
4　暗褐　As-B・砂層土極少量。
5　黒褐　As-B 少量。砂層土ブロック（φ10～20㎜）極少量。



73トレンチ　16号土坑層序説明
1　黒　Ⅳ層土ブロック多量。As-C・FA ブロック（φ10～20㎜）少量。

73トレンチ　17号土坑層序説明
1　黒褐　As-C 少量。

73トレンチ　19号土坑層序説明
1　黒　　As-C 多量。
2　黒褐　細粒。

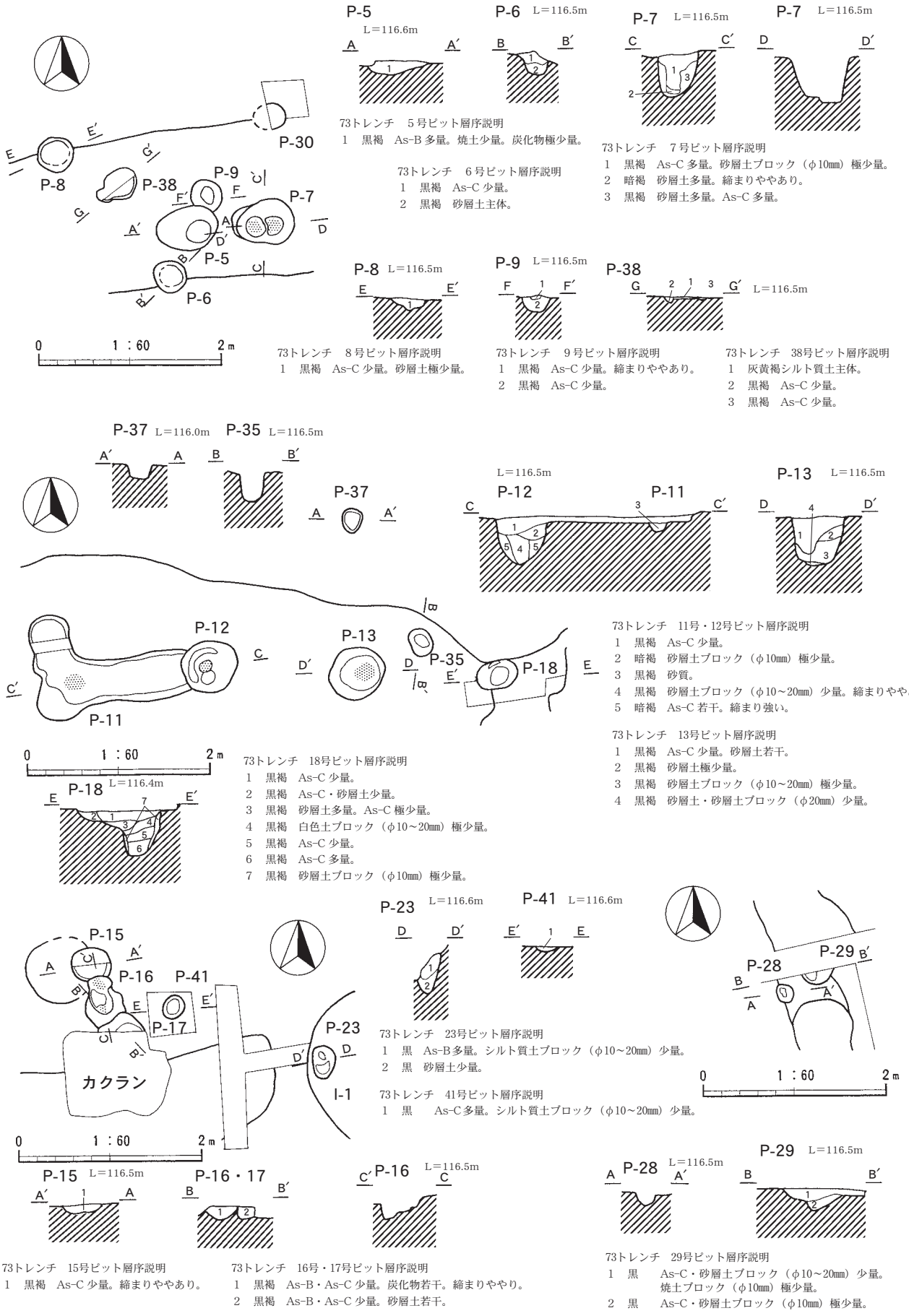


73トレンチ　２号・３号ピット層序説明
1　黒褐　As-C 少量。
2　黒褐　As-C 少量。

73トレンチ　10号ピット層序説明
1　黒　As-B 多量。

73トレンチ　４号ピット層序説明
1　褐灰　As-B 多量。

Fig. 30　73トレンチ各遺構⑫



73トレンチ　5号ピット層序説明
1　黒褐　As-B 多量。焼土少量。炭化物極少量。

73トレンチ　6号ピット層序説明
1　黒褐　As-C 少量。
2　黒褐　砂層土主体。

73トレンチ　7号ピット層序説明
1　黒褐　As-C 多量。砂層土ブロック（φ10㎜）極少量。
2　暗褐　砂層土多量。締まりややあり。
3　黒褐　砂層土多量。As-C 多量。

73トレンチ　8号ピット層序説明
1　黒褐　As-C 少量。砂層土極少量。

73トレンチ　9号ピット層序説明
1　黒褐　As-C 少量。締まりややあり。
2　黒褐　As-C 少量。

73トレンチ　38号ピット層序説明
1　灰黄褐シルト質土主体。
2　黒褐　As-C 少量。
3　黒褐　As-C 少量。

73トレンチ　11号・12号ピット層序説明
1　黒褐　As-C 少量。
2　暗褐　砂層土ブロック（φ10㎜）極少量。
3　黒褐　砂質。
4　黒褐　砂層土ブロック（φ10～20㎜）少量。締まりややあり。
5　暗褐　As-C 若干。締まり強い。

73トレンチ　13号ピット層序説明
1　黒褐　As-C 少量。砂層土若干。
2　黒褐　砂層土極少量。
3　黒褐　砂層土ブロック（φ10～20㎜）極少量。
4　黒褐　砂層土・砂層土ブロック（φ20㎜）少量。

73トレンチ　18号ピット層序説明
1　黒褐　As-C 少量。
2　黒褐　As-C・砂層土少量。
3　黒褐　砂層土多量。As-C 極少量。
4　黒褐　白色土ブロック（φ10～20㎜）極少量。
5　黒褐　As-C 少量。
6　黒褐　As-C 多量。
7　黒褐　砂層土ブロック（φ10㎜）極少量。

73トレンチ　23号ピット層序説明
1　黒　As-B多量。シルト質土ブロック（φ10～20㎜）少量。
2　黒　砂層土少量。

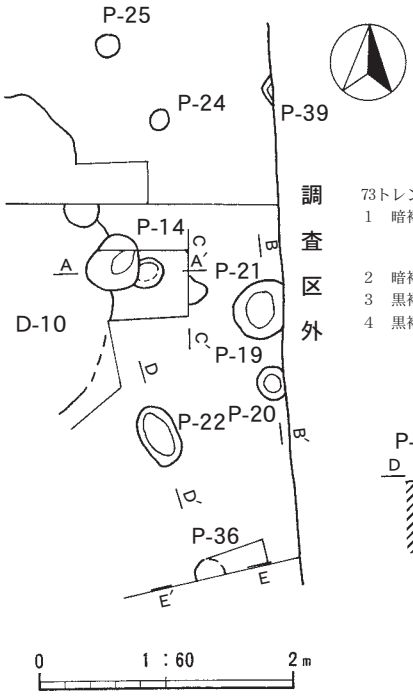
73トレンチ　41号ピット層序説明
1　黒　　As-C多量。シルト質土ブロック（φ10～20㎜）少量。

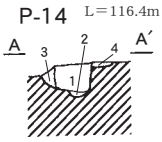
73トレンチ　15号ピット層序説明
1　黒褐　As-C 少量。締まりややあり。

73トレンチ　16号・17号ピット層序説明
1　黒褐　As-B・As-C 少量。炭化物若干。締まりややり。
2　黒褐　As-B・As-C 少量。砂層土若干。

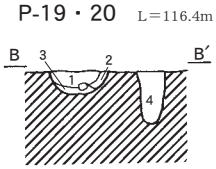
73トレンチ　29号ピット層序説明
1　黒　　As-C・砂層土ブロック（φ10～20㎜）少量。
　　焼土ブロック（φ10㎜）極少量。
2　黒　　As-C・砂層土ブロック（φ10㎜）極少量。

Fig. 31　73トレンチ各遺構(13)

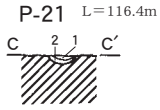




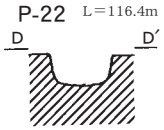
73トレンチ　14号ピット層序説明
1　暗褐　As-C・焼土ブロック・粘土ブロック少量。砂層土ブロック（φ10㎜）極少量。
2　暗褐　砂層土ブロック（φ10㎜）少量。
3　黒褐　As-C・灰少量。
4　黒褐　焼土ブロック少量。

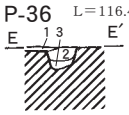


73トレンチ　19号・20号ピット層序説明
1　黒褐　As-C 多量。焼土極少量。
2　黒褐　８号竪穴建物跡覆土か。
3　黄褐　砂層土多量。
4　黒褐　As-B 多量。底面締まる。



73トレンチ　21号ピット層序説明
1　黒褐　As-C 多量。締まりややあり。
2　黒褐　As-C・細かい砂層土少量。締まり強い。

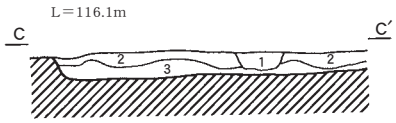




73トレンチ　36号ピット層序説明
1　黒褐　As-C・炭化物少量。焼土極少量。
2　黒褐　As-C・炭化物・砂層土ブロック（φ10㎜）少量。
3　暗褐　砂層土少量。As-C 極少量。

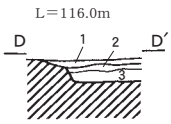
74トレンチ

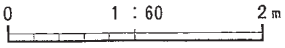
74トレンチ　１号・２号・８号竪穴建物跡層序説明
Ⅰ　表土
1　黒褐　As-C 多量。As-B 極少量。
2　暗褐　As-C 少量。As-B 極少量。
3　暗褐　砂礫少量。（１号竪穴建物跡）
4　暗褐　As-C・砂礫極少量。（２号竪穴建物跡）
5　暗褐　As-C・砂礫・粘土ブロック（φ30㎜）少量。焼土ブロック極少量。（２号竪穴建物跡）
6　黒褐　砂礫・炭化物少量。As-C 極少量。（２号竪穴建物跡）
7　黒褐　As-C 少量。炭化物・砂礫極少量。（２号竪穴建物跡）
8　黒褐　As-C 少量。砂礫極少量。（８号竪穴建物跡）
9　黒褐　砂礫極少量。As-C 若干。（８号竪穴建物跡）
10　黒褐　砂層土ブロック（φ10～20㎜）少量。砂礫極少量。As-C 若干。（８号竪穴建物跡）



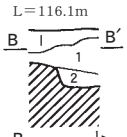
74トレンチ　２号竪穴建物跡層序説明②
1　灰黄褐As-C・As-B 少量。砂層土ブロック（φ10㎜）極少量。
2　暗褐　As-C 少量。As-B 極少量。
3　暗褐　As-C・砂礫極少量。

74トレンチ　８号竪穴建物跡層序説明②
1　黒褐　As-C 少量。砂礫極少量。
2　黒褐　砂礫極少量。As-C 若干。
3　黒褐　砂層土ブロック（φ10～20㎜）少量。砂礫極少量。As-C 若干。





74トレンチ　１号竪穴建物跡層序説明②
Ⅰ　表土
1　暗褐　As-C 少量。砂礫極少量。
2　暗褐　砂礫少量。（１号竪穴建物跡）



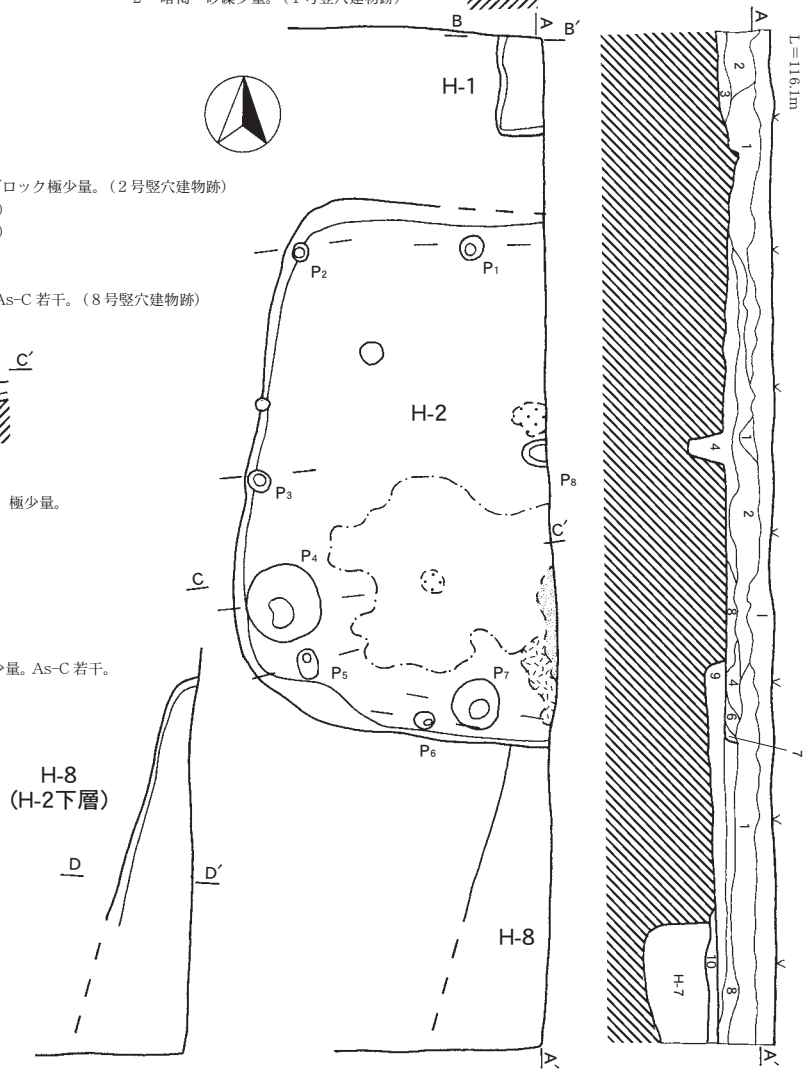
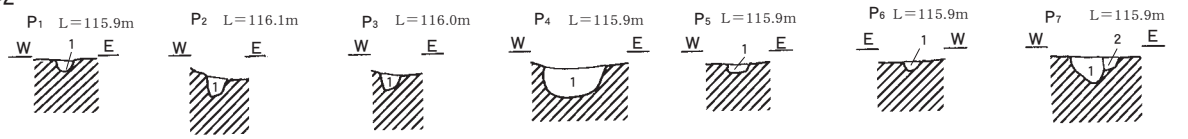


Fig. 32　73トレンチ各遺構⑭・74トレンチ各遺構⑴

H-2



74トレンチ　２号竪穴建物跡Ｐ₁ピット層序説明
1　黒褐　砂礫極少量。

74トレンチ　２号竪穴建物跡Ｐ₂ピット層序説明
1　黒褐　砂礫・炭化物極少量。

74トレンチ　２号竪穴建物跡Ｐ₃ピット層序説明
1　黒褐　砂層土少量。砂礫極少量。

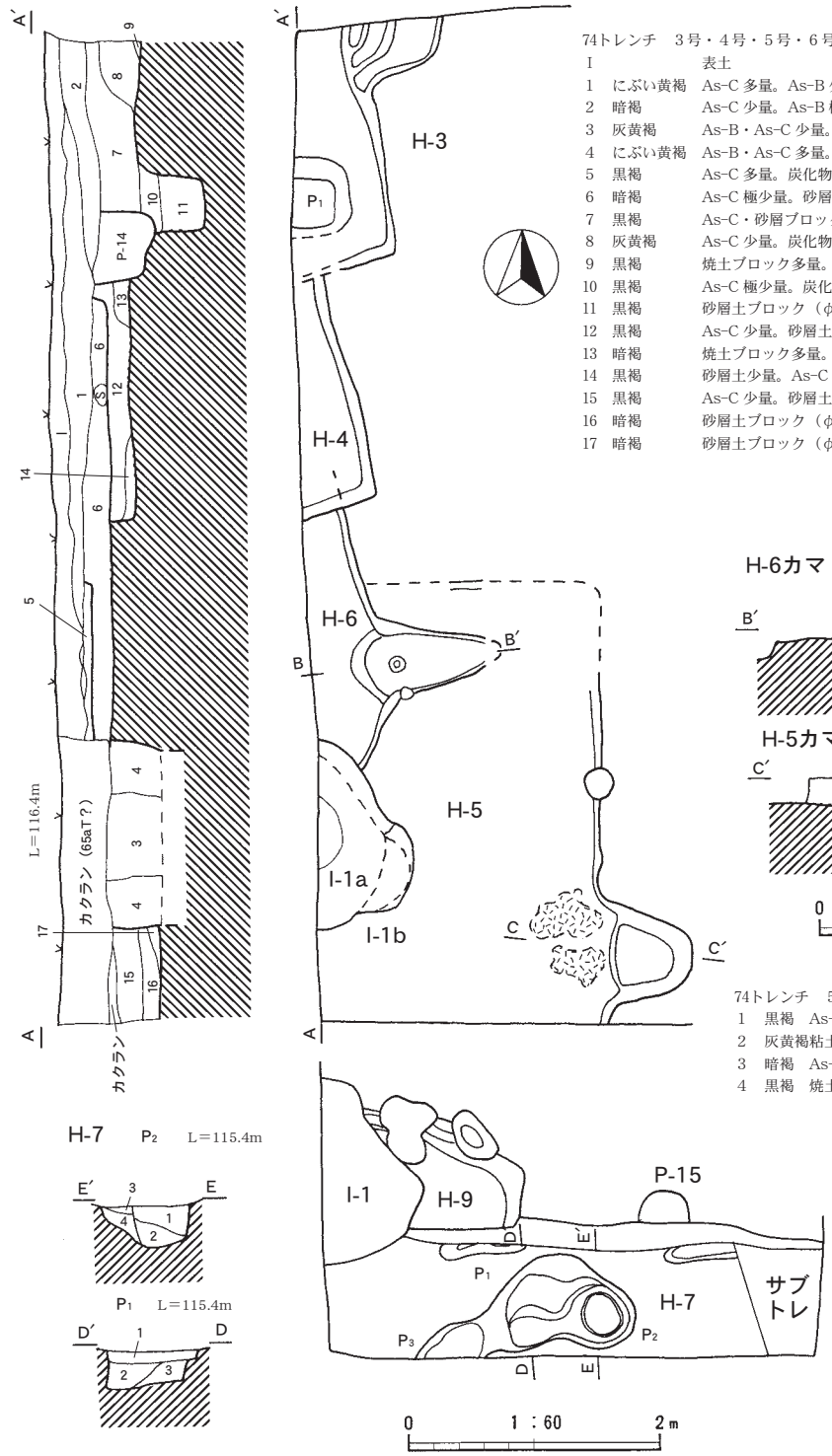
74トレンチ　２号竪穴建物跡Ｐ₄ピット層序説明
1　黒褐　砂層土ブロック（φ20㎜）極少量。

74トレンチ　２号竪穴建物跡Ｐ₅ピット層序説明
1　黒褐　砂層土・砂礫少量。

0　1：60　2ｍ

74トレンチ　２号竪穴建物跡Ｐ₆ピット層序説明
1　黒褐　砂層土ブロック（φ10㎜）少量。

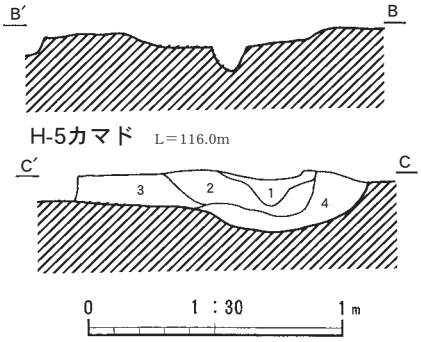
74トレンチ　２号竪穴建物跡Ｐ₆ピット層序説明
1　黒褐　砂層土ブロック（φ10㎜）少量。
2　暗褐　砂層土若干。



74トレンチ　３号・４号・５号・６号・７号竪穴建物跡、１ａ号井戸跡層序説明

Ⅰ		表土
1	にぶい黄褐	As-C 多量。As-B 少量。
2	暗褐	As-C 少量。As-B 極少量。
3	灰黄褐	As-B・As-C 少量。（１ａ井戸跡）
4	にぶい黄褐	As-B・As-C 多量。（１ａ井戸跡）
5	黒褐	As-C 多量。炭化物極少量。砂層土ブロック（φ10㎜）若干。（５号竪穴建物跡）
6	暗褐	As-C 極少量。砂層土若干。（６号竪穴建物跡）
7	黒褐	As-C・砂層ブロック（φ10㎜）少量。炭化物極少量。（３号竪穴建物跡）
8	灰黄褐	As-C 少量。炭化物・焼土ブロック・粘土極少量。砂層土若干。（３号竪穴建物跡）
9	黒褐	焼土ブロック多量。灰少量。（３号竪穴建物跡）
10	黒褐	As-C 極少量。炭化物・砂層土若干。（３号竪穴建物跡）
11	黒褐	砂層土ブロック（φ10～50㎜）少量。（３号竪穴建物跡）
12	黒褐	As-C 少量。砂層土若干。（４号竪穴建物跡）
13	暗褐	焼土ブロック多量。（４号竪穴建物跡）
14	黒褐	砂層土少量。As-C 極少量。（４号竪穴建物跡）
15	黒褐	As-C 少量。砂層土ブロック（φ10㎜）極少量。（７号竪穴建物跡）
16	暗褐	砂層土ブロック（φ10～30㎜）少量。As-C 若干。（７号竪穴建物跡）
17	暗褐	砂層土ブロック（φ10～30㎜）多量。（７号竪穴建物跡）

H-6カマド　L＝115.8m

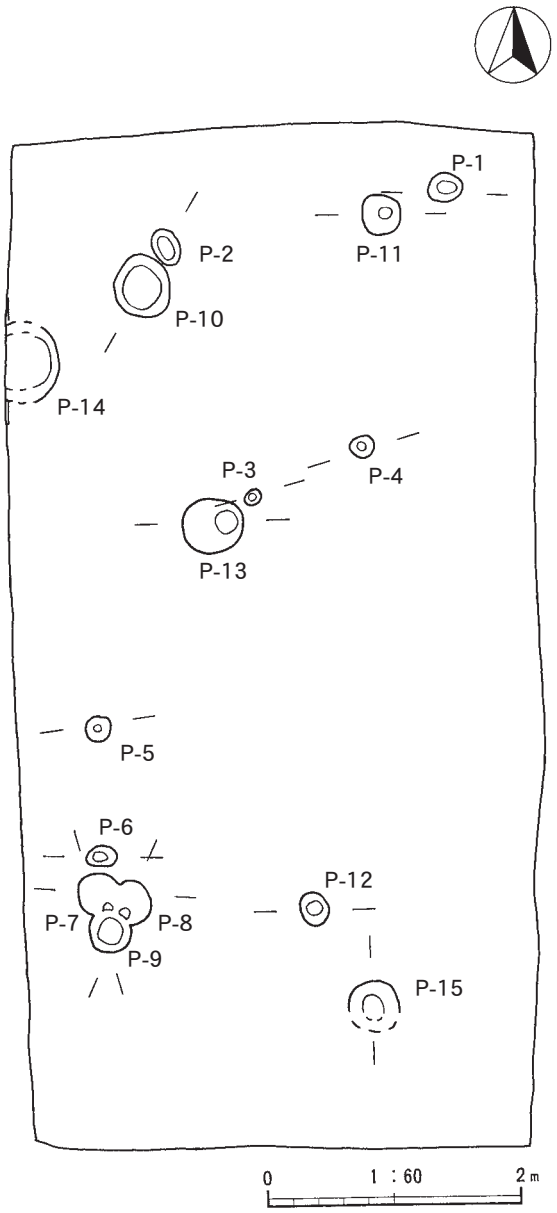


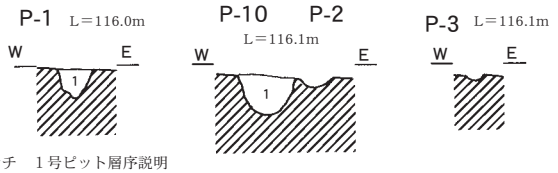
74トレンチ　５号竪穴建物跡カマド層序説明
1　黒褐　As-C 少量。砂層土ブロック（φ10㎜）極少量。
2　灰黄褐粘土主体。As-C 極少量。
3　暗褐　As-C・炭化物少量。
4　黒褐　焼土ブロック少量。砂層土ブロック（φ10㎜）極少量。

74トレンチ　７号竪穴建物跡Ｐ₁ピット層序説明
1　黒褐　砂層土ブロック（φ10㎜）極少量。７号竪穴建物床面
2　黒褐　砂層土ブロック（φ10～20㎜）少量。
3　にぶい黄褐　砂層土ブロック（φ10～50㎜）多量。

74トレンチ　７号竪穴建物跡Ｐ２ピット層序説明
1　黒褐　砂層土ブロック（φ10～20㎜）極少量。
2　黒褐　砂層土ブロック（φ10～100㎜）多量。
3　黒褐　砂層土ブロック（φ10㎜）少量。締まり強い。７号竪穴建物床面。
4　にぶい黄褐　砂層土ブロック（φ10～30㎜）多量。締まりややあり。

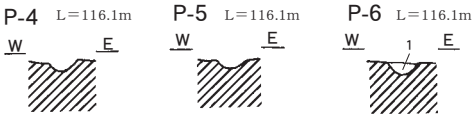
Fig. 33　74トレンチ各遺構(2)



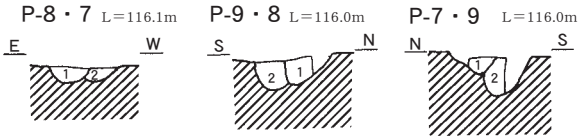


74トレンチ　１号ピット層序説明
1　黒褐　As-B 少量。As-C 極少量。

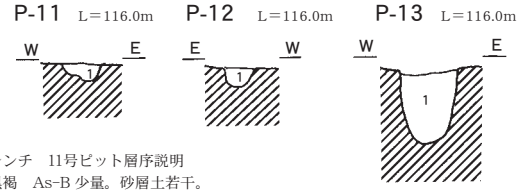
74トレンチ　10号ピット層序説明
1　黒褐　As-C 少量。



74トレンチ　６号ピット層序説明
1　黒褐　As-B 多量。砂層土ブロック（φ10㎜）極少量。



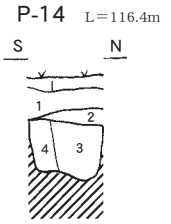
74トレンチ　７号・８号・９号ピット層序説明
1　黒褐　As-B 多量。As-C 少量。
2　黒褐　As-B 多量。砂層土ブロ



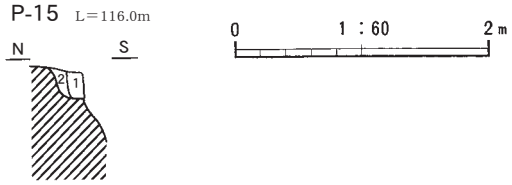
74トレンチ　11号ピット層序説明
1　黒褐　As-B 少量。砂層土若干。

74トレンチ　12号ピット層序説明
1　黒褐　As-B 極少量。砂層土ブロック（φ10㎜）若干。

74トレンチ　13号ピット層序説明
1　黒褐　砂層土ブロック（φ10㎜）少量。As-B 極少量。



74トレンチ　14号ピット層序説明
Ⅰ　表土
1　にぶい黄褐　As-C 多量。As-B 少量。
2　暗褐　As-C 少量。As-B 極少量。
3　暗褐　As-C 少量。砂層土若干。
4　暗褐　As-C 少量。炭化物・砂層ブロック（φ20㎜）・砂礫極少量。



74トレンチ　15ピット層序説明
1　黒褐　As-B・As-C・砂層土ブロック（φ10㎜）少量。
2　黒褐　As-B・As-C・砂層土・砂層土ブロック（φ10㎜）少量。

Fig. 34　74トレンチ各遺構(3)

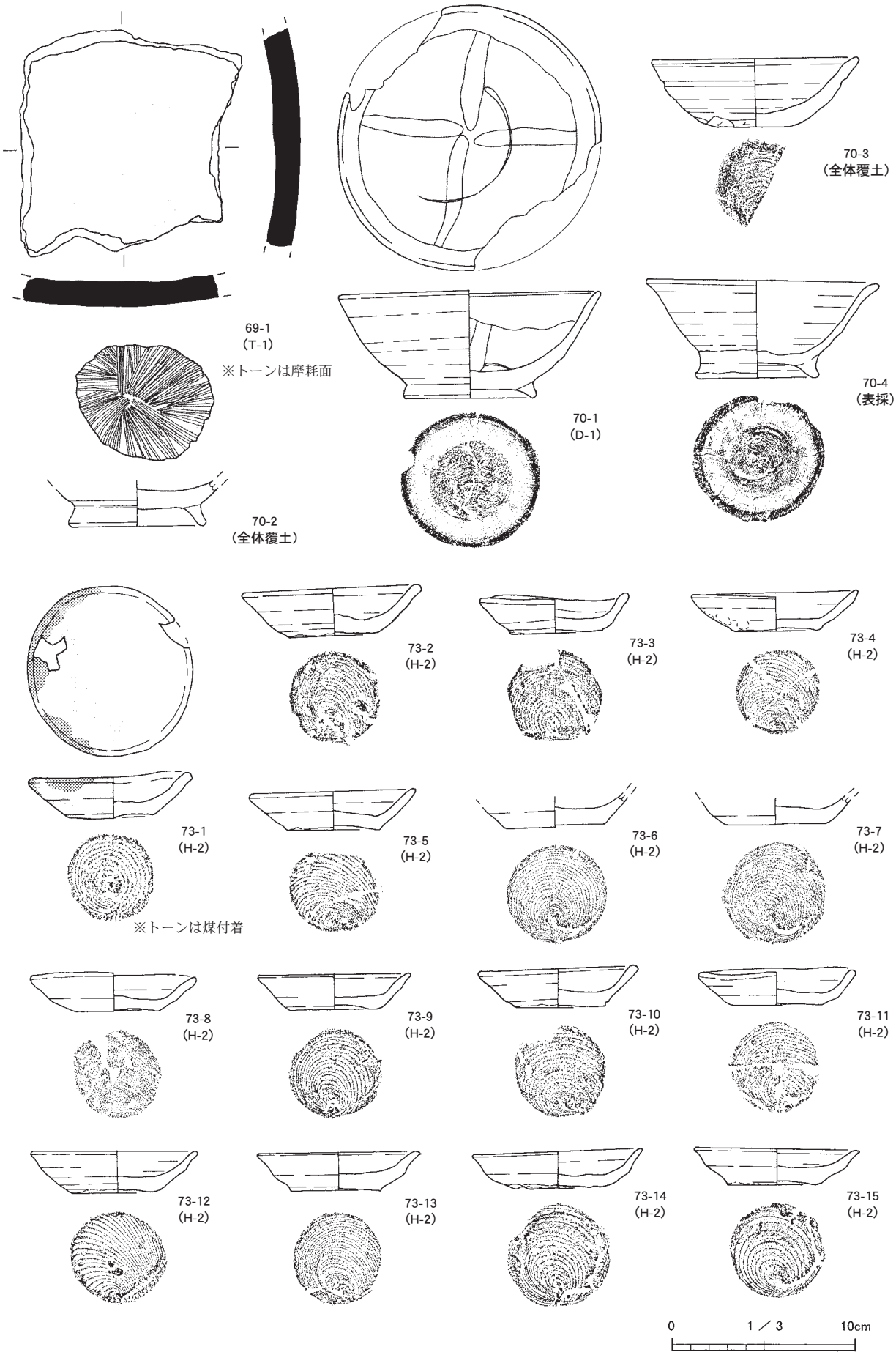


Fig. 35　遺物実測図（69・70トレンチ・73トレンチ①）

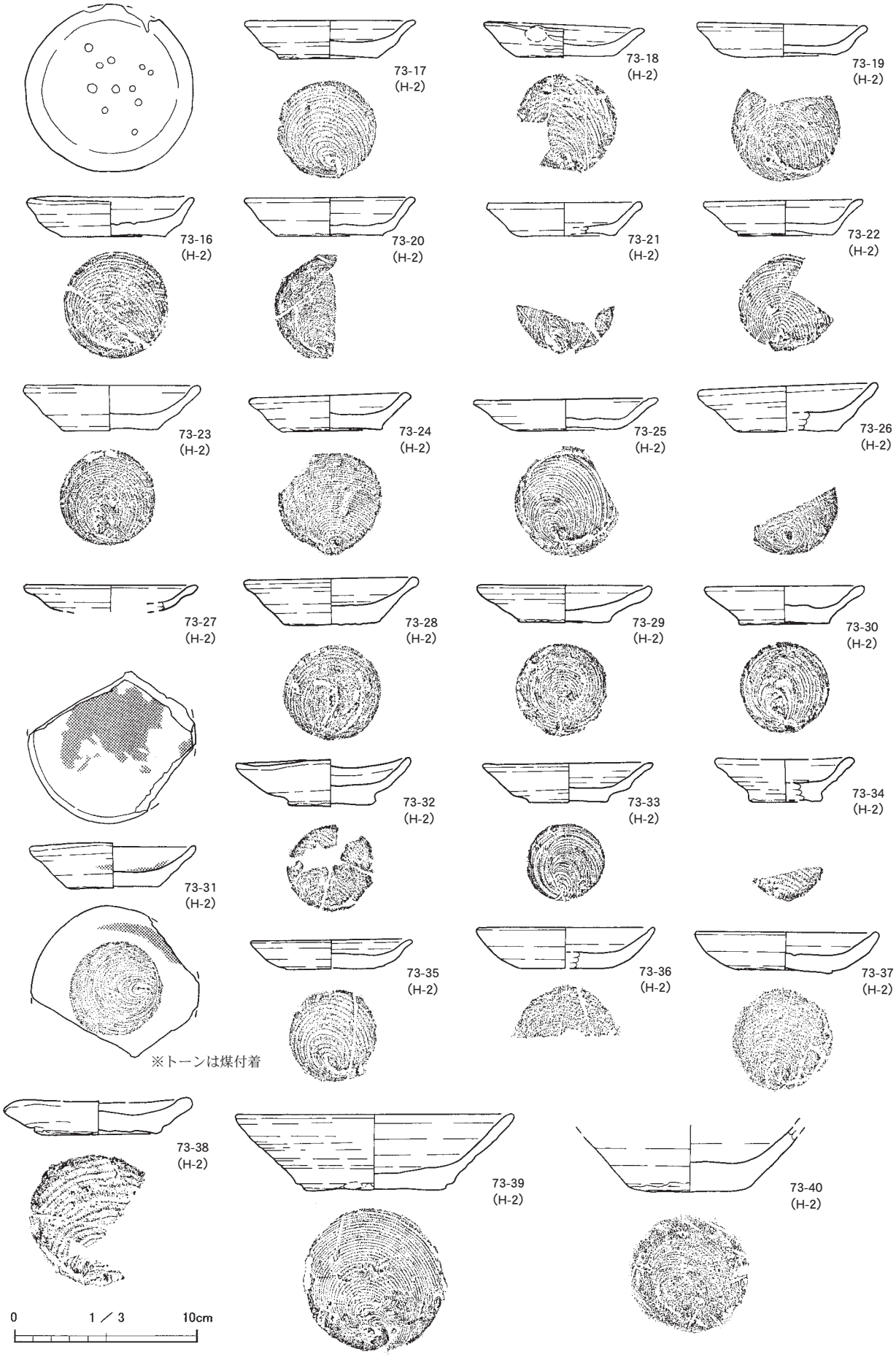


Fig. 36　遺物実測図（73トレンチ②）

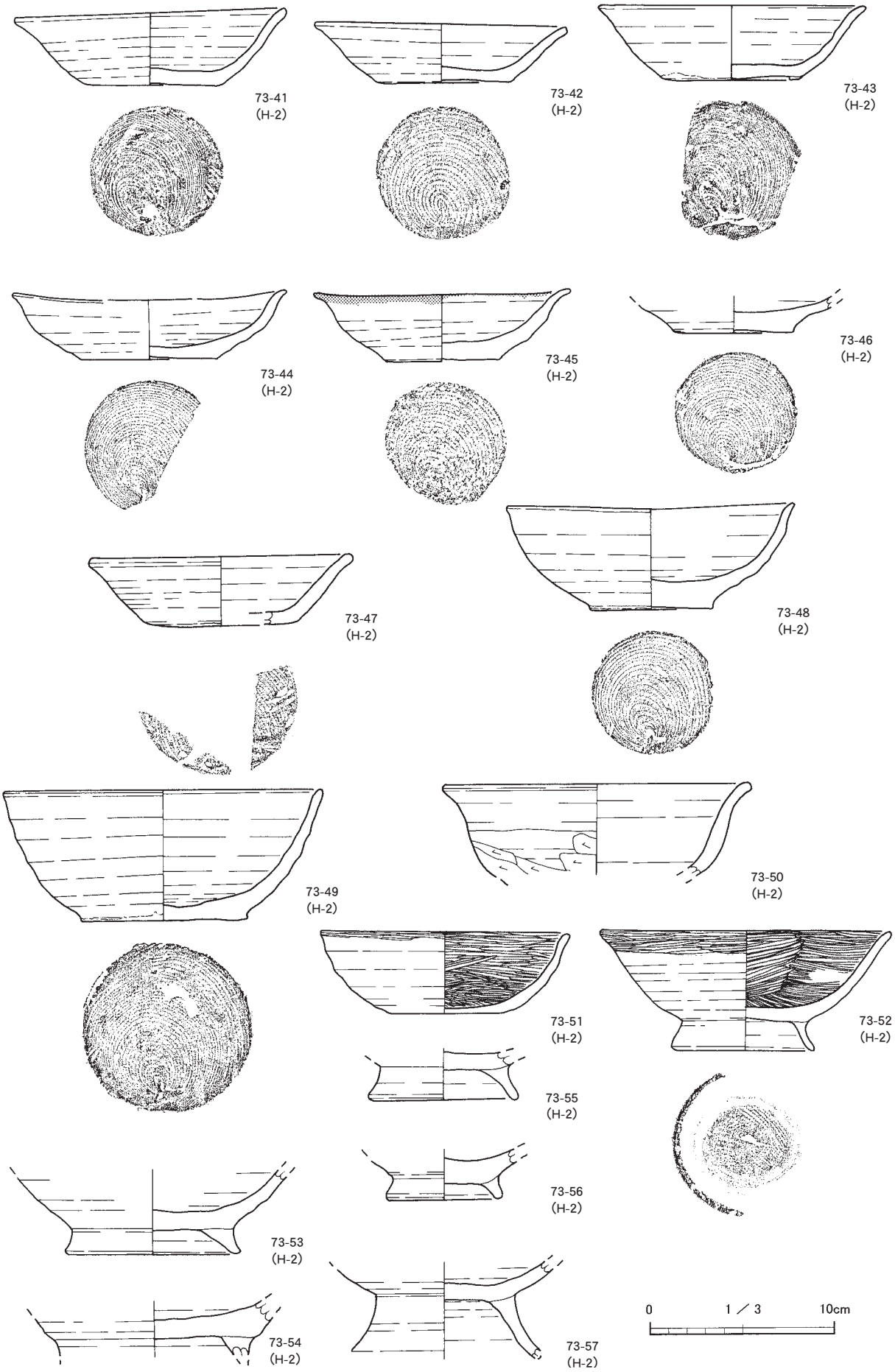


Fig. 37　遺物実測図（73トレンチ③）

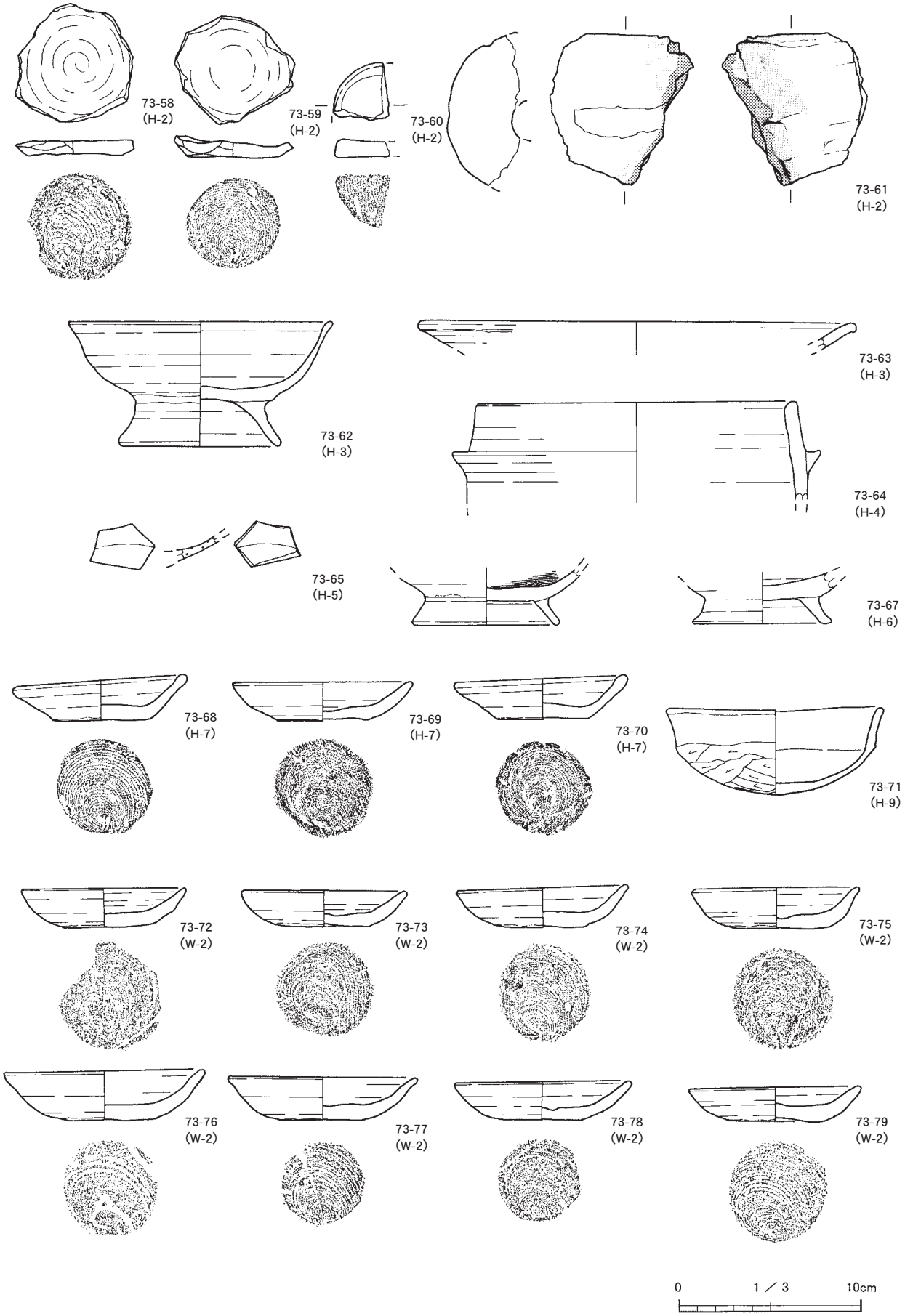


Fig. 38　遺物実測図（73トレンチ④）

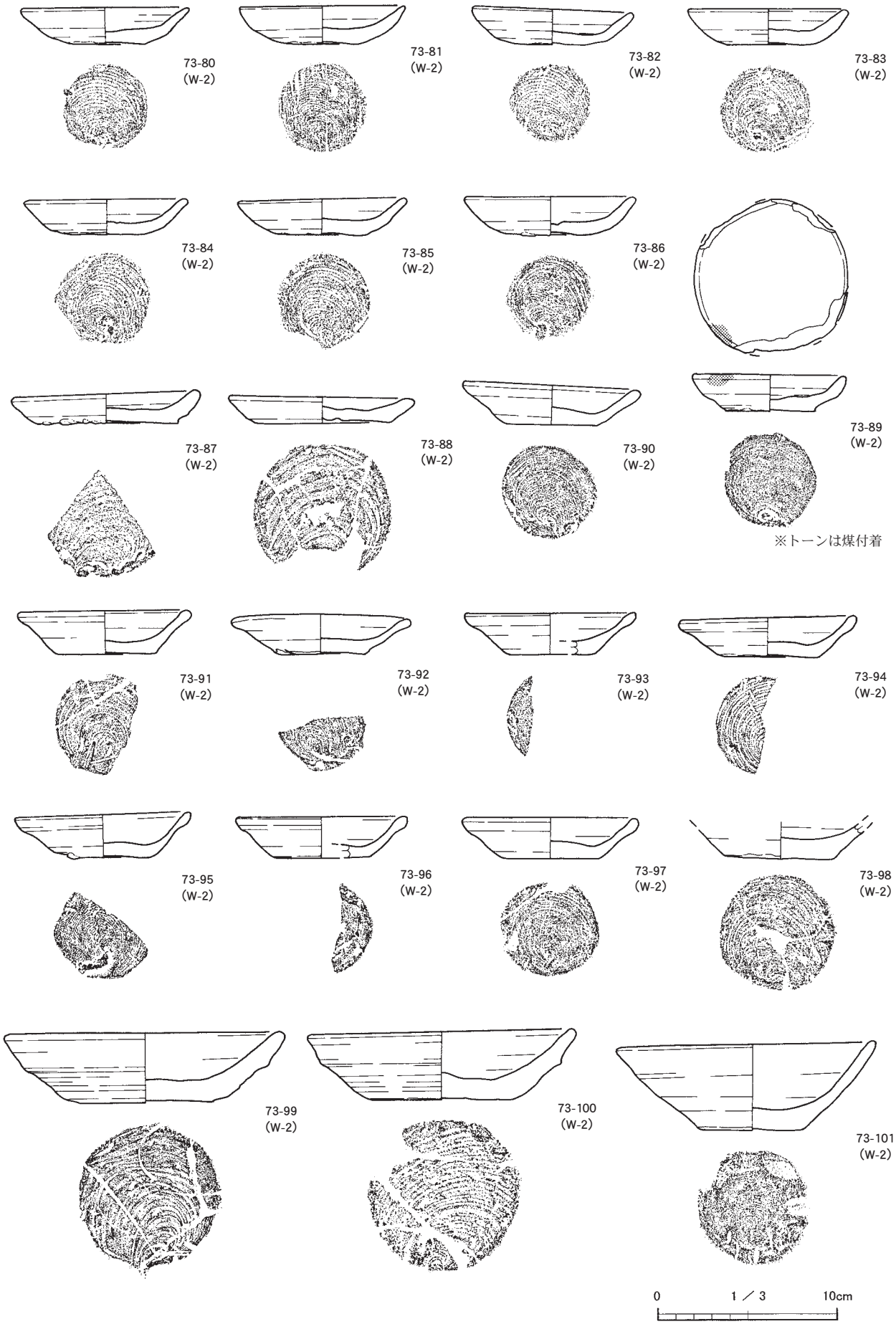


Fig. 39　遺物実測図（73トレンチ⑤）

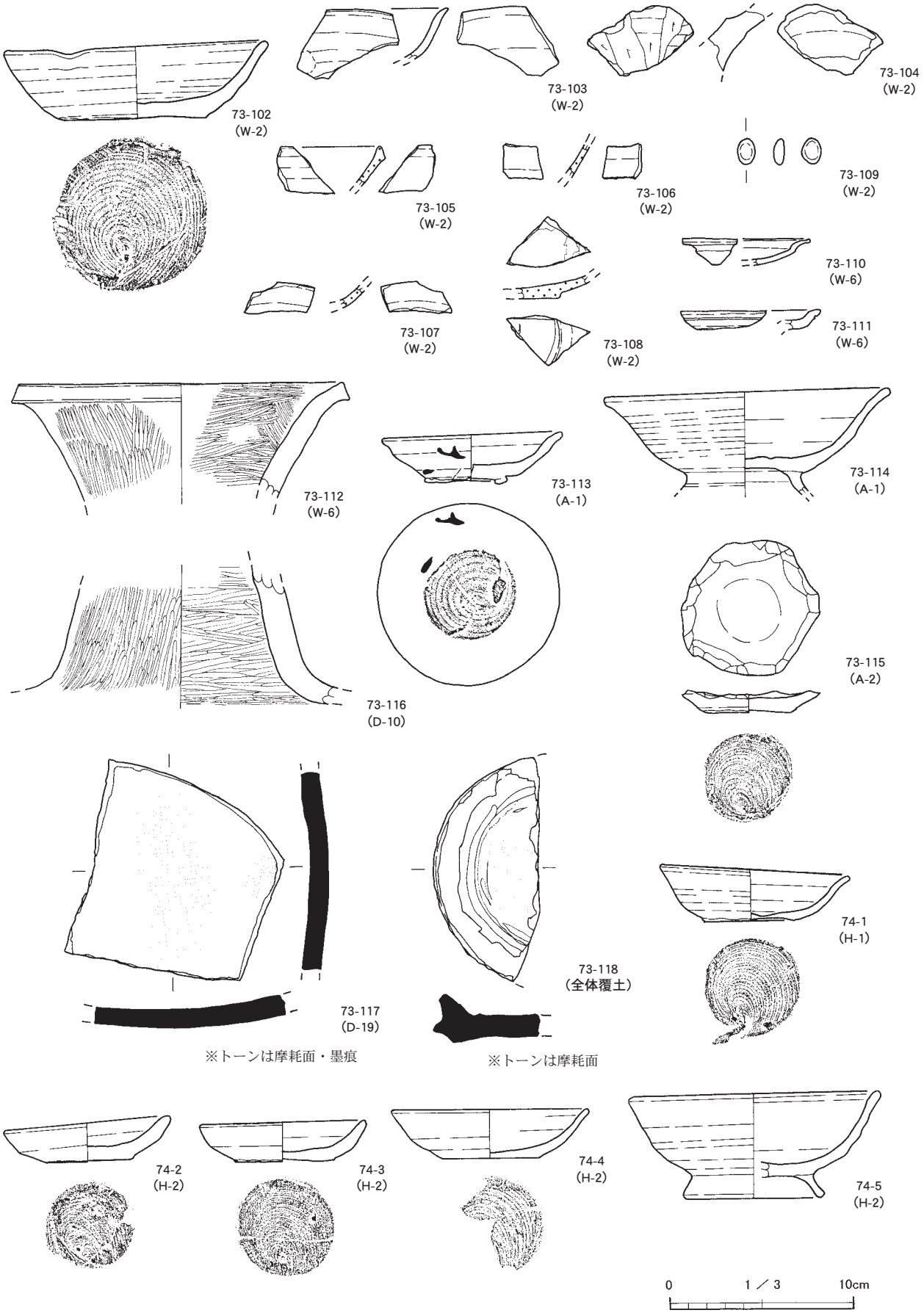


Fig. 40　遺物実測図（73トレンチ⑥・74トレンチ①）

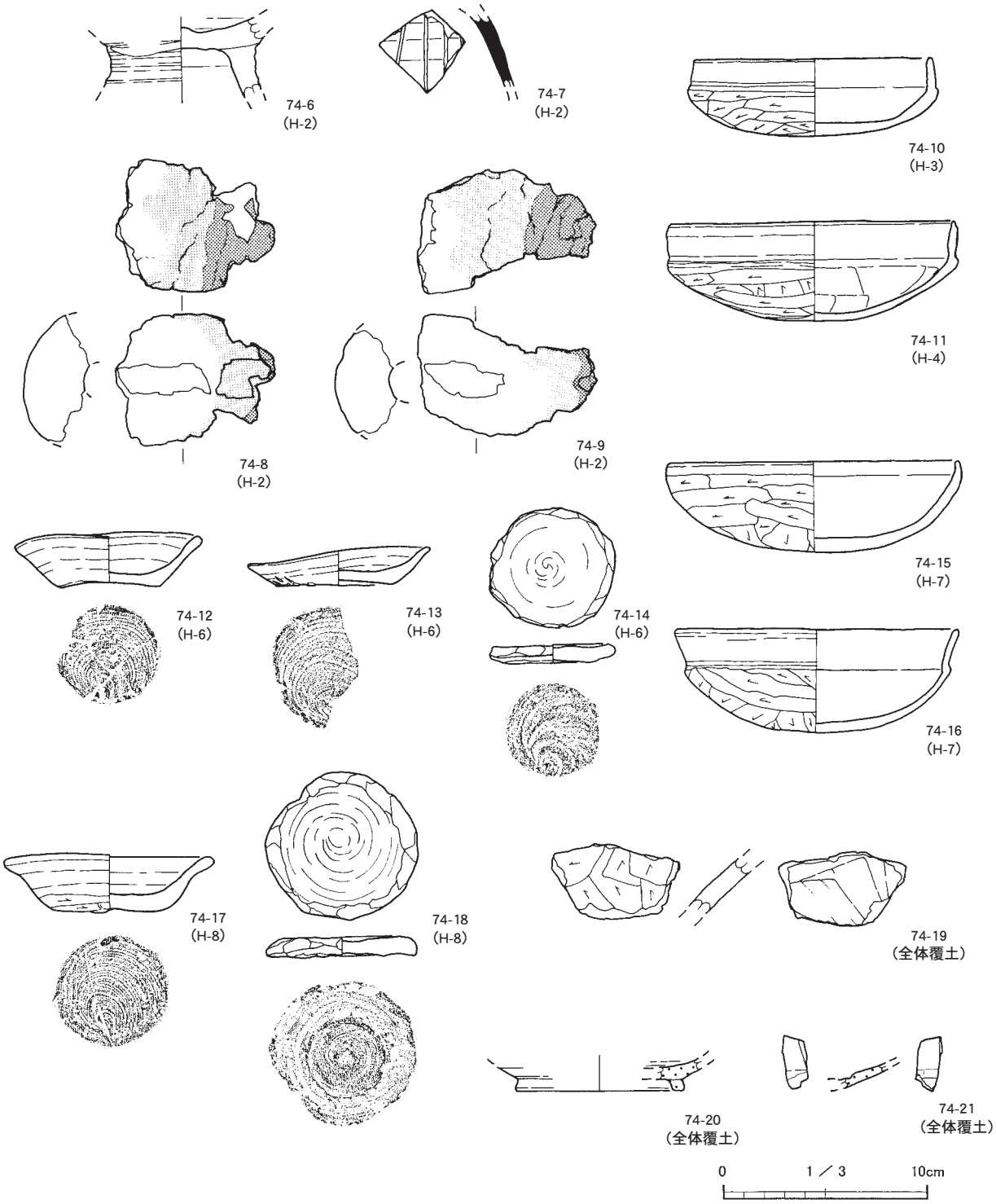


Fig. 41　遺物実測図（74トレンチ②）

Tab. 5　井戸跡・土坑・ピット　計測表

69トレンチ

１号掘立柱建物跡

遺構名	位　　置		長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形　状	白色化	鉄分沈着	当り	主な出土遺物	備　考
P 1	X226	Y178	40.0	25.0	12.0	楕円形	—	—	—	なし。	中世以降。
P 2	X225･226	Y178	25.0	25.0	5.0	円形	—	—	—	なし。	中世以降。
P 3	X225	Y178	35.0	25.0	12.0	楕円形	—	—	—	なし。	中世以降。
P 4	X225	Y179	30.0	25.0	14.5	円形	—	—	—	なし。	中世以降。
P 5	X225･226	Y179	25.0	25.0	6.0	円形	—	—	—	なし。	中世以降。
P 6	X226	Y179	20.0	20.0	9.5	楕円形	—	—	—	なし。	中世以降。

井戸跡

遺構名	位　　置		長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備　考
Ｉ－１	X225･226	Y176	260.0	250.0	(58.5)	円形	土師器（坏・甕）・酸化焔焼成須恵器（羽釜）・土師質土器（坏）・軟質土器破片。古銭（不明）。	中世以降。

土坑

遺構名	位　　置		長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備　考
Ｄ－１	X227	Y178	132.0	92.0	20.5	方形	なし。	中世以降。
Ｄ－２	X226	Y178	80.0	50.0	7.0	方形	なし。	中世以降。
Ｄ－３	X227	Y176・177	150.0	50.0	19.5	方形	土師器小片。	中世以降。
Ｄ－４	X225	Y176	100.0	65.0	6.5	方形	なし。	中世以降。
Ｄ－５	X227	Y178	115.0	72.0	5.5	方形	なし。	中世以降。

ピット

遺構名	位　　置		長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備　考
Ｐ－１	X227	Y178	35.0	25.0	10.5	不定形	なし。	中世以降。
Ｐ－２	X226	Y178	45.0	35.0	16.5	方形	なし。	中世以降。
Ｐ－３	X226	Y178	40.0	40.0	51.5	方形	なし。	中世以降。
Ｐ－４	X227	Y177	25.0	25.0	18.0	方形	なし。	中世以降。
Ｐ－５	X225	Y178	38.0	32.0	37.0	円形	酸化焔焼成須恵器小片。	中世以降。
Ｐ－６	X225	Y178	(32.0)	25.0	28.5	円形	なし。	中世以降。
Ｐ－７	X227	Y177	(40.0)	35.0	11.0	円形	土師器小片。	中世以降。
Ｐ－8a	X227	Y177	30.0	30.0	9.0	円形	なし。	中世以降。
Ｐ－8b	X227	Y177	30.0	30.0	11.5	円形	なし。	中世以降。
Ｐ－９	X226	Y178	45.0	45.0	7.0	円形	土師器小片。	中世以降。
Ｐ－10	X226	Y177	45.0	35.0	9.0	円形	なし。	中世以降。
Ｐ－11	X227	Y176	45.0	37.0	15.0	楕円形	なし。	中世以降。
Ｐ－12	X226	Y178	22.0	22.0	16.0	円形	なし。	中世以降。
Ｐ－13	X226	Y178	30.0	25.0	10.5	楕円形	なし。	中世以降。
Ｐ－14	X226	Y178	27.0	22.0	18.0	円形	なし。	中世以降。
Ｐ－15	X227	Y176	25.0	(15.0)	18.5	楕円形	なし。	中世以降。
Ｐ－16	X227	Y176	70.0	25.0	8.5	楕円形	土師器・須恵器小片。	中世以降。
Ｐ－17	X226	Y177	20.0	(20.0)	11.0	円形	なし。	中世以降。
Ｐ－18	X226	Y177	25.0	25.0	11.0	円形	なし。	中世以降。
Ｐ－19	X226	Y177	20.0	(17.0)	18.5	円形	なし。	中世以降。
Ｐ－20	X227	Y177・178	25.0	15.0	8.0	楕円形	なし。	中世以降。
Ｐ－21	X227	Y176	40.0	30.0	13.5	楕円形	なし。	中世以降。
Ｐ－22	X227	Y176	20.0	20.0	24.5	方形	なし。	中世以降。
Ｐ－23	X226	Y177	18.0	18.0	18.0	方形	なし。	中世以降。
Ｐ－24	X226	Y178	20.0	20.0	23.0	円形	なし。	中世以降。
Ｐ－25	X227	Y176	20.0	20.0	25.5	方形	なし。	中世以降。

落ち込み

遺構名	位　　置		長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備　考
Ｏ－１	X227	Y176・177	(125.0)	(100.0)	20.0	不定形	なし。	中世以降。

70トレンチ

土坑

遺構名	位　　置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備　考
D－1	X216･217　Y167	120.0	80.0	—	方形	黒色土器（椀）、酸化焔焼成須恵器（椀）、縄文土器（加曽利E式・深鉢）破片。	
D－2	X217　Y167・168	(60.0)	(40.0)	—	方形	なし。	

ピット

遺構名	位　　置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備　考
P－1	X216　Y168	25.0	25.0	—	方形	なし。	中世。

72トレンチ

井戸跡

遺構名	位　　置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備　考
I－1	X216　Y208	90.0	—	—	円形	なし。	
I－2	X218･219　Y208	90.0	—	—	円形	酸化焔焼成須恵器・軟質土器破片。	

土坑

遺構名	位　　置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備　考
D－1	X218　Y208	60.0	[55.0]	15.0	円形	須恵器破片。	
D－2	X218･219　Y208	[135.0]	80.0	37.0	楕円形	土師器(坏・甕)・かわらけ・内耳鍋破片。鉄製品。	
D－3	X219　Y208	45.0	40.0	10.0	方形	なし。	
D－4	X220　Y208	125.0	65.0	16.0	方形	なし。	
D－5	X219･220　Y208	70.0	60.0	44.5	楕円形	軟質土器小片。	P－66を振替 中世以降。
D－6	X220　Y208	[90.0]	75.0	10.5	楕円形	土師器（甕・高坏）・内耳鍋破片。	P－67を振替 中世以降。
D－7	X219･220　Y208	80.0	(65.0)	31.5	円形	なし。	P－68を振替 中世以降。

ピット

遺構名	位　　置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備　考
P－1	X216　Y208	40.0	34.0	52.0	方形	なし。	中世以降。
P－2	X216　Y208	38.0	35.0	70.0	方形	なし。	中世以降。
P－3	X216　Y208	[30.0]	22.0	42.0	方形	なし。	中世以降。
P－4	X216　Y208	25.0	20.0	54.0	方形	なし。	中世以降。
P－5	X216　Y208	20.0	15.0	50.0	方形	なし。	中世以降。
P－6	X216　Y208	20.0	20.0	11.0	方形	なし。	中世以降。
P－7	X216　Y208	25.0	25.0	14.5	円形	なし。	中世以降。
P－8	X216　Y208	[25.0]	20.0	14.0	方形	なし。	中世以降。
P－9	X216　Y208	20.0	16.0	6.0	方形	なし。	中世以降。
P－10	X216　Y208	20.0	16.0	20.0	方形	なし。	中世以降。
P－11	X216　Y208	25.0	15.0	20.0	方形	なし。	中世以降。
P－12	X216　Y208	[22.0]	[22.0]	16.0	円形	なし。	中世以降。
P－13	X216　Y208	20.0	[18.0]	12.0	円形	なし。	中世以降。
P－14	X216　Y208	15.0	15.0	34.0	方形	なし。	中世以降。
P－15	X216　Y208	15.0	13.0	30.0	方形	なし。	中世以降。
P－16	X216　Y208	19.0	18.0	34.0	方形	なし。	中世以降。
P－17	X216　Y208	19.0	16.0	34.0	方形	なし。	中世以降。
P－18	X216　Y208	19.0	15.0	30.0	方形	なし。	中世以降。
P－19	X216　Y208･209	34.0	(20.0)	50.0	方形	なし。	中世以降。
P－20	X216　Y208	30.0	20.0	30.0	方形	土師器（坏）破片。	中世以降。
P－21a	X216　Y208	(30.0)	(20.0)	28.0	方形	なし。	中世以降。
P－21b	X216　Y208	30.0	30.0	—	方形	土師器（坏）破片、かわらけ破片。	中世以降。
P－22	X216　Y208	(35.0)	20.0	12.0	方形	なし。	中世以降。
P－23	X216　Y208	18.0	18.0	50.0	方形	かわらけ破片。	中世以降。
P－24	X216　Y208	22.0	20.0	36.0	方形	なし。	中世以降。
P－25	X216　Y208	25.0	25.0	57.5	方形	なし。	中世以降。

P－26	X216	Y208	26.0	(18.0)	15.5	方形	土師器（坏）破片。	中世以降。
P－27	X216	Y208	30.0	22.0	50.5	方形	なし。	中世以降。
P－28	X216	Y208･209	22.0	15.0	28.0	方形	なし。	中世以降。
P－29	X216	Y208	15.0	15.0	18.0	方形	なし。	中世以降。
P－30	X216	Y208	25.0	25.0	80.0	方形	なし。	中世以降。
P－31	X216	Y208	20.0	15.0	32.0	方形	なし。	中世以降。
P－32	X216	Y208	25.0	17.0	64.0	方形	なし。	中世以降。
P－33	X216	Y208･209	30.0	(17.0)	51.0	方形	なし。	中世以降。
P－34	X216	Y208	40.0	33.0	63.5	方形	なし。	中世以降。
P－35	X216	Y208	[30.0]	25.0	34.0	方形	土師器（甕）破片。	中世以降。
P－36	X216	Y208	[20.0]	[20.0]	28.0	方形	なし。	中世以降。
P－37	X216	Y208	20.0	15.0	—	方形	なし。	中世以降。
P－38	X216	Y208	25.0	22.0	40.0	方形	なし。	中世以降。
P－39	X216･217	Y208	30.0	25.0	—	円形	須恵器（不明）破片。	中世以降。
P－40	X217	Y208	63.0	38.0	35.0	方形	土師器（坏・甕）破片。	中世以降。
P－41	X217	Y208	35.0	30.0	40.5	方形	なし。	中世以降。
P－42	X217	Y208	22.0	20.0	24.0	方形	なし。	中世以降。
P－43	X216･217	Y208	[25.0]	20.0	10.0	方形	なし。	中世以降。
P－44	X217	Y208	[20.0]	[15.0]	16.0	方形	なし。	中世以降。
P－45	X216･217	Y208	[25.0]	20.0	64.0	方形	なし。	中世以降。
P－46	X217	Y208	30.0	[20.0]	64.0	方形	なし。	中世以降。
P－47	X216	Y208	12.0	12.0	8.0	方形	なし。	中世以降。
P－48	X216	Y208	20.0	20.0	30.0	方形	なし。	中世以降。
P－49	X216	Y208	15.0	15.0	10.0	方形	なし。	中世以降。
P－50	X217	Y208	12.0	12.0	10.0	方形	なし。	中世以降。
P－51	X217	Y208	25.0	25.0	12.0	方形	なし。	中世以降。
P－52	X217	Y208	15.0	13.0	20.0	方形	なし。	中世以降。
P－53	X217	Y208	16.0	15.0	20.0	方形	なし。	中世以降。
P－54	X217	Y208	20.0	12.0	34.0	方形	なし。	中世以降。
P－55	X216	Y208	15.0	15.0	44.0	方形	なし。	中世以降。
P－56	X217	Y208	20.0	20.0	10.0	方形	なし。	中世以降。
P－57	X217	Y208	30.0	14.0	48.0	方形？	なし。	中世以降。
P－58	X217	Y208	15.0	12.0	10.0	方形	なし。	中世以降。
P－59	X217	Y208	32.0	23.0	36.0	方形	なし。	中世以降。
P－60	X217	Y208	20.0	17.0	40.0	方形	なし。	中世以降。
P－61	X217	Y208	22.0	22.0	40.0	方形	土師器（坏）破片、かわらけ破片。	中世以降。
P－62	X216	Y208	25.0	20.0	—	方形	なし。	中世以降。
P－63	X216	Y208	20.0	15.0	—	方形	なし。	中世以降。
P－64	X216	Y208	30.0	24.0	—	方形	なし。	中世以降。
P－65	X217	Y208	23.0	22.0	4.0	方形	なし。	中世以降。
P－66	—	—	—	—	—	—		欠番（D-５へ）
P－67	—	—	—	—	—	—		欠番（D-６へ）
P－68	—	—	—	—	—	—		欠番（D-７へ）
P－69	X218,219	Y208	60.0	42.0	59.5	方形	土師器（坏・甕）破片。	中世以降。
P－70	X219	Y208	28.0	25.0	8.0	方形	なし。	中世以降。
P－71	X219	Y208	18.0	18.0	8.0	方形	なし。	中世以降。
P－72	X219	Y208	25.0	17.0	14.0	方形	なし。	中世以降。
P－73	X219	Y208	28.0	28.0	6.0	方形	なし。	中世以降。
P－74	X219	Y208	40.0	27.0	4.0	方形	なし。	中世以降。
P－75	X219	Y208	22.0	22.0	4.0	方形	なし。	中世以降。
P－76	X219	Y208	23.0	20.0	6.0	方形	なし。	中世以降。
P－77	X219	Y208	20.0	20.0	6.0	方形	なし。	中世以降。
P－78	X219	Y208	12.0	12.0	10.0	方形	なし。	中世以降。
P－79	X219	Y208	13.0	10.0	10.0	方形	なし。	中世以降。
P－80	X219	Y208	20.0	18.0	16.0	方形	土師器（不明）破片。	中世以降。

P−81a	X219	Y208	[25.0]	[25.0]	6.0	円形	なし。	中世以降。
P−81b	X219	Y208	[25.0]	[25.0]	10.0	円形	なし。	中世以降。
P−82	X220	Y208	23.0	23.0	3.0	円形	なし。	中世以降。
P−83	X219,220	Y208	(30.0)	28.0	9.5	円形	なし。	中世以降。
P−84	X218	Y208	20.0	17.0	24.0	方形	なし。	中世以降。
P−85	X219	Y208	20.0	20.0	9.0	円形	なし。	中世以降。
P−86	X219	Y208	20.0	20.0	4.0	方形	なし。	中世以降。
P−87	X219	Y208	15.0	12.0	12.0	方形	なし。	中世以降。
P−88	X219	Y208	20.0	15.0	10.0	方形	なし。	中世以降。
P−89	X219	Y208	20.0	15.0	20.0	方形	なし。	中世以降。
P−90	X219	Y208	20.0	15.0	10.0	方形	須恵器（甕）破片。	中世以降。
P−91	X219	Y208	20.0	20.0	34.0	方形	土師器（甕）破片。	中世以降。
P−92	X220	Y208	28.0	25.0	17.5	円形	なし。	中世以降。
P−93	X220	Y208	[23.0]	15.0	7.0	円形	なし。	中世以降。
P−94	X219	Y208	22.0	22.0	8.0	円形	なし。	中世以降。
P−95	X220	Y208	40.0	40.0	24.0	円形	なし。	中世以降。
P−96	X218	Y208	15.0	15.0	18.5	方形	なし。	中世以降。
P−97	X218	Y208	20.0	(10.0)	32.5	方形	なし。	中世以降。
P−98	X218	Y208	18.0	17.0	9.5	方形	なし。	中世以降。
P−99	X219	Y208	20.0	18.0	5.0	方形	なし。	中世以降。
P−100	X217	Y208	18.0	15.0	30.0	方形	なし。	中世以降。
P−101	X216	Y208	20.0	16.0	8.0	方形	なし。	中世以降。
P−102	X216	Y208	18.0	17.0	20.0	方形	なし。	中世以降。
P−103	X216	Y208	20.0	15.0	18.0	円形	なし。	中世以降。
P−104	X216	Y208	35.0	30.0	4.0	方形	なし。	中世以降。
P−105	X216	Y208	15.0	13.0	10.0	方形	なし。	中世以降。
P−106	X219	Y208	12.0	10.0	6.0	方形	なし。	中世以降。
P−107	X219	Y208	45.0	25.0	8.0	方形	なし。	中世以降。
P−108	X219	Y208	12.0	10.0	10.0	方形	なし。	中世以降。
P−109	X219	Y208	15.0	12.0	8.0	方形	なし。	中世以降。
P−110	X219	Y208	(42.0)	[35.0]	10.0	方形	なし。	中世以降。
P−111	X219	Y208	[30.0]	[25.0]	16.0	方形	なし。	中世以降。
P−112	X219	Y208	[18.0]	[18.0]	—	方形	なし。	中世以降。
P−113	X219	Y208	—	—	16.0	不明	なし。	中世以降。
P−114	X219	Y208	[20.0]	[12.0]	4.0	方形	なし。	中世以降。
P−115	X219	Y208	30.0	22.0	4.0	方形	なし。	中世以降。
P−116	X219	Y208	18.0	18.0	12.0	方形	なし。	中世以降。
P−117	X219	Y208	26.0	25.0	4.0	円形	なし。	中世以降。
P−118	X219	Y208	[28.0]	20.0	6.0	方形	なし。	中世以降。
P−119	X220	Y208	20.0	15.0	12.0	方形	なし。	中世以降。
P−120	X220	Y208	23.0	20.0	4.0	方形	なし。	中世以降。
P−121	X220	Y208	[30.0]	[30.0]	12.0	方形	なし。	中世以降。
P−122	X220	Y208	[40.0]	[38.0]	16.0	方形	なし。	中世以降。
P−123	X220	Y208	50.0	38.0	16.0	方形	なし。	中世以降。
P−124	X219	Y208	30.0	22.0	14.0	方形	なし。	中世以降。
P−125	X219	Y208	28.0	25.0	4.0	方形	なし。	中世以降。
P−126	X219	Y208	26.0	10.0	10.0	方形	なし。	中世以降。
P−127	X219･220	Y208	20.0	12.0	12.0	方形	なし。	中世以降。
P−128	X220	Y208	27.0	25.0	26.0	方形	なし。	中世以降。
P−129	X220	Y208	18.0	12.0	10.0	方形	なし。	中世以降。
P−130	X220	Y208	20.0	(13.0)	10.0	方形	なし。	中世以降。
P−131	X220	Y208	20.0	20.0	8.0	方形	なし。	中世以降。
P−132	X217	Y208	30.0	22.0	38.0	方形	なし。	中世以降。

73トレンチ

2号竪穴建物跡

遺構名	位	置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備　考
P1	X235	Y219	[68.0]	50.0	26.0	楕円形	酸化焔焼成須恵器（坏）・土師質土器（皿）破片。	

6号竪穴建物跡

遺構名	位	置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備　考
P1	X235	Y216	20.0	16.0	12.5	円形	土師器（甕）破片。	
P2	X235	Y216	18.0	17.0	14.0	円形	なし。	
P3	X235	Y216	[30.0]	28.0	6.5	円形	なし。	
P4	X235	Y216	[20.0]	20.0	3.0	円形	なし。	
P5	X235	Y215	20.0	18.0	10.0	円形	なし。	
P6	X236	Y215	20.0	15.0	5.5	円形	なし。	

7号竪穴建物跡

遺構名	位	置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備　考
炉跡	X235	Y215	63.0	43.0	9.5	—	なし。	

9号竪穴建物跡

遺構名	位	置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備　考
P1	X238	Y215	25.0	20.0	10.0	円形	なし。	

井戸跡

遺構名	位	置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備　考
Ⅰ－1	X234	Y216	100.0	98.0	—	円形	土師器（甕）・酸化焔焼成須恵器（坏・椀）・土師質土器（坏）破片。	中世以降。
Ⅰ－2	X234	Y216	[195.0]	[94.0]	—	楕円形	土師器（坏）・土師質土器（坏）・灰釉陶器（不明）破片。	中世以降。
Ⅰ－3	X234	Y222	110.0	94.0	—	円形	土師器（坏）・須恵器（椀）・土師質土器（皿）破片。結晶片岩破片。	中世以降。
Ⅰ－4	X237	Y216	200.0	182.0	—	円形	土師器（坏・甕）・須恵器（甕）・酸化焔焼成須恵器（坏）・灰釉陶器（椀）・陶器破片。	中世以降。

土坑

遺構名	位	置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備　考
D－1	X234	Y216・217	155.0	55.0	49.5	長方形？	土師器（坏・甕）破片。	中世以降。
D－2	X235	Y216	120.0	110.0	20.0	楕円形	なし。	古代。
D－3	X234･235	Y216	[125.0]	105.0	21.0	長方形	土師器（甕）・須恵器（高坏）・酸化焔焼成須恵器（椀）・土師質土器（皿）破片。	中世。
D－4	X235	Y219	[165.0]	158.0	35.0	楕円形	酸化焔焼成須恵器（椀）・土師質土器（坏）破片。敲石。鉄滓。	古代。
D－5	—	—	—	—	—	—	—	欠番（H-2へ）
D－6	X235	Y216	136.0	72.0	13.0	長方形	土師器（坏）・酸化焔焼成須恵器小片。	中世。
D－7	X236	Y216	70.0	66.0	25.0	方形	土師器（坏・甕）破片。	中世。
D－8	X235･236	Y217	133.0	43.0	16.5	長方形	土師器（坏・甕）破片。土師質土器小片。滑石製臼玉。	中世。
D－9	X235	Y215	75.0	59.0	19.5	楕円形	須恵器・土師質土器小片。酸化焔焼成須恵器（坏）破片。	中世。
D－10	X236～238	Y215・216	930.0	288.0	40.5	溝状	土師器（坏・甕）・須恵器（甕）・土師質土器（皿・鉢）破片。鉄滓。敲石。瓦片。	古代。
D－11	X236	Y216	53.0	42.0	15.5	長方形	酸化焔焼成須恵器・土師質土器小片。	中世。
D－12	X236	Y217	170.0	82.0	18.5	長方形	土師器（坏・甕）・土師質土器（坏）破片。	中世。
D－13	X236	Y216	96.0	[95.0]	5.0	楕円形	土師器（坏・甕）・土師質土器（坏）破片。	中世。
D－14	X236	Y216	[100.0]	110.0	21.0	方形	土師器（坏・甕）・須恵器（甕）破片。	古代。
D－15	X237	Y216・217	65.0	55.0	10.0	方形	土師器小片、須恵器（甕？）破片。鉄滓。	中世。
D－16	X237	Y217	144.0	83.0	30.0	長方形	酸化焔焼成須恵器（椀）・土師質土器（皿）破片。	中世。
D－17	X237	Y217	70.0	[25.0]	12.5	楕円形	鉄製品（不明）。	中世。
D－18	X236	Y216	70.0	[50.0]	14.0	円形？	土師器（坏）・土師質土器（坏）破片。	古代？
D－19	X238	Y216	[90.0]	62.0	[21.0]	楕円形？	土師質土器（土釜）破片。須恵器転用硯。	古代。
D－20	X235	Y215	[90.0]	[40.0]	25.5	円形？	土師器（坏）破片。	古代。

D－21	X238	Y216	[85.0]	[45.0]	30.0	不定形	土師器（坏・甕・高坏）破片。	古代。
D－22	X234･235	Y222	[105.0]	[95.0]	37.5	楕円形？	土師器（甕）・土師質土器（坏）破片。	古代。

ピット

遺構名	位	置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備　考
P－1	X234	Y220	50.0	43.0	38.5	円形	土師器（甕）破片。	古代。当り有。
P－2	X236	Y217	[68.0]	[30.0]	34.5	円形	なし。	古代。
P－3	X236	Y217	80.0	50.0	17.5	楕円形	土師器（坏・甕）・酸化焔焼成須恵器（坏）破片。	古代。
P－4	X237	Y217	35.0	30.0	15.0	円形	土師器（甕）破片。	中世。
P－5	X237	Y215	67.0	46.0	9.0	楕円形	土師器（坏）・酸化焔焼成須恵器（坏）破片。須恵器小片。	古代。
P－6	X237	Y215	35.0	34.0	15.0	円形	酸化焔焼成須恵器(椀)・土師質土器（鉢？）破片。	古代。
P－7a	X237	Y215	[70.0]	[50.0]	43.5	円形	土師器小片。	古代。当り有。
P－7b	X237	Y215			50.0	円形		古代。当り有。
P－8	X236	Y215	40.0	40.0	7.5	円形	土師器（坏・甕）・須恵器（瓶？）破片。	古代。
P－9	X237	Y215	37.0	30.0	21.0	円形	なし。	古代。
P－10	X236	Y217	30.0	25.0	16.1	円形	縄文土器(深鉢)・土師器（甕）・須恵器（甕）破片。	中世。
P－11	X236･237	Y216	20.0	20.0	8.5	円形	土師器（坏・甕）破片。酸化焔焼成須恵器小片。	古代。当り有。
P－12	X237	Y216	60.0	55.0	56.0	円形	土師器（坏）破片。	古代。当り有。
P－13	X237	Y216	60.0	55.0	52.0	円形	土師器（坏）破片。	古代。当り有。
P－14	X238	Y215	45.0	45.0	38.5	円形	土師器小片。	古代。
P－15	X236	Y216	43.0	43.0	4.0	円形	なし。	古代。
P－16	X236	Y216	[55.0]	45.0	38.0	楕円形	土師器小片。酸化焔焼成須恵器（坏）破片。鉄滓。	中世。当り有。
P－17	X236	Y216	52.0	[22.0]	16.5	円形	なし。	中世。
P－18	X238	Y216	45.0	30.0	39.0	楕円形	土師器（坏・甕）破片。	古代。
P－19	X238	Y215	45.0	45.0	18.0	円形	土師器小片。須恵器小片。	古代。
P－20	X238	Y215・216	25.0	23.0	41.5	円形	なし。	中世。
P－21	X238	Y215	[25.0]	23.0	—	不明	なし。	古代。当り？
P－22	X238	Y216	47.0	30.0	25.0	楕円形	酸化焔焼成須恵器（椀）・土師質土器（坏）破片・小片。	古代。
P－23	X237	Y216	35.0	25.0	45.0	楕円形	なし。	古代。
P－24	X238	Y215	18.0	18.0	—	円形	なし。	時期不明。
P－25	X238	Y215	13.0	13.0	—	円形	なし。	時期不明。
P－26	X234	Y220	33.0	30.0	21.0	円形	なし。	中世。
P－27	X234	Y220	25.0	20.0	16.0	円形	なし。	中世。
P－28	X238	Y216	20.0	17.0	22.0	楕円形	なし。	古代。
P－29	X238	Y216	35.0	[13.0]	24.0	楕円形	土師器（坏・甕）破片。須恵器小片。	古代。
P－30	X237	Y215	35.0	25.0	10.0	楕円形	なし。	古代。
P－31	X234･235	Y215	50.0	50.0	27.0	円形	土師器小片。酸化焔焼成須恵器（坏）破片。	古代。
P－32	X234	Y215	[45.0]	40.0	26.0	円形	土師器（坏・甕）破片・小片。	古代。
P－33	X234	Y215	30.0	22.0	30.0	円形	なし。	時期不明。
P－34	X234	Y215	40.0	25.0	30.5	円形	なし。	時期不明。
P－35	X237･238	Y216	30.0	25.0	41.5	円形	土師器（坏）破片。	古代。
P－36	X238	Y216	22.0	[15.0]	17.0	円形	土師器（甕）破片。	古代。
P－37	X237	Y215	25.0	21.0	16.0	円形	なし。	古代。
P－38	X237	Y215	35.0	30.0	4.0	瓢箪形	なし。	古代。
P－39	X238	Y215	20.0	5.0	18.0	方形	なし。	中世。
P－40	X234	Y221	40.0	35.0	(47.5)	円形	なし。	古代。
P－41	X237	Y216	25.0	20.0	6.5	円形	なし。	古代。
P－42	X237	Y217	15.0	14.0	12.0	円形	なし。	中世。
P－43	X234	Y222	50.0	[25.0]	42.0	円形	土師器（甕）破片。	古代。当り有。
P－44	X234	Y219	35.0	26.0	17.0	楕円形	なし。	古代。
P－45	X235	Y215	[45.0]	50.0	11.0	楕円形	なし。	古代。
P－46	—	—	—	—	—	—	—	欠番。(W-8)
P－47	X234	Y216	22.0	20.0	—	円形	なし。	硬化面のみ。中世

P－48	X235	Y220	[30.0]	[25.0]	60.0	円形	土師器（甕）・須恵器（器種不明）破片。	古代。当り有。
P－49	X234	Y221	[30.0]	[10.0]	50.0	円形	なし。	古代。当り有。
P－50	X234	Y221	[17.0]	[15.0]	10.0	円形	なし。	中世。
P－51	X234	Y221	[20.0]	[15.0]	12.0	円形	なし。	中世。
P－52	X234	Y218	20.0	17.0	8.0	円形	なし。	古代。
P－53	X234	Y219	22.0	[17.0]	3.0	円形	なし。	古代。
P－54	X235	Y219	35.0	30.0	—	円形？	なし。	硬化面のみ。 中世？

74トレンチ

２号竪穴建物跡

遺構名	位	置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備　考
P_1	X243	Y221	20.0	18.0	11.5	円形	なし。	
P_2	X242	Y221	15.0	15.0	16.0	円形	なし。	
P_3	X242	Y222	18.0	15.0	17.0	円形	なし。	
P_4	X242	Y222	62.0	60.0	27.0	円形	土師器（坏・甕）破片。	
P_5	X242	Y222	23.0	15.0	13.0	楕円形	なし。	
P_6	X242	Y222	17.0	14.0	17.0	円形	なし。	
P_7	X243	Y222	40.0	38.0	23.0	円形	土師器(甕)・酸化焔焼成須恵器（坏・羽釜）破片。	
P_8	X243	Y222	(20.0)	20.0	25.0	円形	なし。	

３号竪穴建物跡

遺構名	位	置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備　考
P_1	X242	Y221	(60.0)	[48.0]	50.0	方形	土師器（坏）破片。	貯蔵穴

７号竪穴建物跡

遺構名	位	置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備　考
P_1	X242	Y223	—	—	33.0	不定形	土師器（坏・甕）破片。	床下土坑
P_2	X242	Y223	(55.0)	(50.0)	32.0	不定形	土師器（甕）破片。	
P_2	X242	Y223	—	—	30.0	不定形	土師器（坏）破片。	床下土坑

井戸跡

遺構名	位	置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備　考
考								
Ｉ－１a	X313	Y309	[150.0]	[60.0]	—	円形	内耳鍋・擂鉢破片。砥石。石臼破片。陶製円板（転用品）。礫片（結晶片岩）。土師器（甕）・酸化焔焼成須恵器（坏）破片。	
Ｉ－１b	X314	Y310	[76.0]	[25.0]	—	円形		

ピット

遺構名	位	置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備　考
P－1	X243	Y221	25.0	25.0	25.5	円形	なし。	中世
P－2	X242	Y221	30.0	20.0	7.5	楕円形	土師器（甕）破片。	中世
P－3	X242	Y222	10.0	10.0	4.0	円形	なし。	中世
P－4	X242	Y222	18.0	18.0	7.0	円形	なし。	中世
P－5	X242	Y222	20.0	20.0	8.0	円形	なし。	中世
P－6	X242	Y222	24.0	15.0	13.5	楕円形	土師器（甕）破片。	中世
P－7	X242	Y222・223	[35.0]	[35.0]	25.0	円形	なし。	中世
P－8	X242	Y222・223	[35.0]	[30.0]	26.0	円形	土師器（甕）・酸化焔焼成須恵器（坏）破片。	中世
P－9	X242	Y223	35.0	35.0	35.5	方形	土師器（甕）破片。	中世
P－10	X242	Y221	50.0	43.0	40.0	円形	須恵器（坏）・酸化焔焼成須恵器（坏）破片。	
P－11	X242	Y221	33.0	30.0	9.0	円形	なし。	中世
P－12	X242	Y223	24.0	22.0	17.0	円形	土師器（坏）・土師質土器（羽釜？）破片。	
P－13	X242	Y222	45.0	45.0	65.5	円形	土師器（坏・甕）破片。	
P－14	X242	Y221・222	60.0	45.0	46.5	円形	土師器（坏・甕）・酸化焔焼成須恵器（坏）破片。	
P－15	X242	Y223	40.0	(25.0)	27.5	円形	酸化焔焼成須恵器（坏）・土師質土器（坏）破片。	

Tab. 6　遺物観察表

69トレンチ

番号	出土遺構層位	器種名	①口径　②器高 ③底径　④つまみ径	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
69―1	T―1 覆土	須恵器 転用硯	長(12.2)　幅(12.0) 厚　1.4	①中粒　②良好 ③灰　④破片	須恵器大甕の胴部の破片を硯に転用したもの。使用による研磨で青海波が磨り消えている部分あり。		

70トレンチ

番号	出土遺構層位	器種名	①口径　②器高 ③底径　④つまみ径	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
70―1	D―1 覆土	黒色土器 椀	① 14.2　② 5.8 ③ 7.2	①細粒　②良好 ③にぶい黄橙④4/5	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。器体内面は口縁部を帯状・体部内面を十字に磨き黒色処理。底部は回転糸切り未調整で高台を接着し回転横なでで調整。	1	
70―2	全体覆土	黒色土器 椀	①　―　②(2.5) ③ 7.4	①細粒　②良好 ③にぶい橙④底部のみ	体部は回転横なでで整形し、器体内面は放射状の磨き黒色処理。底部は回転糸切り未調整で、高台を接着した後に回転横なでで整形。		
70―3	全体覆土	須恵器 坏	①[11.2]　② 3.7 ③[4.0]	①細粒　②良好 ③にぶい黄橙④1/3	口縁部・体部内外面は回転横なで整形。特に口縁部外面は段をもつる。底部は回転糸切り未調整。		酸化焔
70―4	表面採集	須恵器 椀	① 12.6　② 5.4 ③ 6.6	①細粒　②良好 ③にぶい橙④3/4	口縁部・体部内外面は回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整で、高台を接着した後に回転横なでで調整。		酸化焔

73トレンチ

番号	出土遺構層位	器種名	①口径　②器高 ③底径　④つまみ径	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
73―1	H―2 床直	土師質 皿	① 8.9　② 2.5 ③ 4.6	①細粒。赤褐色粒含 ②良好　③橙 ④ほぼ完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。底部内面中央凸。内面および外面口縁部が煤こげ付着。	1	
73―2	H―2 床直	土師質 皿	① 9.7　② 2.6 ③ 5.0	①細粒。赤褐色粒含 ②良好　③橙 ④完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。底部内面中央凸。	37	
73―3	H―2 床直	土師質 皿	① 8.1　② 2.1 ③ 5.1	①細粒。赤褐色粒含 ②良好　③浅黄橙 ④ほぼ完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。底部内面中央凸。	33	
73―4	H―2 覆土	土師質 皿	① 9.0　② 2.1 ③ 4.7	①細粒。赤褐色粒含 ②良好　③浅黄橙 ④3/2	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。		
73―5	H―2 床直	土師質 皿	①[9.0]　② 2.2 ③ 5.0	①細粒。赤褐色粒含 ②良好　③浅黄橙 ④1/2	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。底部内面中央凸。	62	
73―6	H―2 覆土	土師質 皿	①　―　②(1.6) ③ 5.4	①細粒。赤褐色粒含 ②良好　③にぶい黄橙 ④底部	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。底部内面中央凸。	59	
73―7	H―2 覆土	土師質 皿	①　―　②(1.5) ③ 5.4	①細粒。赤褐色粒含 ②良好　③浅黄橙 ④底部	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。	61	
73―8	H―2 床直	土師質 皿	① 9.0　② 2.1 ③ 4.5	①細粒。赤褐色粒含 ②良好　③浅黄橙 ④2/3	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。	66	
73―9	H―2 覆土	土師質 皿	①[8.3]　② 1.9 ③ 4.8	①細粒。中粒混②良好 ③橙　④1/2	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。		
73―10	H―2 床直	土師質 皿	① 8.6　② 2.2 ③ 4.9	①細粒。赤褐色粒含 ②良好　③橙　④2/3	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。	26	
73―11	H―2 覆土	土師質 皿	① 8.5　② 2.1 ③ 4.9	①細粒。赤褐色粒含 ②良好　③にぶい黄橙 ④完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。底部内面中央凸。		
73―12	H―2 覆土	土師質 皿	①[9.0]　② 2.3 ③ 4.8	①細粒。中粒含②良好 ③浅黄橙　④1/2	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。底部内面中央凸。	18	
73―13	H―2 床直	土師質 皿	① 8.8　② 2.1 ③ 4.9	①細粒　②良好 ③浅黄橙　④3/4	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。	63	
73―14	H―2 床直	土師質 皿	① 9.1　② 2.1 ③ 5.5	①細粒　②良好 ③浅黄橙　④ほぼ完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。	39	
73―15	H―2 床直	土師質 皿	① 8.9　② 2.0 ③ 5.0	①細粒。赤褐色粒含 ②良好　③浅黄橙 ④ほぼ完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。	67	
73―16	H―2 覆土	土師質 皿	① 9.1　② 2.2 ③ 5.7	①細粒　②良好 ③褐灰　④ほぼ完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。内面に浅い円形の刺突を不規則に施す。		

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径　②器高 ③底径　④つまみ径	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備考
73—17	H—2 床直	土師質 皿	①　9.2　②　2.1 ③　5.4	①細粒　②良好 ③浅黄橙　④ほぼ完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。底部内面中央凸。	13	
73—18	H—2 覆土	土師質 皿	①　8.7　②　1.9 ③　5.3	①細粒　②良好 ③浅黄橙　④6/5	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。		
73—19	H—2 床直	土師質 皿	①　9.2　②　1.9 ③　5.9	①細粒。赤褐色粒含 ②良好　③浅黄橙 ④2/3	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。	10	
73—20	H—2 覆土	土師質 皿	①[9.3]　②　2.1 ③　5.8	①細粒。赤褐色粒含 ②良好　③灰白 ④1/3	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。		
73—21	H—2 床直	土師質 皿	①[8.4]　②　1.8 ③　5.2	①細粒。赤褐色粒含 ②良好　③にぶい黄橙 ④2/5	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。	43	
73—22	H—2 覆土	土師質 皿	①　8.6　②　2.0 ③　5.2	①細粒　②良好 ③橙　④2/3	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。		
73—23	H—2 覆土	土師質 皿	①[9.6]　②　2.5 ③　5.2	①細粒　②良好 ③浅黄橙　④1/2	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。	45	
73—24	H—2 床直	土師質 皿	①[8.8]　②　2.0 ③　5.7	①細粒。赤褐色粒含 ②良好　③橙　④2/3	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。底部内面中央凸。	5	
73—25	H—2 覆土	土師質 皿	①[9.9]　②　1.7 ③　5.8	①細粒　②良好 ③にぶい橙④1/3	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。底部内面中央凸。		
73—26	H—2 覆土	土師質 皿	①[9.8]　②　2.6 ③[5.6]	①細粒。赤褐色粒含 ②良好　③にぶい黄橙 ④1/3	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。	51	
73—27	H—2 覆土	土師質 皿	①[9.5]　②(1.4) ③　—	①細粒。中粒含②良好 ③にぶい黄橙④口縁部	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。		P_1出土
73—28	H—2 覆土	土師質 皿	①[9.5]　②　2.5 ③　5.2	①細粒。赤褐色粒含 ②良好　③浅黄橙 ④1/2	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。	49	
73—29	H—2 覆土	土師質 皿	①[9.5]　②　2.0 ③　5.0	①細粒　②良好 ③褐灰　④1/2	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。	3	
73—30	H—2 床直	土師質 皿	①[8.7]　②　2.1 ③　4.9	①細粒。赤褐色粒含 ②良好　③橙　④2/3	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。	17	
73—31	H—2 覆土	土師質 皿	①　9.0　②　2.4 ③　5.1	①細粒　②良好 ③にぶい黄橙④2/3	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。内面および外面口縁部が煤こげ付着。	50	
73—32	H—2 床直	土師質 皿	①　9.5　②　2.6 ③　4.7	①細粒。赤褐色粒含 ②普通　③浅黄橙 ④ほぼ完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。	64	
73—33	H—2 床直	土師質 皿	①[9.2]　②　2.1 ③　4.2	①細粒。中粒含②良好 ③橙　④1/2	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。	22	
73—34	H—2 覆土	土師質 皿	①[7.6]　②　2.4 ③[4.0]	①細粒　②良好 ③橙　④1/4	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。		
73—35	H—2 覆土	土師質 皿	①[8.8]　②　1.6 ③　4.8	①細粒　②良好 ③褐灰　④2/3	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。		
73—36	H—2 覆土	土師質 皿	①[9.7]　②　2.2 ③[5.3]	①細粒。赤褐色粒含 ②良好　③浅黄橙 ④1/2	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。	56	
73—37	H—2 覆土	土師質 皿	① 10.0　②　2.3 ③　5.4	①細粒。赤褐色粒含 ②良好　③にぶい橙 ④ほぼ完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。底部内面中央凸。	54,68	
73—38	H—2 覆土	土師質 皿	① 10.2　②　2.0 ③　7.0	①細粒　②良好 ③橙　④1/2	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。底部内面中央凸。	47	
73—39	H—2 床直	土師質 坏	①[15.1]　②　4.1 ③　7.8	①細粒　②良好 ③浅黄橙　④1/2	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。	4	
73—40	H—2 床直	土師質 坏	①　—　②(3.6) ③　6.0	①細粒　②普通 ③浅黄橙　④底部	体部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。	60	
73—41	H—2 床直	土師質 坏	① 14.6　②　4.2 ③　7.0	①細粒　②良好 ③橙　④完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。	65	
73—42	H—2 床直	土師質 坏	① 13.6　②　3.4 ③　7.2	①細粒。赤褐色粒含 ②良好　③にぶい黄橙 ④ほぼ完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。	12	
73—43	H—2 覆土	土師質 坏	①[14.4]　②　4.0 ③　7.4	①細粒。赤褐色粒含 ②良好　③橙　④1/3	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。		
73—44	H—2 床直	土師質 坏	①[14.8]　②　3.6 ③　7.3	①細粒。赤褐色粒含 ②良好　③浅黄橙 ④1/2	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。	35	

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径　②器高 ③底径　④つまみ径	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備考
73—45	H—2 床直	土師質 坏	①[13.8]　②　3.8 ③　6.3	①細粒　②良好 ③浅黄橙　④1/2	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。口縁部内外面に煤こげ付着。	11	
73—46	H—2 床直	土師質 坏	①　—　②(2.0) ③　6.5	①細粒。赤褐色粒含 ②良好　③浅黄橙 ④底部	体部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。	55	
73—47	H—2 覆土	土師質 坏	①[14.2]　②[3.7] ③[8.4]	①細粒。赤褐色粒含 ②良好　③浅黄橙 ④1/2	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。		
73—48	H—2 床直	土師質 椀	①[15.5]　②　5.7 ③　6.6	①細粒。赤褐色粒含 ②良好　③にぶい黄橙 ④2/3	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。口縁部・体部内外面に煤こげ付着。	9	
73—49	H—2 床直	土師質 椀	①[17.2]　②　7.0 ③　9.0	①細粒　②良好 ③にぶい黄橙④1/2	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。口縁部・体部内外面に煤こげ付着。	6	
73—50	H—2 床直	土師質 椀	①[16.6]　②(5.0) ③　—	①細粒。赤褐色粒含 ②良好　③浅黄橙 ④口縁部	口縁部内外面ともに回転横なで整形。体部内面は回転横なで整形。同外面は篦削りで整形。	21	
73—51	H—2 床直	黒色土器 椀	① 13.4　②　4.4 ③　6.0	①細粒　②良好 ③にぶい黄橙④3/4	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は篦なでで調整。器体内面・口縁部外面は磨き黒色処理。	40	
73—52	H—2 床直	黒色土器 椀	① 15.6　②　6.4 ③[7.6]	①細粒　②普通 ③浅黄　④3/4	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整で高台部を接着後に回転横なで調整。器体内面・口縁部外面は磨き黒色処理。	8	
73—53	H—2 床直	須恵器 椀	①　—　②(4.5) ③[9.4]	①細粒　②良好 ③にぶい黄橙④底部	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は高台部を接着後に回転横なで調整。	16	酸化焔
73—54	H—2 床直	土師質 椀	①　—　②(3.0) ③[10.1]	①細粒　②良好 ③浅黄橙　④底部	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部はなでで調整し高台部を接着後に回転横なでで調整。	23	
73—55	H—2 床直	土師質 椀	①　—　②(2.6) ③　8.1	①細粒。赤褐色粒含 ②良好　③橙　④底部	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は高台部を接着後に回転横なでで調整。	29	
73—56	H—2 床直	土師質 椀	①　—　②(2.7) ③　6.3	①細粒　②良好 ③橙　④高台・底部	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は高台部を接着後に回転横なでで調整。	41	
73—57	H—2 床直	土師質 椀	①　—　②(5.2) ③[10.2]	①細粒。赤褐色粒含 ②良好　③にぶい黄橙 ④高台・底部	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は高台部を接着後に回転横なでで調整。	14,15	
73—58	H—2 覆土	転用品 円盤	長　6.5　幅　6.4 厚　0.9	①細粒。赤褐色粒含 ②良好　③浅黄橙 ④未成品？	土師質土器皿を打ち欠き底部のみとしたもの。土師質皿は体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。		
73—59	H—2 覆土	転用品 円盤	長　5.8　幅　6.5 厚　1.2	①細粒。赤褐色粒含 ②良好　③にぶい黄橙 ④未成品？	土師質土器皿を打ち欠き底部のみとしたもの。土師質皿は体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。		
73—60	H—2 覆土	転用品 円盤	長(3.1)　幅(3.1) 厚(1.0)	①細粒。赤褐色粒含 ②良好　③にぶい黄橙 ④1/4	土師質土器皿を打ち欠き底部のみとした後に周囲を削ったもの。土師質皿は体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。		
73—61	H—2 覆土	羽口	長(7.8)　幅(8.2) 厚(4.0)	羽口の破片。		36	
73—62	H—3 覆土	須恵器 椀	①[14.3]　②　6.8 ③[8.8]	①細粒　②良好 ③灰白　④2/3	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部はなでで調整し高台部を接着後に回転横なでで調整。体部内面に煤こげ付着。		酸化焔
73—63	H—3 覆土	土師質 高坏	①[32.0]　②(2.0) ③　—	①細粒　②良好 ③灰白　④口縁部破片	土師質高坏の坏部口縁部の破片。内外面ともに回転横なで整形。		
73—64	H—4 床直	須恵器 羽釜	①[23.3]　②(7.3) ③　—	①細粒　②良好 ③にぶい褐　④破片	口縁部付近の破片。内外面ともに回転横なでで整形後に鍔を接着し回転横なでで調整。	1	酸化焔
73—65	H—5 覆土	白磁 皿	①　—　②(1.4) ③　—	①細粒　②良好 ③灰白　④破片	白磁皿の底部から体部へと立ち上がる部分の破片。5号竪穴建物跡に混入。		
73—66	H—6 床直	黒色土器 椀	①　—　②(3.0) ③　8.0	①細粒　②良好 ③橙　④底部のみ	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は高台部を接着し回転横なでで調整。器体内面は磨き黒色処理。	7	
73—67	H—6 床直	土師質 椀	①　—　②(2.7) ③　7.5	①細粒　②良好 ③にぶい橙④底部のみ	体部は内外面ともに回転横なで整形。底部は高台部を接着後に回転横なでで調整。	1	
73—68	H—7 床直	土師質 皿	①　9.4　②　2.4 ③　5.3	①細粒　②良好 ③浅黄　④2/3	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。	1	
73—69	H—7 床直	土師質 皿	①　9.8　②　2.1 ③　5.1	①細粒　②良好 ③にぶい褐　④4/5	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。	2	
73—70	H—7 床直	土師質 皿	①　9.4　②　2.4 ③　5.2	①細粒　②良好 ③にぶい黄橙　④1/2	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。	4	

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径　②器高 ③底径　④つまみ径	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備考
73—71	H—9 床直	土師器 坏	① 11.8　② 4.7 ③ —　　④	①細粒　②良好 ③橙　④ほぼ完形	底部・体部外面は篦削り、口縁部および器体内面は横方向の篦なでで整形。	1	
73—72	W—2 覆土	土師質 皿	①[8.9]　② 2.1 ③ 4.5　　④	①中粒。赤褐色粒含 ②良好　③橙　④1/2	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。		
73—73	W—2 覆土	土師質 皿	① 9.0　② 2.0 ③ 5.1　　④	①中粒。赤褐色粒含 ②良好　③にぶい橙 ④完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。底部内面中央凸。	42	
73—74	W—2 覆土	土師質 皿	① 9.3　② 2.3 ③ 5.0　　④	①中粒。赤褐色粒含 ②良好　③にぶい橙 ④完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。底部内面中央凹。	44	
73—75	W—2 覆土	土師質 皿	① 9.1　② 2.3 ③ 5.5　　④	①中粒。赤褐色粒含 ②良好　③にぶい黄橙 ④ほぼ完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。底部内面中央凹。	45	
73—76	W—2 覆土	土師質 皿	① 10.9　② 2.7 ③ 5.2　　④	①中粒。赤褐色粒含 ②良好　③にぶい橙 ④1/2	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。	46	
73—77	W—2 覆土	土師質 皿	① 10.3　② 2.4 ③ 4.6　　④	①中粒。赤褐色粒含 ②良好　③橙　④2/3	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。底部内面中央凹。		
73—78	W—2 覆土	土師質 皿	①[9.6]　② 2.2 ③ 4.5　　④	①中粒。赤褐色粒含 ②良好　③橙　④1/2	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。底部内面中央凹。		
73—79	W—2 覆土	土師質 皿	① 9.3　② 2.0 ③ 5.3　　④	①中粒。赤褐色粒含 ②良好　③にぶい黄橙 ④完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。底部内面中央凸。	35	
73—80	W—2 覆土	土師質 皿	① 9.3　② 2.0 ③ 4.6　　④	①中粒。赤褐色粒含 ②良好　③にぶい黄橙 ④3/4	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。底部内面中央凹。	24	
73—81	W—2 覆土	土師質 皿	① 9.1　② 2.1 ③ 4.8　　④	①中粒。赤褐色粒含 ②良好　③にぶい黄橙 ④ほぼ完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。底部内面中央凸。	50	
73—82	W—2 覆土	土師質 皿	① 8.9　② 2.1 ③ 4.3　　④	①中粒。赤褐色粒含 ②良好　③にぶい黄橙 ④ほぼ完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。	20	
73—83	W—2 覆土	土師質 皿	①[8.8]　② 1.9 ③ 4.6　　④	①中粒。赤褐色粒含 ②良好　③にぶい黄橙 ④1/2	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。	1	
73—84	W—2 覆土	土師質 皿	① 9.0　② 2.0 ③ 4.6　　④	①中粒。赤褐色粒含 ②良好　③にぶい黄橙 ④3/4	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。	4	
73—85	W—2 覆土	土師質 皿	① 9.3　② 2.1 ③ 5.1　　④	①中粒。赤褐色粒含 ②良好　③橙　④2/3	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。	30	
73—86	W—2 覆土	土師質 皿	① 9.5　② 2.2 ③ 4.6　　④	①中粒。赤褐色粒含 ②良好　③にぶい橙 ④4/5	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。底部内面中央凹。	27	
73—87	W—2 覆土	土師質 皿	①[10.4]　② 1.8 ③[7.7]　　④	①中粒。赤褐色粒含 ②良好　③にぶい橙 ④1/3	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。	48	
73—88	W—2 覆土	土師質 皿	① 10.2　② 1.6 ③ 7.5　　④	①中粒。赤褐色粒含 ②良好　③橙　④3/4	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。底部内面中央やや凸。	29	
73—89	W—2 覆土	土師質 皿	① 8.5　② 2.0 ③ 5.0　　④	①中粒。赤褐色粒含 ②良好　③にぶい黄橙 ④ほぼ完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。底部内面中央やや凹。口縁部一部煤こげ付着。	53	
73—90	W—2 覆土	土師質 皿	①[9.8]　② 2.3 ③ 5.0　　④	①細粒。赤褐色粒含 ②良好　③にぶい黄橙 ④1/2	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。	34	
73—91	W—2 覆土	土師質 皿	①[9.6]　② 2.4 ③ 5.6　　④	①細粒。赤褐色粒含 ②良好　③にぶい黄橙 ④1/2	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。底部内面中央凸。		
73—92	W—2 覆土	土師質 皿	①[9.9]　② 2.2 ③[5.0]　　④	①細粒。赤褐色粒含 ②良好　③橙　④1/4	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。		
73—93	W—2 覆土	土師質 皿	①[9.4]　② 2.4 ③[5.0]　　④	①細粒。赤褐色粒含 ②良好　③橙　④1/4	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。		
73—94	W—2 覆土	土師質 皿	①[9.8]　② 2.3 ③[5.5]　　④	①細粒。赤褐色粒含 ②良好　③にぶい黄橙 ④2/5	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。	14	
73—95	W—2 覆土	土師質 皿	①[9.8]　② 2.5 ③[5.5]　　④	①細粒。赤褐色粒含 ②良好　③橙　④1/3	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。	43	

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径　②器高 ③底径　④つまみ径	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備考
73—96	W—2 覆土	土師質 皿	①　9.4　②　2.3 ③[5.3]	①細粒。赤褐色粒含 ②良好　③浅黄橙 ④2/5	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。		
73—97	W—2 覆土	土師質 皿	①　9.7　②　2.3 ③　5.4	①細粒。赤褐色粒含 ②良好　③浅黄橙 ④1/2	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。		
73—98	W—2 覆土	土師質 坏	①　—　②(2.0) ③　6.3	①中粒。赤褐色粒含 ②普通　③にぶい橙 ④底部	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。	54	
73—99	W—2 覆土	土師質 坏	①[15.4]　②　3.8 ③　7.4	①中粒。赤褐色粒含 ②良好　③橙　④1/2	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。	2	
73—100	W—2 覆土	土師質 坏	①[14.8]　②　3.9 ③　8.0	①中粒。赤褐色粒含 ②不良　③にぶい黄橙 ④2/3	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。底部内面中央凸。	36	
73—101	W—2 覆土	土師質 坏	① 14.3　②　5.0 ③　6.2	①中粒。赤褐色粒含 ②普通　③にぶい橙 ④3/4	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。底部内面中央凸。	39,40	
73—102	W—2 覆土	土師質 坏	① 14.2　②　4.1 ③　8.1	①細粒。赤褐色粒含 ②良好　③にぶい黄橙 ④5/6	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。	25	
73—103	W—2 覆土	土師質 高坏	①　—　②(3.2) ③　—	①細粒　②良好 ③浅黄橙　④破片	土師質土器の高坏の坏部と脚部との接着部付近の破片。外面は縦方向の篦削り、内面は回転横なでで整形。		
73—104	W—2 覆土	白色土器 椀	①　—　②(2.7) ③　—	①細粒　②良好 ③灰白　④破片	白色で緻密な粘土で製作した土器の口縁部の破片。内外面ともに回転横なで整形。		
73—105	W—2 覆土	白磁 椀	①　—　②(2.2) ③　—	①細粒　②良好 ③灰白　④破片	白磁椀の口縁部の破片。玉縁口縁で内外面に施釉。釉は灰白色色。		
73—106	W—2 覆土	白磁 椀	①　—　②(1.8) ③　—	①細粒　②良好 ③灰白　④破片	白磁椀の体部の破片。内外面に施釉。釉は灰白色。		
73—107	W—2 覆土	白磁 椀	①　—　②(1.2) ③　—	①細粒　②良好 ③灰白　④破片	白磁椀の底部から立ち上がる付近の破片。内面に施釉。釉は灰白色。		
73—108	W—2 覆土	白磁 椀	①　—　②(1.3) ③　—	①細粒　②良好 ③灰白　④破片	白磁椀の底部から立ち上がる付近の破片。内面・体部外面に施釉。釉は灰白色。		
73—109	W—2 覆土	石製品 碁石？	長　1.4　幅　1.0 厚　0.5	赤色の碁石状の小礫。石材は鉄石英か。			
73—110	W—6 覆土	土師質 皿	①　—　②(1.4) ③　—	①細粒　②良好 ③にぶい褐④破片	口縁部から体部にかけての破片。手づくねで成形し、内面と口縁部は横なでで調整。「て」の字状口縁。		
73—111	W—6 覆土	土師質 皿	①　—　②(1.0) ③　—	①細粒。赤褐色粒含 ②良好　③にぶい黄橙 ④破片	口縁部から体部にかけての破片。内外面ともに回転横なで整形。口縁部外面に沈線が廻る。		
73—112	W—6 覆土	土師質 甕？	①[18.1]　②(6.3) ③　—	①細粒　②良好 ③にぶい黄橙④破片	甕の口縁部の破片か。外面は縦方向の磨き。内面は横方向の磨き。		
73—113	A—1 覆土	土師質 坏	①[15.4]　②(5.7) ③　—	①中粒　②良好 ③橙　④3/4	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整の後に高台部を接着し回転横なでで調整。	2	
73—114	A—1 覆土	土師質 皿	①　9.8　②　2.8 ③　5.0	①細粒　②良好 ③浅黄橙　④完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。体部外面に墨痕。	1	
73—115	A—2 覆土	転用品 円盤	①　—　②(1.2) ③　5.0	①細粒　②良好 ③浅黄橙　④底部	土師質皿を打ち欠き底部のみとしたもの。土師質皿は体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。	1	
73—116	D—10 覆土	土師質 高坏？	①　—　②(7.5) ③　—	①細粒　②良好 ③にぶい黄橙④破片	高坏の脚部の破片か。外面は縦方向の磨き。内面は横方向の磨き。	6	
73—117	D—19 覆土	須恵器 転用硯	長 12.0　幅 11.9 厚　1.0	①細粒。中粒含②良好 ③暗灰　④破片	須恵器大甕の破片を硯に転用したもの。擦痕・墨痕あり。	1	
73—118	全体覆土	須恵器 転用硯	長(12.0)　幅(5.7) 厚(2.9)	①細粒　②良好 ③黄灰　④破片	須恵器の底部の高台部を打ち欠いて逆さまにし、外面の中央部を硯として転用したもの。擦痕あり。		

74トレンチ

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径　②器高 ③底径　④つまみ径	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備考
74—1	H—1 床直	須恵器 坏	① 10.2　②　3.1 ③　5.2	①細粒　②良好 ③橙　④ほぼ完形	口縁部・体部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。	1	酸化焔
74—2	H—2 床直	土師質 皿	①　9.0　②　2.3 ③　4.8	①細粒。中粒混 ②良好③にぶい黄橙 ④完形	口縁部・体部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。	4	

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径　②器高 ③底径　④つまみ径	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備考
74―3	H―2 床直	土師質 皿	①　9.0　②　2.2 ③　5.3	①細粒。粗粒混 ②良好　③にぶい黄橙 ④完形	口縁部・体部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。	5	
74―4	H―2 床直	土師質 皿	① 10.6　②　2.6 ③　5.2	①細粒。中粒混 ②良好　③にぶい黄橙 ④1/2	口縁部・体部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。	1	
74―5	H―2 床直	土師質 椀	①[13.5]　②　5.8 ③[7.6]	①細粒　②良好 ③にぶい黄橙　④1/4	口縁部・体部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整の後に高台を接着し回転横撫でで調整。器体内外面に煤こげ付着。	7	
74―6	H―2 床直	土師質 椀？	①　―　②(3.9) ③　―	①細粒。中粒含 ②良好　③橙　④3/4	高台部および底部の破片。底部内面は回転横なでで整形。底部は回転糸切り未調整の後に高台を接着し回転横なでで調整。	2	
74―7	H―2 覆土	須恵器 円面硯	①　―　②(4.0) ③　―	①細粒　②良好 ③黄橙　④脚台部破片	円面硯の脚台部の破片。器体は内外面とも回転横なでで整形。器体外面は縦方向に等間隔の沈線。		
74―8	H―2 覆土	羽口	長(7.7)　幅(6.4) 厚(3.2)	①細粒　②良好 ③にぶい黄橙　④破片	羽口の破片。		
74―9	H―2 覆土	羽口	長(8.7)　幅(6.0) 厚(3.0)	①細粒　②良好 ③にぶい黄橙　④破片	羽口の破片。		
74―10	H―3 床直	土師器 坏	① 11.6　②　3.7 ③　―	①細粒②良好③にぶい黄褐④ほぼ完形	底部・体部外面は篦削り、口縁部および器体内面は横方向の篦なでで整形。	1,2	
74―11	H―4 覆土	土師器 坏	①[13.9]　②　4.7 ③　―	①細粒　②良好 ③にぶい橙　④1/2	底部・体部外面は篦削り、口縁部および器体内面は横方向の篦なでで整形。	1	
74―12	H―6 覆土	土師質 皿	①　9.0　②　2.6 ③　4.9	①細粒　②良好 ③にぶい橙　④4/5	口縁部・体部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。		
74―13	H―6 覆土	土師質 皿	①　8.8　②　1.8 ③　5.8	①細粒　②良好 ③にぶい黄橙　④1/2	口縁部・体部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。		
74―14	H―6 覆土	転用品 円盤	①　5.8　②　6.2 ③　0.9	①細粒　②良好 ③にぶい橙　④底部	土師質土器皿を打ち欠いた後に磨り削って円形に整形したもの。素材の土器は内面は回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。		
74―15	H―7 床直	土師器 坏	① 14.1　②　4.4 ③　―	①細粒　②良好 ③橙　④2/3	体部外面は篦削りで整形。体部内面および口縁部内外面は横なでで調整。	1	
74―16	H―7 床直	土師器 坏	① 13.8　②　5.0 ③　―	①細粒　②良好 ③にぶい橙　④5/6	体部外面は篦削りで整形。体部内面および口縁部内外面は横なでで調整。	4	
74―17	H―8 床直	土師質 皿	① 10.1　②　2.8 ③　5.3	①細粒　②良好 ③にぶい橙④ほぼ完形	口縁部・体部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。	1	
74―18	H―8 床直	転用品 円盤	①　7.2　②　7.4 ③　1.0	①細粒。中粒混 ②良好　③橙　④底部	土師質土器椀を素材とし、底部を残して打ち欠いた後に磨り削って円形に整形したもの。素材の土器は内面は回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整で高台を接着し回転横なでで調整。	2	
74―19	全体覆土	土師質 高坏	①　―　②(2.7) ③　―	①細粒　②良好 ③浅黄　④破片	土師質土器の高坏の坏部の破片と推定される。外面は斜方向の篦削りで整形し、内面は横なでで整形。		
74―20	全体覆土	緑釉陶器 椀？	①　―　②(1.6) ③[8.2]	①細粒　②良好 ③灰黄　④破片	緑釉陶器の底部から立ち上がる付近の破片。内外面に施釉。釉はオリーブ色。		
74―21	全体覆土	白磁 皿	①　―　②(1.3) ③　―	①細粒　②良好 ③灰白　④破片	白磁皿の体部の破片。内面・外面上部に施釉。釉は灰白色。		

6　まとめ

(1)　宮鍋神社周辺の様相について

①新発見の布地業（礎石建物跡）について

令和２年度調査の大きな成果としては、新たに布地業の礎石建物跡を検出した事が挙げられる。この礎石建物跡の掘込地業の検出状態については第５章のとおりであるが、この掘込地業は、布地業が枠形に廻るタイプで、東西を長軸とした長方形を呈するものであった。宮鍋神社周辺におけるこれまでの発掘調査で礎石建物跡や掘立柱建物跡が複数検出されているが、布地業の礎石建物跡の検出例は４例目となる（Tab．７）。

Tab．７　宮鍋神社周辺の掘立柱建物跡・礎石建物跡（令和２年度調査まで）

【礎石建物跡（総地業）】

№.	調査区名	遺構名	方位	規模（東西×南北）等
1	元総社蒼海（99）・(122) 上野国府33トレンチ	１号建物跡(総地業)	N－９°－W	12m以上で正方形か
2	元総社蒼海（127/133）	基壇建物跡	N－２°－W	13m×13mのほぼ正方形
3	元総社蒼海（136）	基壇状遺構	N－10°－W	１辺11m以上の正方形か

【礎石建物跡（布地業）】

№.	調査区名	遺構名	方位	規模（東西×南北）等
1	上野国府28トレンチ	１号建物跡	N－13°－W	12．9m×7.8mの東西棟。布地業の最大幅1.3m。
2	元総社蒼海（99） 上野国府33トレンチ	１号建物跡（布地業）	N－11°－W	規模は不明。東西棟か。布地業の最大幅２m。
3	元総社蒼海（136）Ａ区	１号建物跡	N－11°－W	13m×８mの東西棟。布地業の最大幅1.3m。
4	上野国府73トレンチ	１号礎石建物跡	N－10°－W	13．2m以上×8.8mの東西棟。布地業の最大幅1.6m。

【掘立柱建物跡】

№.	調査区名	遺構名	方位	規模（東西×南北）等
1	元総社蒼海（127/133）	基壇建物跡	N－13°－W	側柱。３間８m以上×２間5.4m
2	元総社蒼海（136）Ａ区	２号建物跡	N－13°－W	総柱。３間４m以上×２間６m以上
3	上野国府38トレンチ	１号掘立柱建物跡	N－５°－W	側柱。２間4.2m×２間5.5m

上記の礎石建物跡や掘立柱建物跡、さらにはこの周辺で検出されている区画溝と考えられる古代の大溝については、その方位・走行により①北から西へ10度程度傾くグループ、②正方位を意識したグループの２つに大別できること、さらに布地業の礎石建物は前者に分類できる点については令和元年度調査報告書でまとめた（前橋市教育委員会　2021）。今回検出された礎石建物跡についても、この傾向にあてはまり、これまでに検出された布地業をもつ礎石建物跡と同じ一群として捉えることができる。

４つの布地業の礎石建物跡の規模について比較してみる。掘込地業の全体が判明しているのは上野国府28トレンチ１号建物跡と元総社蒼海遺跡群（136）１号建物跡の２棟で、その規模は実測値では若干の差異はあるものの東西約13m、南北約８mでほぼ同規模と考えられる。今回73トレンチで検出された１号礎石建物跡は北辺の一部および東辺が検出できなかったため全体の規模は不明であるが、残存する北辺の掘込地業の規模や、全体が検出された西辺の規模が９mを測ることなどから、前述の２棟よりも規模は大きいことが考えられる。元総社蒼海遺跡群（99）の布地業については、総地業との重複もあり全体像はさらに把握が困難であるが、布地業の幅から推定すると、やはり前述の２棟より規模は大きいと考えられる。

掘込地業の構造で比較すると以下のとおりとなる。

①掘り形の底部が平坦で深さが均一……上野国府28トレンチ１号建物跡
②掘り形が不均一で整地により平坦にした後に版築を行う。……元総社蒼海（99）１号建物跡（布地業）
元総社蒼海（136）１号建物跡
③掘り形の底部が平坦で深さが不均一……上野国府73トレンチ１号礎石建物跡

なお、元総社蒼海（136）１号建物跡では側柱の部分だけでなく、その内側の柱の部分でも布地業が検出されていることから、束柱をもつ建物であったことが考えられる。また、上野国府73トレンチ１号礎石建物跡でも、側柱の内側部分で壺地業と考えられる覆土が硬化した掘り込みが検出されている。こうした「壺地業」のような遺構が検出されたのは１ヶ所のみであるが、もしかしたら他にも存在していたものが掘込地業が浅かったため削りとられ消滅した可能性も考えられる。元総社蒼海遺跡群（99）では総地業の存在から検出作業が困難であったが、上野国府28トレンチ１号建物跡の調査時に掘込地業の内側に柱穴もしくは掘込地業の有無について調査を行ったが検出されなかったという経緯があるが、元総社蒼海遺跡群（136）１号建物跡の掘込地業の状態を考慮すると、実際は束柱をもつ建物であった事も想定しなくてはならないかもしれない。

②溝跡・道路跡・ピット列について

73トレンチでは礎石建物跡や掘立柱建物跡との関連が想定できる遺構として３号・４号溝跡、１号道路跡と43号・40号・49号・１号・48号ピットによって構成されるピット列を挙げることができる。これらの遺構は平成27年度に調査した38トレンチで検出されたピットにも連続すると考えられる。

各遺構の新旧関係を述べると、ピット列、３号・４号溝跡、１号道路跡の順で古い。３号・４号溝跡は並行しており溝の間が1.2～1.3m、両溝の中心間は2.7mを測る。硬化面は確認できなかったが、検出状態から両側溝の道路跡の可能性も考えられる。その場合、新旧関係と位置関係から１号道路跡は３号・４号溝跡により構成される「道路」の付け替えの可能性も考えられる。なお、１号道路跡は硬化面のみで側溝は認められなかった。この２条の溝と道路の走行は布地業の礎石建物と向きが近似し、そのまま南へ延伸すると元総社蒼海（136）１号建物跡の西に近い位置を通ることが想定できる。ピット列は北から西へ12度傾く走行で2.4m間隔に並び東へ90度曲がる。なお、このピット列の東の延伸は調査区外へと続くことが予想されるが、南の延伸については38トレンチの延伸上でピットが認められる。北から西へ10度程度傾く溝や建物が、施設を構成する一群の構造物だとするならば、この２条の溝と道路は、さらにはピット列はその一群に含めて捉えることができるであろうか、今後の課題としたい。

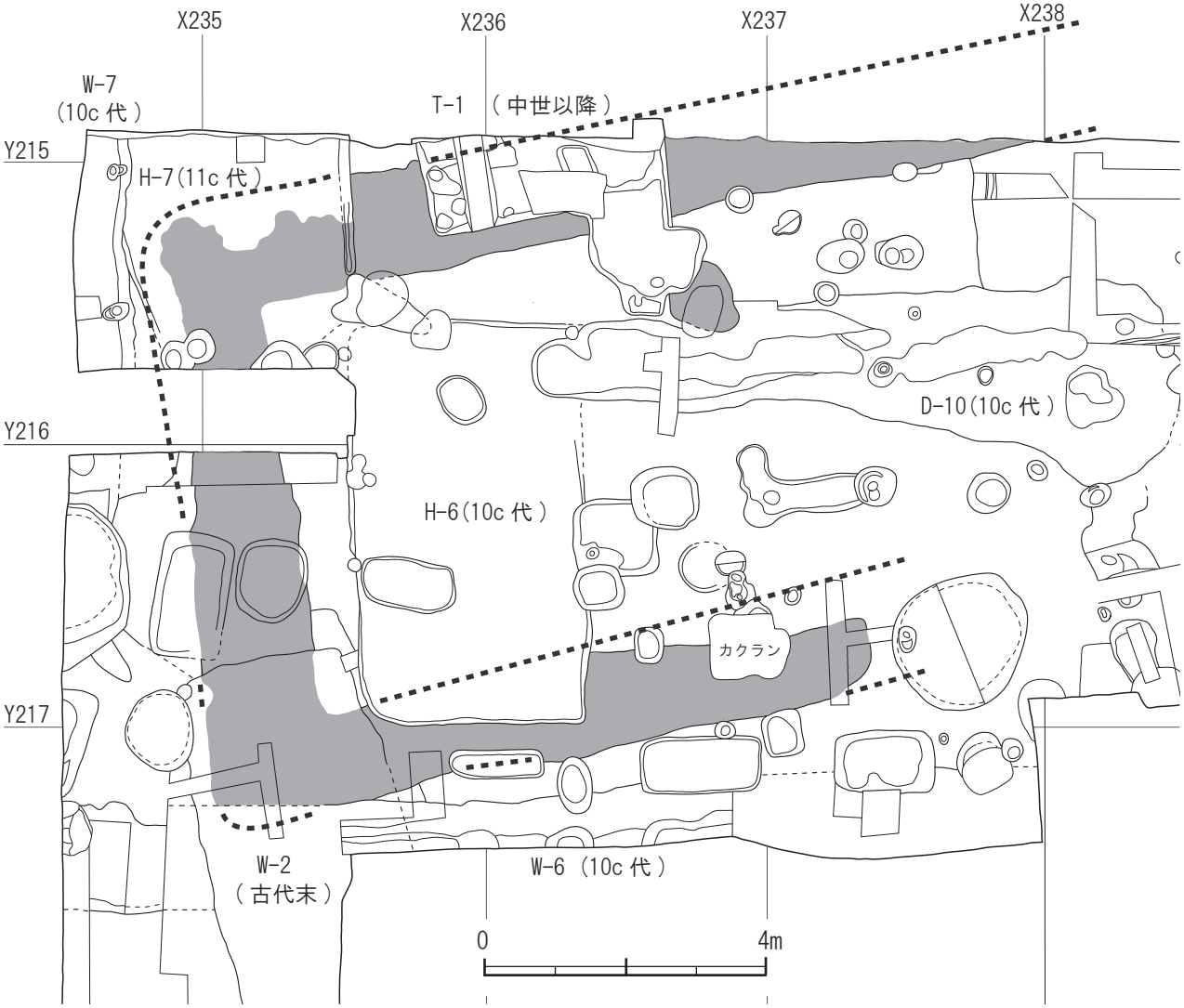
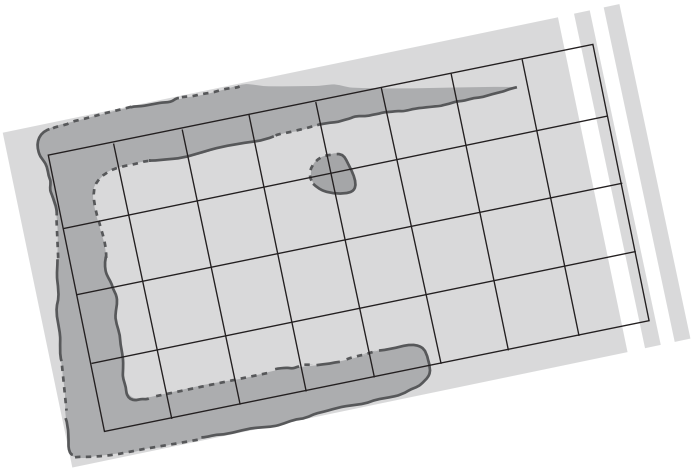
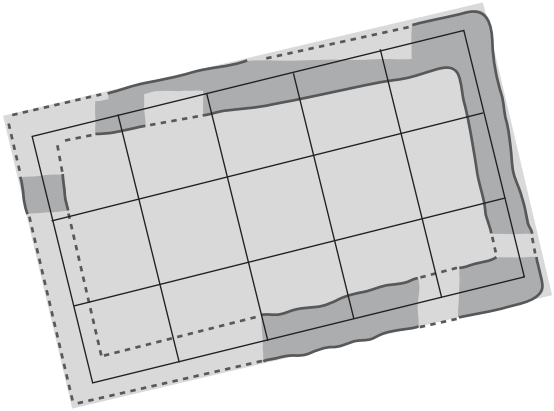


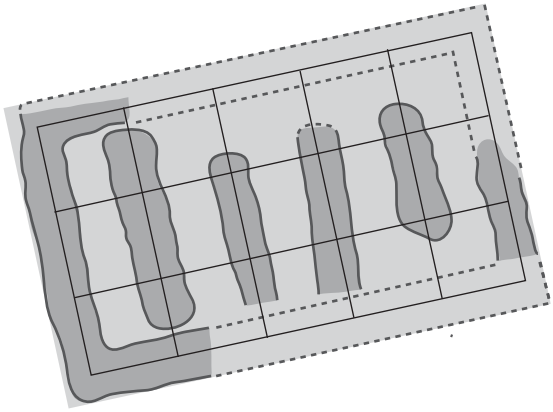
Fig. 42　73トレンチ１号礎石建物跡



上野国府73トレンチ １号礎石建物跡（試案）



上野国府28・35トレンチ１号建物跡



元総社蒼海遺跡群（136）A区１号建物跡

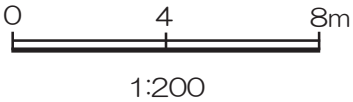


Fig. 43　宮鍋神社周辺の礎石建物跡（布地業）

第２部　上野国府等範囲内容確認調査　第２期調査について

１　上野国府等調査委員会第２期５年間のまとめ

委員会・調査部会の活動経過

以下は第２期上野国府等範囲内容確認調査を開始した平成28年度から令和２年度にかけての各調査委員会および調査部会の活動経過とその概要である。

なお、カッコ内の番号は、第１期５年間の活動経過のカッコ内の番号の連番となっている。

⒂　第24回上野国府等調査委員会

①期　日：平成29年２月23日㈭

②会　場：文化財保護課２階会議室

③報　告：平成28年度元総社蒼海遺跡群発掘調査の成果。

④協　議：平成28年度上野国府等範囲内容確認調査の成果（東山道駅路国府ルートの調査・元総社小学校校庭の調査、元総社小学校西方の調査）。

平成29年度上野国府等範囲内容確認調査事業について。

平成28年度調査では、鳥羽町で東山道駅路国府ルートと推定される側溝を設けた古代の道路跡が検出されたほか、宮鍋神社の南において古代の区画溝の検出が検出された。また、元総社小学校校庭においても１号掘立柱建物跡と同規模の掘立柱建物跡がその東側で１間北へずらした位置で検出され、それにより１号掘立柱建物跡の棟持柱の柱穴と考えられてきた柱穴が、別の掘立柱建物跡の柱穴であることが判明した。また、あわせて２号掘立柱建物跡の一部を検出することができた。さらに、元総社蒼海遺跡群（107）では工房と考えられる10世紀代の竪穴建物跡が、同遺跡群（17街区）では牛池川へと降りていく北から西へ10度程度傾く古代の道路跡がそれぞれ検出された。こうした成果を受けて、元総社小学校校庭の掘立柱建物群の様相を把握するために調査を継続するとともに、東山道駅路国府ルートについては牛池川以東における確認調査を再開することとした。

⒃　第25回上野国府等調査委員会

①期　日：平成30年２月22日㈭

②会　場：文化財保護課２階会議室

③報　告：平成29年度元総社蒼海遺跡群発掘調査の成果。

④協　議：平成29年度上野国府等範囲内容確認調査の成果（東山道駅路国府ルートの調査・元総社小学校校庭の調査、元総社小学校西方の調査）

平成30年度上野国府等範囲内容確認調査事業について。

平成29年度調査では、まず、牛池川以東の東山道駅路国府ルートの調査では道路跡もしくは関連遺構は確認できなかった。元総社小学校周辺の調査では、校庭で構造物の全体像は把握できなかったものの柱穴と考えられる連続するピットが検出されたほか、元総社小学校西方で掘立柱建物跡の柱穴と考えられるピットや古代の区画溝ならびに道路跡が検出されたことにより、元総社小学校西方における官衙関連遺構の分布が広範囲に亘ることが予想されるため、今後、元総社小学校西方においても随時調査を行い、その様相の把握に努めることとされた。元総社蒼海遺跡群に関しては、同遺跡群（125）で関越自動車道建設に係る調査で検出された両側溝の道路跡の延伸が検出された。

⑰　第26回上野国府等調査委員会

①期　日：平成31年２月21日㈭

②会　場：文化財保護課２階会議室

③報　告：平成30年度元総社蒼海遺跡群発掘調査の成果。

④協　議：平成30年度上野国府等範囲内容確認調査の成果（元総社小学校校庭の調査、元総社小学校西方の調査、上野国分尼寺跡南限の確認調査）

平成31年度上野国府等範囲内容確認調査事業について。

平成30年度の調査については、元総社小学校校庭の調査では校庭の東端にまで調査範囲が至ったこともあり、主な成果としては区画溝等の検出に止まった。しかし、昨年度実施した元総社小学校西方における調査を継続して行ったところ、昨年度調査区に隣接した調査区で掘立柱建物跡が複数棟検出された。また、これらの掘立柱建物には、同位置で建て替えされていると考えられる建物も存在するほか、柱穴から出土した遺物から10世紀代の掘立柱建物も確認された。これら10世紀代に係る掘立柱建物跡に関しては柱穴や柱痕に包含される炭化物の状態からも建物の新旧関係が推定でき、この炭化物の成因として長徳３（997）年正月11日に発生した府院の火災が考えられるとの指摘を受けた。

⑱　第８回上野国府等調査部会

①期　日：令和元年６月26日㈭

②会　場：元総社蒼海遺跡群（133）

元総社蒼海遺跡群（133）は、同遺跡群（127）の北に隣接し、同遺跡群（127）の調査で検出された掘込地業の続きが検出されることが予想されていた調査区である。想定のとおり10世紀代の竪穴建物跡や中・近世の以降によって破壊されながらも掘込地業のほぼ全体を検出することができたことから、調査部会員を招聘し、検出された遺構の状況確認とあわせて今後の調査方針について検討した。

⑲　第27回上野国府等調査委員会

①期　日：令和元年９月５日㈭

②会　場：元総社公民館。その他に元総社蒼海遺跡群（133）の発掘調査現場を視察。

③協　議：元総社蒼海遺跡群（133）の現場視察結果の検討

今後の上野国府の発掘調査について

元総社蒼海遺跡群（133）について、検出された礎石建物跡（総地業）の検出状態の現地視察を行ったほか、同遺跡群（133）の周辺で実施したレーダー探査で反応のあった地点における試掘に関しても現地視察を行った。

⑳　第９回上野国府等調査部会

①期　日：令和元年11月28日㈭

②会　場：元総社蒼海遺跡群（133）・（136）

元総社蒼海遺跡群（133）の南約60mの地点で発掘調査を行っていた同遺跡群（136）において、礎石建物跡２棟（総地業の建物跡１棟、布地業の建物跡１棟）が検出されたほか、総地業の礎石建物跡の下層から、総柱の掘立柱建物跡が検出された。

この遺構検出結果を受けて調査部会員を招聘し、元総社蒼海遺跡群（133）のその後の調査状況の報告とあわせて同遺跡群（136）で検出された礎石建物跡、掘立柱建物跡について遺構の状況確認を行った。

㉑　第28回上野国府等調査委員会

①期　日：令和２年２月20日㈭

②会　場：文化財保護課２階会議室

③報　告：令和元年度元総社蒼海遺跡群発掘調査の成果

上野国府周辺遺跡のデータ整理

④協　議：令和２年度上野国府等範囲内容確認調査事業計画

宮鍋神社周辺で検出が相次いだ掘込地業（礎石建物跡）について、古代の役所の「正倉院」にあたるとの指摘をいただいた。また、その場合、この「正倉院」は国府に属するのか、群馬郡家に属するのか、さらには郡家だとするならば山王廃寺下層建物群との関係について検討が必要であるとし、さらに性格の検討には上野国交替実録帳の記載も参考にする必要があると助言をいただいた。また、郡家であったとしても国指定史跡に成り得る内容となるので、保存・活用について今後注意が必要であるとの助言をいただいた。

⑵⑵　第10回上野国府等調査部会

①期　日：令和２年７月29日㈬

②会　場：上野国府73・74トレンチ

73・74トレンチで発掘調査中の遺構について検討しながら状況を確認してもらう。特に73トレンチで検出された布地業の礎石建物跡について、今後、この礎石建物跡をどのように調査していったらよいのか意見をいただいた。

⑵⑶　第29回上野国府等調査委員会

①期　日：令和２年10月30日㈮

②会　場：元総社公民館視聴覚室。その他に上野国府70・71・72・73トレンチの発掘現場を視察。

③協　議：視察結果をふまえた遺構の検討と今後の調査の方向性について。

73トレンチで検出された官衙関連遺構のうち、礎石建物跡の掘込地業やピットについて土層の堆積状態などの記録を丁寧に記録に取るように指導があった。また、並走する溝跡については道路の側溝と考えてよい点や、そこから東へ少しずれた位置で検出された道路跡は、その後に同じ方向に付け変えた道路と解釈できるとした。また、宮鍋神社の南側で掘込地業（礎石建物跡）の検出事例が増加傾向にあるという現象について、この地点が、国府が存在した時期に倉が並び立つ一画（正倉院）として機能していたことで意見が一致した。ただし、国府に付属するのか、群馬郡家に付属するのかはまだ検証が必要であるとした。

⑵⑷　第30回上野国府等調査委員会

①期　日：令和３年２月18日㈭

新型コロナウイルス感染拡大に配慮し、紙上による調査委員会を開催

②報　告：令和２年度元総社蒼海遺跡群発掘調査の成果

③協　議：令和２年度上野国府等範囲内容確認調査の成果

令和３年度上野国府等範囲内容確認調査事業計画

元総社蒼海遺跡群に関しては、蒼海（141）で検出された道路状遺構と、蒼海（75街区№２）で出土した10世紀代の竪穴建物跡（鍛冶工房）と、そこから出土した小金銅仏・銅印・三鈷杵の鋳型の位置付けについて意見をいただいた。

上野国府等範囲井内容確認調査については、宮鍋神社周辺の「正倉院」の形成の過程や位置付けについて、発掘調査以外にも上野国交替実録帳などの文献からの検討も必要であるとの助言をいただいた。また、令和３年度調査については宮鍋神社周辺の様相についてさらにくわしく把握することを主眼において調査を進めるように助言をいただいた。

２　これまでの調査成果について

１．元総社地区における各発掘調査成果のまとめ

平成23年度から開始した上野国府等範囲内容確認調査も令和２年度で10年目を迎えた。車の両輪のように進捗する元総社蒼海遺跡群の発掘調査の成果も含めて、この10年間で上野国府を考える上で重要な成果を挙げることができた。ここでは、これまでの発掘調査の成果を基に、こうした重要な成果を基に元総社町内における各地点の状況について、地点毎にまとめていくこととしたい。[註(1)]

２．各地点における成果について

現時点における発掘成果をまとめるにあたり、以下の３地点について述べることとしたい。また、あわせて調査を行った東山道駅路国府ルートについても最後に述べることとしたい。

⑴　宮鍋神社周辺
⑵　宮鍋神社西方について
⑶　元総社小学校とその西方（通称「本村」地域）について
⑷　東山道駅路国府ルートについて

⑴　宮鍋神社周辺

①国庁推定地４案と宮鍋神社周辺の様相

宮鍋神社周辺は、上野国府の研究史をふまえた調査開始時点で、国庁所在地として最有力候補地であった地点である。

調査開始時に設定した「国庁推定地４案」のうち、発掘調査が進んでいるのは、通称「日高道」とされる南北道が丁字路に突き当たる場所の南に存在する字「宅地（たくち）」の方形地割を国庁推定地としたＡ案と、総社神社の故地の由来を持ち、神社の名称からも国府との関係が深いとされる「宮鍋神社」周辺の平坦地に推定地を求めたＣ案の２案である。

国庁推定地Ａ案における成果としては、まず「宅地」付近の方形地割については、地割に沿って中世の溝跡が検出されたことから、中世以降の居館的な施設の地割であることが判明した。また、この周辺は一部で土取りおよび削平が行われ遺構の残存状況が不良であったが、かろうじて検出された遺構のうち竪穴建物跡の時期は６世紀後半から７世紀にかけての時期と、10世紀から11世紀にかけての時期の２期のみで、８世紀から９世紀にかけての竪穴建物跡は検出されていない。また、掘立柱建物跡や礎石建物跡（掘込地業）も検出されていない。

国庁推定地Ｃ案については、調査を開始した平成24年度当初は官衙関連遺構の検出は認められなかったが、平成26年度から掘立柱建物跡、礎石建物跡（総地業の建物、布地業をもつ建物）や区画溝が複数検出されたほか、これら建物群の分布を区切るように南北方向と東西方向の区画溝が検出されている。

②検出された建物跡と区画溝について

宮鍋神社周辺（国庁推定地Ｃ案）で検出された掘立柱建物跡、礎石建物跡、区画溝については、その走行・傾きから北から西へ10度から15度傾くものと正方位に近いものの２つに大別できる点。また、礎石建物跡と考えられる掘込地業についても、その形態から布地業が枠形に長方形を呈するタイプと総地業の２つに大別できる点については、これまでにまとめた調査報告書で何度か触れている（前橋市教育委員会　2021ほか）。以下で、再度、掘立柱建物跡、礎石建物跡、区画溝の概要についてまとめてみたい（Fig.44）。

現時点までに検出された掘立柱建物跡は、側柱の掘立柱建物跡が蒼海（127・133）１号掘立柱建物跡、上野国38トレンチ１号掘立柱建物跡、少し距離を置いて蒼海（95）１号・２号掘立柱建物跡の合計４棟と、総柱の掘立柱建物跡は蒼海（136）１号掘立柱建物跡の１棟のみである。これら掘立柱建物は、正方位に近い上野国38トレンチ１号掘立柱建物跡以外は北から西へ10度から15度の範囲の傾きをもつ点で建物の方位は共通する。また、蒼海（133）１号掘立柱建物跡と蒼海（136）１号掘立柱建物跡は礎石建物よりも古いことが重複関係で確認されている。上野国38トレンチ１号掘立柱建物跡は掘込地業とは重複関係を持たないが、後述する道路跡・小規模な溝跡と重複関係をもち、これらの遺構よりも古いことが確認されている状況から、比較的古い遺構と考えられる。

現時点で礎石建物跡のうち布地業をもつ建物は、上野国府28トレンチ１号建物跡の検出を皮切りとして、蒼海（136）Ａ区１号建物跡、上野国府73トレンチ１号礎石建物跡が検出されている。その他に蒼海（99）では総地業の礎石建物跡の西から北にかけて布地業が鍵の手に廻るように検出されているが、これも布地業をもつ礎石建物跡と理解して問題はなさそうである。この布地業をもつ礎石建物もやはり北から西へ10度から15度の範囲での傾きをもち、布地業は東西に長い長方形を呈する。規模を基準とすると、東西13m、南北８ｍの規模の一群（上野国府28トレンチ１号建物跡、蒼海（136）Ａ区１号建物跡）と、それよりも大きい一群（上野国府73トレンチ１号礎石建物跡、蒼海（99）の布地業建物跡）に大別できる。また、布地業の在り形にも建物毎に微妙な差異があり、蒼海（99）のものは他の遺構との重複もあり詳細に関して分かりかねるところも多々あるが、蒼海（136）Ａ区１号建物跡では枠形に廻る布地業の内部にも布地業が存在したことから、束柱をもつ建物であったと考えられる。上野国府28トレンチ１号建物跡は布地業の内側に掘込地業が存在しなかった。73トレンチ１号礎石建物跡については北辺中央寄りで壺地業と考えられる遺構が１ヶ所のみ検出されている。こうした状況から建物により構造が若干異なると推定される。なお、蒼海（99）では布地業の礎石建物跡と総地業の礎石建物跡が重複して検出された。近似した掘込地業同志の重複ではあったが、観察の結果、布地業の礎石建物が総地業の礎石建物に先行するという結論に至った。

現時点で礎石建物跡のうち総地業の建物跡は蒼海（99）総地業、同（133）１号礎石建物跡（同（127）基壇建物跡）、同（136）Ａ区基壇状遺構の３棟のみで、全体の規模が判明しているのは同（133）１号礎石建物跡のみである。礎石やその据え付け痕が認められないため掘込地業の形状による判断ではあるが、蒼海（133）１号礎石建物跡の掘込地業の規模は若干の形状のゆがみはあるものの一辺約13mの正方形を呈する。残る２棟についても、残存する掘込地業の状況から同規模であったと推定される。建物の方位については若干の差があり、蒼海（99）総地業では北から西へ９度、同（133）１号礎石建物跡（同（127）基壇建物跡）では北から西へ２度、同（136）Ａ区基壇状遺構では北から西へ10度それぞれ傾く。蒼海（99）総地業と同（136）Ａ区基壇状遺構ではまだ掘立柱建物や布地業の礎石建物に方位が近いが、同（133）１号礎石建物跡（同（127）基壇建物跡）では正方位に近い状況となっている。また、掘立柱建物や布地業の礎石建物との新旧関係としては、前述のとおり、これら建物掘立柱建物よりも新しいことが考えられる。

３種類の建物について概要を簡単にまとめてみたが、おおまかな変遷としては以下の状況が推定できる。

Ⅰ期：掘立柱建物

Ⅱ期：布地業の礎石建物

Ⅲ期：総地業の礎石建物

掘立柱建物と布地業の礎石建物は方位的には共通した規則性に基づき建てられているが、総地業の礎石建物は多少近似した方位を示しているが、方位への規則性は崩れてきていると考えられる。なお、礎石建物の掘込地業は早くても10世紀代の竪穴建物が構築されることにより破壊が開始されている。礎石やその据え付けの痕跡が確認できないのも、10世紀以降のこうした土地利用によるためと考えられ、10世紀代や11世紀代に廃絶した井戸跡や溝中に、礎石として使用されていたと考えられる石が落とし込まれた状態で検出された例が数例確認されてい

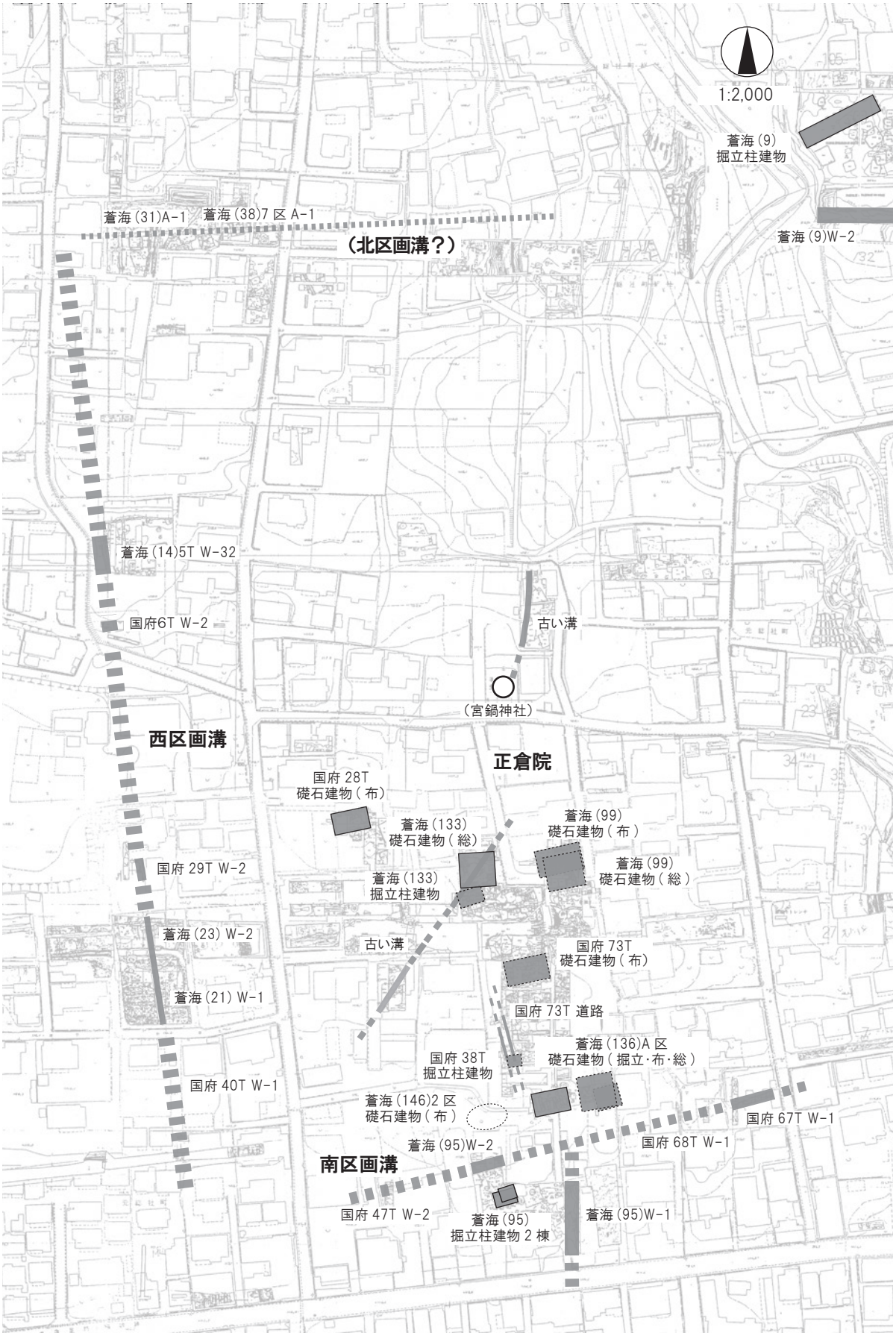


Fig. 44　宮鍋神社周辺の様相

る。

これらの建物によって構成される施設の範囲については現時点では不明であるが、施設の西区画溝と南区画溝と考えられる古代の大溝が検出されていることから、おおよその範囲は推測できる状況にある。

西区画溝は断面が逆台形で北から西へ10度傾く走行をもち、その規模は蒼海（14）５トレンチ32号溝跡、上野国府６トレンチ２号溝跡を参考とすると上幅５m、下幅3.5mを測る。南区画溝も断面が逆台形で北から東へ75度傾く走行をもち、蒼海（95）２号溝跡を参考とすると上幅4.07m、下幅3.50mを測る。

このように、宮鍋神社周辺では掘立柱建物、礎石建物（布地業・総地業）が規則性をもって建てられ、その周囲は大溝で区画されている。こうした状況は、典型では郡家の正倉院を彷彿とさせる。上野国府推定地は群馬郡内に位置し、仮に郡家とするならば群馬郡家の正倉院に比定されるところであるが、上野国府に付属する施設である可能性もあるので、最終的な判断についてはまだ検討を有するところである。

ちなみに、区画溝に関してもう少し言及すると、西区画溝、南区画溝ともに検出された地点によっては溝の底面もしくは覆土中に硬化面が検出されている。特に南区画溝は底面に硬化面が帯状に分布し、その下層に幅約１m、深さ20㎝程度の小規模な溝が暗渠のように掘られていた。上野国府67トレンチ１号溝は上部の南区画溝が削り取られ、底面に残されたその溝のみが検出されたと考えられる例である。西区画溝に関しては、硬化面が検出されたのは上野国府６トレンチ２号溝のみで、覆土の中位付近で貼床のような硬化面が検出された。それより南の地点では覆土中で硬化面は検出されず、むしろ底面に南区画溝で検出されたような幅１m程度の小さな溝が検出されている。蒼海（21）１号溝跡・同（22）４号溝跡は、その検出状態から、西区画溝の上部が削り取られ、その底面に掘られた小さい溝のみが検出されたものと考えられる。西側区画溝の北の延伸上に位置する蒼海（30）では道路跡が、さらに北の蒼海（17街区）、蒼海（141）ではこの道路が北を東西に流れる牛池川の谷へと下りていく切通しが検出されている。この道路は他の遺構との重複関係や土層の堆積状況から早くても７世紀以降に開削・使用が開始され、浅間Ｂ軽石が降下した12世紀初頭より前には廃絶し埋没していたことが把握されている。仮に道路が７世紀以降の８世紀代に設けられていたとするならば、その時点で西区画溝が掘削されていた事も想定でき、だとするならば道路は西区画溝に並走する形で検出されることが想定できるが、現時点でそうした状態で道路跡は検出されていない。むしろ上野国府６トレンチ２号溝跡のように溝の中で道路跡と考えられる硬化面が検出されていることから、西区画溝の廃絶後に区画溝の中を道路が通っていたと考えるほうが自然かもしれない。一つの考え方として、牛池川から蒼海（141）の切通しで南に向けて登ってきた道路はそのまま蒼海（17街区）・同（30）の道路を南から東へ若干振れながら進む。少し進むと西区画溝に突き当たり、その中に構築された道路を進むこととなるが、西区画溝が南へ向けて緩やかに埋没していたとするならば、その途中の６トレンチでは道路面が覆土中位付近に当たり、さらに南の上野国府29トレンチでは底面付近に道路面が存在してもさほど不自然ではないと考えられる。そうすれば、29トレンチ以南で検出される小さい溝は道路面の暗渠的なものとして捉えることが可能であり、西区画溝でも南寄りでは底面付近に道路が設けられていたとするならば、同じく底面付近に暗渠を持つ道路を持つ南区画溝と接続していても不思議ではない。もし、この仮説の通りであるならば、西区画溝や南区画溝が廃絶したと考えられている10世紀代に道路は成立したと考えられる。

(2)　宮鍋神社西方

宮鍋神社の西方一帯については元総社蒼海遺跡群の調査は実施されているが、現時点で上野国府等範囲内容確認調査は実施していない。しかし官衙関連遺構が検出されていることからここにも触れておきたい。(Fig.45)

宮鍋神社周辺の様相については前項で述べた。宮鍋神社の西には蒼海城の本丸と二の丸推定地があり、さらには南北の大きな堀をはさんで「松井屋敷」と呼ばれる一郭がある。その西は南北に長い大きな低地（「蒼海」の語源と言われるもの）が横たわり、その西は南北に続く低い断崖を超えて「松本屋敷」や「清徳寺」と呼ばれる

曲輪が南北に連なる。

宮鍋神社西方では古代の区画溝が３地点で検出されている。まず、前述の「松井屋敷」に位置する蒼海（58）で北から東へ75度の走行をもつ上幅約４ｍの区画溝（１号溝跡）が検出されている。この区画溝は10世紀代から11世紀代には機能を停止している。上部はかなり削りとられているため平均的には底部から50㎝程度の残存状態であったが、底面や覆土中に硬化面は検出されていない。この区画溝は推定本丸内で「正倉院」の西区画溝に突き当たると考えられる。このような規模の大きい区画溝は蒼海（58）から南西約250ｍの地点である蒼海（36）４区でも検出されている（１号溝跡）。蒼海（36）４区の区画溝は北から東へ49度の走行をもち、調査区内で約22m分が検出されている。調査区内で幅が変化しており、南での上幅は7.45m、下幅は4.9mを測るが、北では上幅3.84m、下幅は2.75mを測る。下幅自体が狭くなっているので、区画溝の規模が変化していると考えられる。なお、この溝では法面で凝灰質の総社砂層のブロックを切り出しが行われている。区画溝の時期は、覆土上部で浅間Ｂ軽石の堆積が認められており、その堆積が非常に緩い弧を描く状況であることから浅間Ｂ軽石降下時点で区画溝はほぼ埋没していたと考えられる。この状況から上記の蒼海（58）１号溝に近い時期に廃絶したと考えられる。この２つの区画溝については、検出された位置・走行から連続する区画溝と単純には考えられない。同一の区画溝であるとするならば、例えば地形の制約をうけて等、何らかの理由で区画溝は弧を描いて開削されなければならない。蒼海（58）の位置する「松井屋敷」の西は現状でかなりの段差をもっており、一見すると前述の低地によって区画溝は断絶しているように見える。そう考えると２つの区画溝の連続性の検証は難しいように見える。低地自体の形成にも係る問題も含めて今後の課題としたい。

なお、蒼海（36）４区のさらに西に位置する蒼海（60）Ｃ区でも、前述の２地点よりも規模は小さくなるが区画溝が検出されている（１号溝跡）。この区画溝は北から東へ71度の走行で、上幅2.02m、下幅1.13mを測り、前述の２地点の区画溝よりも規模が小さい。時期についても重複する竪穴建物の時期が最古でも８世紀代であることから、７世紀後半から８世紀初めに存在したものと推定される。この区画溝の北に位置する同じ蒼海（60）Ｂ区では区画溝と同時期と推定される竪穴建物跡が４軒検出されている。そのうち１号・31号竪穴建物跡は区画溝と方位も近似するほか、１号竪穴建物跡は一辺が約10mを測り、床面の硬化が弱く、カマドの使用頻度が低い。また須恵器坏・盤・円面硯などが出土するなど、規模・内容ともに他の竪穴建物とは特徴を異にする。この区画溝はこれら竪穴建物によって構成された施設の南側の区画溝と考えることもできる。

Fig. 45　宮鍋神社西方の様相（西）

この他に蒼海（60）Ａ区１号溝跡は８世紀半ば以降、Ｂ区４号溝跡は８世紀以降に掘削されたと推定される。走行は東西で規模も１ｍ弱と近似している。こうした遺構の考え方として道路の両側溝が考えられるが、明瞭な道路の痕跡は認められないので道路と受け止めるには要素が弱いように思える。ただ、古代の溝が２条走ることについて備忘録として記しておきたい。また、時期の問題をはらんでいるものの、東西方向に並行して走る溝は蒼海（33）５区でも検出されている。このうち14号溝跡は８世紀代の竪穴建物跡よりも新しい。８世紀以降、東西に方向を意識して溝を掘る必要がこの付近で生じていたのであろうが、それが何であるのかは現時点では不明である。

(3)　元総社小学校とその西方（通称「本村」地域）について

①元総社小学校校庭

元総社小学校校庭は、上野国府の研究史上欠かすことのできない「元総社小校庭遺跡」（松島　1986）が存在する地点である。また、小学校の東を流れる牛池川には元総社明神遺跡・元総社寺田遺跡が存在し、「厨」「曹司」の墨書土器のほか人形が出土している。

上野国府等範囲内容確認調査では、元総社小学校の校庭の調査を平成25年度から平成30年度までの６年間調査を実施した。この６年の間に主な官衙関連遺構としては元総社小校庭遺跡で検出された掘立柱建物跡２棟のほかに４棟の掘立柱建物と区画溝を検出することができた。

元総社小学校校庭で検出された掘立柱建物は、一番規模の大きい１号と同規模である４号をはじめとして、この２棟よりも小規模で新しいと考えられる２号・５号、撹乱の合間で検出されたため全体規模が不明な３号、柱穴が３基並ぶのみで全体像が不明な６号のである。これら掘立柱建物跡は若干の角度のずれはあるものの正方位を意識して建てられている。また、これら掘立柱建物跡については平成28年度調査報告の中で考察しているが、１号掘立柱建物を主体とするⅠ期、その後、建物の位置をずらして建て替えた４号掘立柱建物を主体とするⅡ期、大型掘立柱建物跡が廃絶し２号・５号掘立柱建物が建つⅢ期を想定している。３号・６号掘立柱建物跡に関しては、他の掘立柱建物のような重複関係を持たないため時期的な前後関係が不明であるが、３号掘立柱建物跡

Fig. 45　宮鍋神社西方の様相（東）

はⅠ期ないしⅡ期（平成28年度調査報告ではⅡ期）に、６号掘立柱建物跡はⅡ期ないしⅢ期をそれぞれ想定している。

これらの掘立柱建物は元総社小学校の校庭北寄りの中央付近に集中している。元総社小学校の校庭は雨水の流れる状況や発掘調査の結果から、西は総社神社参道へ通じる南北方向の市道付近の浅い谷、東は牛池川に挟まれた北東方向からの低い台地上に位置し、掘立柱建物が集中して建てられている付近は台地の頂上付近にあたる。校庭の中央付近は未調査なので１号掘立柱建物跡の南側での建物の有無は不明であるが、校庭南端に当たる上野国府42トレンチの調査結果から、校庭南端付近で元の地形は南に傾斜していた。また、南門から校庭に入るには緩い坂を登って登校したという地元の方の証言からも、元総社小学校は台地の先端部付近に立地していることが考えられる。また、元総社小学校の北で実施された元総社明神遺跡の調査では掘立柱建物跡は検出されていない。これらのことから、掘立柱建物跡は校庭北寄りから校舎付近にかけて分布していた可能性が考えられる。

この掘立柱建物により構成される施設の範囲については、校庭に一番西に位置する21ａトレンチで正方位の区画溝跡（１号溝跡）が検出されている。この区画溝は上部をかなり削り取られていたが、上幅2.1m、下幅1.82mを測り、須恵器や黒色土器のほか、「大家」・「本」の墨書土器が出土している。この溝の北と南の延伸は撹乱により検出できなかったため長さはどのくらいになるのかは不明である。この溝が現時点で西区画溝と捉え得る遺構と考えている。南限を想定できるものとして校庭南東隅の58トレンチの調査で溝が検出されている（１号溝跡）。この溝は北から西へ82度の走行で、上部は削り取られているが、断面は緩い逆台形を呈し、上幅0.82㎝、下幅0.73㎝を測る。時期としては遺構の重複関係から10世紀代には廃絶していたと考えられる。この溝は21ａトレンチ１号溝と比較すると規模は小さいので一連の区画施設として評価するのは難しいかもしれないが、位置的には台地が南へ傾斜を始める付近を東西方向へ走ることが想定されるため、区画溝としては妥当な位置にあると受け止められる。北については、元総社明神遺跡の調査で区画溝が検出されていない状況を考慮すると少なくとも学校の敷地内に存在していたことが想像できる。東については調査区を体育館の手前まで東へ進めたが区画施設の検出には至らなかった。ただし、６号掘立柱建物を検出した際に、その東側で並行して連続する溝跡が認められ、次年度にその南の延伸で行った調査で、この溝列の上部で硬化面の広がりが確認できたことから、溝とした遺構は道路の掘り形の可能性が高くなった。この道路は前述の58トレンチと直行する方位をもつ方位関係にある。また、６号掘立柱建物跡はこの道路の西に隣接して同じく直行するような方位をもつ。６号掘立柱建物跡の柱穴を比較すると、並んだ３基のうち中央の柱穴（P_1）は覆土が重層的で礎板もしくは礎石の根石の可能性が考えられる礫が出土しているが、両端の（P_2）・（P_3）は規模が若干小さく覆土もP_1程重層的ではなく建て替えによると考えられる柱穴の重複が認められる。このような柱穴の検出状態や道路跡に面した位置から、６号掘立柱建物跡は四脚門の可能性も考えたい。今後の課題としては、６号掘立柱建物跡の北か南に同様な柱穴を認め（平成30年度調査の56トレンチでは明確な対となる柱穴が検出できなかった）、門である確証を得たい点と、南北に塀等の構造物の痕跡を認めることができるかである。

②元総社小学校西方（通称「本村」地域）

元総社小学校・総社神社の西方の住宅密集地は地元では「本村（ほんそん）」と呼ばれ、元総社町内で一番古くに形成された集落とされている。元総社小学校に官衙関連遺構が認められたことから、隣接する「本村」地域における官衙関連遺構の検出を目指して平成26年度から本格的な調査を始めた。この地域は区画整理事業区域外なので、発掘調査は基本的には上野国府等範囲内容確認調査のみであり、住宅密集地であることから、調査地点の選定についても制約を受けた調査であったが、地元の方々のご厚意により調査を進めることができた。

「本村」地域で検出された官衙関連遺構としては、以下の遺構が挙げられる（Fig.47）。

１．上野国府31ａトレンチ２号溝跡

東西方向の区画溝。区画溝が収束する状況が始めて確認された。その東では区画溝は確認できなかった。

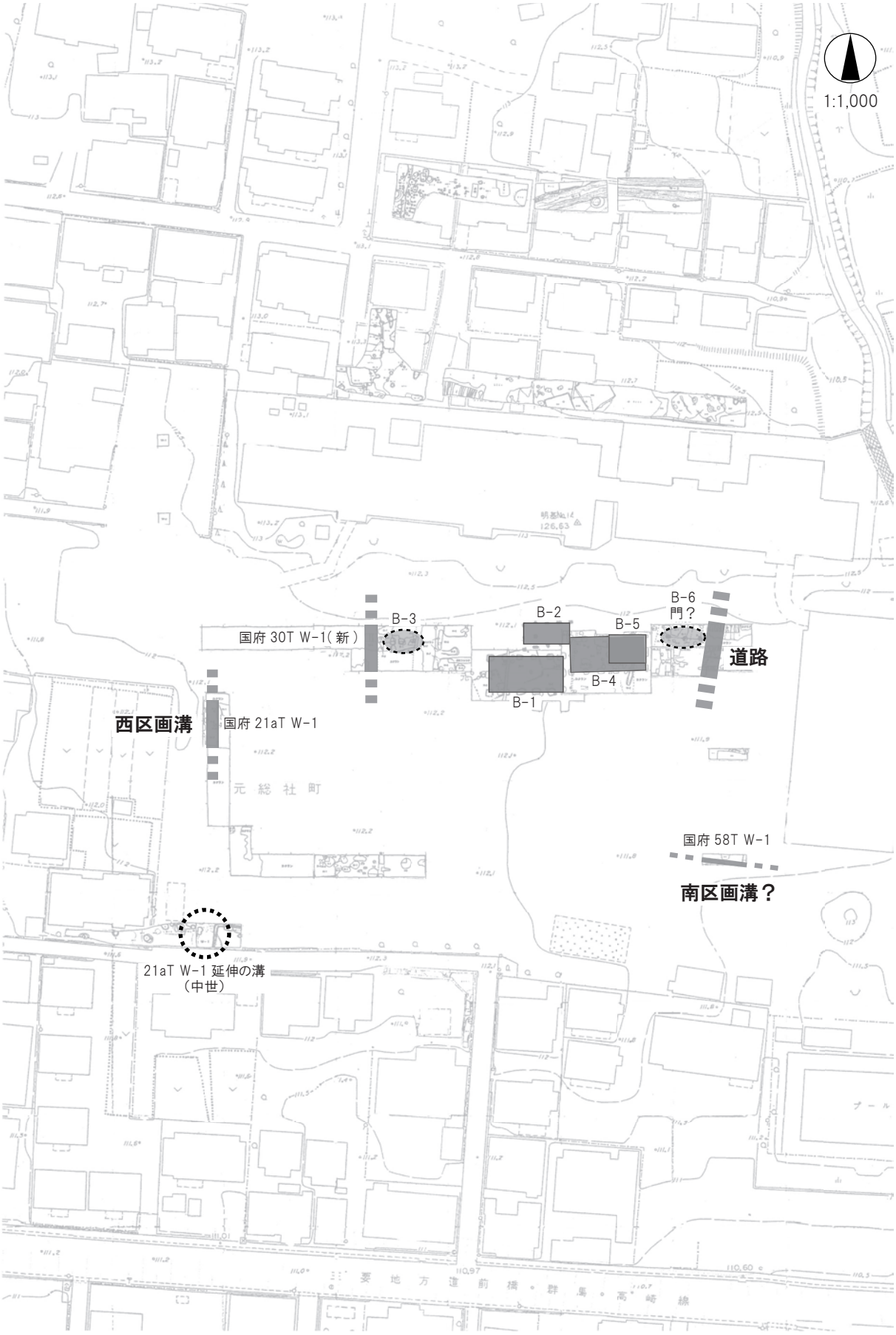


Fig. 46　元総社小学校の様相

調査区内（中世の溝）から円面硯が出土。

２．上野国府44トレンチ１号掘立柱建物跡

南北方向に並んだ状態で柱穴が検出された。トレンチ内での柱穴列の検出なので建物の形状・規模は不明。

３．上野国府59トレンチ１号溝跡、60トレンチの複数の掘立柱建物跡

59トレンチ１号溝跡は北から西へ32度の傾きをもち、直角に曲がる。遺構の重複関係から８世紀後半には廃絶したと推定される。60トレンチの掘立柱建物跡は報告時点で10棟分と判断された。重複した状態で検出されているが、最も新しい段階で８世紀代から10世紀代にかけて存在していたと考えられる。

その他、上野国府31ａトレンチ・上野国府62トレンチで古代の粘土採掘坑が検出されている。

各地点の遺構は距離が離れているため、各トレンチで検出された遺構同士の連続性は不明である。各遺構の方位をまとめると以下のとおりとなる（Tab.８）。

検出された遺構は基本的に正方位もしくは北から西へ10度に満たない程度の傾きを持つが、59トレンチ１号溝跡や、60トレンチ２号・８号掘立柱建物跡のように60トレンチの掘立柱建物跡の中でも古段階の建物は北から西へ傾きを持っている。ただし、59トレンチ１号溝跡と60トレンチ２号・８号掘立柱建物跡の間も傾きに差があるように思える。59トレンチ１号溝跡は検出状態から区画溝の北東隅部分と推定されることから、この区画溝を持つ施設は59トレンチの南西方向に展開することが考えられるので、60トレンチの掘立柱建物は施設の範囲外となる。また、１号溝跡の覆土は砂層土ブロックを多量に含む傾向があることから、人為的に埋められたものと解釈することができるであろう。

Tab.８　元総社小学校西方検出の官衙関連遺構の方位

遺構名	方位	時期
59T Ｗ―１	Ｎ―32°―Ｗ	８Ｃ後半に廃絶
60T Ｂ―２	Ｎ―20°―Ｗ	（８Ｃ代？）
60T Ｂ―８	Ｎ―19°―Ｗ	８Ｃ代
31aT Ｗ―２	正方位	８Ｃ代？
44T Ｂ―１	正方位	不詳（８Ｃ～９Ｃ）
60T Ｂ―３	Ｎ―５°―Ｗ	８Ｃ後半～９Ｃ代？
60T Ｂ―４	Ｎ―６°―Ｗ	Ｂ―３の建て直しか

備考	方位	時期
60T Ｂ―９	Ｎ―８°―Ｗ	Ｂ―３・４と並存か
60T Ｂ―５	Ｎ―８°―Ｗ	Ｂ―３・４より新しい
60T Ｂ―６	正方位	９Ｃ代
60T Ｂ―１	Ｎ―８°―Ｗ	Ｂ―５・６と並存？
60T Ｂ―７	Ｎ―３°―Ｗ	10C 前半
60T Ｂ―10	Ｎ―８°―Ｗ	10C 前半以降

元総社小学校西方の区画溝・掘立柱建物跡全体に再度目を向けると、元総社小学校のように正方位を意識した遺構は、31ａトレンチ２号溝跡、44トレンチ１号掘立柱建物跡など、比較的東の元総社小学校に寄った地点で検出されている。その他、一覧には記載していないが、蒼海（95）１号溝跡は正方位に走る区画溝で、この区画溝も本村検出の正方位の遺構の一群と捉えることができる。なお、この区画溝はその上層に10世紀代の竪穴建物跡が検出されていたことから、10世紀代には廃絶した区画溝と考えられる。60トレンチの掘立柱建物跡は同じ地点で長期に亘り建てられ続けてきた建物である。最古・最新で建物の性格が異なることは想像に難くない。２号・８号・10号掘立柱建物以外は基本的に同じ施設に属する可能性を考えたい。

⑷　東山道駅路国府ルートについて

東山道駅路国府ルートについては、継続的ではないが平成25年・28年・29年と調査を行っている。一番の成果は平成28年度に調査した45ａ・45ｂトレンチで古代の道路跡を検出できたことである。

45ａ・45ｂトレンチでは、側溝の覆土中位に浅間Ｂ軽石の堆積が認められた道路（Ⅱ期）のほかに、道路面を若干重複させながら南へ少しずれた位置で、その前段階（Ⅰｂ期）の道路が検出された。この道路の南側溝は遺構確認の時点で検出されており、覆土上面で浅間Ｂ軽石の堆積が少量認められた。この浅間Ｂ軽石の堆積状態か

Fig. 47　総社神社・元総社小学校西方（通称「本村」地域）の様相

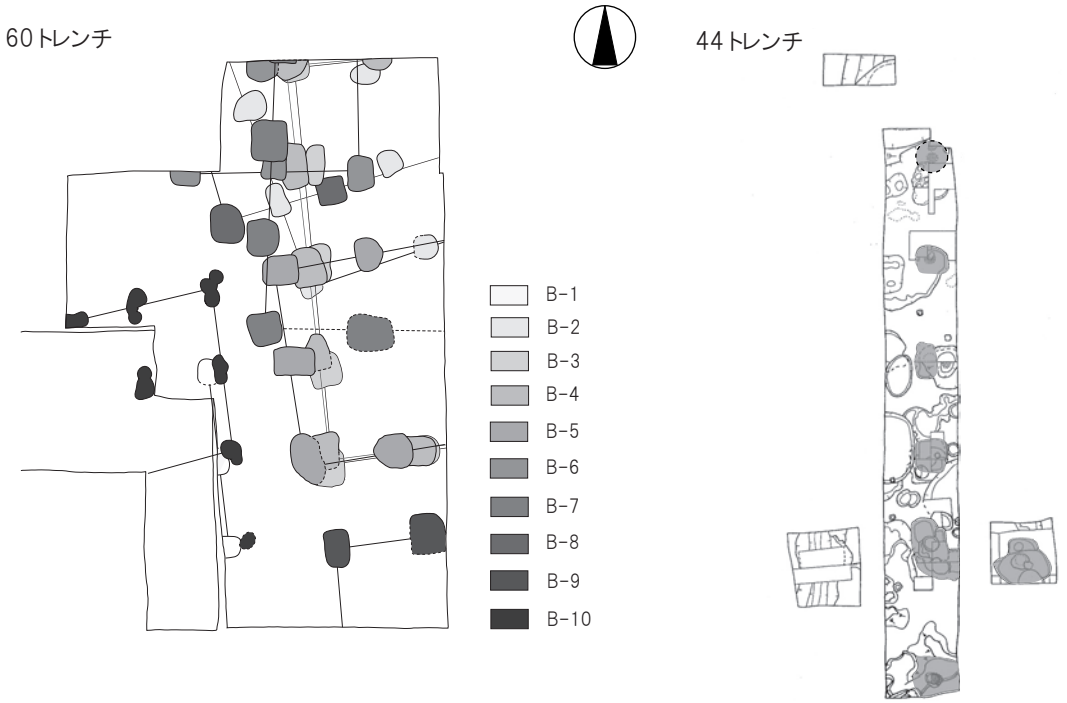


Fig. 48　60・44トレンチ検出の掘立柱建物跡

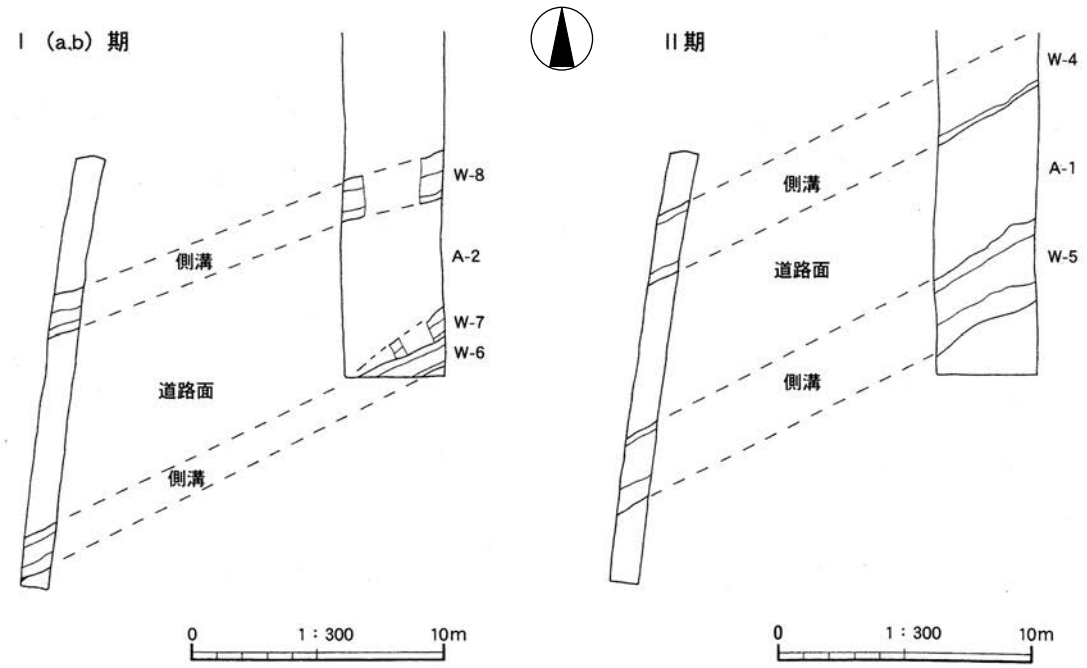


Fig. 49　45トレンチにおける道路面の推移

ら道路がⅡ期目へと変化しても道路から離れたＩｂ期南側溝は若干凹む程度ではあるが痕跡が認められるような状態であったと考えられる。このＩｂ期道路の南側溝に重複して、走行が近似した同規模の溝（ただし断面形状は異なる）が検出され、これを報告中ではＩａ期とした。Ｉａ期の南側溝は深い逆台形であるが、Ｉｂ期の南側溝は浅いU字形を呈し、Ｉｂ期の形状はⅡ期のそれに近い。肝心の時期についてであるが、道路の時期の特定ができる遺構と重複していないため残念ながらそれは難しい。しかしながら、国府ルートとして捉えられる古代の道路が若干位置をずらして造り直されているという点は、国府ルートの使用期間に幅を持たせるものとして受け止めることができるのではないか。45ａ・45ｂトレンチ以西で国府ルートに関連すると考えられる道路跡が多数検出されているので、これらの道路跡の再度の比較・検討も必要なのかもしれない。

45ａ・45ｂトレンチの東に隣接する鳥羽遺跡で東山道駅路国府ルートと考えられる道路跡が検出されているが、それ以東の道路跡の検出例については、その推定ルート上が現道であることで調査が難しいことから、その隣接地での調査となってしまうという点もあり、その検出には至っていない。平成29年度は染谷川左岸の低地帯中を走る堤防状になった推定ルートの南（染谷川下流側）にトレンチを設定し調査を行った（53トレンチ）が、この堤防状の推定ルートが江戸時代以前には遡らない事を突き止めた。また、令和元年度に実施した西部第一落合土地区画整理事業にともない、推定ルートを南北に立ち割るように発掘調査できたが、調査範囲内で古代の道路跡を検出することができなかった。現在、地割りとして認識できる推定ルートは中世以降の道路の名残なのであろうか。鳥羽遺跡以東、特に染谷川以東のルートの確定についてはまだ時間と調査が必要と考えざるを得ない。

３．まとめ

上野国府等範囲内容確認調査やその他の元総社町で実施された発掘調査の成果を元に現時点で考えられる事について述べてきた。これまでの成果から宮鍋神社周辺、元総社小学校、通称「本村」地域が、国衙が存在する地点として重要であると考えられる。しかしながら、調査の手が伸ばせずにいるものの国府を考える上で重要な要素となる遺構は元総社町内に点在する。東京都府中市における武蔵国府の事例を考えると、こうした遺構や遺物も含めて総合的に上野国府を検討することが重要であると考える。そのために上野国府等範囲内容確認調査とは別で既調査の集成作業も行っている。今後も発掘調査とあわせて既調査成果の集成・再検討も継続して行っていきたい。

上野国府等範囲内容確認調査の開始から早いもので10年が経過した。少しずつではあるが、当初から比べるといろいろなことが判明してきたと感じるが、最初に想定していたものとは違う形で答えが出ているように感じる。いずれにしても、真実は一つのはずなので、少しずつであっても上野国府について解明していくことが大事だと考える。そして、その結果で得たものをどのように活用していけばよいのか。それについても考える。

最後に、この調査の遂行にあたりいろいろな面で協力・応援してくださる元総社町の皆様、関係者の皆様、末筆ではありますが、大変厚く感謝申し上げます。

註

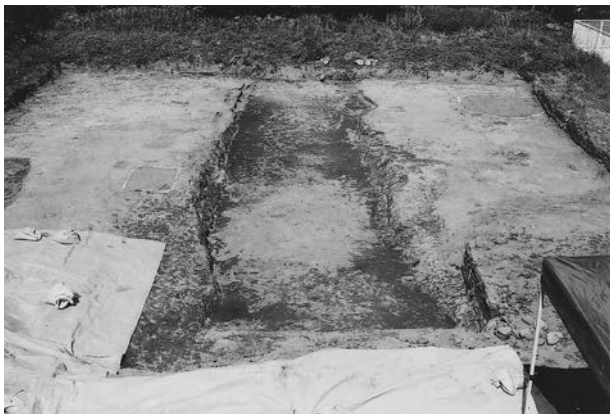
⑴　現在、上野国府に関する発掘データの集成作業を行っている。その作業の中で、各遺跡（調査区）で検出された官衙関連遺構の集成と、通しの遺構名を付する作業を行っている。こうして付された遺構名を使用して本稿を進めたいところではあるが、集成作業も中途であることから、通しの遺構名は使用せずに、各報告書中の遺構名で本稿を進めることとしたいので、御了承願いたい。

【主要参考文献】

坂爪久純　2008　「「開削凹地型直線駅路」の提案―『十六夜日記』を示唆として―」『考古学の窓―巾隆之氏定年退職記念特集号―』國學院大學卒業生有志 in 群馬
中村岳彦　2020　「発掘調査の成果と課題」『元総社蒼海遺跡群（141)』前橋市教育委員会
文化庁文化財部記念物課監修　2010　『発掘調査のてびき　集落遺跡発掘編』同成社
文化庁文化財部記念物課監修　2013　『発掘調査のてびき　各種遺跡調査編』同成社
群馬県立歴史博物館　2001　『古代のみち―たんけん！東山道駅路―』群馬県立歴史博物館第70回企画展図録
前橋市教育委員会　2012　『山王廃寺～平成22年度調査報告～』山王廃寺範囲内容確認調査報告書Ⅴ
前橋市教育委員会　2013　『推定上野国府～平成23年度調査報告～』上野国府等範囲内容確認調査報告書Ⅰ
前橋市教育委員会　2013　『推定上野国府～平成24年度調査報告～』上野国府等範囲内容確認調査報告書Ⅱ
前橋市教育委員会　2015　『推定上野国府～平成25年度調査報告～』上野国府等範囲内容確認調査報告書Ⅲ
前橋市教育委員会　2016　『推定上野国府～平成26年度調査報告～』上野国府等範囲内容確認調査報告書Ⅳ
前橋市教育委員会　2017　『推定上野国府～平成27年度調査報告～』上野国府等範囲内容確認調査報告書Ⅴ
前橋市教育委員会　2018　『推定上野国府～平成28年度調査報告～』上野国府等範囲内容確認調査報告書Ⅵ
前橋市教育委員会　2019　『推定上野国府～平成29年度調査報告～』上野国府等範囲内容確認調査報告書Ⅶ
前橋市教育委員会　2020　『推定上野国府～平成30年度調査報告～』上野国府等範囲内容確認調査報告書Ⅷ
前橋市教育委員会　2021　『推定上野国府～令和元年度調査報告～』上野国府等範囲内容確認調査報告書Ⅸ
前橋市教育委員会　2010　『元総社蒼海遺跡群（31)』
前橋市教育委員会　2011　『元総社蒼海遺跡群（32)、元総社蒼海遺跡群（33)』
前橋市教育委員会　2011　『元総社蒼海遺跡群（36)』
前橋市教育委員会　2012　『元総社蒼海遺跡群（38)』
前橋市教育委員会　2014　『元総社蒼海遺跡群（57)、元総社蒼海遺跡群（58)、元総社蒼海遺跡群（59)
前橋市教育委員会　2014　『元総社蒼海遺跡群（60)』
前橋市教育委員会　2015　『元総社蒼海遺跡群（91)、元総社蒼海遺跡群（95)、元総社蒼海遺跡群（102)』
前橋市教育委員会　2016　『元総社蒼海遺跡群（99)』
前橋市教育委員会・JX 日鉄日石エネルギー株式会社・技研コンサルタント株式会社
2016　『元総社蒼海遺跡群（17街区)』
前橋市教育委員会　2019　『元総社蒼海遺跡群（127)』
前橋市教育委員会　2020　『元総社蒼海遺跡群（136)』
前橋市教育委員会　2020　『元総社蒼海遺跡群（141)』
前橋市教育委員会　2020　『西部第一落合遺跡群(1)』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2008　『元総社蒼海遺跡群（14)、元総社蒼海遺跡群（19)』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2009　『元総社蒼海遺跡群（21)』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2009　『元総社蒼海遺跡群（23)』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2010　『元総社蒼海遺跡群（30)』
松島榮治　1986　「元総社小校庭遺跡」『群馬県史』資料編２　群馬県
山崎　一　1978　『群馬県古城塁址の研究』上巻　群馬県文化事業振興会

写　真　図　版

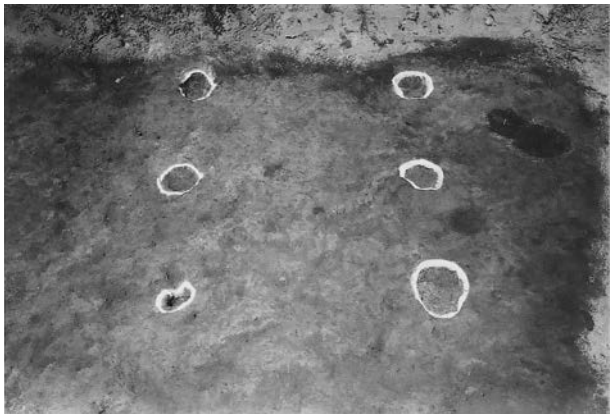
１　69トレンチ全景（南東から）



２　69トレンチ１号溝跡全景（東から）

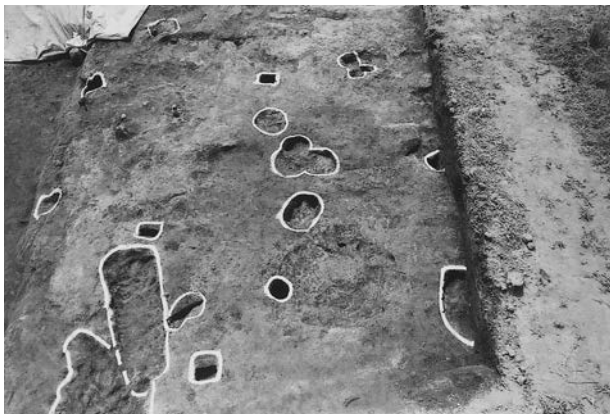
３　69トレンチ１号溝跡東トレンチ（南から）

４　69トレンチ１号溝跡断面（南から）

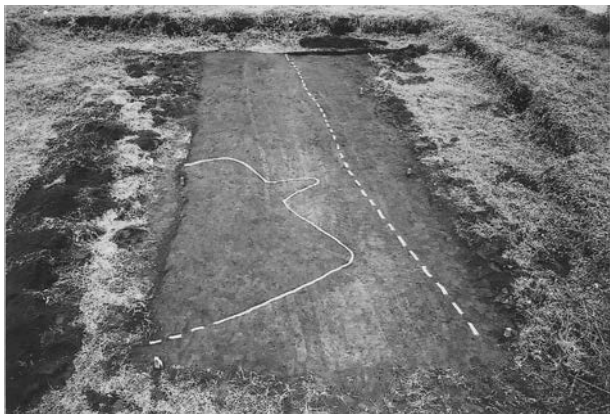


５　69トレンチ１号掘立柱建物跡全景（東から）

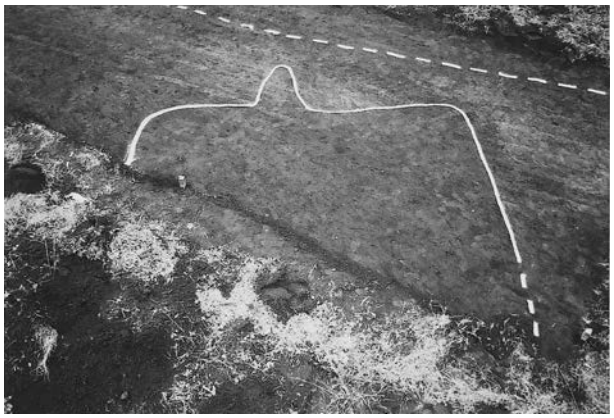
６　69トレンチ１号竪穴状遺構全景（北から）



７　69トレンチピット集中（東から）

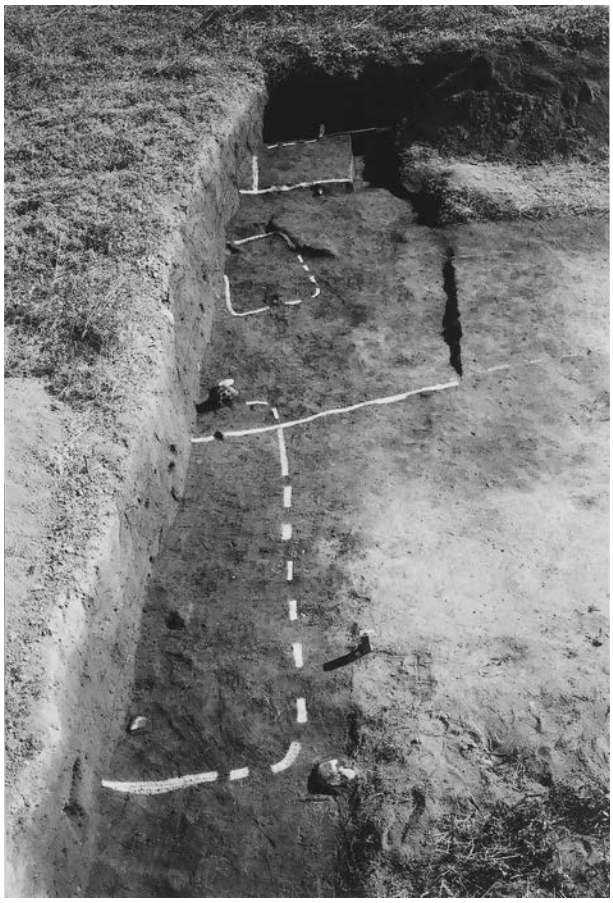


８　70トレンチ全景（南から）

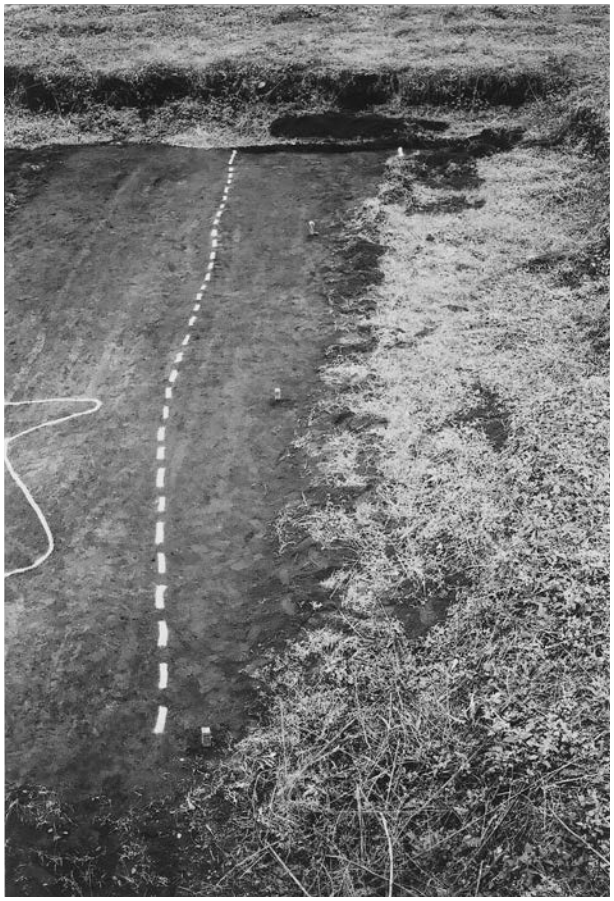


１　70トレンチ１号竪穴建物跡全景（南西から）

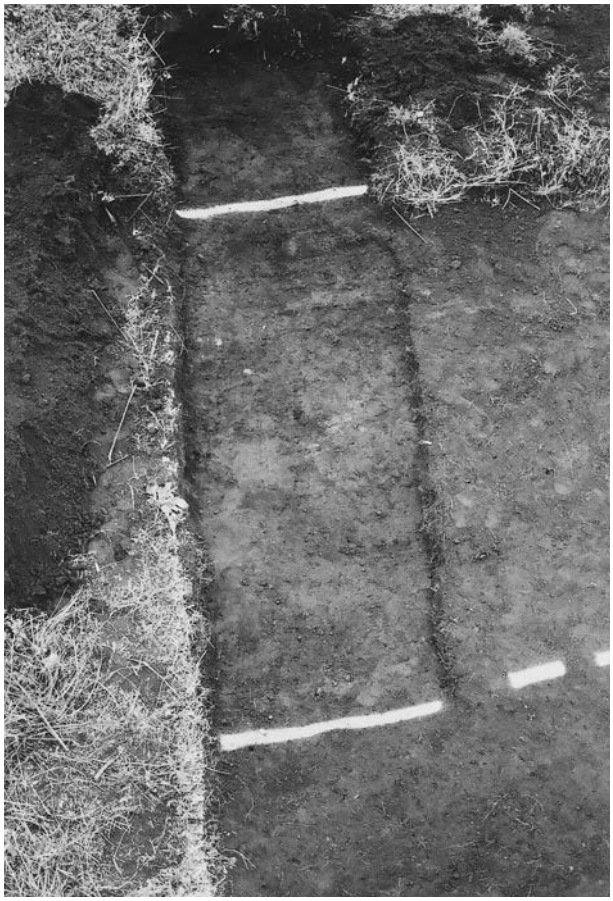
２　70トレンチ１号道路跡土層断面（南から）



３　70トレンチ北辺遺構検出状態（西から）



４　70トレンチ１号道路跡検出状態（南から）



５　70トレンチ１号道路跡掘り下げ状態（西から）

１　71ａトレンチ全景（南から）

２　71ｂトレンチ全景（南から）

３　宮鍋神社境内の石

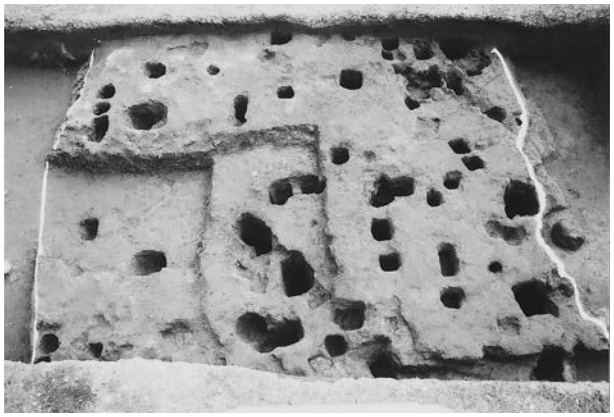
４　宮鍋神社境内の碑の台石

５　72トレンチ全景（東から）

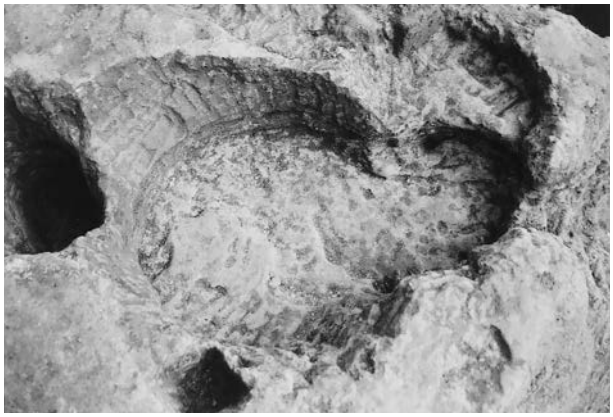
６　72トレンチ１号溝跡全景（北から）

１　72トレンチ２号溝跡全景（北から）

２　72トレンチ１号竪状遺構全景（北から）



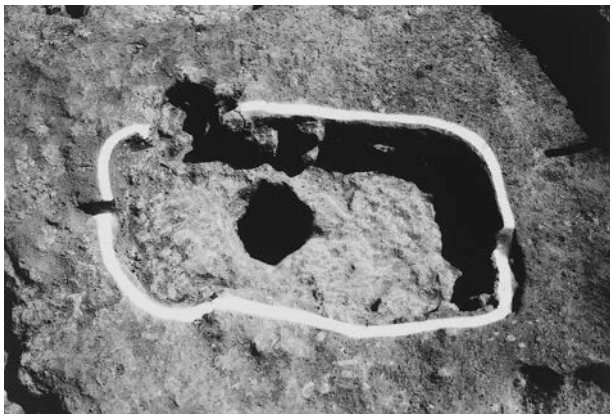
３　72トレピット検出状態（２号溝跡西）(北から)



４　72トレンチ１号・２号土坑全景（西から）

５　72トレピット検出状態（トレンチ東端）(北から)

６　72トレピット検出状態（２号溝跡東）(北から)



７　72トレンチ４号土坑全景（西から）

８　72トレンチ95号ピット全景（南から）

１　73トレンチ１号竪穴建物跡全景（西から）

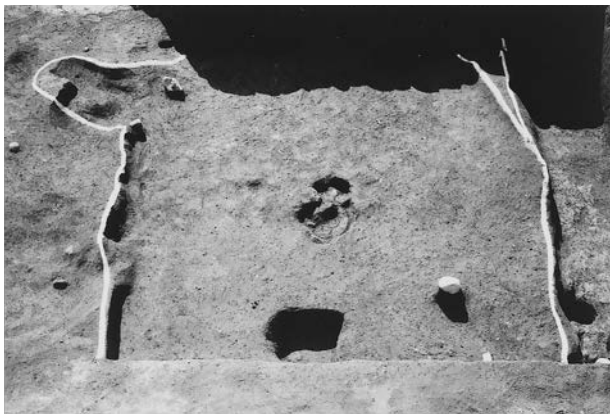
２　73トレンチ２号竪穴建物跡全景（西から）

３　73トレンチ３号竪穴建物跡全景（西から）

４　73トレンチ４号竪穴建物跡全景（南から）

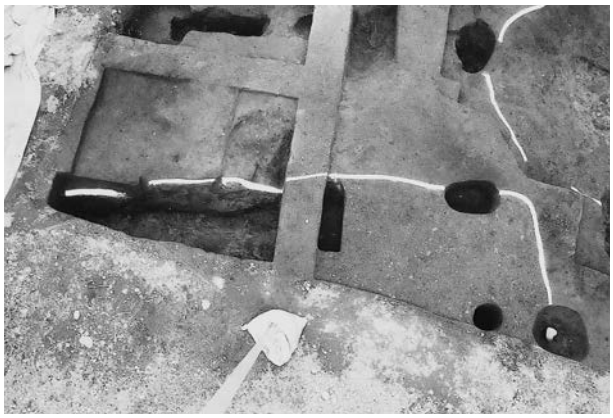
５　73トレンチ５号竪穴建物跡全景（西から）

６　73トレンチ６号竪穴建物跡全景（東から）



７　73トレンチ７号竪穴建物跡全景（北から）

１　73トレンチ７号竪穴建物跡Ｐ$_1$全景（北から）

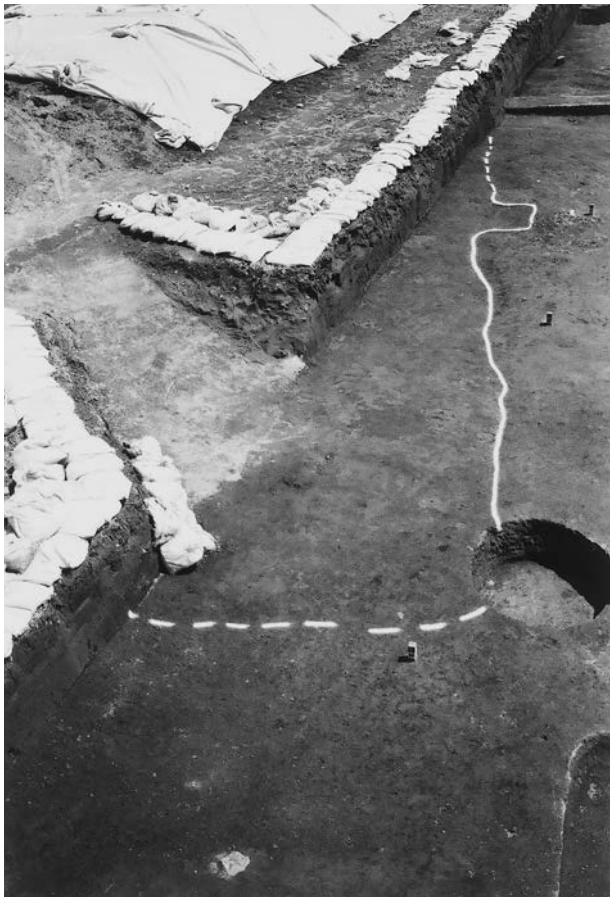


２　73トレンチ８号竪穴建物跡全景（東から）

３　73トレンチ９号竪穴建物跡全景（北から）

４　73トレンチ10号竪穴建物跡全景（南から）

５　73トレンチ１号溝跡全景（南から）



６　73トレンチ２号溝跡検出状態（北から）

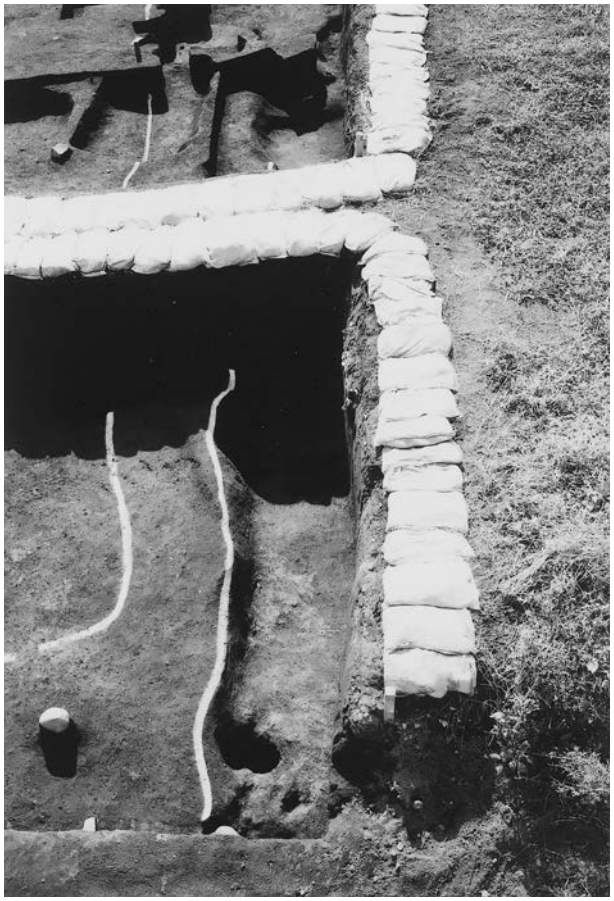
１　73トレンチ３号溝跡検出状態（南から）

２　73トレンチ４号溝跡検出状態（南から）

３　73トレンチ３号・５号溝跡断面①（南から）

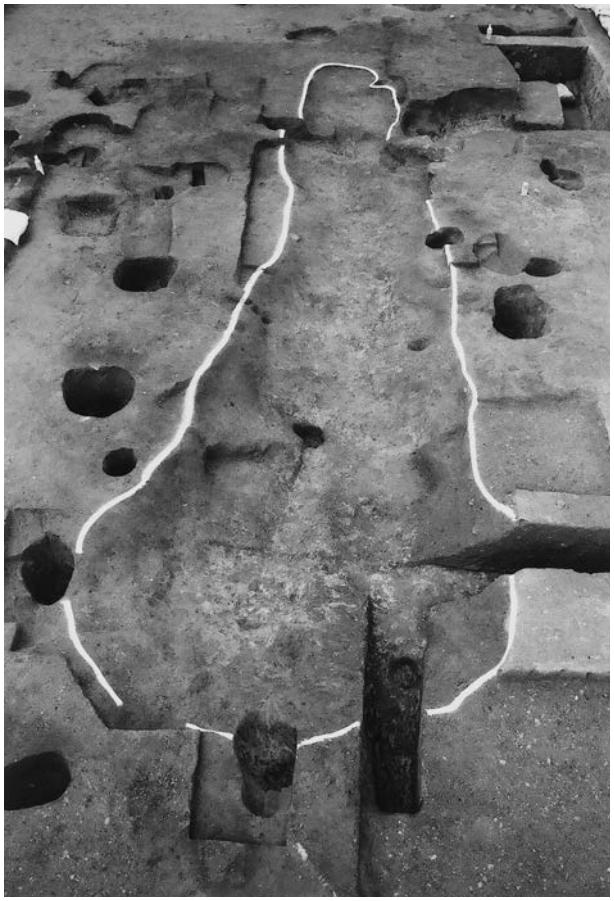
４　73トレンチ３号・５号溝跡断面②（南から）

５　73トレンチ６号溝跡検出状態（西から）

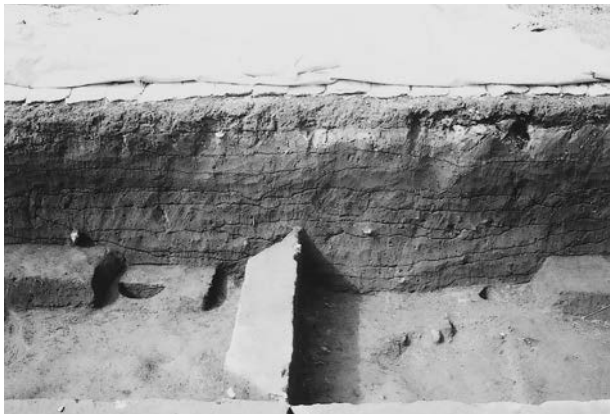


１　73トレンチ７号溝全景（北から）

２　73トレンチ８号溝検出状態（南から）

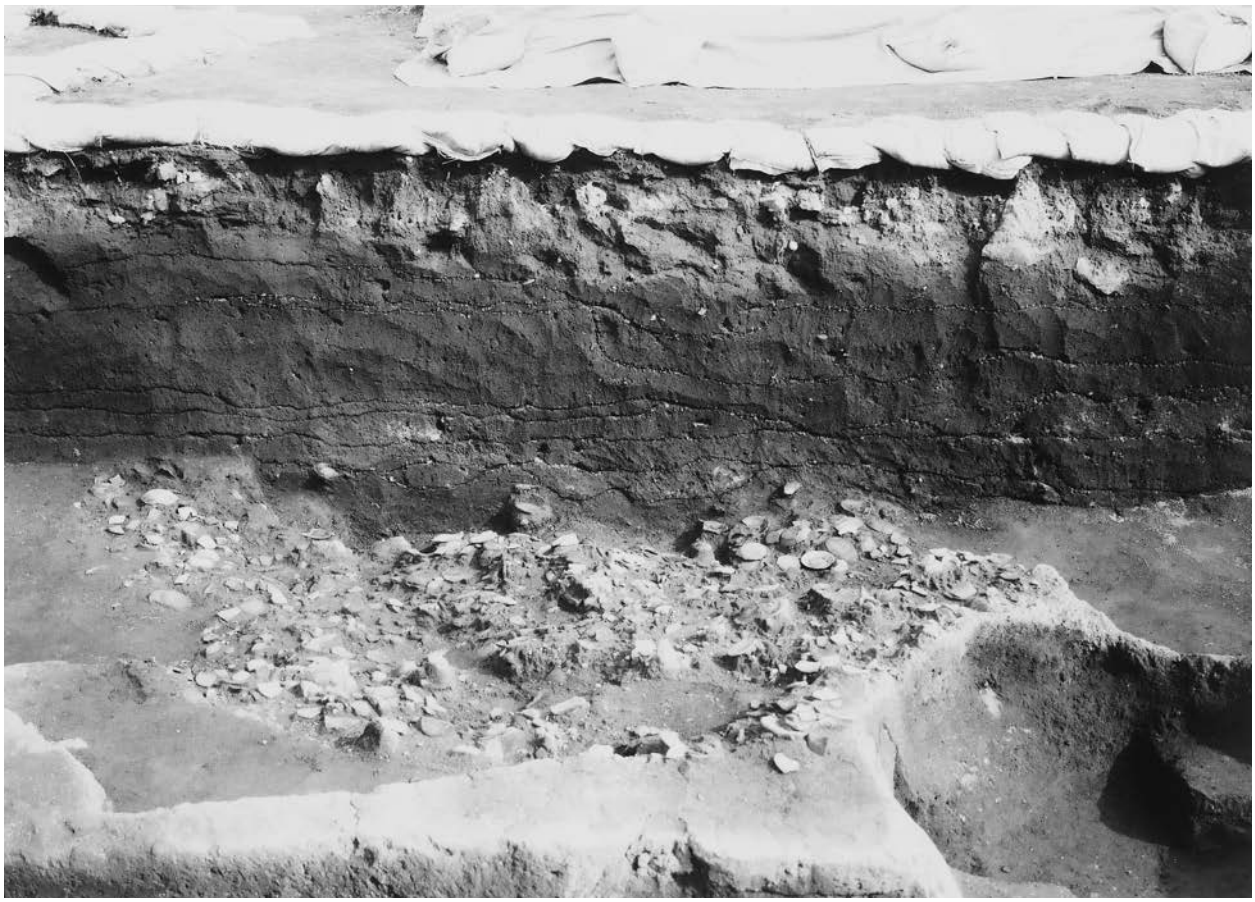


４　73トレンチ10号土坑全景（東から）

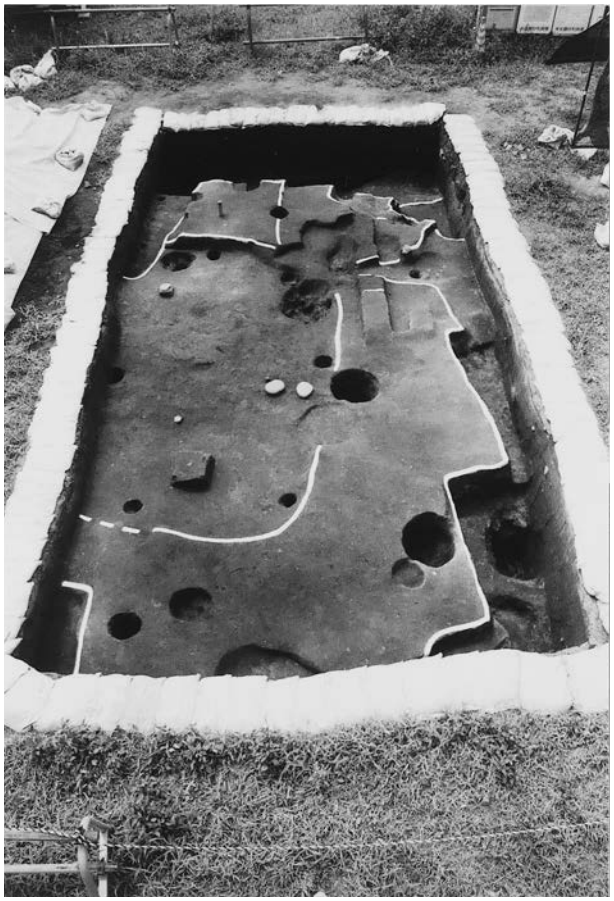


３　73トレンチ10号土坑全景（東から）

５　73トレンチ１号竪穴状遺構全景（北から）



１　73トレンチ１号遺物集中（西から）



２　74トレンチ全景（北から）

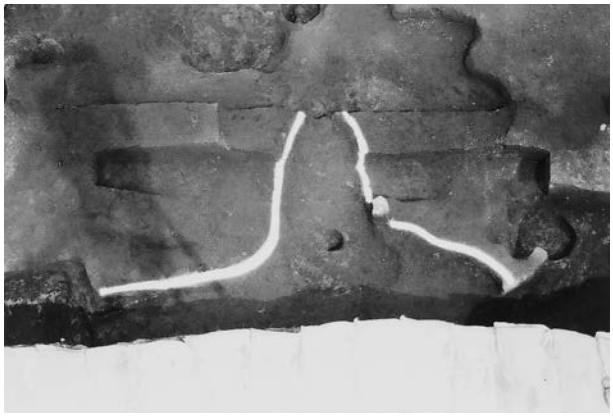
３　74トレンチ１号竪穴建物跡全景（西から）

４　74トレンチ２号竪穴建物跡全景（南から）

１　74トレンチ３号竪穴建物跡全景（西から）

２　74トレンチ４号竪穴建物跡全景（西から）

３　74トレンチ５号竪穴建物跡全景（西から）



４　74トレンチ６号竪穴建物跡全景（西から）

５　74トレンチ７号・９号竪穴建物跡全景（西から）

６　74トレンチ８号竪穴建物跡全景（東から）

７　調査風景（72トレンチ２号溝跡）

69–1

70–1

70–4

73–1

73–2

73–3

73–4

73–14

73–15

73–16

73–17

73–18

73–19

73–22

73–29

73-32

73-37

73-38

73-39

73-41

73-42

73-45

73-48

73-49

73-51

73-52

73-68

73-69

73-73

73-74

73–75

73–79

73–81

73–82

73–84

73–87

73–88

73–90

73–94

73–100

73–101

73–102

73–113

73–114

74–10

抄　録

フリガナ	スイテイコウズケコクフ
書名	推定上野国府
副書名	令和２年度発掘調査報告書
シリーズ名	上野国府等範囲内容確認調査報告書
シリーズ番号	10
編著者名	阿久澤智和・齋藤　颯
編集機関	前橋市教育委員会
編集機関所在地	〒371-0853　群馬県前橋市総社町三丁目11-4
発行年月日	20210318

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
スイテイコウズケコク フ 推定上野国府	マエバシ シ モトソウジャ 前橋市元総社 マチ 町2029-2ほか	10201	2A147	36°39′10″ ～ 36°38′89″	139°03′48″ ～ 139°03′60″	20200601 ～ 20201204	588㎡	範囲内容確認調査

所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
推定上野国府	集落	古墳、平安時代	住居跡22、土坑、ピット	土師器、須恵器、黒色土器、灰釉陶器、緑釉陶器、瓦、銅製品、鉄製品	
	官衙	奈良、平安時代	礎石建物跡１、道路跡２、溝跡６	土師器、須恵器等	宮鍋神社南側周辺に分布する礎石建物跡（布地業）を新たに確認したほか、道路跡、溝を確認。
	集落	中世	掘立柱建物跡１、竪穴状遺構２、溝跡６、井戸跡、土坑、ピット	陶磁器、石製品等	蒼海城の堀跡

上野国府等範囲内容確認調査報告書Ⅹ

推定上野国府　令和２年度調査報告

2022年３月15日　印刷
2022年３月18日　発行

編集・発行／前橋市教育委員会文化財保護課
印刷／朝日印刷工業株式会社